

印光法師文鈔上冊

印光法師文鈔

題詞並序

是阿伽陀。以療羣疾。契理契機。十方宏覆。普願見聞。歡喜信受。聯華萼於西池。等無量之光壽。庚申暮春。印光老人文鈔鐫板。建東。雲雷。囑致弁辭。余於老人向未奉承。然嘗服膺高軌。冥契淵致。老人之文。如日月歷天。普燭羣品。寧俟鄙倍。量斯匡廓。比復敦促。未可默已。輒綴短思。隨喜歌頌。若夫翔繹之美。當復俟諸耆哲。大慈後學弘一釋演音稽首敬記識無量病。與無量藥。見佛性故。迴己濟他。寐叟敬題

諸三昧中。功高易進。念佛為先。入此三昧已。一切三昧。皆得具足。抑揚之說。信非篤論。法寧有異。異自人耳。今時賢哲。亦盛談義。然濁智流轉。玄言奚裨。自非冥懷凝寂。豈能廓彼重昏。決知火宅無安。乃悟樂邦非邈。故謂從心現境。境即是心。攝所歸能。他即是自。欲求方便趣入之道。舍淨土何由哉。印光法師。此宗尊宿。俯提弱喪。罄吐誠言。辭致懇惻。與蓮池為近。雲雷居士。倡緣弘布。深植淨因。遠徵題識。聊為讚喜。其諸大心上士。夙志津拔修塗。遊履安養者。蓋必有質於是也。庚申二月湛翁書

古德弘法。皆覩破時節因緣。應機調伏眾生。印光大師。文字三昧。真今日羣盲之眼也。誦此後。更進以蓮池。憨山。紫柏。蕩益諸集。培足信根。庶解行證得。有下手處。(啟超)具縛凡夫。何足以測大師。述所受益。用策精進云爾。庚申四月八日梁啟超敬題

大矣哉淨土之為教也。諸佛出廣長舌而讚歎。列祖發真實語以顯揚。萬彙咸收。三根普被。故念佛往生者。不間下凡上聖。稱機利導者。無論教祖禪宗。試觀著述傳流。經論結集。其間讚揚淨土法門者。不一而足。可見佛祖利生之旨。人同此心。心同此理也。我震旦自晉時遠祖。溯西竺之高風。結東林之勝社。於是而縑素名流。教宗碩德。

都以淨土法門·為化導之資·而此宗盛行。乃者去聖時遙·真修日尠。研教典者·徒滯文言。習宗乘者·罕明心地。欲求秉教修心·真參實悟·於百尺竿頭·得一進步者·實不易多覲也。甚且呵佛罵祖·斥淨土為小乘。瞎練盲修·嗤念佛為愚事。舉世滔滔流蠹蠹。明哲罕遇·慨也何如。惟我普陀印公·智光雪亮·梵行冰清。具正知見·發大慈悲。燭智炬以破昏衢·揮慧劍而裂見網。闡揚正道·挽救海之狂瀾。指示真乘·作法門之保障。雖卅年苦行·與世罕通。而四海傳名·問津日眾。或航海梯山·而請求開示。或鴻來雁去·而乞賜南鍼。舉凡所說所書之隻言片句·莫不奉為明訓·寶逾奇珍。浙西徐蔚如·甌東張雲雷等諸居士·將印公所為文·一再編錄·壽棗流通。閱是編而能循文悟旨·慕果修因者·何可勝計。(閑)四十年來·奉釋尊之誠言·遵智者之悲願·所以自修而兼利者·其歸結處·亦不外一句彌陀·信願往生而已。今契西居士等·重將印公文·鐫板印行·以垂永遠。手民將竣·問序於予。利人益物·共結法喜之緣。流水高山·一為知音之奏。安得以不文辭。深願是編·流布於三千界內·宣傳於百億國中。普使見所未見·共獲真修。情與無情·同圓種智。庶不負印老人之無量悲心·與諸居士之連番義舉也夫。民國壬戌五月·釋諦閑述。

佛以一大事因緣故·出現於世·隨機設化·開示種種方便法門。而求其簡易真捷·一生可以成辦者·莫如念佛求生淨土。起信論謂之如來勝異方便·誠方便中之最勝者也。世每以愚夫愚婦所能為·而鄙不屑學·必欲別求玄妙。不知如來說法·無法不玄。所立行門·無門不妙。然大都皆限於上根利智·未能偏引羣機。獨此淨土一門·普被三根·不揀異類。以言玄妙·孰逾於斯。夫華嚴一經·王於三藏。恆沙法海·靡不賅羅。末後普賢乃為證齊諸佛之善財·宣說十大願王·導之歸向極樂。此之境界·豈凡情所可思議者哉。況夫修行其他法門·必至斷惑證真·方出三界。欲了生死·難乎其難。此則但須持名真切·不妨帶業往生。一登蓮邦·長劫侍佛·親承教誨·終必至於一生補處。其玄妙為何如。又修他法者·專仗自心佛力·不求他佛加被。知見非

正·或致受魔。此則有彌陀願力攝持·感應道交·永無魔事。其玄妙又何如。大集經中·如來懸記末法億億人修行·罕一得道。唯依念佛·得度生死。今正末法時期·欲求解脫·舍此奚由哉。印光法師·為當今有道高僧。博覽藏經·淹通宗教。歸心淨土·自利利他。縱無礙之辯才·弘契機之妙法。誠所謂是如來使·行如來事者。著有文鈔·風行於世。辭義深顯·理事圓融·實足追雲棲靈峯之法軌。茲者諸大居士·發願捐貲刊板·永久流通·廣作度生寶筏。馬子契西以序請·勉述數語·敬誌讚揚。普願法界諸眾生·同往無量光佛刹。上海黃慶瀾熏沐序

附勸積陰德文

附明管東溟先生勸人積陰德文（先生名志道、字登之、江蘇太倉人、學者稱東溟先生、生於嘉靖十四年。卒於萬歷三十五年、壽七十三。

昔人有云·積金遺於子孫·子孫未必能守。積書遺於子孫·子孫未必能讀。不如積陰德於冥冥之中·此萬世傳家之寶訓也。其義本於孔聖讚易。文言曰·積善之家·必有餘慶。善而曰積·不尚陽德而尚陰德也。慶而曰餘·不在一身而在子孫也。必舉家咸務陰騭·而後可稱積善之家。亦必此身先得本然之慶·而後子孫受其餘慶。是故餘慶易曉·而本然之慶難曉也。書曰·考終命。又曰·祈天·永命。此可以言本慶乎·未盡也。當以二氏因果之說·參合易傳之說。道家謂積功行者·天曹除其冥籍·昇諸仙籍·以至於入無極大道。佛家謂修淨業者·臨終往生西方極樂世界·以至於成無上正覺。皆言此身之本慶也·其義隱然合於餘慶二字中·而儒者未之察耳。有宋鉅儒·興起斯文。以忠孝節義之綱維末造。真有罔極之功於萬世·而於此不無遺照焉。乃廓然盡掃天堂地獄·以及三世修因證果之說也。程朱蓋曰·君子有所為而為善·則其為善也必不真·何事談及因果·其勉君子至矣。以吾觀於君子小人之心·無所為而為者至少也。君子之作善也多近名·

苟不徹於十方三世之因，必不足以滌其名根。小人之作惡也多為利，苟不惕以罪福報應之果，必不足以奪其利根。程朱勉君子無所為而為善，獨不慮小人無所忌而為惡耶。然後知孔子道及餘慶餘殃之際，乃徹上徹下之言也。愚講修身齊家之道，一一以孔子之庸德庸言為矩。而所以行庸德，謹庸言，亦必歸重於程朱之繩墨。獨於三世因果，及三祇修證之實際，則不得不破程朱之關。正欲斷君子之名根，拔小人之利根，而使之同修陰騭也。修陰騭亦豈易言。人能充無欲害人之心，充無穿窬之心，則陰騭可修矣。其大要不出老氏之三寶，曰慈，曰儉，曰不敢為天下先，而以忠信出之。報人之德，不報人之怨。分人之過，不分人之功。成人之美，不成人之惡。隱人之惡，不隱人之善。我不負人，而任人之負我。我不謗人，而任人之謗我。以深心提人於生死之海，而人以淺心鈍置之，毋棄毋亟。以熱心共人於風波之舟，而人以冷心遐遺之，毋忤毋求。銷大釁於曲突徙薪，而勳名有所不必取。蒙極誣於明珠薏苡，而心跡有所不必明。為國家扶欲墜未墜之紀綱，則眾嫌不必恤，而又不以氣節自有也。為世教發難明當明之道術，則眾咻不必虞，而又不以門戶自標也。流俗之所爭趨者吾避之，流俗之所共惡者吾察之。幽則必闡，而過則必原。其道必不詭於中庸，而其心則不求人知，而求天知。不患人之不已知，而求為可知。求可知之中，不求可為鄉願知，而求可為狂狷知。不求可為狂狷知，而求可為中行知。不求可為一鄉一國之善士知，而求可為天下之善士知。不求可為天下之善士知，而求可為萬世之善士知。亦不必求為萬世之善士知，而求可為依中庸之君子邈世不見知而不悔者，默相知於天眼遙觀天耳遙聞之中。又不求生前之遐福，而求可質諸三界之鬼神。不求死後之榮名，而求可俟千百年之後聖。則陰騭之至也。陰騭之至，人不知而天知之。可以轉凡身而為聖身，離人道而登天道。上帝命之治世，諸佛提之出世矣。此非從身所感本然之慶歟。一身不足以盡積善之慶，故其餘又及於子孫。皆感應自然之理也。傳家者審諸。

目次

印光法師文鈔目次（上）

卷首 題詞並序.....	1
附勸積陰德文.....	3
目次.....	5
卷一 書一.....	1
與大興善寺體安和尚書.....	1
與友人論校經綱要書.....	3
與融明大師書.....	4
與悟開師書.....	4
復海曙師書.....	5
與四明觀宗寺根祺師書.....	6
與佛學報館書.....	7
復濮大凡居士書.....	11
復泰順謝融脫居士書一.....	13
復泰順謝融脫居士書二.....	14
復鄧伯誠居士書一.....	15
復鄧伯誠居士書二.....	17
復鄧新安居士書.....	19
與福建劉廷誠居士書.....	20
復高邵麟居士書一.....	21
復高邵麟居士書二.....	22
復高邵麟居士書三.....	24
復高邵麟居士書四.....	26
與陳錫周居士書.....	29
與心願居士書.....	33
與衛錦洲居士書.....	34
復泰順林介生居士書一.....	37
復泰順林介生居士書二.....	38
與泰順林枝芬居士書一.....	40
與泰順林枝芬居士書二.....	41
復永嘉某居士昆季書.....	45
復永嘉某居士書一.....	48

復永嘉某居士書二.....	49
復永嘉某居士書三.....	50
復永嘉某居士書四.....	52
復永嘉某居士書五.....	54
復永嘉某居士書六.....	63
與徐福賢女士書.....	65
與康澤師書.....	69
與諦閑法師書.....	70
與玉柱師書.....	71
與廣東許豁然居士書.....	71
復丁福保居士論臂香書.....	73
與廣東蕭永華孝廉書.....	74
與某居士書.....	75
與海鹽某夫人書.....	75
與海鹽顧母徐夫人書.....	76
復永嘉某居士書一.....	77
復永嘉某居士書二.....	78
復永嘉某居士書三.....	79
復永嘉某居士書四.....	79
復永嘉某居士書五.....	80
復永嘉某居士書六.....	81
復永嘉某居士書七.....	82
復永嘉某居士書八.....	82
復永嘉某居士書九.....	83
復永嘉周羣錚居士書.....	84
復弘一法師書.....	85
復無錫尤惜陰居士書.....	85
擬答某居士書.....	86
與高鶴年居士書.....	87
致諦閑法師問疾書.....	89
復弘一師書一.....	90
復弘一師書二.....	92
復汪夢松居士書.....	93
復陳慧超居士書.....	94

復酈隱叟書.....	95
復尤弘如居士書.....	99
復戚智周居士書一.....	100
復戚智周居士書二.....	100
復戚智周居士書三.....	101
復范古農居士書一.....	102
復范古農居士書二.....	102
復吳希真居士書一.....	104
復吳希真居士書二.....	104
復吳希真居士書三.....	105
與陸稼軒居士書.....	106
復劉智空居士書.....	107
復周智茂居士書.....	107
復某居士書.....	110
復黃智海居士書.....	110
復潘對臯居士書.....	112
與聶雲台居士書.....	113
復喬智如居士書.....	114
復江易園居士書.....	114
復唐大圓居士書.....	114
復汪雨木居士書.....	116
復盛機師書.....	117
與方遠凡居士書.....	118
復慧朗居士書.....	119
復龐契貞書.....	120
復袁聞純居士書.....	121
復袁福球居士書.....	122
與周法利童子書.....	125
與馬契西書.....	125
印光法師文鈔卷第二.....	127
卷二 書二.....	127
復包右武居士書一.....	127
復包右武居士書二十.....	127
復永嘉某居士書一.....	128

復永嘉某居士書二.....	130
復永嘉某居士書三.....	130
復永嘉某居士書四.....	131
復永嘉某居士書五.....	132
復永嘉某居士書六.....	132
復永嘉某居士書七.....	132
復永嘉某居士書八.....	133
復永嘉某居士書九.....	133
復何槐生居士書.....	134
復周羣錚居士一.....	135
復周羣錚居士書二.....	136
復周羣錚居士書三.....	136
復周羣錚居士書四.....	137
復周羣錚居士書五.....	138
復周羣錚居士書六.....	139
復周羣錚居士書七.....	139
復洪觀樂居士書.....	140
復汪穀人居士書.....	140
復徐蔚如居士書一.....	141
與徐蔚如居士書二.....	141
與徐蔚如居士書三.....	142
與徐蔚如居士書四.....	143
與徐蔚如居士書五.....	144
與徐蔚如居士書六.....	145
與徐蔚如居士書七.....	145
與丁福保居士書.....	146
復寧波某居士書.....	147
與友人書.....	148
復岳仙嶠居士書.....	148
與揚州萬壽寺寂山和尚書.....	148
復江西端甫黎居士書.....	149
與張連勝總戎書.....	151
復張雲雷居士書一.....	152
復張雲雷居士書二.....	153

復張伯巖居士書.....	153
與謝融脫居士書.....	155
復顧顯微居士書.....	157
復四川謝誠明居士書.....	161
與吳璧華居士書.....	163
復馬契西居士書一.....	163
復馬契西居士書二.....	163
復馬契西居士書三.....	165
復馬契西居士書四.....	165
復馬契西居士書五.....	166
復馬契西居士書六.....	167
復馬契西居士書七.....	167
復馬契西居士書八.....	167
復馬契西居士書九.....	168
復馬契西居士書十.....	170
與馬契西居士書十一.....	170
與馬契西居士書十二.....	171
致陝西陳柏生督軍書.....	171
復甬江某居士書.....	174
復徐蔚如居士書.....	175
復徐彥如軼如二居士書.....	176
致包師賢居士書.....	177
與弘一上人書.....	177
復法海大師書.....	178
復王與楫居士書.....	179
與永嘉某居士書.....	180
復黃涵之居士書一.....	183
復黃涵之居士書二.....	184
復黃涵之居士書三.....	185
復黃涵之居士書四.....	186
復崇明黃玉如書.....	187
復何慧昭居士書.....	187
復湯昌宏居士書.....	189
與泉州大同放生會書.....	191

復安徽萬安校長書.....	192
復郁智朗居士書.....	192
復某居士書.....	194
復張季直先生書.....	194
廬山青蓮寺結社念佛宣言書.....	195
復河南第五軍副司令部楊明齋書.....	199
復周孟由昆季書.....	199
復馮不疚居士書.....	204
復馬舜卿居士書.....	207
復裘佩卿居士書一.....	210
復裘佩卿居士書二.....	211
與方聖胤居士書.....	212
論.....	213
淨土決疑論.....	213
淨土法門普被三根論.....	222
宗教不宜混濫論.....	223
佛教以孝為本論.....	228
如來隨機利生淺近論.....	229
持經利益隨心論.....	230
竭誠方獲實益論.....	231
挽回劫運護國救民正本清源論.....	237
疏.....	241
南潯極樂寺重修放生池疏.....	241
金陵三汊河法雲寺放生池疏.....	243
金陵三汊河法雲寺增設佛教慈幼院疏.....	244
普勸施資助刻大藏疏.....	245
吉林哈爾濱創建極樂寺疏.....	246
杭州彌陀寺啟建蓮社緣起疏.....	248
杭州南高峰榮國禪寺重修寶塔疏.....	249
佛頂山萬年水陸募緣疏.....	251
杭州石經山彌陀寺募修葺殿堂寮舍并濬放生池疏.....	251
募建普陀山輪船碼頭疏.....	252
天台山上方廣寺募修三聖殿疏.....	254
普陀山伴山庵募修大殿疏.....	254

啟建普門無遮普度勝會大道場募緣疏.....	255
上海殘疾院勸捐疏.....	256
募修永嘉羅漢山景德禪寺疏.....	256
廬山青蓮寺啟建蓮社緣起疏.....	257
普陀山法雨寺募修天王殿及鼓樓疏.....	259
嘉興真如寺開念佛堂專修淨業緣起疏.....	259
南京三汊河法雲寺募鑄幽冥大鐘疏.....	260
法雨寺羅漢裝金募緣疏.....	261
法雨寺建如意寮募緣疏.....	262
附記	263

印光法師文鈔卷第一

書一

與大興善寺體安和尚書（戊戌年稿、教行理三、唯約教論、今以教理約教、行果約機、謂依教理以起行、行滿方克證果也。）

教理行果·乃佛法之綱宗。憶佛念佛·實得道之捷徑。在昔之時·隨修一法·而四者皆備。即今之世·若捨淨土·則果證全無·良以去聖時遙·人根陋劣。匪仗佛力·決難解脫。夫所謂淨土法門者。以其普攝上中下根。高超律教禪宗·實諸佛徹底之悲心·示眾生本具之體性。匯三乘五性·同歸淨域。導上聖下凡·共證真常。九界眾生離此法·上不能圓成佛道。十方諸佛捨此法·下不能普利羣生。所以往聖前賢·人人趣向。千經萬論·處處指歸。自華嚴導歸之後·盡十方世界海諸大菩薩·無一不求生淨土。由祇園演說以來·凡西天東土中一切著述·末後皆結歸蓮邦。粵自大教東流·廬山創興蓮社·一倡百和·無不率從。而其大有功而顯著者·北魏則有曇鸞·鸞乃不測之人也。因事至南朝見梁武帝·後復歸北。武帝每向北稽首曰·鸞法師·肉身菩薩也。陳隋則有智者·唐則有道綽·踵曇鸞之教·專修淨業。一生講淨土三經·幾二百徧。綽之門出善導·以至承遠·法照·少康·大行·則蓮風普扇於中外矣。由此諸宗知識·莫不以此道密修顯化·自利利他矣。至如禪宗·若單提向上·則一法不立·佛尚無著落處·何況念佛求生淨土。此真諦之一泯一切皆泯·所謂實際理地·不受一塵·顯性體也。若確論修持·則一法不廢·不作務即不食·何況念佛求生淨土。此俗諦之一立一切皆立·所謂佛事門中·不捨一法·顯性具也。必欲棄俗諦而言真諦·則非真諦也。如棄四大五蘊而覓心性·身既不存·心將安寄也。若即俗諦以明真諦·乃實真諦也。如在眼曰見·在耳曰聞·即四大五蘊而顯心性也。此從上諸祖密修淨土之大旨也。但未廣顯傳述·故非深體祖意。則不得而知。然於百丈立祈禱病僧·化送亡僧之規·皆歸淨土。又曰·修行以念佛為穩當。及真歇了·謂淨

土一法·直接上上根器·傍引中下之流。又曰·洞下一宗·皆務密修·以淨土見佛·尤簡易於宗門。又曰·乃佛乃祖·在教在禪·皆修淨土·同歸一源。可以見其梗概矣。及至永明大師·以古佛身·乘願出世。方顯垂言教·著書傳揚。又恐學者路頭不清·利害混亂·遂極力說出一四料簡偈。可謂提大藏之綱宗·作歧途之導師。使學者於八十字中·頓悟出生死證涅槃之要道。其救世婆心。千古未有也。其後諸宗師·皆明垂言教·偏讚此法。如長蘆蹟·天衣懷·圓照本·大通本·中峯本·天如則·楚石琦·空穀隆等·諸大祖師。雖宏禪宗·偏讚淨土。至蓮池大師參笑巖大悟之後·則置彼而取此。以淨業若成·禪宗自得。喻已浴大海者·必用百川水。身到含元殿·不須問長安。自後蕩益·截流·省庵·夢東等·諸大祖師·莫不皆然。蓋以因時制宜·法須逗機·若不如此·則眾生不能得度矣。自茲厥後·佛法漸衰。加以髮匪回匪·則法輪幾乎停轉。雖有知識·各攻其業。以力不暇及·置此道於不問。有談及此事·聞者若將浼焉。幸有一二大心緇白·刊刻流布。令祖教不滅·使來哲得聞·實莫大之幸也。(弟)以闡提出家·自揣根性庸劣·罪業洪深。故於宗教二途·概不敢妄行染指。惟於仗佛慈力·帶業往生一法·頗生信向。十餘年來·悠悠虛度·毫未得益·但自西徂東·由北至南·往返萬餘裏·閱人多矣。其有平日自命通宗通教·視淨土若穢物·恐其汙己者·臨終多是手忙腳亂·呼爺叫娘。其有老實頭持戒念佛·縱信願未極·瑞相不現·皆是安然命終。其故何哉·良由心水澄清·由分別而昏動。識波奔湧·因佛號以渟凝。所以上智不如下愚·弄巧反成大拙也。伏願和尚發菩提心·宏揚此法。倘淨土經論·盡皆通徹·則何幸如之。若或未盡鑽研·或恐違背本宗·不敢稱性發揮·當權將宗教兩門工夫·暫時歇手。凡有闡揚淨土者·平心和氣讀之·使揚禪抑淨之心·無絲毫芥蒂。必究佛祖偏讚之所以·四眾遵違之利害·則不被門庭隔礙·而敢於一切禪教律人前·稱性發揮·無復畏憚矣。然淨土書多·最要唯十要。十要中斷疑生信·尤推或問·直指·合論·為破堅衝銳之元勳也。其外淨土聖賢錄·歷載諸菩薩祖

師居士婦女·及惡人畜生往生事蹟。讀之則知歷代禪教律諸四眾求生淨土·如羣星之拱北·眾水之朝東。而龍舒淨土文·言淺義周·詞詳理備·為接引初機第一要書。若欲普利眾生者·此書萬不可忽也。(弟)昔遇善子平者言·壽不過三十八·今適滿其數。恐無常倏至·所以專持佛號·預待臨終。設無常果至·則後會無期。兼欲雪在家毀謗佛法之罪·故不避忌諱·略采野芹·獻于飽餐王膳大富長者座下。祈憫而納之·福我秦邦。提永明之正令·遵蓮池之遺規。使自他同出生死·幽顯共生西方。則淨土興而宗風不墜·眾生福而國運常亨。所謂移花賺蝶至·買石得雲饒。書此大旱望雨之誠·用卜同歸蓮邦之慶。祈垂海涵·則法門幸甚·眾生幸甚。

與友人論校經綱要書

佛經義理無窮·隨人所見·各自著述。只一經也。別圓終頓·所判不同。因緣觀心·所釋各異。況復後世禪道大行·人皆樂聞直指之說·謂其親切痛快·易於得益。由是多有以祖意釋經意·挽佛說徇己說。抹除事相·專談本分。或以機鋒為轉折·或以表法為通關。但能不背心宗·皆堪輔弼佛說。縱不能普被三根·稱佛本懷。亦可以各利一類之機·令其就路還家又顯經義幽遠·佛理圓通。法法歸真·頭頭合道。良以者個如太虛空·杳無疆界·不妨隨人所住·以分南北西東。如摩尼珠·非青黃赤白等色·而復遇青現青·逢黃現黃·青黃雖非本色·本色不離青黃。倘欲離青黃以覓本色·非蘊空大士不可。如李長者之華嚴論。憨山之法華擊節。曾鳳儀之三宗通。及禪家以念佛作話頭看·以淨土依正作本分說等。不得律以教家常格·謂為錯訛而稍加更改。以彼另屬一宗·攬一切法指歸向上。設一更改·於本註前後血脈隔斷。又不能於教理始終意義脗合。一經稍改·兩塗俱失。剝肉作瘡·有損無益。還他本來面目·流通後世。譬如春蘭秋菊·各擅其美。盡忠行孝·俱振綱常耳。以師在海山·言憨山所註法華·有不合經旨處·以憨山多約本分作直指之談故也。又校經一事·甚不容易。恐師無暇及此·委任他人。須有出格見識·十分細心·再三詳審·勤加考

稽。方可一正訛謬。令其蕪穢盡除。天真徹露。否則寧可依樣畫葫蘆。庶不至大失其本真矣。

與融明大師書

古人雲。人身難得。中國難生。佛法難聞。生死難了。我等幸得人身。生中國。聞佛法。所不幸者。自愧業深障重。無力斷惑。速出三界。了生脫死耳。然又幸得聞我如來徹底悲心所說之大權巧異方便。令博地凡夫帶業往生之淨土法門。實莫大之幸也。若非無量劫來。深植善根。何能聞此不思議法。頓生真信。發願求生乎。今見好心出家在家四眾。多是好高騖遠。不肯認真專修淨業。總由宿世善根淺薄。今生未遇通人。汝於淨土雖有微言。然不明淨土理致。又僻處於佛法流通不及之地。誠恐日與俗人酬酢。久而久之。與之俱化。近墨者黑。近火者焦。勢所難免。當時時努力。若能念念在道。隨忙隨閑。不離佛陀名號。順境逆境。不忘往生西方。便可於父母之邦。隨緣常住。若不能如是。當往他方淨業道場。及親近淨業知識。方不負前來所說種種大幸。及聞淨土法門莫大之幸也。諦法師專修淨業。予料其必得大利益。以彼撐持道場種種心。皆死盡無餘。念佛之心。又懇切之極。恐彼深得三昧。我尚未能一心。他日何顏見彼。故當仁不讓。又欲閉關。大約總在普陀。未知定歸何所。恐汝於淨土法門錯過。便可惜三年護關之一番辛苦。故不禁落索如此耳。祈深體鄙懷。則幸甚幸甚。

與悟開師書

竊聞淨土者。乃究竟暢佛本懷之法也。高超一切禪教律。統攝一切禪教律。略言之。一言一句一偈一書。可以包括無餘。廣說之。雖三藏十二部之玄言。五宗諸祖師之妙義。亦詮不盡。縱饒盡大地眾生。同成正覺。出廣長舌。以神通力。智慧力。塵說剎說。熾然說。無間說。又豈能盡。良以淨土本不思議故也。試觀華嚴大經。王於三藏。末後一著。歸重願王。法華奧典。妙冠羣經。聞即往生。位齊等覺。則千經萬論。處處指歸者。有由來也。文殊發願。普賢勸進。如來授

記於大集·謂末法中非此莫度·龍樹簡示於婆沙·謂易行道·速出生死。則往聖前賢·人人趣向者·豈徒然哉。誠所謂一代時教·皆念佛法門之註腳也。不但此也·舉凡六根所對一切境界·所謂山河大地·明暗色空·見聞覺知·聲香味等·何一非闡揚淨土之文字也。寒暑代謝·老病相摧·水旱兵疫·魔侶邪見·何一非提醒當人速求往生之警策也。廣說其可盡乎。言一言統攝者·所謂淨也。淨極則光通·非至妙覺·此一言豈易承當。於六即佛頌研之可知也。一句者·信願行也。非信不足以啟願·非願不足以導行·非持名妙行·不足滿所願而證所信。淨土一切經論·皆發明此旨也。一偈者·讚佛偈也·舉正報以攝依果·言化主以包徒眾。雖只八句·淨土三經之大綱盡舉也。一書者·淨土十要也。字字皆末法之津梁·言言為蓮宗之寶鑑。痛哭流涕·剖心瀝血·稱性發揮·隨機指示。雖拯溺救焚·不能喻其痛切也。捨此則正信無由生·邪見無由殄也。就中最要者惟要解。而初心入門·斷疑生信·作險道之善導·示寶所以必趣者。天如或問·妙葉直指·尤為破堅衝銳之元勳也。須知淨土法門·具四法界。所有事相·皆事事無礙之法界也。讀而修者·切不可執理廢事。倘一執之·則事理兩喪。如人知意根最勝·而廢棄五根·則意根亦無地可立矣。唯即事以明理·由理以融事者·方可無過。所謂淨土要旨·全事即理·理事圓融·即契本體。早知師已飽餐王膳·而猶汲汲於獻芹者·不過表窮子思歸之寸忱·兼欲雪往昔謗法之愆尤也。

復海曙師書

友人以時事新報徵文啟見寄。(光)企座下發揮佛祖道妙·以結法緣。座下以執心在內·(一)直指見性是心非眼·(二)色陰本如來藏妙真如性·(三)眼入本如來藏妙真如性·(四)十二處本如來藏妙真如性·(五)地大周徧·(六)一心二門·(七)等七題·令(光)作論。而曰擬作模範。(光)幼失問學·長無所知。兼以宿業深厚·生即病目。近十餘年來·一切經論·皆不能看。但只執持佛號·懺除宿業。企其仗佛慈力·速生西方而已。何能作論·況曰擬作模範乎。其謙恭自牧·

誠可嘉尚。其意見錯謬。有不堪詳言者。夫欲發揮楞嚴起信之奧。何不取法乎釋迦如來。與馬鳴菩薩。及歷代古德之註此經此論者。而反擬以。(光)作者為模範。是何異儒者欲發揮二帝三王孔孟之薪傳。不以四書五經十三經作模範。而以樵歌牧唱為模範。織師欲織迴文古錦。不取織錦者之法則以為模範。而取編蘆席者之法則以為模範。何顛倒一至於此。雖然。人之相交。唯貴各盡其分量而已。昔有童子捧沙供佛。佛即歡喜納受。以沙乃童子力所能辦。其供之之誠。與供無上珍饈妙味。等無有異。今以(光)所易辦之沙。供之座下。固知無用。聊將其誠。倘亦用以塗地。庶可滅我罪垢。長我福田。因將七題一串穿來。僂侗論之。以塞其責。論曰。執心在內在外在中間等。乃凡夫之情見也。執心定不在內在外在中間等。亦凡夫之情見也。非直指見性是心非眼。即末顯本。指波即水之真智也。何也。以五陰。六入。十二處。十八界。七大。一一皆如來藏妙真如性。周徧法界也。若有在有不。則非如來藏妙真如性。不周徧矣。以如來藏妙真如性。含育生佛。包括空有。世出世間。無有一法能出其外。不在其中故也。以凡情觀之。豈但五陰六入十二處十八界七大。皆屬生滅。皆非真如。即斷惑證真。成等正覺。亦不出生滅之外。以聖智觀之。非但斷惑證真。成等正覺。固屬真如。即五陰六入十二處十八界七大。全體真如。從本已來。原無一毫生滅之相可得。再進而論之。真亦不立。如本無名。一心尚不可得。有何二門之可論哉。是為究竟真如。究竟如來藏妙真如性。究竟心。正所謂五蘊皆空。度諸苦厄。圓滿菩提。歸無所得者也。如上一番說話。乃(光)二十年前偶爾夢著者。今承其雅意。獻於座下。如曰必須分而論之。詳其文義語脈旨趣。則非(光)之衰頹心目。荒唐學業。所能辦也。請求之古德。及當代講家。自能暢座下之本懷。愜座下之素志耳。

與四明觀宗寺根祺師書

接手書。並顯感利冥錄。不勝歡喜。知諦公此番講經。比前次更覺光輝。因遂一看畢。即送餘人。多有見聞。深為詫異。私相謂曰。

諦公已證聖果。關帝尚未明心。(光)聞而謂之曰。此事須從白關用心處究。則事理兩當。絕無濫聖屈賢之失。白公且置弗論。夫關帝者。在生時乃富貴不淫。貧賤不移。威武不屈之大丈夫。歿後皈依智者。願為伽藍。護持佛法。自智者至今千三百餘年。天下叢林之主人。多有法身大士。乘願宏法者。關帝一一護持親近。豈至於今。尚有未了。而求決擇開示於諦公。何聰明如帝君。而復愚鈍不蒙法益之如是乎。是大有說。現今時值末法。僧多敗類。只知著一件大領。即名為僧。僧之名義事業。多多了無所知。在俗之人有信心者。縱能研究佛法。終皆下視僧侶。其不信者。見彼遊行人間。造種種業之僧。遂謂僧皆如是。佛法無益於國。有害於世。因有此種我慢邪見下劣等知見故。關帝護法心切。以京師乃天下樞機之地。高人名士。咸來涖止。遂現身說法。請諦公之開示。祛彼在家我慢邪見之凡情。振興劣僧無慚無愧之鄙念。古人稱如來不捨穿鍼之福。曰如八十翁翁作舞。為教兒孫故。(光)於關帝此舉亦然。此雖係盲猜瞎斷。若質諸關帝諦公。當皆點頭微笑。不露否否不然之聲跡矣。如上所說。且約跡論。至於關帝諦公之本。唯關帝諦公自知。(光)何能測度而評論之哉。根敏道心雖切。恐規矩不洞。不解用功法則。祈教以量力而為。不可強勉硬撐。以致心身受病。遂難親獲法利矣。聞某某不善用心。致吐血不止。因而反成廢弛。初學人皆須以此意告之。

與佛學報館書（節錄）

大覺世尊。於無量劫。剝皮為紙。析骨為筆。刺血為墨。以髓為水。流通常住法寶。普度一切眾生。佛學叢報一書。直使佛法流通中外。含識盡證一乘。但以世俗讀書。絕無敬畏。晨起則不加盥漱。登廁則不行洗濯。或置座榻。或作枕頭。夜臥而觀。則與褻衣同聚。對案而讀。則與雜物亂堆。視聖賢之語言。同破壞之故紙。漫不介意。毫無敬容。甚至書香家之婦女。花冊皆是經傳。世祿家之僕隸。措物悉用文章。種種褻黷。難以枚舉。積弊已久。習矣不察。若不特示禍福。決定難免褻黷。未曾得益。先獲大罪。閔斯無知。須預指陳。若

以愚見·皮面圖畫·可不必印。名標其傍·如常書式。中間或作伽陀·或作散文·少則數句·多則十餘·言須簡明·字須粗大。誠令視者·加意珍重·毋或褻汙。大覺法王·度生妙道。敬則獲福·慢則致禍。皮裏宜用小字·詳陳此書雖名報書·實同佛經。而且首有佛菩薩像。內中之文·或錄經文·或宗經義·不同世諦語言·理宜格外敬重。再引經論傳記中敬褻經典·罪福案證。庶知好歹者·不致仍存故態·誤造惡業。此二或一冊一換。或閒次一換·或永遠不換·只用一種文字·皆無不可。若換·則只可換文·不可換義。則庶乎師嚴而道尊矣。書後皮面·不可印字·以免塗汙而昭敬重。西天二十一祖婆修槃頭尊者·自言往劫將證二果·因誤以杖倚壁畫佛面·遂全失之。吾謂二果尚失果位·若是凡夫·則永失人身·常處惡道無疑矣。譬如巨富犯大闢·盡家資以贖死·貧人則立見斬首矣。事載傳燈錄二十祖闍夜多尊者章。故知褻慢·其罪非小。乾為大父·坤為大母·四海內外·同是同胞。清朝雖屬滿州·畢竟同一父母。況列廟聖德·直同天高地厚·雖堯舜湯武·亦不過如是。近以兵歉疊遭·強鄰見逼·政憲更新·稍有參差。然推究皇仁·仍復如故·但以境緣不嘉·致見傾覆。今既成共和·正好一體同觀。論政體·則盛稱共和。論前清·則褒美皇仁。譬如新官上任之後·不妨豎碑立祠·以彰舊官之德。共和既成之後·二百餘年之撫育栽培·豈可頓忘。吾見第三冊中·有獨夫·專制·奴隸等語·心甚怏怏。夫吾國自開闢以來·其繼天立極·君臨天下之大聖人·亦未必不慮及此。或恐民若強悍·則號令有所不行·而反致亂亡·此聖人傳子孫之本心·豈義農湯武·盡欲私受其利乎。以非此不足以振綱常·息爭端·亦時勢使之然也。非義農諸聖·皆有慚德也。今人各為公·共和郅治·亦時勢使之然也。非今人便優於義農等諸聖也。似宜推美共和·不必苛論前清。方合共和之體·免蔑古聖之愆。佛世毘耶離國·即用此法·如來於諸經中·亦未深斥輪王世世相承之非。善乎孔子之言曰·君子之于天下也·無適也·無莫也·義之與比。義之與比者·因時適宜之謂也。夏葛而冬裘·渴飲而飢食·不可互非·亦不

可專主一法。唯求其適宜，則有大利而無少弊矣。然人心不一，倘再有投稿者，帶此詞意，祈略事筆削，以歸完善，俾天下後世之閱者，佩服諸君大公之量，佛法平等之懷，所有言論，唯理是尚，毫無偏私。因茲古今來大聖大賢，無不歸心而崇事焉。世出世間之理，不出心性二字。世出世間之事，不出因果二字。眾生沈九界，如來證一乘，於心性毫無增減。其所以升沈迥異，苦樂懸殊者，由因地之修德不一，致果地之受用各別耳。闡揚佛法，大非易事。唯談理性，則中下不能受益。專說因果，則上士每厭聞熏。此書科分十門，法不一律。正好事理並進，頓漸齊驅。庶得三根普被，利鈍均益。宜將古今來由學佛得力，發之而為大忠大孝，純義純仁之事蹟。與夫恭敬三寶，謗毀三寶之禍福。及高人淑世導俗之嘉言，戒殺放生之至論。於後數科，冊冊登載，則愚夫愚婦，有所稟承。而通方哲士，因悟理而亦欲實踐。從茲不敢搖頭掩耳，更急急於願樂欲聞也。然因果心性，離之則兩傷，合之則雙美。故夢東雲，善談心性者，必不棄離於因果，而深信因果者，終必大明乎心性。此理勢所必然也。而末法眾生，根機陋劣。禪教諸法，唯仗自力，契悟尚難，何況了脫。唯有仗佛力之淨土法門，但具真信切願，縱五逆十惡，亦可永出輪迴，高預海會。此不可思議之最上乘法，宜理事並談，誠勸齊施。震海潮音，霑大法雨。破魯川輩之邪執，續蓮池等之法脈。俾普天同受佛法之益，庶大地悉感諸君之德。則法滿寰宇，世復唐虞。道通天地有形外，恩徧飛潛異類中矣。刻論佛法式微，實不在於明末。明季垂中，諸宗悉衰。萬曆以來，勃然蔚興。賢首則蓮池，雪浪，大振圓宗。天臺則幽溪，蕩益，力宏觀道。禪宗幻有下四人，而天童，磬山，法徧天下。洞下則壽昌，博山，代有高人。律宗則慧雲中興，實為優波。見月繼踵，原是迦葉。而妙峯，紫柏，蓮池，憨山，蕩益，尤為出類拔萃，末法所不多見。雖不及唐宋盛時，亦可謂佛日重輝矣。及至大清啟運，崇重尤隆。林泉隱逸，多蒙禮敬。如玉林，憨璞，木陳等，世祖遂仰遵佛制，大開方便。罷除試僧，令其隨意出家。因傳皇戒，製護戒牒。從茲永免度牒矣。

佛法之衰，實基於此。在當時高人林立，似乎有益。而世宗以大權乘願，建中立極。其發揮佛祖慧命之言論，精深宏博。入藏流通者不必言。外有禦製揀魔辨異錄，八卷四冊，係吾友子任氏，乞食京師，於書肆中得之，送於楊仁山，令寄東洋，附于新印大藏之內。想其書已出，好古探奇之士，試一讀之。不但于性命有益，而學識文章，當頓高十倍矣。嗚呼盛哉。世宗實為法流震旦，皇帝中之絕無而僅有者。其君如此，則宰官僧侶，概可知矣。迨至高廟以後，哲人日希，愚夫日多，加以頻經兵燹，則鄙敗無賴之徒，多皆混入法門。自既不知佛法，何能教徒修行。從茲日趨日下，一代不如一代，至今僧雖不少，識字者十不得一。安望其宏揚大教，普利羣生耶。由是高尚之士，除夙有大根者，但見其僧，而不知其道。厭而惡之，不入其中矣。夫流通佛法，非一朝一夕之故。須深謀遠慮，隨機設法。佛制固不可不遵，而因時制宜之道，亦不可不亟亟研求，以預防乎世變時遷，庶不至顛覆而不能致力，有如今日之佛法也。倘諸君不乘時利見，吾恐此時震旦國中，已無佛法聲跡矣。嗚呼險哉。佛法高深，非淺見所能窺。若欲深知，必須由教而入，次及禪宗，方可無弊。宋儒若周程張硃等，夙世固有靈根。奈最初所親近者，皆屬直指宗師，于一席話，一公案下，彷彿領會得個虛靈不昧，具眾理而應萬事之意義，實未徹悟自心。遂自以為得，畫地自限，不肯前進，良由一向在義路上著腳，絕未曾真參力究也。且見宗家法法頭頭，指歸向上。因此縱看經教，亦作宗意解會，謂佛法但止如此而已。而因果罪福之實事實理，亦皆以指歸向上之意見領會。遂致瞞昧自心，撥無因果。攘人之物，以為家寶。拾佛法之遺餘，扶儒教之門牆。又恐後生高推釋氏，因巧設方法，作盜鈴計。橫造謗議，陳其禍害。關閉後生，永不能出。又恐或不死心，遂現身說法，謂吾昔求道，亦曾旁及釋老，然皆了無所得，後反求於六經而得之，從此釋老之破綻，一一徹見矣。夫諸子誠意正心，躬行實踐，誠足為儒門師表。但以扶持門牆之念過重，致於最宜感佩表彰之處，反掩人之長以為短。以己之得於人者，反謂人不我若。竟使誠

意正心。躬行實踐。不能圓滿完備。徹頭徹尾。噫。可哀也已。一乘居士。謂其入室操戈。喧賓奪主。其言甚確。然不詳陳其故。關裏人決不肯服。宜將諸子學佛得益處。及以宗意錯會教意。因茲不信因果。不信輪迴。不唯悖佛。亦悖儒經處。及自謂求道於釋老皆不得。後於六經反得處。詳陳而明辯之。則臧證具在。不但閉關者佩服而直下出關。縱諸子復生。亦當任過自責。無從置喙強辯。從茲慧風掃蕩障翳盡。佛日重輝宇宙中矣。

復濮大凡居士書

遙捧雲章。實深慚愧。(不慧)幼失問學。長無所知。客路嶠嶭。寄食普陀。不億閣下。以宿承佛囑。乘願再來。得儒佛之心宗。窮性相之秘藏。徧參縑素。力修淨業之出格豪傑。過量大人。乃不恥下問。詢於芻蕘。而過為謙譽。令人無地容身。設大地有縫。當即徹底深入。何敢仰答。繼思閣下學問如是之博。見地如是之高。如斯數則。義甚淺近。豈真懷疑不決哉。殆欲發起同人耳。閣下既以了知為不知。(不慧)不妨以無知為有知。因即據款批判。隨語剖析。非敢效老吏之斷獄。不過如課士之納卷耳。所陳菲詞。詳列後幅。其當與否。祈垂塵政。念佛雖貴心念。亦不可廢口誦。以身口意三。互相資助。若心能憶念。身不禮敬。口不持誦。亦難得益。世之舉重物者。尚須以聲相助。況欲攝心以證三昧者乎。所以大集經雲。大念見大佛。小念見小佛。古德謂大聲念。則所見之佛身大。小聲念。則所見之佛身小耳。而具縛凡夫。心多昏散。若不假身口禮誦之力。則欲得一心。末由也已。實際理地。方無生滅。佛事門中。何一非生滅法乎。等覺菩薩。破四十一品無明。證四十一分秘藏。亦不出於生滅之外。是生滅乃生死之根。亦菩提之本。視其人之所用何如耳。都攝六根。淨念相繼。乃以彼背覺合塵之生滅。轉而為背塵合覺之生滅。以期證於不生不滅之真如佛性也。念念在淨土。方可往生。乃上品往生者之身分。若執定此義。以自求上品。何善如之。若執定此義。以教中下根人。則阻人勝進不淺。何以故。以彼必以為此法太高。遂以卑劣自居。不肯修

持耳。又此念佛雖屬意識。而諸識咸具。不觀上文都攝六根乎。六根既攝。則六識將何為乎。即轉送含藏者。亦唯此事而已。刀砍不入一段。原無可疑。以閣下將自力他力。禪宗淨宗之界限未分。致成一大疑團耳。念佛一法。乃仗佛力出三界。生淨土耳。今既不發願。亦豈有信。(有真信者、必有切願)。信願全無。但念佛名。仍屬自力。以無信願。故不能與彌陀宏誓。感應道交。若見思惑盡。或可往生。若全未斷。及斷未淨盡。則業根尚在。何能即出輪迴。五祖戒。草堂青等。即是確證。須知去卻信願念佛。與宗家之參究無異。若得往生。則因果不相符契矣。蕩益雲。得生與否。全由信願之有無。品位高下。全由持名之深淺。乃鐵案也。經雲一心不亂。遠承前文依功德。即是教令生信。近承上文眾生聞者。應當發願。願生彼國。即是教令發願。又況下文勸信勸願。不一而足。閣下截斷前文。止執一句。故有不貴發願之疑。又以無信願之一心。與有信願之一心。敵體同觀。故有刀砍不入。豈非純一。何以無願不得往生之疑。又念佛之外。第二念。夾雜。難以枚舉。舉其正者。如求大徹大悟。得大總持等。非指發願為第二念。為夾雜也。須知淨土一法。以信願行三法為宗。行如車牛。願如禦者。信如前導。導與禦者。正成就其車牛之進趣耳。是以朝暮必須向佛發願。又不念佛時。亦不可泥。縱令一念萬念。不妨日有起止。若謂有不念時。有發願時。便成間斷夾雜。便難成辦。試問此一心念者。亦曾見色聞聲。著衣吃飯。舉手動足。與否。若有。彼既不間斷夾雜。此何獨間斷夾雜。若無。除非法身大士。然法身大士。端居一處。而現身塵刹。其間斷夾雜。將不勝其多矣。心具眾理。應萬事。豈止佛願同時而已。約常途修持。發願當在朝暮。亦有念佛一進畢。即發願者。閣下深通性相。謂佛念。求生念。不能兩具。似於事事無礙之圓理。未能徹信。又謂有則此念當剖為二。一半歸佛。一半歸願。如此。一人應成兩佛。閣下於日用之中。眼見色時。耳鼻舌身意。便不聞聲及緣法等耶。若一時並行不悖。何獨於此而疑之。須知一念心體。其用無量。八識非一心之體用乎。彼既不成八佛。此何以

成兩佛也耶。平生絕無信願者。臨終決定難仗佛力。既雲善惡俱時頓現。且無論阿彌陀佛四字不現者。不得往生。即現。亦不得往生。何以故。以不願生故。以不求佛。因不得蒙佛接引故。華嚴經雲。假使惡業有體相者。十方虛空不得容受。古德雲。如人負債。強者先牽。心緒多端。重處偏墜。今善惡皆現。由無信願。便不能奈惡業何矣。須知仗自力。則惡業有一絲毫。便不能出離生死。況多乎哉。又無信願。念至一心。無量無邊之中。或可有一二往生。決不可以此為訓。以斷天下後世一切人往生淨土之善根。何以故。以能仗自力。念至業盡情空。證無生忍者。舉世少有一二。倘人各依此行持。置信願而不從事。則芸芸眾生。永居苦海。無由出離。皆此一言為之作俑也。而其人猶洋洋得意。以為吾言甚高。而不知其為斷佛慧命。疑誤眾生之狂言也。哀哉。(世間善業、不出輪迴、若對信願具足之往生淨業、則彼善業、仍屬惡業。)淨土一法。須另具隻眼。不得以常途教義相例。使如來不開此法。則末世眾生之了生死者。不可得而見之矣。蕩益大師。彌陀要解。理事各臻其極。為自有此經以來之第一註解。當以之為的。則他日往生品位。咸不得與閣下齊肩矣。古人修行。皆能證道。今人修行。少見明心。豈人根之不等耶。抑亦敬慢之所致耳。歷觀傳記高人。咸皆視經像如視活佛。其敬畏之跡。雖忠臣之奉聖主。孝子之讀遺囑。何能仿佛一二。因其恭敬之極。故能斷惑證真。超凡入聖。觀于二祖立雪。程門立雪。可見矣。今人視佛像如土木。視佛經如故紙。縱有信心。讀誦受持。亦不過供其口頭滑利而已。有何實益之可論也。雖種遠因。而褻慢之罪。有不堪設想者。願閣下以博學宏詞。提倡佛法時。必須常以此普利一切。則法門幸甚。眾生幸甚。

復泰順謝融脫居士書一

吾有知乎哉。無知也。有鄙夫問於我。空空如也。我叩其兩端而竭焉。此聖人以己之心無念慮。而隨機說法示人也。斷斷不可會作謙詞。夫聖人之心。猶如明鏡。空空洞洞。了無一物。有何所知。鄙夫致問。如胡來漢來。叩兩端而竭。如胡現漢現。叩字。義當作即。兩

端者·所問與其機也。而竭焉者·恰恰合宜·無過無不及也。即佛門所謂契理契機之謂也。若唯契於理·而不契機·於彼無益·便成閑言語矣。如問仁·問孝·問政等·所問是同·而所答各異。乃即彼之機·答彼之問·看孔著楔·對病發藥·恰恰合宜·了無一毫機教不投之弊。若非心空如鏡·安能使之若是乎·講章以空空屬於鄙夫·可謂枉讀聖賢書矣。孔子之心·至誠無妄·故曰空空如也。顏子去聖一等·雖未能究竟無妄。而其妄亦無幾何。故亦得屢至於空·三月不違·即是其事。故夫子許之以庶。若以為簞食瓢飲屢至空乏·而不改其樂·故許以庶。則是捨本逐末·大失聖人因機定評之至論也。至於子貢貨殖·乃隨類論及·何可以令其針鋒相對。聖人因人論人·豈效後世做試帖詩·必須對得恰好·方為合格乎。然此乃以閣下志慕佛法·不妨將聖人之心·隨機指點。若向三家村裏訓蒙·當以硃註是守·否則守文之徒·謗焰四起·不但不能知聖人之心·反因之毀謗佛法·由是永沈苦海。大失聖人叩兩端而竭焉之深旨矣。

復泰順謝融脫居士書二

得手劄·知閣下尚未圓具·及貴宅貴鄉佛法流通之象·喜不自勝。雖然·吾於喜中·不無大憂。何以言之·夫佛法者·乃九法界公共之法·無一人不當修·亦無一人不能修·持齋念佛者多·推其效則法道興隆。風俗淳善。此則唯恐其不多·愈多則愈美也。至於出家為僧·乃如來為住持法道·與流通法道而設·若其立向上志·發大菩提·研究佛法·徹悟自性。宏三學而偏讚淨土·即一生以頓脫苦輪·此亦唯恐不多·多多則益善也。若或稍有信心·無大志向欲藉為僧之名·遊手好閑·賴佛偷生。名為佛子·實是髡民·即令不造惡業·已是法之敗種·國之廢人。倘或破戒造業·貽辱佛教·縱令生逃國法·決定死墮地獄·於法於己·兩無所益。如是則一尚不可·何況眾多。古人謂出家乃大丈夫之事·非將相所能為·乃真語實語。非抑將相而揚僧伽也·良以荷佛家業·續佛慧命·非破無明以復本性·宏法道以利眾生者·不能也。今之為僧者·多皆鄙敗無賴之徒。求其悠悠泛泛·持齋

念佛者·尚不多得。況能荷家業而續慧命乎。今之佛法·一敗塗地者·以清世祖不觀時機·仰遵佛制。革前朝之試僧·永免度牒·令其隨意出家·為之作俑也。夫隨意出家·於上士則有大益·於下士則大有損。倘世皆上士·則此法固於法道有益。而上士如麟角·下士如牛毛。益暫得於當時·(清初至乾隆年間、善知識如林、故有益·)禍廣覃於後世。致今汙濫已極·縱有知識欲一整頓·無從措手。可不哀哉。以後求出家者·第一要真發自利利他之大菩提心·第二要有過人天姿·方可薙落。否則不可。至若女人有信心者·即令在家修行·萬萬不可令其出家。恐其或有破綻·則汙敗佛門不淺矣。男若真修·出家更易。以其參訪知識·依止叢林也。女若真修·出家反難。以其動輒招世譏嫌·諸凡難隨己意也。如上揀擇剃度·不度尼僧·乃末世護持佛法·整理法門之第一要義。祈與令師及一切相識之僧·剴切言之·則其功德無量無邊矣。至禱至禱。

復鄧伯誠居士書一

相晤已來·忽滿六年。不但星霜屢更·即國曆已非其舊。世相無常·誠可歎悼。接手書。知不廢淨業·洵足嘉美。而雲身心不安之至·為境遇不嘉·致不安耶。抑或疾病纏綿·致不安耶。若境遇不嘉者·當作退一步想。試思世之勝我者固多·而不如我者亦復不少。但得不飢不寒·何羨大富大貴。樂天知命·隨遇而安。如是則尚能轉煩惱成菩提·豈不能轉憂苦作安樂耶。若疾病纏綿者·當痛念身為苦本·極生厭離·力修淨業·誓求往生。諸佛以苦為師·致成佛道。吾人當以病為藥·速求出離。須知具縛凡夫·若無貧窮疾病等苦·將日奔馳于聲色名利之場·而莫之能已。誰肯于得意烜赫之時·回首作未來沈溺之想乎。孟子曰·故天將降大任於是人也·必先苦其心志·勞其筋骨·餓其體膚·空乏其身·行拂亂其所為·所以動心忍性·增益其所不能。故知天之成就人者多以逆·而人之祇承天者宜順受也。然孟子所謂大任·乃世間之爵位·尚須如此憂勞·方可不負天心。何況吾人以博地凡夫·直欲上承法王覺道·下化法界有情。倘不稍藉挫折於貧病·則

凡惑日熾·淨業難成。迷昧本心·永論惡道。盡未來際·求出無期矣。古德所謂不經一番寒徹骨·爭得梅花撲鼻香者·正此之謂也。但當志心念佛以消舊業·斷不可起煩躁心·怨天尤人·謂因果虛幻·佛法不靈。須知吾人自無始以來·所作惡業·無量無邊。華嚴經謂假使惡業有體相者·十方虛空·不能容受。豈泛泛悠悠之修持·便可消盡也。所以釋迦彌陀兩土教主·痛念眾生無力斷惑·特開一仗佛慈力·帶業往生之法門。其宏慈大悲·雖天地父母·不能喻其恆河沙分之一。只宜發慚愧心·發懺悔心·自可蒙佛加被·業消身安耳。若病苦至劇·不能忍受者·當於朝暮念佛回向外·專心致志·念南無觀世音菩薩。觀音現身塵刹·尋聲救苦。人當危急之際·若能持誦禮拜·無不隨感而應·即垂慈佑·令脫苦惱而獲安樂也。念佛一法·乃至簡至易·至廣至大之法。必須懇切志誠之極·方能感應道交·即生親獲實益。若懶惰懈怠·毫無敬畏·雖種遠因·而褻慢之罪·有不堪設想者。縱令得生人天·斷難高預海會。至於佛像當作真佛看·不可作土木銅鐵等看。經典乃三世諸佛之師·如來法身舍利·亦當作真佛看·不可作紙墨等看。對經像時·當如忠臣之奉聖主·孝子之讀遺囑。能如是·則無業障而不消·無福慧而不足矣。現今士大夫學佛者多·然率皆讀其文·解其義·取其供給口頭·以博一通家之名而已。至於恭敬志誠·依教修持者·誠為難得其人。余常謂欲得佛法實益·須向恭敬中求。有一分恭敬·則消一分罪業·增一分福慧。有十分恭敬·則消十分罪業·增十分福慧。若無恭敬而致褻慢·則罪業愈增·而福慧愈減矣。哀哉。凡遇知交·當諄諄以此意告之·乃莫大之法施也。淨土法門若信得及·何善如之。若己智有不了·即當仰信諸佛諸祖誠言·斷不可有一念疑心·疑則與佛相背·臨終定難感通矣。古人謂淨土法門·唯佛與佛乃能究盡。登地菩薩·不能知其少分。夫登地大士·尚不全知。豈可以博地凡夫·妄生臆斷乎。若欲研究·當看淨土十要。此書乃蕩益大師於淨土諸書中·采其菁華·妙契時機·最為第一。其開首彌陀要解·自佛說此經以來·為西天東土中·絕無而僅有之註解也。宜恪

遵守·不可忽略。今之聰明人·雖學佛法·以未親近具眼善知識·率皆專重理性·撥棄事修及與因果。既撥事修因果·並理性而失之。所以每有才高等輩·詞驚鬼神·究其行為·與市井無知無識者無異。其病根皆由撥事修因果之所致也。俾上智者徒生憐愍·下愚者依樣妄為。所謂以身謗法·罪過無量。法苑珠林一書·(一百卷、常州天寧寺訂作三十本、蘇州瑪瑙經房訂作廿四本、瑪瑙經房板殘傷模糊、天寧寺板係新刻。)詳談因果·理事並進。事蹟報應·歷歷分明。閱之令人不寒而慄。縱在暗室屋漏·常如面對佛天·不敢稍萌惡念。上中下根·皆蒙利益。斷不至錯認路頭·執理廢事·歸於偏邪狂妄之弊。夢東所謂善談心性者·必不棄離於因果。深信因果者·終必大明乎心性。此理勢所必然也。夢東此語·乃千古不刊之至論·亦徒逞狂慧者之頂門針也。各流通處皆有·宜請而閱之·其利益當自知之·亦宜令一切知交閱之。令弟去秋復來山·亦曾以恭敬相勉·但未知伊以餘言為是否也。

復鄧伯誠居士書二

接手書·讀之令人心神暢悅。蘧伯玉行年五十·而知四十九年之非·孔子年將七十·尚欲天假之年·卒以學易·以祈乎無大過。聖賢之學·未有不在起心動念處究竟者。近世儒者·唯學詞章。正心誠意·置之不講。雖日讀聖賢書·了不知聖賢垂書訓世之意。而口之所言·身之所行·與聖賢所言所行·若明暗之不相和·方圓之不相入·遑問究及於隱微幾希之間哉。佛經教人常行懺悔·以期斷盡無明·圓成佛道。雖位至等覺如彌勒菩薩·尚於二六時中·禮十方諸佛·以期無明淨盡·圓證法身。況其下焉者乎。而博地凡夫通身業力·不生慚愧·不修懺悔。雖一念心性·與佛平等。由煩惱惡業障蔽心源·不能顯現。譬如大圓寶鏡·經劫蒙塵。不但了無光明·即銅體亦不顯現。若知即此全體塵垢之鏡·具有照天照地之光。用力磨礱·日復一日·積功不已·銅質自露。又復加功·光明漸發。光明雖發·磨礱更切·力極功純·垢盡明復·照天照地·為世至寶。須知此光·鏡本具足·非從磨

得。若非本具。從磨得者。磨磚磨石。亦應發光。又須知此光。鏡雖本具。不磨則永無發光之日。眾生心性。亦復如是。雖則與佛平等。若不改惡修善。背塵合覺。性具功德。永不能發。以本具佛性之心識。造長劫沈淪之業苦。猶如暗室觸寶。不但不得受用。反致受其損傷。可哀也已。念佛一法。乃背塵合覺。返本歸元之第一妙法。于在家人分上。更為親切。以在家人身在世網。事務多端。攝心參禪。及靜室誦經等。或勢不能為。或力不暇及。唯念佛一法。最為方便。早晚於佛前隨分隨力。禮拜持念。回向發願。除此之外。行住坐臥。語默動靜。穿衣吃飯。一切時。一切處。皆好念。但於潔淨處。恭敬時。或出聲。或默念。皆可。若至不潔淨處。(如登廁等)。或不恭敬時。(如睡眠洗浴等)。但宜默念。不宜出聲。非此時處不可念也。睡出聲念。不但不恭敬。又且傷氣。久則成病。默念功德。與常時一樣。所謂念茲在茲。造次必於是。顛沛必於是也。居士既能髮露懺悔。于淨土法門。最易相應。所謂心淨則佛土淨也。然既知非。又肯發露懺悔。必須改過遷善。若不改過遷善。則所謂懺悔者。仍是空談。不得實益。至謂欲心不貪外事。專念佛。不能專。要他專。不能念。要他念。不能一心。要他一心等。亦無奇特奧妙法則。但將一個死字。貼到額顱上。掛到眉毛上。心常念曰。我某人從無始來。直至今生。所作惡業。無量無邊。假使惡業有體相者。十方虛空。不能容受。宿生何幸。今得人身。又聞佛法。若不一心念佛求生西方。一氣不來。定向地獄鑊湯鑪炭劍樹刀山裏受苦。不知經幾多劫。縱出地獄。復墮餓鬼。腹大如海。咽細如針。長劫飢虛。喉中火然。不聞漿水之名。難得暫時之飽。從餓鬼出。復為畜生。或供人騎乘。或充人庖廚。縱得為人。愚癡無知。以造業為德能。以修善為桎梏。不數十年。又復墮落。經塵點劫。輪迴六道。雖欲出離。末由也已。能如是念。如上所求。當下成辦。所以張善和。張鍾馗。臨終地獄相現。念佛數聲。即親見佛來接引往生。如是利益。一代時教。百千萬億法門之所無者。吾常曰。九界眾生離此法。上不能圓成佛道。十方諸佛捨此法。下不能普利羣

萌者。此之謂也。果能生死心切。信得及。不生一念疑惑之心。則雖未出娑婆。已非娑婆之久客。未生極樂。即是極樂之嘉賓。見賢思齊。當仁不讓。豈肯因循怠忽。以致一錯而成永錯乎哉。有血性漢子。斷斷不肯生作行肉走屍。死與草木同腐矣。勉旃勉旃。又念佛固貴專一。然居士上有父母。下有妻室。分外營謀。妄希富樂。實所不應。至於分內所當為者。亦須勉力為之。非必屏棄一切。方為修行也。若屏棄一切。能不缺父母妻室之養則可。否則便與孝道相背。雖曰修行。實違佛教。是又不可不知也。又須以淨土法門利益勸父母。令其念佛求生西方。若能信受奉行。臨命終時。定得往生。一得往生。直下超凡入聖。了生脫死。高預海會。親炙彌陀。直至成佛而後已。世間之孝。孰能與此等者。又若能以此普告同人。令彼各各父母。皆得往生。則化功歸己。而親與自己之蓮品。更當高增位次矣。詩雲。孝子不匱。永錫爾類。欲孝其親者。宜深思而力行之。

復鄧新安居士書

今春令兄來書。觀其詞意。懇摯真切。(光)因不揣固陋。略為啟發。至四月間又來一書。其訟過自責。詢求出要。頗合克己復禮。親師取友之行。(光)閱之。不勝慶悅。因亦縷析條陳以復之。茲接居士信片。雖詞句無幾。其意亦與令兄相為伯仲。可謂難兄難弟。天倫佛法。咸為同氣連枝。非多劫同種善根。同修淨行。曷克臻此。今居士有所請益。(光)實難於復答。何以故。以居士所志者大。(光)之所知者小。小大不相襲。機教不相契耳。雖然。一乘實相之中。覓小大相了不可得。於此不可得中。舉大則大為法界。一切法趣大。是趣不過。舉小則小為法界。一切法趣小。是趣不過。(光)所知之小法。乃統包十法界一切諸法之法也。善導和尚雲。若欲學解。從凡夫地。乃至佛地。一切諸法。無不當學。若欲學行。當擇其契理契機之一法。專精緻力。方能速證實益。否則經劫至劫。尚難出離。所謂契理契機之法。無過信願持佛名號。求生西方。其法備在彌陀要解。及淨土諸書中。當尋繹之。茲不多贅。須知佛法乃十法界公共之法。無一人不

應修。亦無一人不能修。彼謂佛教為棄人倫。害聖道者。皆未見顏色之贅論也。何以言之。佛於父言慈。於子言孝。於君言仁。於臣言忠。夫唱婦隨。兄友弟恭。舉世諦之嘉言懿行。佛經無不詳陳其宿因現果。現因後果。其言慈孝等。則與儒教相同。其詳示三世因果處。則儒教便無聞焉。況其斷惑證真。及圓滿菩提。歸無所得之法乎。惜其人之未覩也。倘詳閱而深思之。則當痛哭流涕。聲震大千世界。悲昔謗佛之罪咎也。雖然。以言謗者其罪小。以身謗者其罪大。今之口談大乘。自命悟道。謂我即是佛。何必更去念佛。煩惱即是菩提。何必斷煩惱。淫怒癡即是戒定慧。何必斷淫怒癡。由是之故。出言則高於九天之上。行事則卑入九地之下。如斯之流。名為佛怨。比之不知佛法而謗者。罪深萬倍。其曾研究佛法。非全無利益。但作未來得度之因。其以身謗法之罪。不知經幾何劫量。在三途中受諸罪苦也。居士當以研究大乘經論開圓頓解為先導。信願持名求生西方為正行。至於居心行事。或恐過起於不知。福消於不覺。當詳閱安士全書。及法苑珠林。自然法法頭頭。有所取則。心心念念。無或逾越矣。倘尤恐鑑察不及。當取孚佑帝君功過格著實行去。則超凡入聖。斷惑證真。於震旦國中。當推君為第一矣。功過格乃明雲穀禪師傳袁了凡者。切不可謂其落索而藐視之。令兄次書。於身心性命。大有裨益。不如是自怨自艾。斷難克己寡過。今一併寄來。亦企居士亦如令兄之自怨自艾。以期至於斷惑證真。圓滿菩提而後已也。

與福建劉廷誠居士書

原夫諸佛為一大事因緣故。出現於世。所謂大事因緣者。無非欲令眾生開示悟入佛之知見。直下成佛而已。第以眾生之根性不一。故如來之教法萬殊。是以一代時教。隨機演暢。法門雖浩若塵沙。而行人依教修持。究竟歸元。皆證即心自性。然於塵沙法門之中。求其不離事修。全彰心性。三根普被。利鈍全收。上上根不能踰其閫。下下根亦可臻其域。高超一切禪教律。統攝一切禪教律。下手易而成功高。用力少而得效速。最利末法。直出五濁者。無如淨土持名念佛之殊勝。

超絕也。誠所謂九界眾生離此法·上不能圓成佛道。十方諸佛捨此法·下不能普利羣生。所以千經萬論·處處指歸·往聖前賢·人人趣向。若羣星之拱北·萬水之朝東也。居士既深信念佛。若未參承淨業知識。又不廣閱淨土經論。則真信切願·從何而生。縱能執持名號·只因不求出離·便成人天因果·受享癡福。因福造業·仍沈惡道。倘再路頭不真·涉入邪見·則善因反招惡果。人天福報·亦不可得。阿鼻極苦·長劫難出。譬如入海·既無導師·又乏指南。漂流於狂波巨浪之中·茫茫不知所趣。縱能撐篙搖櫓·豈能免於沈溺。(光)少乏問學·長無所知。唯於淨土一法·頗切嚮往。感子之誠·今將淨土經論之最切要者略開一二·一一標其大意。若能歸而求之·則心領神會·自有手之舞之足之蹈之而不自知者·遠勝愚之喋喋也。

復高邵麟居士書一

謝恩光來山·持閣下書·展讀之下·見其慕道心切·而願力宏大·誓期深入·而不肯得少為足·欣慰無量。至於過讚(不慧)·令人慚愧無似耳。閣下欲了生死大事·況復年臨知命·來日無多。又無知識益友之可親近·而不專修淨業·一心念佛。而欲泛泛然研究諸經奧義典句·似未深知淨土法門之所以然者。宜往華嚴寺借閱淨土十要·及淨土聖賢錄·息心詳閱·自知所趣。一切眾生·皆是過去父母·未來諸佛。殺而食之·何能下嚥。若知此義·即喪身失命·亦不能吃一切肉矣。然佛之教人·循循善誘·上根則令其全斷。中下則令其漸減·而遂至於全斷耳。發願文·文雖宏大。然須真實從心而發·方名為願。否則心口相違·何名為願。現世之願·雖亦無妨。欲生福慧子孫·須從大積陰德廣行方便中求。況閣下年當六八·續娶三妻·但止生女。即此可徵宿世現生·皆少栽培。今欲轉回天心·必須真實改過遷善。如明季袁了凡先生之篤實做去·斷未有不蒙感格而滿所願者。且勿謂吾家素寒·不能廣積陰德·大行方便。須知身口意三業皆惡·即莫大之惡。倘三業皆善·即莫大之善。至如愚人不信因果·不信罪福報應。侃侃鑿鑿·依安士全書等所說·為其演說。令其始則漸信因果·繼則

深信佛法·終則往生西方·了生脫死。一人如是·功德尚無量無邊·何況多人。然須躬行無玷·方可感化同人。自己妻女·能信受奉行·別人自能相觀而善矣。豈在資財多乎哉。但求不飢不寒·何思財發巨萬。遺子黃金滿籬·不如教子一經。祖德若虧·便當愧死。祖業縱虧·有何所傷。而以來日無多之身·思欲頓復。徒生妄想·了無實益。且自隨緣度日·便為樂天知命矣。健壽處世·有順無逆·世人誰不願得。然而得者甚少·不得者甚多。以宿世現生·無大栽培·無因不能得果故也。今閣下欲生西方了生死。但當願高曾祖父母等神識·仗自己自行化他修持淨業之力·即蒙佛慈接引往生·則可謂大孝尊親。其不絕先祖祀·及復祖業等·皆世間凡情所共知見之淺近境界也。況求生西方者·不可怕死。若今日即死·今日即生西方。所謂朝聞道·夕死可矣。豈可今日要死·且不願死。既貪戀塵境·不能放下。便因貪成障·淨土之境不現·而隨業受生於善惡道中之境便現。境現·則隨業受生於善惡道中矣。往生西方·便成畫餅。故修西方人·今日死也好·再活一百二十歲死也好。一切任彼前業·不去妄生計校。倘信願真切·報終命盡·便即神超淨域·業謝塵勞。蓮開九品之花·佛授一生之記矣。又世人無子·每多廣置妾媵·不知培德節欲。如此乃是速死之法·非求子之道。此事上關風化·及與宗祀·人皆冒昧而為·其於人之大倫·不亦有愧於衷乎。(不慧)人微德薄·百無一能。寄食普陀·苟延殘喘·不敢為人作師。故謝恩光在先亦有此說·皆辭而不受。閣下皈依三寶·隨於本地擇其品行端方者·拜以為師·則已得為如來弟子矣。下次再有筆劄·不得用皈依字樣。貴地既無明眼通人·(光)自愧道業未成·不敢作師·然復隨緣開示者。喻如無足之人·一步難移·安坐三叉路口。有欲直達家鄉·不知所趣者·指令得其正道·速達家鄉。而歸家之人·斷不以彼之不能行·並其言而廢之也。

復高邵麟居士書二

來書言禮法華經·攝心念佛·及欲寡其過而未能·擬欲依功過格日常檢點。足見汝近來操修·實屬為己之學·非如今人之唯欲沽名邀

譽。自欺欺人之可比也。幸甚幸甚。禮誦持念。種種修持。皆當以誠敬為主。誠敬若極。經中所說功德。縱在凡夫地。不能圓得。而其所得。亦已難思難議。若無誠敬。則與唱戲相同。其苦樂悲歡。皆屬假妝。不由中出。縱有功德。亦不過人天癡福而已。而此癡福。必倚之以造惡業。其將來之苦。何有了期。當以此意普告同儕。俾修須真修。行須實行。則其利溥矣。所立拜經規矩。理固無礙。若依事相論之。若僂佻通拜。當念南無大乘妙法蓮華經。法華會上佛菩薩。拜下想禮經偈雲。真空法性如虛空。常住法寶難思議。我身影現法寶前。一心如法歸命禮。想全經放光。及經中所說佛菩薩。各各放光。照觸自身。及法界有情。若逐字禮拜。當念一心頂禮大乘妙法蓮華經某字法寶。拜某字則念某字。從如是我聞。至經盡。皆如此念。然觀想一法。大非易事。若理路不清。及心識紛亂。或致起諸魔事。但以至誠恭敬為主。能觀則觀。否則竭誠致敬。驀直拜去。亦自功德無量。若汝所立章程。對經而拜。拜下想偈。及拜起念佛觀佛。固不若供經佛前。專一禮阿彌陀佛。為專精一致。且勿謂緣想一佛。不如緣想多佛之功德大。須知阿彌陀佛。是法界藏身。所有十方世界諸佛功德。阿彌陀佛一佛。全體具足。如帝網珠。千珠攝於一珠。一珠徧於千珠。舉一全收。無欠無餘。若久修大士。緣境不妨寬廣。境愈寬而心愈專一。若初心末學。緣境若寬。則心識紛散。而障深慧淺。或致起諸魔事。故我佛世尊。及歷代諸祖。皆令一心專念阿彌陀佛者此也。待其念佛得證三昧。則百千法門。無量妙義。咸皆具足。古人謂已浴大海者。必用百川水。身到含元殿。不須問長安。可謂最善形容者矣。至於止惡修善。刻實檢察。雖莫善於功過格。然使心不主於誠敬。縱日記功記過。亦是虛文。功過格此間未有其書。若約予所見。但當主敬存誠。於二六時中。不使有一念虛浮怠忽之相。及與世人酬酢。唯以忠恕為懷。則一切時。一切處。惡念自無從而起。倘或宿習所使。偶爾忽生。而誠敬忠恕在懷。自能念起即覺。覺之即失。決不至發生滋長。舉三業而隨之矣。小人之所以偽為善而實為惡者。意謂人不我知。不知其

不知者·但止世間凡夫耳。若得道聖人·固了了悉知。而天人鬼神·雖未得道。以報得他心通·亦了了悉知。況聲聞緣覺菩薩諸佛·他心道眼·圓見三世·如視諸掌者乎。欲無知者·唯己不知則可耳。己若自知·則天地鬼神佛菩薩等·無不悉知之而悉見之矣。若知此義·雖暗室屋漏之中·不敢怠忽。人所不知之地·不敢萌惡。以天地鬼神諸佛菩薩共知。縱不知慚愧者·知此亦當慚愧無地矣。況真修實踐之士哉。故欲寡其過·先須從畏此諸聖凡悉知悉見起。見先哲於羹牆·慎獨知於衾影·猶是約世間情見而淺近言之。實則我心與十方法界·觀體脗合。由我迷故·其知局在於一身。彼十方法界聖人·徹證自心本具之法界藏心。凡法界中一切有情舉心動念·無不親知親見。何以故·以同稟真如·自他無二故。若知此義·自能戰兢惕厲·主敬存誠。初則勉力息妄·久則無妄可得矣。(惡念原屬妄想、若不覺照、便成實惡、倘能覺照、則妄想滅而真心現矣。)

復高邵麟居士書三

書中語語真實。欲得佛法實益。但以未知淨土法門之所以·其心願便與佛願相違。世之修持求了生死者多矣。然每每以己愚見·測度如來不思議大法。遂致北轅適越·不能了脫。今生尚無正見·況來生乎。萬一復得人身·而被今生所修之癡福所迷·安望其更加精進以求出離也耶。佛說一切大小權實法門·皆須仗己功力·斷惑證真·方出生死。若惑業有一絲毫·生死決定難出。是以從生至生·從劫至劫·展轉修持。或有力量充足·直進不退·即能了脫者。多皆旋覺忽迷·暫進久退·經塵點劫·不能出離。所以爾我今日尚為凡夫·皆坐不知如來普被三根·至極圓頓之淨土法門故也。汝縱未親知識·亦曾誦彌陀經·無量壽經·十六觀經·及各淨土發願文·龍舒文·歸元直指。彼皆令即生往生·汝偏欲展轉來生。佛愍眾生無力斷惑·難了生死·故特開一仗佛慈力·帶業往生之橫超法門。無論斷惑與否·若具真信切願·持佛名號·(此是正行)及修行眾善·回向往生·(此是助行)無一不得生者。即五逆十惡之人·臨終地獄相現·若心識不迷·聞善

知識教以念佛求生西方。若念十聲·或止一聲·當下命終亦得往生。(此在十六觀經下品下生章、係金口誠言。)既往生已·即已高預海會·永出輪迴。漸次進修·以圓佛果。若此逆惡罪人·不聞此不思議法·經塵點劫·難出地獄。餓鬼畜生尚難得·況欲得人身而修行了生死耶。當須發決定心·臨終定欲往生西方。且莫說碌碌庸人之身·不願更受。即為人天王身·及出家為僧·一聞千悟·得大總持·大宏法化·普利眾生之高僧身·亦視之若毒荼罪藪·決定不生一念欲受之心。如是決定·則己之信願行·方能感佛。佛之誓願·方能攝受。感應道交·蒙佛接引·直登九品·永出輪迴矣。三皈五戒·為入佛法之初門。修餘法門·皆須依此而入·況即生了脫之至簡至易·至圓至頓之不思議淨土法門耶。不省三業·不持五戒·即無復得人身之分·況欲得蓮華化生·具足相好光明之身耶。汝日暮途遠·宜從徑直之法。且專門讀誦淨土三經·及普賢行願品。研究淨土諸經注疏。若諸語錄·金剛·法華·且先置之度外。以事宜急先·心無二用故也。至於寡過一事·實為儒佛切要工夫。蘧伯玉行年五十而知四十九年之非。使人謂其欲寡其過而未能。此實在意地上用功·非身口動輒有過也。在家居士·日與常人酬酢·固宜刻刻隄防。否則不但意業不淨·即身口亦或汙穢不淨。欲其自他兼利·莫過於多識前言往行·以存龜鑑。安士全書·實為古今第一融通儒佛心法·詳示因果報應·及修持方法之導俗奇書。宜常翻閱·庶無疑不釋·無行不謹矣。法苑珠林·更加闊大。雖非甚深經典·然初心由淺及深·則無誤會之失。若不先悉罪福因果·便擬直探第一義諦實相妙理。或恐見地不清·錯認消息。則以迷為悟·求升反墜矣。汝既專修淨土·宜以蓮池大師新定淨土發願文為主。(省庵語錄下卷、有此願文註解、閱之自知其妙。)汝自立四願·或兼用或不用皆可。以彼願文·事理周到·了無一義一法之滲漏。彼雲法界·則包括無遺。汝雲大千·校法界量·奚啻大地一塵·大海一滴。歷觀汝書·似是真實在心地上用功。然今之學者·每每專說假話·不修實行。意擬沽名邀譽以求體面·並非真實自省寡過而作是言也。此名自

暴自棄・名大妄語・名不知慚愧。若非此等・則為聖賢之徒。若帶此氣・則是下流坯・乃法之罪人・佛之逆子。有則改之・無則加勉。直心直行・方與佛合。又自既修持淨業・（謂改過遷善及念佛、即生即願往生西方。）亦當教一切相識者・亦修淨業。宜依龍舒文普勸門・令其隨分隨力・種此不思議善根。然既欲教人・須由親及疏。妻妾子女・忍不令得此利益乎。文王刑於寡妻・至於兄弟・以禦於家邦。世出世自行化他・莫不如是。汝專求往生・晨朝十念外・凡行住坐臥・語默動靜・著衣吃飯・屙屎放尿・一切時・一切處・皆當以六字洪名・置之心口之間。但於如法時處・聲默隨宜。若大小便睡眠・則只許默念・切勿出聲。默則功德齊等・聲則不恭。睡則又加傷氣・不可不知。須知西方極樂世界・莫說凡夫不能到・即小乘聖人亦不能到。以彼係大乘不思議境界故也。小聖回心向大即能到。凡夫若無信願感佛・縱修其餘一切勝行・並持名勝行・亦不能往生。是以信願最為要緊。蕩益雲。得生與否・全由信願之有無。品位高下・全由持名之深淺。乃千佛出世不易之鐵案也。能信得及・許汝西方有分。（彌陀經、無量壽經、觀無量壽佛經、亦名十六觀經、此名淨土三經、加普賢行願品、名淨土四經、仿單中有淨土四經一本、其無量壽經、係魏承貫刪削、又依餘經增益、理雖有益、事實大錯、不可依從。）

復高邵麟居士書四

接手書。知居士近來修持親切・自訟寡過・希聖希賢。非徒博一修行之虛名而已。欣喜無量。夫欲學佛祖了生死・須從慚愧懺悔止惡修善而來。（慚愧懺悔、止惡修善、即自訟寡過、克己復禮、若能自訟、自然寡過、寡過即克己之實行、既能克己、自然復禮矣。）持齋警策・意甚真切。但須腳踏實地・儘力做去。否則便成妄語中妄語。知之匪艱・行之維艱。世間多少聰明人・皆以唯說不行・了此一生。徒入寶山・空手而歸。可痛惜哉・可痛惜哉。若夫妄念滿腔・憧憧往來・朋從爾思。由未真提正念故也。倘正念真切・則朋從於專注一境之正念矣。所謂調禦得法・即寇賊皆為赤子。調禦失道・雖手足亦作怨家。

在凡夫地·誰無煩惱。須於平時預先隄防·自然遇境逢緣·不至卒發。縱發亦能頓起覺照·令其消滅。起煩惱境·不一而足。舉其甚者·唯財色與橫逆數端而已。若知無義之財·害甚毒蛇·則無臨財苟得之煩惱。與人方便·究竟總歸自己前程·則無窮急患難求救·由惜財而不肯之煩惱。色則縱對如花如玉之貌·常存若姊若妹之心。縱是娼妓·亦作是想·生憐憫心·生度脫心。則無見美色而動慾之煩惱。夫婦相敬如賓·視妻妾為相濟繼祖之恩人·不敢當作彼此行樂之欲具。則無徇欲滅身·及妻不能育·子不成立之煩惱。子女從小教訓·則無忤逆親心·敗壞門風之煩惱。至於橫逆一端·須生憐憫心。憫彼無知·不與計校。又作自己前生曾惱害過彼·今因此故·遂還一宿債·生歡喜心。則無橫逆報復之煩惱。然上來所說·乃俯順初機。若久修大士·能了我空。則無盡煩惱·悉化為大光明藏。譬如刀以磨利·金以煉純。蓮因淤泥滋培·方得清淨光潔。境無自性·損益在人。三業四儀·(四儀即行住坐臥)常持顏淵之四勿。五戒十善·必效曾氏之三省。暗室雖無人見·而天地鬼神咸知。念始萌乎隱微·罪福判若天淵。若能如是修省·將見舉動皆善·惡無從生矣。此實正心誠意之宏規·切勿謂釋氏瑣屑·不若儒者之簡捷也。若論念佛法門·唯以信願行三法為其宗要。三法具足·決定往生。若無真信切願·縱有真行·亦不能生。況悠悠泛泛者哉。蕩益所謂得生與否·全由信願之有無。品位高下·全由持名之深淺。乃三世不易之常談·三根普被之妙道也。宜通身靠倒·庶親證實益耳。信願行三·十要中皆悉詳示。而第一要·彌陀要解五重玄義中·第三明宗·發揮三法·最為精詳。其後節節段段·皆有指示·宜細參閱。此不備書。至於念佛·心難歸一。當攝心切念·自能歸一。攝心之法·莫先於至誠懇切。心不至誠·欲攝莫由。既至誠已·猶未純一·當攝耳諦聽。無論出聲默念·皆須念從心起·聲從口出·音從耳入。(默念雖不動口·然意地之中·亦仍有口念之相。)心口念得清清楚楚·耳根聽得清清楚楚·如是攝心·妄念自息矣。如或猶湧妄波·即用十念記數·則全心力量·施於一聲佛號雖欲起妄·

力不暇及。此攝心念佛之究竟妙法。在昔宏淨土者。尚未談及。以人根尚利。不須如此。便能歸一故耳。(印光)以心難制伏。方識此法之妙。蓋屢試屢驗。非率爾臆說。願與天下後世鈍根者共之。令萬修萬人去耳。所謂十念記數者。當念佛時。從一句至十句。須念得分明。仍須記得分明。至十句已。又須從一句至十句念。不可二十三十。隨念隨記。不可掐珠。唯憑心記。若十句直記為難。或分為兩氣。則從一至五。從六至十。若又費力。當從一至三。從四至六。從七至十。作三氣念。念得清楚。記得清楚。聽得清楚。妄念無處著腳。一心不亂。久當自得耳。須知此之十念。與晨朝十念。攝妄則同。用功大異。晨朝十念。僅一口氣為一念。不論佛數多少。此以一句佛為一念。彼唯晨朝十念則可。若二十三十。則傷氣成病。此則念一句佛。心知一句。念十句佛。心知十句。從一至十。從一至十。縱日念數萬。皆如是記。不但去妄。最能養神。隨快隨慢。了無滯礙。從朝至暮。無不相宜。較彼掐珠記數者。利益天殊。彼則身勞而神動。此則身逸而心安。但作事時。或難記數。則懇切直念。作事既了。仍復攝心記數。則憧憧往來者。朋從於專注一境之佛號中矣。大勢至謂都攝六根。淨念相繼。得三摩地。斯為第一。利根則不須論。若吾輩之鈍根。捨此十念記數之法。欲都攝六根。淨念相繼。大難大難。又須知此攝心念佛之法。乃即淺即深。即小即大之不思議法。但當仰信佛言。切勿以己見不及。遂生疑惑。致多劫善根。由茲中喪。不能究竟親獲實益。為可哀也。掐珠念佛。唯宜行住二時。若靜坐養神。由手動故。神不能安。久則受病。此十念記數。行住坐臥皆無不宜。臥時只宜默念。不可出聲。若出聲。一則不恭。二則傷氣。切記切記。居士以年將半百。身繫樊籠。素未參尋知識。倘欲即生了脫。但當專主淨土一門。金剛法華。且先置之度外。待淨土大通。一心已得後。再行研究不晚也。若此刻便即從事。恐智力不給。得彼失此。一法未精。二利咸失耳。揀魔辨異錄係禪宗。深通教理者尚不易知。況居士乎。凡禪宗典章。概勿研究。以禪宗意在言外。若按文解義。則錯會佛法。以善因

而招惡果。釋氏稽古略·乃記事之書·而以禪宗為主。凡屬此種言句·皆當置之勿究可也。吾常謂欲得佛法實益·須向恭敬中求。有一分恭敬·則減一分罪業·增一分福慧。有十分恭敬·則減十分罪業·增十分福慧。若全無恭敬·雖種遠因·其褻慢之罪·有不堪設想者。凡見一切信心人·皆須以此意告之。此係從初心至究竟之決定實義。若當作腐僧迂談·便為自暴自棄·豈特孤負（印光）·實為孤負自己也已。

與陳錫周居士書

如來出世·說法度生·原欲一切眾生·直下了生脫死·親證無上覺道而已。但以眾生根機不等·不能究竟暢佛本懷。只得隨順機宜·循循善誘。大根則稱性直談·為說佛乘·令其即生圓證佛果。如華嚴經之善財·法華經之龍女等。次則為說菩薩乘·緣覺乘·聲聞乘·令其漸次修習·漸次證果。又其次則為說五戒十善·令其不墮惡道·受人天身·漸種善根。隨其所種善根大小·將來於三乘法中·隨宿善力·發諸現行。或依菩薩乘·修六度萬行·而得親證法身。或依緣覺聲聞乘·悟十二因緣及四諦法·而得斷惑證真。此諸法門·雖則大小不同·頓漸各異。然一一皆須自己修習力深·斷惑證真·方可超出輪迴·了生脫死。若三界內見思二惑·絲毫未盡。則生死根本·未能斬斷·縱令定慧力深·依舊無由解脫。如三果聖人·尚生五不還天·經許多劫·方證四果。若證四果·則生死根本·斷盡無餘。然只是小果聲聞·尚須回己所證小果·趣向如來大道。於十方世界·乘願受生·廣行六度萬行。上求佛道·下化眾生。隨己功行深淺·或漸或頓·以次證入十住·十行·十回向·十地·等覺·諸位。至等覺已·再破一品無明·證一分三德·便入妙覺位而成佛矣。如來一代時教·所說法門·雖則無量無邊·其證入地位·畢竟不能超越於此。雖禪宗直指人心·見性成佛·最為圓頓直捷。然見性成佛·乃約本有法身·不涉凡聖因果修證而論。若依修證地位而言·亦與教家了無異趣。而末世之中·人根陋劣·知識鮮少·悟者尚難其人·何況實證。如來知諸眾生唯仗自力了脫之難·故於一切法門之外·特開念佛求生淨土一門。但能信願真

切·即五逆十惡極重罪人·臨命終時·地獄相現。有善知識教以念佛·若能念佛十聲·或止數聲·或止一聲·亦得蒙佛慈力·接引往生。況彼修行世善·不作諸惡者乎。若是精修梵行·禪定力深·則往生品位更高·見佛聞法最速。即大徹大悟·斷惑證真之人·亦須回向往生·以期圓證法身·速成佛果。其餘法門·小法則大根不須修·大法則小根不能修。唯茲淨土一門·三根普被·利鈍全收。上之則觀音勢至文殊普賢·不能超出其外。下之則五逆十惡·阿鼻種性·亦可預入其中。使如來不開此法·則末世眾生·欲即生了生脫死·便絕無企望矣。然此法門如是廣大·而其修法又極簡易。由此之故·非宿有淨土善根者·便難諦信無疑。不但凡夫不信·二乘猶多疑之。不但二乘不信·權位菩薩·猶或疑之。唯大乘深位菩薩·方能徹底了當·諦信無疑。能於此法深生信心·雖是具縛凡夫·其種性已超二乘之上。喻如太子墮地·貴壓羣臣。雖其才德未立·而仗王力故·感如此報。修淨土人·亦復如是。由以信願持佛名號·即能以凡夫心·投佛覺海。故得潛通佛智·暗合道妙也。欲說淨土修法·若不略陳諸法仗自力了脫之難·此法仗佛力往生之易·則不是疑法·便是疑自。若有絲毫疑心·則因疑成障。莫道不修·修亦不得究竟實益也。由是言之·信之一法·可不急急講求·以期深造其極乎哉。所言信者·須信娑婆實實是苦·極樂實實是樂。娑婆之苦·無量無邊。總而言之·不出八苦。所謂生·老·病·死·愛別離·怨憎會·求不得·五陰熾盛。此八種苦·貴極一時·賤至乞丐·各皆有之。前七種是過去世所感之果·諦思自知·不須詳說·說則太費筆墨。第八五陰熾盛苦·乃現在起心動念·及動作雲為·乃未來得苦之因。因果牽連·相續不斷。從劫至劫·莫能解脫。五陰者·即色受想行識也。色·即所感業報之身。受想行識·即觸境所起幻妄之心。由此幻妄身心等法·於六塵境·起惑造業·如火熾然·不能止息·故名熾盛也。又陰者·蓋復義·音義與蔭同。由此五法·蓋復真性·不能顯現。如濃雲蔽日·雖杲日光輝·了無所損。而由雲蔽故·不蒙其照。凡夫未斷惑業·被此五法障蔽·性天慧日·不能顯現·亦

復如是。此第八苦。乃一切諸苦之本。修道之人。禪定力深。於六塵境界。了無執著。不起憎愛。從此加功用行。進證無生。則惑業淨盡。斬斷生死根本矣。然此工夫。大不容易。末世之中。得者實難。故須專修淨業。求生極樂。仗佛慈力。往生西方。既得往生。則蓮花化生。無有生苦。純童男相。壽等虛空。身無災變。老病死等。名尚不聞。況有其實。追隨聖眾。親侍彌陀。水鳥樹林。皆演法音。隨己根性。由聞而證。親尚了不可得。何況有怨。思衣得衣。思食得食。樓閣堂舍。皆是七寶所成。不假人力。唯是化作。則翻娑婆之七苦。以成七樂。至於身則有大神通。有大威力。不離當處。便能於一念中。普於十方諸佛世界。作諸佛事。上求下化。心則有大智慧。有大辯才。於一法中。徧知諸法實相。隨機說法。無有錯謬。雖說世諦語言。皆契實相妙理。無五陰熾盛之苦。享身心寂滅之樂。故經雲。無有眾苦。但受諸樂。故名極樂也。娑婆之苦。苦不可言。極樂之樂。樂莫能喻。深信佛言。了無疑惑。方名真信。切不可凡夫外道知見。妄生猜度。謂淨土種種不思議勝妙莊嚴。皆屬寓言。譬喻心法。非有實境。若有此種邪知謬見。便失往生淨土實益。其害甚大。不可不知。既知娑婆是苦。極樂是樂。應發切實誓願。願離娑婆苦。願得極樂樂。其願之切。當如墮廁坑之急求出離。又如繫牢獄之切念家鄉。己力不能自出。必求有大勢力者提拔令出。娑婆世界。一切眾生。於逆順境。起貪瞋癡。造殺盜淫。穢汙本有妙覺明心。乃無底之廁坑。既造惡業。必受惡報。久經長劫。輪迴六道。乃不赦之牢獄。阿彌陀佛於往劫中。發四十八願。度脫眾生。有一願雲。若有眾生聞我名號。求生我國。乃至十念。若不生者。不取正覺。阿彌陀佛誓願度生。若眾生不求接引。佛亦無可奈何。倘志心稱名。誓求出離娑婆者。無一不蒙垂慈攝受也。阿彌陀佛有大勢力。能拔娑婆無底廁坑不赦牢獄之人。直下出離其中。悉皆安置於極樂本有家鄉。令其入佛境界。同佛受用也。欲生西方。最初須有真信切願。若無真信切願。縱有修行。不能與佛感應道交。只得人天福報。及作未來得度之因而已。若信願具足。則萬不漏一。

永明所謂萬修萬人去者·指信願具足者言也。既有真信切願·當修念佛正行。以信願為先導·念佛為正行。信願行三·乃念佛法門宗要。有行無信願·不能往生。有信願無行·亦不能往生。信願行三·具足無缺·決定往生。得生與否·全由信願之有無。品位高下·全由持名之深淺。言念佛正行者·各隨自己身分而立·不可定執一法。如其身無事累·固當從朝至暮·從暮至朝·行住坐臥·語默動靜·穿衣吃飯·大小便利·一切時·一切處·令此一句洪名聖號·不離心口。若盥漱清淨·衣冠整齊·及地方清潔·則或聲或默·皆無不可。若睡眠及裸露澡浴大小便時·及至穢污不潔之處·只可默念·不宜出聲。默念功德一樣·出聲便不恭敬。勿謂此等時處·念不得佛。須知此等時處·出不得聲耳。又睡若出聲·非唯不恭·且致傷氣·不可不知。雖則長時念佛·無有間斷。須於晨朝向佛禮拜畢·先念阿彌陀經一徧·往生咒三徧畢·即念讚佛偈·即阿彌陀佛身金色偈。念偈畢·念南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀佛。隨即但念南無阿彌陀佛六字·或一千聲·或五百聲·當圍繞念。若不便繞·或跪或坐或立皆可。念至將畢·歸位跪念觀音·勢至·清淨大海眾菩薩各三稱。然後念淨土文·發願回向往生。念淨土文者·令依文義而發心也。若心不依文而發·則成徒設虛文·不得實益矣。淨土文畢·念三歸依·禮拜而退。此為朝時功課·暮亦如之。若欲多多禮拜者·或在念佛歸位之時·則禮若干拜佛外·九稱菩薩·即作九禮。禮畢即發願回向。或在功課念畢禮拜。隨己之便·皆無不可。但須懇切至誠·不可潦草粗率。蒲團不可過高·高則便不恭敬。若或事務多端·略無閒暇。當於晨朝盥漱畢·有佛則禮佛三拜·正身合掌念南無阿彌陀佛。盡一口氣為一念·念至十口氣·即念小淨土文。或但念願生西方淨土中四句偈。念畢禮佛三拜而退。若無佛即向西問訊·照上念法而念。此名十念法門。乃宋慈雲懺主為王臣政務繁劇·無暇修持者所立也。何以令儘一口氣念。以眾生心散·又無暇專念。如此念時·借氣攝心·心自不散。然須隨氣長短·不可強使多念·強則傷氣。又止可十念·不可二十三十·多亦傷氣。以散

心念佛・難得往生。此法能令心歸一處・一心念佛・決定往生。念數雖少・功德頗深。極閑極忙・既各有法。則半閑半忙者・自可斟酌其間而為修持法則也。又念佛之人・必須事事常存忠恕・心心隄防過愆。知過必改・見義必為・方與佛合。如是之人・決定往生。若不如是・則與佛相反・決難感通。又舉凡禮拜讀誦大乘經典・及作一切於世於人有益之事・悉皆以此回向西方。不可唯以念佛回向西方・其餘功德・另去回向世間福報・則念不歸一・便難往生。須知真能念佛・不求世間福報・而自得世間福報。(如長壽無病、家門清泰、子孫發達、諸緣如意、萬事吉祥等。)若求世間福報・不肯回向往生・則所得世間福報。反為下劣。而心不專一・往生便難決定矣。此念佛法門・一代時教大乘經典・盡皆讚揚。小乘經中・絕不提。有不通教理者・斥為小乘。乃無知邪說・不可聽從。又乩壇所說・多屬靈鬼依託當人之智識而作。若說世間道理・則是者尚多。若說佛法・則非己所知・妄造謠言。如金剛直解後・所附之先天古佛寶號・乃滅人慧命・瞎人正眼・極惡無比之魔話。以此施人・罪過無量矣。

與心願居士書代友人作

心者・一身之主・萬法之宗。順之則速成菩提・逆之則永沈生死。一切眾生・迷背本心・隨逐妄境・起貪瞋癡・造殺盜淫。輪迴於六道之中・汨沒於三界之內・久經長劫・莫能出離。汝既發心歸依三寶・為佛弟子。需發菩薩四宏誓願・自利利他。四宏誓願者・即眾生無邊誓願度・煩惱無盡誓願斷・法門無量誓願學・佛道無上誓願成也。須知此四宏誓願・乃三世一切諸佛誓願之本。汝於日用舉心動念・須令與此相合。若與合者・擴充令其圓滿。若不合者・斷除令其淨盡。然欲利他・先須自利。若非自己先出生死・何能度彼生死眾生。譬如溺於海者・不能救海中沈溺之人。如來所說了生死法無量無邊。唯淨土一法・下手易而成功高・用力少而得效速。若欲即生了辦捨此末由。所謂淨土者・即生信發願・念阿彌陀佛・求生西方極樂世界也。果能信願真切・一心念佛。至臨命終時・決定蒙佛接引・往生彼國。既得

往生。則俯謝凡質。高預聖流。見佛聞法。證無生忍。神通智慧。不可思議。然後乘本願輪。迴入娑婆。種種方便。度脫眾生。如觀世音菩薩。應以何身得度者。即現何身而為說法。普令一切眾生。同出生死。同成佛道。方可圓證自己本具之妙真如心。方可究竟契合乎菩薩四宏誓願。與阿彌陀佛四十八願。及普賢菩薩十大願王也已。心願之義。如是如是。若能顧名思義。身體力行。可謂超格丈夫。火裏蓮華。如來真子。大士嫡孫矣。勉之勉之。

與衛錦洲居士書（因鄰火延燒、物屋一空、其妻驚駭病故、遂心神迷悶、如醉如狂。）

法華經雲。三界無安。猶如火宅。眾苦充滿。甚可怖畏。天之所以成就人者。有苦有樂。有逆有順。有禍有福。本無一定。唯在當人具通方眼。善體天心。則無苦非樂。無逆非順。無禍非福矣。是以君子樂天知命。上不怨天。下不尤人。隨遇而安。無往而不自在逍遙也。所以素富貴行乎富貴。（素者現在也、行者優遊自得之意、富則周濟貧窮、貴則致君澤民、盡其富貴之分、是之謂素富貴行乎富貴也。）素貧賤行乎貧賤。（若家無餘財、身未出仕、則守乎貧賤之節、不敢妄為。）素夷狄行乎夷狄。（若盡忠被讒、貶之遠方、如雲貴兩廣黑龍江等、則心平氣和、不怨君上、不恨讒人、若自己就是彼地之人一樣。）素患難行乎患難。（或者不但遠貶、且加之以刑、輕則楚打監牢、重則斬首分屍、或至滅門、仍然不怨君上、不恨奸黨、若自己應該如此一樣、人與之患難、尚然如是、何況天降之患難、豈有怨恨者乎、如是之人、則人愛之、天護之、或在此生、或在後世、或在子孫、決定有無窮之福報、以酬其德矣。）居士雖有好善之資。未明儒佛至理。以故一遇逆境。便發狂亂耳。今諭之曰。世間最博厚高明者。莫過天地日月。而日中則昃。月盈則食。高岸為穀。深谷為陵。淪海變桑田。桑田成淪海。古今最道高德備者。莫過孔子。而且絕糧於陳。被圍於匡。周遊列國。卒無所遇。只有一子。年才五十。即便死亡。幸有一孫。得綿世係。降此而下。顏淵短命。冉伯牛亦短命。子夏喪明。左邱明亦

喪明。屈原沈江。(屈原盡忠被讒、後以懷王被秦所留、不勝憂憤、而力無能、為五月五日、沈於汨羅江中。)子路作醢。(醢音海、肉醬也、子路仕衛、衛蒯聩與其子輒爭國、子路死於其難、遂被敵兵斬作肉醬。)

天地日月·猶不能令其常然不變。大聖大賢·亦不能令其有順無逆。唯其樂天知命·故所遇無不安樂也。而且千百世後·自天子以至庶人·無不景仰。以當時現境論之·似乎非福。以道傳後世論之·則福孰有過於此者。人生世間·千思萬算·種種作為。究到極處·不過為養身口·遺子孫而已。然身則粗布亦可遮體·何必綾羅綢緞。口則菜羹盡可過飯·何必魚肉海味。子孫則或讀書·或耕田·或為商賈·自可養身·何必富有百萬。且古今為子孫謀萬世之富貴者·莫過秦始皇。吞併六國·焚書坑儒·收天下兵器以鑄大鐘·無非欲愚弱其民·不能起事。誰知陳涉一起·羣雄並作。一統之後·不上十二三年·便致身死國滅·子孫盡遭屠戮。直同斬草除根·靡有孑遺。是欲令子孫安樂者·反使其速得死亡也。漢獻帝時·曹操為丞相·專其威權。凡所作為·無非弱君勢·重己權·欲令自身一死·子便為帝。及至已死·曹丕便篡。而且屍猶未殮·丕即移其嬪妾·納於己宮。死後永墮惡道·歷千四百餘年·至清乾隆間·蘇州有人殺豬出其肺肝·上有曹操二字。鄰有一人見之·生大恐怖·隨即出家·法名佛安。一心念佛·遂得往生西方·事載淨土聖賢錄。夫曹操費盡心機·為子孫謀。雖作皇帝·止得四十五年·國便滅亡。而且日與西蜀東吳互相爭伐·何曾有一日安樂也。下此若兩晉宋齊梁陳隋·及五代之梁唐晉漢周·皆不久長。就中唯東晉最久·僅一百三年。其他或二三年·或八九年·一二十年·四五十年·即便滅亡。此乃正統。其餘竊據偽國·其數更多·其年更促。推其初心·無非欲遺子孫以富貴尊榮。究其實效·反令子孫遭劫受戮·滅門絕戶也。且貴為天子·富有四海·尚不能令子孫世受其福。況區區凡夫·從無量劫來·所作惡業·厚逾大地·深逾大海。可保家道常興·有福無殃也耶。須知世間萬法·悉皆虛假·了無真實。如夢如幻·如泡如影·如露如電·如水中月·如空中花·如熱時燄·如乾

閻婆城。(梵語乾闥婆、此雲尋香、乃天帝樂神、其城乃幻現非實、世俗所謂蜃樓海市即此也。)唯自己一念心性·互古互今·不變不壞。雖不變壞·而常隨緣。隨悟淨緣·則為聲聞·為緣覺·為菩薩·為佛。由功德有淺深·故果位有高下。隨迷染緣·則生天上·生人間·墮修羅·墮畜生·墮餓鬼·墮地獄。由罪福有輕重·故苦樂有短長。若不知佛法之人·則無可如何。汝既崇信佛法·何不由此逆境·看破世相。捨迷染緣·隨悟淨緣。一心念佛·求生西方。從茲永出六道之輪迴·高證四聖之果位。豈不是因此小禍·常享大福耶。而乃昧昧不了·如醉如狂。倘若焦思過度·或致喪身失命·則長劫難出輪迴矣。而且弱妾孤子·何以自立。本欲自利利他·反成自害害他。(他謂妾與子也。)何愚癡一至於此也。經雲·菩薩畏因·眾生畏果。菩薩恐遭惡果·預先斷除惡因。由是罪障消滅·功德圓滿·直至成佛而後已。眾生常作惡因·欲免惡果。譬如當日避影·徒勞奔馳。每見無知愚人·稍作微善·即望大福。一遇逆境·便謂作善獲殃·無有因果。從茲退悔初心·反謗佛法。豈知報通三世·轉變由心之奧旨乎。報通三世者·現生作善作惡·現生獲福獲殃·謂之現報。今生作善作惡·來生獲福獲殃·謂之生報。今生作善作惡·第三生·或第四生·或十百千萬生·或至無量無邊劫後·方受福受殃者·謂之後報。後報則遲早不定。凡所作業·決無不報者。轉變由心者·譬如有人所作惡業·當永墮地獄·長劫受苦。其人後來生大漸愧·發大菩提心·改惡修善。誦經念佛·自行化他·求生西方。由是之故·現生或被人輕賤·或稍得病苦·或略受貧窮·與彼一切不如意事。先所作永墮地獄長劫受苦之業·即便消滅·尚復能了生脫死·超凡入聖。金剛經所謂若有人受持此經·為人輕賤·是人先世罪業·應墮惡道·以今世人輕賤故·先世罪業·即為消滅·當得阿耨多羅三藐三菩提者·即轉變由心之義也。世人稍遇災殃·不是怨天·便是尤人·絕無有作償債想·生悔罪心者。須知種瓜得瓜·種豆得豆·種稂莠則不能得嘉穀。種荊棘則勿望收稻粱·作惡獲福者·宿世之栽培深也。若不作惡·則福更大矣。譬如富家子弟·

吃喝嫖賭·揮金如土·而不即凍餒者·以其金多也。倘日日如是·縱有百萬之富·不幾年即便家敗人亡·掃地而盡矣。作善遇殃者·宿世之罪業深也。若不作善·則殃更大矣。譬如犯重罪人·未及行刑·復立小功。以功小故·未能全赦·改重為輕。倘能日日立功·以功多且大故·罪盡赦免·又復封侯拜相·世襲爵位·與國同休。大丈夫生於世間·當具超格知見。豈可使身外之物·累壞自身。譬如金珠滿屋·強盜來搶·只宜捨之速逃·豈可守財待死。良以金珠雖貴·若比身命·猶然輕賤。既不能兩全·只可捨金珠而全身命耳。且汝財物已燒·空憂何益。惟宜隨緣度日·竭力念佛。求生西方。則盡未來際·永離眾苦·但受諸樂。如是則由此火災·成無上道。當感恩報德之不暇·何怨恨迷悶之若是耶。祈以予言詳審忖度·當即釋然解脫·如撥雲霧以見天日。從茲即災殃翻為善導·轉熱惱直下清涼矣。倘猶執迷不悟·勢必發顛發狂。則本心已喪·邪魔附體。縱令千佛出世·亦不能奈汝何矣。

復泰順林介生居士書一

（不慧）為儒未能·學佛不就。久離故鄉·欲反未能。每一省察·慚惶無地。忽接華翰·若遇故人。但書中讚譽過分·令人如臨鈇鉞耳。祈以後再有筆談·勿用此套。令兄枝芬·於七月十四日晤面。因詢居士修持家道·言其為善益力·道念日增。但以家門不幸·令郎早夭·二孫尚幼·頗懷憂思。予聞之不禁慨然長嘆。須知逆來順受·始名樂天。修身植德·方曰盡性。世有愚人·不知夙生善惡·惟觀眼前吉凶。見作善而得禍·便謂善不當為。作惡而得福·便謂惡不足戒。不知善惡之報·非一朝一夕之故·其所由來者漸。譬如三尺之冰·豈一朝之寒所能結。百川之泮·亦豈一日之煖所能消。切不可怨天而尤人·猶豫而退悔。宜學俞淨意之修身·袁了凡之立命。將見二孫必成佳士·麟兒屢見誕生矣。至於華嚴重建·誠屬莫大功德。然居處深山·募化維艱。只可隨緣·不宜勉強。有殿可以供佛·有寮可以安身·行道居處有所庇復·足矣。何必多造殿宇·廣列長廊。不為利益自他·惟取

快悅俗目乎。謝友才志雖高，可惜從未一遇通人。所言自悔時過難學者，特舉業耳。不知學聖學賢之時，無過無不過。其學亦無難無易。何以言之。孔子七十，尚欲假年學易，為免大過計耳。豈為熟其詞義以雄筆劄，得高爵者哉。十五志學，七十尚學。彼年臨四十，豈時過不能為學耶。堯舜之道，孝弟而已矣。一日克己復禮，天下歸仁焉。聖罔念而作狂，狂克念而成聖。有何難易之可論於其間哉。予謂謝友，為學莫善此際。有父母可以盡孝，有兄弟可以盡弟，有兒女可以教訓，有詩書可以取法，正合夫子居家為政之道。此時不學，真是時過難學矣。縱令文章蓋世，官居一品，終是一窮微極妙之藝人，非適時力學之儒士也。因聞佛語，遂持長齋，可知宿因深厚。廢棄前功，意欲出家，可知道眼昏朦。如來說法，恆順眾生。遇父言慈，遇子言孝。外盡人倫，內消情慮，使復本有真心，是名為佛弟子，豈在兩根頭髮上論也。況貴鄉僻居深山，知法者少。高明者以語言不通之故，皆不至其地。仗此好心，竭力學道。孝弟修而閭裏感化。齋戒立而殺盜潛消。研究淨土經論，則知出苦之要道。受持安士全書，則知淑世之良謨。以淨土法門諭親，以淨土法門教子，及諸親識。正以生死事大，深宜痛恤我後。不必另擇一所，即家庭便是道場。以父母兄弟妻子朋友親戚，盡作法眷。自行化他，口勤身率，使其同歸淨域，盡出苦輪。可謂戴髮高僧，居家佛子矣。宜以鄙意告之。倘聞此不加誹毀，又欲進步，路頭不決。身事暇適，不妨親至普陀來訪一番。否則但觀淨土十要，及淨土聖賢錄，自知取法，不勞更問他人矣。令兄忠厚有餘，似與此道有緣。宜勸受持安士全書，庶不虛此一晤。彌陀疏鈔，安士全書各一部，隨書帶來，以結淨緣。

復泰順林介生居士書二

數載未晤，時常憶念。今秋令兄枝芬赴鄉試，持書來山，方悉居士近來操持。又言家門不幸，喪其愛子。旦夕憂思，不能置懷。予欲詳陳事理因果，以錄遺期迫，不能住宿，故略言之。今嘉平望日，徹權師至，又言居士怨尤之狀，及無知俗人謂作善獲殃，修行無益等。

種種邪說。予聞之淒然。恐上智者因茲惰行。下愚者敢於作惡。故不揣固陋。直詞以告。如來說經。報通三世。凡人生子。略有四因。報通三世者。第一現報。謂現在作善作惡。現生獲福獲殃。如士子習舉業。現身得功名。此凡眼能見者。第二生報。謂今生作善作惡。來生享福受罪。如祖父重斯文。子孫方發達。此則凡眼所不能見。天眼猶能見之。(今生來生、皆約本人說、然隔世之事、難以喻顯、權約祖父子孫、欲人易了、不可以詞害義、至禱。)第三後報。謂今生作善作惡。至第三生。或四五六七生。或十百千萬生。或一十百千萬劫。或至無量無邊恆河沙劫。方受善惡之報。如商周之王業。實肇基於稷契。弼舜佐禹之時。若三四生等。天眼猶能見之。若百千萬劫。天眼則不能見。聲聞道眼。猶能見之。若無量無邊恆河沙劫。惟如來五眼圓明者能見。尚非聲聞道眼之境。況天眼肉眼哉。知此三報之義。則作善降祥。不善降殃。聖言原自無爽。富貴貧賤壽夭窮通。天命未曾有偏。境緣之來。若鏡現像。智者但修鏡外之容。愚人徒憎鏡內之影。逆來順受。方為樂天。不怨不尤。始可立命。子有四因者。一者報恩。二者報怨。三者償債。四者討債。報恩者。謂父母於子。宿世有恩。為報恩故。來為其子。則服勞奉養。生事死葬。必使生則親歡。祭則鬼享。乃至致君澤民。名垂青史。令天下後世。敬其人而並敬其親。若曾魯公。陳忠肅。王龜齡。史大成。(曾陳王三公、皆宋名臣、史公清初狀元、四公皆信佛、唯忠肅悟入甚深、以前世皆為高僧、故雖處富貴、猶能不昧本因耳。)今世之孝子賢孫。皆此類也。報怨者。謂父母宿世於子有負恩處。為報怨故。來為其子。小則忤逆親心。大則禍延親身。生無甘旨之養。死貽九泉之辱。又其甚者。身居權要。謀為不軌。滅門戮族。掘墳夷墓。使天下後世。唾罵其人並及其親。若王莽。曹操。董卓。秦檜等是也。償債者。子宿世負親資財。為償債故。來為其子。若所負者多。則可以終親之身。若所負者少。故不免半途而去。如學甫成名而喪命。商纔得利而殞身。討債者。謂親宿世負子資財。為討債故。來為其子。小債則徒費束修聘金延師娶妻。及種種

教誨。欲望成立。而大限既到。忽爾喪亡。大債則不止如此。必致廢業蕩產。家敗人亡而後已。諦觀令子。恐是討債而來。幸所負者少。故弱冠而去。當懺悔宿業。努力勤修。天必畀汝好子。光大門戶。況孔子聖人。中年喪子。顏淵大賢。壯歲夭亡。原憲赤貧。子路殉難。夷齊餓死於首陽。伯玉窮困於衛國。將謂聖賢因修德而遭天譴耶。抑亦死生有命。富貴在天耶。但責己德之不誠。勿問天報之禍福。能如是者。五福自然臨門。六極決定避舍。謂予不信。有如皦日。須知人生世間。具足八苦。縱生天上。難免五衰。唯西方極樂世界。無有眾苦。但受諸樂。將非天以汝倡導淨土。以此無福無壽之子。為汝作頂門一針。使汝知三界無安。猶如火宅。眾苦充滿。甚可畏懼。人命無常。速如電光。大限到來。各不相顧。一切有為法。如夢幻泡影。於此猶不惺悟。力修淨業。則與木石無情。同一生長於天地之間矣。有血性漢子。豈肯生作走肉行屍。死與草木同腐。高推聖境。自處凡愚。遇大警策而不憤發。聞聖賢佛祖之道而不肯行。是天負人耶。抑人負天耶。祈垂慧察。

與泰順林枝芬居士書一

李綱是一通方作家。以易與華嚴對論。謂其全合。是善知識不拒來學。引人入勝。就彼所知而令擴充。如孟子以齊王不忍一牛之死。推此惻隱之心。可以保民而王天下。非謂徒愛一牛而便能王天下也。是引喻。非敵論。凡讀古人文字。貴得其意。否則糟粕而已。夫華嚴乃如來自證之法。所有諸度諸位。皆是實事。皆可表法。聲聞四果。雖處法會。猶如聾啞。人天凡品。豈能知見。縱有天龍八部。皆已親證法身。為上求下化利益有情。特現八部身耳。非實業之凡夫也。易乃立虛象以兆吉凶。順天理而導人情。是治世之常法。非出世之大道。乃倫常之儀準。非佛道之標的。然通佛法者。法法頭頭。無不是道。橫說豎說。有何軌跡。若未能徹了自心。亦效其說。如庸醫未能診脈。即效剮骨。弱羽尚難棲枝。即欲奮飛。其不自他俱殞軀命者鮮矣。今以喻明。易以父母稱為嚴君。又古人以邑令亦稱為君。豈父母邑令。

與聖天子敵體相齊。無有高下也。又如舉一漚曰此海也。舉一塵曰此地也。知漚與塵。是海與地之少分則可。謂漚塵與海地同其深廣。同其博厚。則不可。一隙之日。即照天照地之日。一管之天。即無邊無際之天。但當出戶而瞻日。捨管而窺天。豈可謂隙之外別無有日。管之外別無有天哉。古人為儒者道。語多類此。若即為實說。是抑聖天子與邑令同其尊也。俾海地與漚塵同其深廣博厚也。一隙一管之天日。與無邊無際之天日。同其普徧也。是齊東野人之鄙論。非明心見性之法言也。閣下且宜持戒念佛。以儒家修持為常法。以佛教修持為加行。入理深談。且緩數年。欲學佛祖。先須取法聖賢。倘躬行有玷。倫常乖舛。尚為名教罪人。何能為佛弟子。佛教雖出世法。然遇君言仁。遇臣言忠。遇父言慈。遇子言孝。由淺而入深。下學而上達。熟讀安士全書。可以知其梗概矣。凡人改過遷善。並修淨業。惟貴真誠。最忌虛假。不可外揚行善修行之名。內存不忠不恕之心。蘧伯玉行年五十而知四十九年之非。如此方可希聖希賢。學佛學祖。為名教之功臣。作如來之真子。固不在窮達縉素上論也。(不慧)之所望於閣下者。望閣下亦以望一切親知。則不負一至普陀朝禮大士。與(不慧)一得覲面。而即聞佛乘也。

與泰順林枝芬居士書二

佛法至今。衰殘實甚。茫茫眾生。如盲無導。縱有一二知識為之開示。以業深障重故。正智不開。雖聞正法。不生信向。縱生信向。亦屬浮泛。如醉如夢。了無定見。一遇邪魔外道。則如蠅逐臭。如蛾赴火。蟻聚烏合。動盈千萬。故光緒初年。關東有一混元門。每年歸依者有十餘萬人。至十一二年。以劣跡已彰。人多見惡。一年之內。尚有數萬。近有出家魔子。擬欲大得名利。於三十年前。即抄襲古人語錄中成言。改頭換面。謂是自己語錄。而此魔子。一不通宗。二不通教。三無學問。恐人或謂己無學問。何能說此。特意用許多白字以實之。令人謂為真是大徹大悟。隨口所說。詞理超妙。其有不大恰當者。蓋因不曾讀書。不通字義之故。舉凡萬法歸心錄。六祖壇經。寒

山詩中詩偈。整個錄來。換三五字而已。所有言句。盡皆如是。隨即遠近流布。然亦無大招徠。近又得一妙法。致令善男信女。相率歸依。且道得何妙法。便能如是。以此魔子。初則妄充悟道。人未歸附。近則妄充得道。故得遠近爭赴。且自謂我所說法。令人易於得道。故一境若狂。咸相崇奉。妄充得道。須有事實。人方肯信。故肆無忌憚。隨口亂說。常為人言。我能入定。超度亡魂。令其生天。或生淨土。能知一切亡人。或生天上。或生人間及三惡道。又知某人生西方上品。某人生中品。某人生下品。由是之故。不但愚夫愚婦。靡然從風。即不明佛理之士大夫。亦以為實屬得道。而歸依信奉者。日見其多。縱有智者斥其狂妄。由彼邪說入人深故。了不見信。自古高僧。或古佛再來。或菩薩示現。然皆常以凡夫自居。斷無說我是佛。是菩薩者。故楞嚴經雲。我滅度後。敕諸菩薩。及阿羅漢。應身生彼末法之中。作種種形。度諸輪轉。終不自言我真菩薩。真阿羅漢。洩佛密因。輕言未學。唯除命終。陰有遺付。而智者大師。實是釋迦化身。至臨終時。有問所證位次者。答曰。我不領眾。必淨六根。損己利人。但登五品。是仍以凡夫自居也。五品者。即圓教觀行位。所悟與佛同儔。圓伏五住煩惱。而見惑尚未能斷。智者臨終。尚不顯本。意欲後學勵志精修。不致得少為足。及以凡濫聖耳。今此魔徒。妄充得道者。乃壞亂佛法。疑誤眾生之大妄語人。此大妄語之罪。甚於五逆十惡百千萬倍。其師其徒。當永墮阿鼻地獄。經佛剎微塵數劫。常受極苦。未由出離。何苦為一時之虛名浮利。膺長劫之慘罰酷刑。名利惑人。一至於此。此魔子自謂所說之法。令人易於得道者。即是以生滅心作常住解。以不修善。不斷惡。為不生不滅。撥無因果。墮邪見坑。此即魔子招徠徒眾。令皆得道之實際。故有平日持齋念佛之人。一親近彼。即不持齋。不念佛。其餘一切改惡遷善。知因識果。培德植福等事。概行棄置。唯止令人看一話頭。而實不知如何是看。如何是話頭。遂將古人酬機之語。令人依文解義。卜度思量。如狗子無佛性。庭前柏樹子。乾矢橛。麻三斤。七斤布衫等。一一學拆字講義者。拆而講之。

謂之為參禪·謂之為透公案。稍微能坐·及能按文解義·便為印證曰·某人夙根深厚·某人現行精純·故得用功不久·便已透徹。夫參禪一事·談何容易。古人如趙州諗禪師·從小出家·至八十餘歲·尚且行腳。故有頌之者曰·趙州八十猶行腳·只為心頭未悄然。長慶坐破七個蒲團·後方開悟。湧泉四十年尚有走作。雪峰三登投子·九上洞山。此等大祖師·大徹大悟·如是之難。彼魔子之徒·一聞魔說·遂皆開悟。如前所說祖師·直是替他提鞋也無用處矣。須知祖師之悟·乃從迷至悟·一悟永悟。魔徒之悟·乃因迷入誤·一誤永誤。悟之音雖同。悟之事實反。以彼魔徒·從初發心·一無戒行·二無正智·三不知話頭是參叩自心之方便·而以按文義卜度為參。如此參禪·盡世間聰明人·通通皆是大徹大悟之人。如人不識摩尼寶珠·見一魚目·寶而藏之·誇耀於人·謂我已得此珠。諸人亦不知何者是珠·何者魚目·遂羣聚而尋求之·各各皆得此珠。從茲發大誓願·普令貧窮同胞·皆得此珠·一朝遇見賈胡·欲得貿易多金。賈胡擲而唾之曰·何持魚目·用瞞我眼。方知費盡心機·只落得慚愧欲死而已。且人之常情·縱恣則易·攝束則難。教以持齋念佛·便覺口頭失美味·身心常辛勤。魔子則曰·只要心好·何必持齋。汝本是佛·何須更念他佛。以此恰合自己懶惰懈怠·不願攝束·任意放縱之機如囚遇赦書·慶倖無已。又進而叩其所以·則曰達摩西來·不立文字·直指人心·見性成佛。汝但看一話頭·自能見性。既見性已·即名成佛。既成佛已·則一切俱空·無因無果·無修無證。一法不立·名真解脫。彼教人持齋念佛·改惡修善·畏因果·培福德者·皆不知自性之中·無一法不具·亦無一法可立。執著法相·不肯捨離。捨本逐末·無繩自縛。如是之人·名為小乘。何可以為知識而親近之哉。須知如來所說因果修證等法·皆是以黃葉作金·為止小兒啼故。彼等反執為實·則其智與小兒何異。若大丈夫·佛尚不可得·何有因果修證等法。若立一塵·便非佛法。汝但識得自己是佛·一任食肉飲酒·行盜行淫·何一法不是佛法。上天堂·下地獄·天衣天食·鑊湯鑪炭·何一境不是佛境。自己即是彌

陀。當處即是極樂。豈待汝鼓起妄想業識心。鼓動父母所生口。畢生終日念佛。受許多冤枉苦。求到臨命終時。往生西方。捨己求人。拋家浪走。豈非知見顛倒。錯亂修習乎。種種魔說。大抵如是。今試論曰。只要心好。何必持齋。殺彼之身。悅己之口。是好心耶。非好心耶。且兵劫之時。賊來殺人。亦當皆是好心。設殺汝時。為感恩乎。為懷恨乎。汝本是佛。尚不肯念他佛。何肯殺而食彼皆是過去父母。未來諸佛之眾生乎。如是。則汝之心性。本來是佛。汝之行為。原是眾生。何可未得謂得。以凡濫聖。以念他佛為辱。以殺眾生為榮哉。達摩西來。不立文字者。欲人徹證本體。不以徒誦語言為事。若契本體。則文字即是本體。即解脫相。終日讀誦。依教修行。畢竟無文字相可得。如永明壽。首山念。棲賢湜。育王微等諸大老。皆盡壽讀誦。豈彼盡皆不知不立文字之旨乎。只因汝錯認不立為廢棄。遂謂如來所說一切大小乘經。無量法門。皆是黃葉作金。哄騙小兒。若然。則迦葉。阿難。馬鳴。龍樹。永明。首山等。皆是弄黃葉漢。汝既以彼為非。何得承嗣其法。言是禪宗。彼若果是。則汝之禪宗。便非彼之禪宗。汝的的是冒彼之名。以壞彼法之惡賊耳。且汝執著廢棄文字為不立文字者。六祖雲。只此不立。便是文字。況尚有直指人心見性成佛等八字。且此達摩西來十六字。是文字耶。非文字耶。又一切俱空。無因無果。無修無證。一法不立。名真解脫。何又立破齋謗佛。怙惡廢善。瞞因昧果。折福損德等法。而不肯令其俱空乎。上智知空而進德。下愚知空而廢善。佛祖於千百年前。早為汝判斷停當矣。汝謗人執著善法為捨本逐末。為無繩自縛。為小乘。汝執著惡法。不肯棄捨。現生當遭國憲。死後永墮阿鼻。應是棄末循本。應是即縛無縛。應是大乘矣。汝謂大丈夫佛尚不可得。何有因果修證。若立一塵。便非佛法。是佛與因果修證。皆是塵。皆不容立。而食肉飲酒行盜行淫。何得便非是塵。便皆容立。且問食肉飲酒行盜行淫之心。是佛心耶。是眾生心耶。若道是佛心。佛豈存此心。行此事耶。若道是眾生心。何得便超因果之外。便非是塵。便是佛法乎。地獄尚是佛境。當處即是

西方。是則苦亦不厭。樂亦不求。無取無捨。忘憎忘愛。何得貪圖現生名利。妄企死後流芳。剽竊古人言句。改頭換面。以為自己語錄。未得謂得。未證謂證。以凡濫聖。妄充知識。教彼許多信心男女。墮邪見坑。喪失慧命。從茲永墮惡道。欲出末由。此魔子者。究其本因。不過欲得虛名浮利。企人謂己為大善知識而已。詳其後報。則其苦痛慘淒之狀。罄竹難書矣。可不哀哉。汝既發心念佛。當依淨土經論所說而修。如此魔子所說。乃是竊取宗門祖師之言。妄以己見誤會宗意。故其所說。皆似是而非。實與宗門道理相反。實為佛法之怨。若被彼所誘。墮彼黨中。則難免以好心而招惡果矣。如此魔子。斷斷不可親近。當恪守淨宗列祖成規。持齋念佛。改惡修善。知因識果。植福培德。以企現生消除業障。臨終正念往生。庶不虛此一生。及親為如來弟子耳。須知禪宗一法。名為教外別傳。凡所提倡。意在言外。千言萬語。總皆指歸不涉因果修證凡聖生佛之法身理體。令人先悟此體。然後起彼修因證果。超凡入聖。即眾生而成佛道之事。但其酬機之語。名為機鋒。名為轉語。欲令人參而自得。故無義路。若會得。固屬大幸。若會不得。但當將此一句話。當做本命元辰。廢寢忘餐。終日竟夕。如一人與萬人敵。不敢稍有間斷放縱。一年不悟兩年參。十年不悟二十年參。一生不悟。即生生參。果真拌此深心參者。決無不悟之理。既悟之後。乃名悟道。尚須歷諸境緣。煅煉習氣。直得煩惱淨盡。方名證道。彼魔子者。乃以誤為悟。悟尚全體是誤。何況說證。乃不知慚愧。不懼因果。竟致無量好心男女。受彼所騙。同斷善根。汝宜篤信吾言。自不被彼所陷矣。至囑至囑。

復永嘉某居士昆季書

仲春一別。忽值夏令。光陰迅速。殊堪驚人。每憶二位信心真切。法眼未明。致令捨高明而取卑暗。何異棄家裏之活佛。供野外之土偶。不特自失正見。貽誚大方。即（光）亦進退咸乖。殊深慚赧耳。來書謂後有所著。隨時見貺。（光）目昏體衰。無事不親翰墨。縱因事有作。亦同集字聚葉。有何可觀。然恐孤負所期。今將以前殘羹餽飯。略盛

一二。倘不嫌酸臭，亦可作反嘗嘗自性之前茅。淨土決疑論，係民國三年狄楚青居士以端甫回籍，十三期報料不足，令作一二篇以助熱鬧耳。後竟以主持無人，遂停版不出。此論文雖鄙菲，而於斷疑生信，不無少補。至於永明料簡訓釋處，須仔細參詳。若不如是信向，便成虛文。此（不慧）數十年痛心疾首者，於此以發揮之。萬不可以今人所說為的，致孤負永明大慈悲心也。持經利益隨心論，以今人受持經典，了無敬畏而發。欲得佛法實益，須向敬畏中求，能竭誠致敬，縱究竟果德，尚能即得，況其下焉者哉。餘皆隨事而書，所謂他山之石，可以攻玉。但取其益，勿校其跡，自有裨益。倘以古德著作繩之，則將焚燬之不暇，何可令其一經於目哉。揀魔辨異錄文理高深，禪教融貫。係雍正十一年夏初始著，至十三年方畢，未及刊板，龍馭賓天。迨後刊時，以草書替字，鈔者不察，便許多直作本字，而錯訛便不勝其多。使世宗在世，斷斷不至如此耳。今春細校兩次，俾還本來面目。倘後因緣果就，當不負世宗一番至意矣。善導和尚係彌陀化身，有大神通，有大智慧。其宏闡淨土，不尚玄妙，唯在真切平實處，教人修持。至於所示專雜二修，其利無窮。專修謂身業專禮，（凡圍繞及一切處身不放逸皆是。）口業專稱，（凡誦經咒、能志心回向、亦可名專稱。）意業專念。如是則往生西方，萬不漏一。雜修謂兼修種種法門，回向往生。以心不純一，故難得益，則百中希得一二，千中希得三四往生者。此金口誠言，千古不易之鐵案也。二位當以此自利，又當以此普利一切。至於持咒一法，但可作助行。不可以念佛為兼帶，以持咒作正行。夫持咒法門，雖亦不可思議。而凡夫往生，全在信願真切，與彌陀宏誓大願，感應道交而蒙接引耳。若不知此意，則法法頭頭，皆不思議，隨修何法，皆無不可，便成無禪無淨土，鐵牀并銅柱，萬劫與千生，沒個人依怙矣。若知自是具縛凡夫，通身業力，匪仗如來宏誓願力，決難即生定出輪迴。方知淨土一法，一代時教，皆不能比其力用耳。持咒誦經，以之植福慧，消罪業，則可矣。若妄意欲求神通，則所謂捨本逐末，不善用心。倘此心固結，又復理路不清，戒力不堅，

菩提心不生。而人我心偏熾。則著魔發狂。尚有日在。夫欲得神通。須先得道。得道則神通自具。若不致力於道。而唯求乎通。且無論通不能得。即得則或反障道。故諸佛諸祖。皆嚴禁之而不許人修學焉。以世每有此種見解人。故因覩縷及之。二位令親在堂。宜以淨土法門。感應事蹟。常時解說。令其發歡喜心。信受奉行。若不以此為孝。則縱能盡世之所謂孝者。究竟於親有何利益。大禹。大聖人也。不救於鯀之神化為黃能。(音乃平聲、即三足鼈。)入於羽淵。觀此。可不惕然驚。憬然悟。以求導親之神。高預海會。親炙彌陀。以證夫即心本具之無量光壽乎。志蓮居士苦行雖好。恐淨土宗旨。有所不知。或求轉女身。及生人天樂處之心。不能徹底放下。致無邊利益。隨世間小樂而失之。亦宜常為講說。令其志向決定耳。夫勸一人生淨土。即成就一眾生作佛。凡成佛必度無量眾生。而其功由我始。其功德利益何可思議也哉。又自既修淨土。尚須以此法門普告一切。況妻妾子女。豈可不勸令發心。而失此巨益乎。倘天性相近。則何善如之。如稍相遠。亦須漸磨漸染。俾即遠而成近耳。此所謂深愛。所謂宏慈。捨此而為慈愛。皆名有而實無耳。吾言不足為輕重。略錄一二。以見其概。當詳閱淨土十要。淨土聖賢錄。樂邦文類等。則取法有地。懷疑無由矣。法苑珠林一書。詳談因果。理事並進。可治近世排因撥果。肆無忌憚等膏肓痼疾。凡有信心讀書人。皆當令閱此書。豈但有益於身心性命。實於格物致知。文章學問。大有裨益也。安士全書。亦與此同其氣類耳。文人皆不可不知。娑婆之苦。說不能盡。縱時屬昇平。仍然日在苦惱中。以眾生久習相安。遂不知耳。近來中國屢經兵燹。已是苦不堪言。而外洋各國三年大戰。人死近千萬。為開闢第一兵劫。而戰勢尚盛。不知何所底極。靜言思之。誠堪畏懼。而彼方力求其所以剿滅他國之道。其眾生往昔惡業所招之惡報。亦何至於此極哉。今聞此說。當憤發大心。以速求往生。然後迴入娑婆。普度一切。經雲。菩薩畏因。眾生畏果。菩薩恐招惡果。故斷惡因。惡因斷而惡果無從而生。眾生競作惡因。至受惡果。受惡果時。不知自懺往業。又復更

造惡法以為對治。則怨怨相報。經劫不息。可不哀哉。可不畏哉。知是而不求生西方者。非夫也。

復永嘉某居士書一

綜觀二十年間決擇問學。備歷艱險。竟能從儒入佛。即俗修真。簡去自力。專宗淨土。可謂三生有幸。一道同歸者也。幸甚慰甚。夫人宿世果種善根。且無論為學求道。可為出世大事之前茅。即貪瞋癡等煩惱惑業。疾病顛連種種惡報。皆可以作出生死入佛法之因緣。顧其人之能自反與否耳。不能自反。且無論碌碌庸人。為世教之所拘。即晦庵。陽明。靖節。放翁等。雖學問操持見地。悉皆奇特卓犖。然亦究竟不能徹悟自心。了脫生死。其學問操持見地。雖可與無上妙道作基。由不能自反。竟為入道之障。可知入道之難。真難於登天矣。不執著等語。理則是。而事非博地凡夫之所能為也。終日穿衣喫飯。侈談不執飢寒。與終日枵虛。不得杯水粒米。餓且將死。而謂人曰。吾視龍肝鳳髓。直同穢物。思之即嘔。況其下者乎。同一空談耳。今時不明教理。即參禪宗者。每多中此空解脫病。至於靜坐澄思。空境現前。不過以靜澄伏妄。偶爾發現之幻境耳。若錯認消息。生大歡喜。則喪心病狂。佛亦難醫矣。幸能體察而不執著。棄捨幻妄。卒得貫通諸法法門。可謂久歷荊棘。忽達康莊矣。末世人根陋劣。知識希少。若不仗佛慈力。專修淨業。但承自力。參叩禪宗。不第明心見性。斷惑證真者。罕有其人。而以幻為真。以迷為悟。著魔發狂者。實繁有徒矣。所以永明蓮池等。觀時之機。極力主張淨土法門也。至於逐吏之譬。乃現今數年來千真萬真之確論也。與利除弊。必須推及將來畢竟結果處。方為濟時之務。否則與斷頭腳而醫頭腳。同一覆轍。能不令人痛哭流涕長太息也耶。若夫信心真切。行願專一之問答。理雖的確。但未能發或人之信心。伸自己之主見。今代為答曰。吾已徧研教理。普親諸聖。故能如是。豈尋常所謂研究親近者哉。何以言之。淨土法門。釋迦彌陀之所建立也。文殊普賢之所指歸也。馬鳴龍樹之所弘揚也。匡廬。天臺。清涼。永明。蓮池。蕩益之所發揮倡導。以普

勸夫若聖若凡或愚或智也。此諸菩薩大士。於千百年前。早已為吾徧研藏教。特地揀出此不斷惑業。得預補處。即此一生。定出樊籠。至圓至頓。至簡至易。統攝禪教律而高出禪教律。即淺即深。即權即實。殊特超越天然妙法也。吾信仰佛祖。以古為師。豈不如親近今時知識之為愈乎。華嚴一經。王於三藏。末後一著。歸重願王。華藏海眾。悉證法身。咸求往生。企圖佛果。吾何人斯。敢不景從。捨爾狂心。力行斯道。功德利益。當自證知。何待徧參。方為知法哉。

復永嘉某居士書二

彌陀衷論。若經若論。皆有功於淨業行人。亦有啟後人妄作排古之端。其過殊非淺淺。當取其閉關專修之法。其所謂自匡廬創建蓮宗以來。無一識經義者。其親證三昧。唯一省一大師。皆其偏見局論。最為輕藐古德。開我慢之道。邀來哲共遊。豈非謗法謗僧。而其所以作此說者。實欲露出自己乃親得聖師真傳。實為淨宗第一功臣而已。至於指斥紫閣。雲棲。蕩益等。適彰其少見少聞。不達如來權實法門。欲以己之一機為準。如古德謂得鳥者網之一目。不可以一目為網。治國者功在一人。不可以一人為國。王耕心決欲以一目為網。一人為國。發而為論。頗自矜張。猶是少年時空腹高心。不可一世之狂態。謂己掩關二期。亦有所證。斷難取信。何以言之。證三昧人。非不開議論之辯口。但心平氣和。唯理是尚。若彼所論。多皆矜己斥人。乃堅白同異辯士之言。非契理契機決定之論也。縱然有功。吾不敢向人讚歎。令其受持流通也。流通佛法。大非易事。翻譯經論。皆非聊爾從事。故譯場之中。有主譯者。譯語者。證義者。潤文者。豈敢隨自心裁。傳佈佛經。王龍舒大彌陀經。自宋至明末。人多受持。由雲棲以猶有不恰當處。故此後漸就湮沒。魏承貫之學識。不及龍舒。其自任過於龍舒。因人之跡以施功。故易為力。豈承貫超越龍舒之上耶。蓮池尚不流通王本。吾儕何敢流通魏本。以啟人妄改佛經之端。及闢佛之流。謂佛經皆後人編造。初非真實從佛國譯來者。然此經此論。若真修上士觀之。亦有大益。以但取其益。而不染其弊。若下士觀之。則未得

其益·先受其損。以徒效其改經斥古之愆·不法其直捷專精之行耳。觀機設教·對證發藥。教不契機·與藥不對證等耳。敢以一二可取·而遂普令流通·以貽下士之罪愆乎。釋羣疑論·(光)昔曾請得·亦曾看過一徧。以目力不給·不能多看為欠。若論逗機最妙之書·當以淨土十要為冠。而彌陀要解一書·為蕩益最精最妙之註。自佛說此經以來之註·當推第一。即令古佛再出於世·現廣長舌相·重註此經·當亦不能超出其上。況後生淺聞薄解·便欲指斥·冀其超越乎哉。以螢光而較日·多見其不知量也。惜哉王生·何苦如此。澍庵之問書皆能誦·乃他心通耳。本欲詳言其旨·以修補藏經無暇·且待異日。

復永嘉某居士書三

彌陀經當依蕩益要解。衷論詮釋·多有任己見·違經旨處不可依從。佛為九法界眾生說法·豈可以己之智力不能·而遂斷以決無此理。其一日七日之釋·顯是以己量九法界。若如是詮·豈特彌陀一經·不能統攝羣機。一代教典之圓頓妙談·皆當以己智不能·而疑為妄語。謗佛謗法謗僧·罪在不原。雖於下根有警發處·然傷其大體·此(印光)不敢勸人受持也。淨土法門·猶如大海。長江大河亦入·杯水滴水亦入。證齊諸佛者·尚求往生。五逆十惡者·亦預末品·何得以得一心及三昧·而拒其未得者。但取法乎上·僅得其中。自己決志求生·唯當企及於此。若謂非此決不得生·是又自立科條·不依佛說矣。淨土三經·自古流通·並行願品為四經·豈可謂不奉為圭臬乎。今之修淨業者·多皆不知宗旨·但依事相。與而言之·亦可雲淨宗中人。奪而言之·實百有九十九·皆屬無禪無淨土。何得以此等人為準。但以小本文簡義豐·故列於日誦。餘則隨人受持有異耳。衷論所說·有益者固多·有礙者亦復不少。若無擇法智眼·或恐未得其益·而備受其損。如一日七日十念不度等是也。受持讀誦·為佛門始終正行。即禪宗專務參究者·亦復如是受持。如藥山·仰山·永明·首山·棲賢湜·育王微等·但以拈提向上·則有似乎撥。不知拈提向上·舉盡世間法頭頭·皆歸本分。彼未得其門者·遂隨語生解。從茲一輩參禪者·

率多藐視經教。此輩雖自名禪人，實屬法門罪人，如來逆子，何足掛齒。勸令受持讀誦，諸經無不如是，豈特金剛行願乎哉。華嚴一經，王於三藏，末後一著，歸重願王。但宜尊重華嚴，不可小視餘經。以諸大乘經，皆以實相為經體故。華嚴之大，以其稱性直談界外大法，不攝二乘等故。法華之妙，在於會三歸一，開權顯實，開跡顯本處故。台宗謂法華純圓獨妙，華嚴猶兼乎權。（即指住行向地等覺而言）然佛於法華讚法華為經王，於華嚴亦然。豈後世宏經者，必須決定於五大部，分出此高彼下，不許經經偏讚乎。修禪宗者讚禪宗，修淨土者讚淨土。不如是，不能生人正信，起人景仰。但宜善會其義，不可以詞害意。孟子稱孔子生民未有之聖，然孔子見堯於羹，見舜於牆，見周公於夢，其做法企慕乎三聖者，何其至誠如是之極也。念佛人但能真切念佛，自可仗佛慈力，免彼刀兵水火。即宿業所牽，及轉地獄重報，作現生輕報，偶罹此殃。但於平日有真切信願，定於此時蒙佛接引。若夫現證三昧，固已入於聖流，自身如影，刀兵水火，皆不相礙。縱現遇災，實無所苦。而茫茫世界，曾有幾人哉。行願品義理宏闊，文字微妙。誦之令人人我眾生之執著，化為烏有。往生淨土之善根，日見增長。理宜自行化他。但不可以未持此經，即修淨土，亦屬偏僻薄福耳。蓮池，蕩益等，亦皆極力讚揚。彌陀要解中有雲，如來一代時教，唯華嚴明一生圓滿，而一生圓滿之因，末後普賢以十大願王，導歸極樂，勸進善財，及華藏海眾。噫，華嚴所稟，卻在此經，而天下古今信疑多，詞繁義蝕，餘唯有剖心瀝血而已。所以無隱謂華嚴即廣本彌陀，彌陀即略本華嚴。觀二大師之言，則知看經不具圓頓眼，其孤負佛恩處多矣。（不慧）拙作，雖義有可取，不當以實千古之傑構，非一代之常文過譽，不幾以凡濫聖，置寸木於岑樓之上乎。汝前書謂揚州之行，願相隨喜，吾未曾進止。繼思汝高堂有親，室有弱妻少子，理宜在家修持，不可外面奔馳。以主人若在，外虞自然不起。倘久出不歸，不但孝教有失，或恐小人乘間，盜賊水火，皆須預計。不但揚州不可去，即普陀亦不須來。縱欲談敘，郵局代為通知，彼此之情既

達·而所費實無幾何。豈不兩得其宜乎。祈此後切勿發信·若有所敍·當於三月半後發之。揚州之行·總在四月半間。若決定又欲來山·亦當在三月半後。人皆於正香期來·不知香客過多·諸凡皆難如法。近來輪船開通·從正月至八月·皆有人來。閒時來·種種次第。忙時則諸凡皆成潦草矣。真心禮謁大士者·不可不知。佛道非深不高·非淺不大·能深能淺·始名常住·詞不達意。當雲即淺即深·即小即大·法法圓通·故名常住。

復永嘉某居士書四

雲棲大師立法教人·皆從平實處著手。依之修持·千穩萬當。斷不至得少為足·著魔發狂。王耕心入道之要·未能十分明瞭·便任意操筆·肆開大口·抹煞一切。雖有宏法之心·實任壞法之咎。此皆由不親明眼知識·及反心自問二病所致。心跳惡夢·乃宿世惡業所現之兆。然現境雖有善惡·轉變在乎自己。惡業現而專心念佛·則惡因緣為善因緣。宿世之惡業·翻為今世之導師。惜世人多被業縛·不能轉變。遂成落井下石·苦上加苦矣。(光)以目盲不能看經書字。今夏擬作竭誠方獲實益論·未及半而目力不堪·因茲中止。尚欲冬月專心懺悔宿業·儻能目力稍強·當續成之。又於去年應陳錫周居士修普陀山志。(光)亦以目力祈緩二三年。目明願盡五六年力·將大藏所有觀音事蹟·悉分門別類·排成賦式·詳錄本文於下。書成·刻板兩付。一存經房·一存本山。俾一切有緣·同沾大士不思議恩。若目仍如舊·則祇可曰命也何如耳。大教東漸·所有派別盛衰·非讀破全藏·一聞即記者·不能。儻率爾而為·不但不足為佛法光·反為佛法辱矣。十往生經·今藏無有·不須徧求。集諸經禮懺悔文·西方禮讚等·若偈若文·多是善導觀經四帖疏中之文。若將四帖疏上品往生章註詳看·方知所言觀經·祇舉觀經一句·下即詳釋·非全體盡屬經文。善導觀經四帖疏·中國多年失傳·近方由東瀛請來。金陵刻板。而流傳既久·錯訛甚多。即諸經禮懺悔文·亦屬訛謬不少。四帖疏懺悔文互觀·亦可正其少分。餘者亦有依義可正之處。(光)十年前·曾一再閱而標之。

雖未敢必其復彼初出之原。然亦正正者多，而正訛者少，為自信得及耳。他心通有種種不同，且約證道者說。如澍庵無論問何書，即能一一誦得清楚，一字不錯。其人素未讀書，何以如此。以業盡情空，心如明鏡。當無人問時，心中一字亦不可得。及至問者將自己先所閱過者見問，彼雖久而不記，其八識田中，已存納此諸言句之影子。（看佛經亦如此，古人謂一染識神，永為道種，當於此中諦信。）其人以無明錮蔽，了不知覺。而此有他心通者，即於彼心識影子中，明明朗朗見之。故能隨問隨誦，一無差錯。即彼問者未見此書，亦能於餘人見者之心識中，為彼誦之。此係以他人之心作己心用。非其心常常有如許多經書記憶不忘也。凡夫不了，將謂有許多奇特。究其實祇是業消慧朗，障盡智圓耳。扶乩多是靈鬼假冒仙佛神聖。鬼之劣者，或無此通力。其優者則能知人心。故能借人之聰明智識而為之。紀文達謂乩多靈鬼假託，余與兄坦然扶乩，餘能詩而不能書，餘扶則詩詞敏捷，書法潦草，坦然扶則詩詞庸常，書法遒勁。所冒古人，問及集中奧竅，則雲年代久遠，不復記憶，故知非真。然此鬼之靈，但能於人現知之心，借而為用。於識田中有，現知中無者。或此義非己所知者，便不能引以示人。其去業盡情空之他心通，實有天淵之遠。但其氣分似之。又恐汝等或為乩教所迷，故不得不引及而並並之。又宋高僧傳載僧緘往王處厚齋。處厚讀文章甚得意。因問讀何文字。處厚言此我中進士策。緘曰，風簷之下，有此從容乎。於囊中取出一編曰，此非汝策乎。處厚視之，即當日原策。處厚曰，此吾後來筆削者。緘曰，吾固知非汝原策也。因問師囊中何以有我此策。緘曰，非但此策，汝自讀書以來，乃至戲頑，一筆一畫，吾囊中一一俱有。處厚驚懼，不敢致問。澍庵但有他心通，未見其有神通。僧緘乃有他心通，而兼有大神通。能將彼心識中所現之書，現出形質以示其人。實非自己囊中存留而取出也。近來上海乩壇大開，其所開示改過遷善，小輪迴，小因果等，皆與世道人心有大裨益。至於說天說佛法，直是胡說。吾等為佛弟子，不可排斥此法，以其有阻人遷善之過。亦不可附贊此法，以其所說佛

法·皆屬臆撰·恐致壞亂佛法·疑誤眾生之愆。(印光)宿多惡業·致今生有目如盲。斷不敢隨情不依理·自誤而誤人。祈斟酌情理而行·則無弊矣。念佛十種利益·謹考淨土指歸集下卷末十種勝利·慈雲懺主謂諸經具說·未知的出何經。或是約義纂集·亦未可知。前數紙中有高聲念佛·誦經及禮佛·皆有十種功德。則標之曰業報差別經。護淨經未檢·容暇時閱之。書面之文·不宜多·祇宜簡而明瞭。多者當於書皮裏面·或於皮後另印一張。念佛回向·不可偏廢·回向即信願之發於口者。然回向祇宜於夜課畢·及日中念佛誦經畢後行之。念佛當從朝至暮不間斷。其心中但具願生之念·即是常時回向。若夫依儀誦文回向·固不得常常如是。諸大乘經·經經皆令諸眾生直成佛道。但恨人之不誠心念誦·致不得其全益耳。楞嚴五卷末·大勢至菩薩章·乃淨宗最上開示。祇此一章·便可與淨土四經參而為五。豈有文長之畏哉。君子之學為己·乃念念叩己而自省耳。夢覺一如·唯功夫到家者方能。但於覺時操持·久之夢中自能無大走作矣。

復永嘉某居士書五

自去臘至三月下旬·所接四書·及師(辰爻)所持二位與徐君問答·並布疋食物等·足見為法心切·愛我情深。初則企徐君來·次則閱彼所印文鈔·目似吃虧·以故遲遲其復耳。去臘之書·實得以友輔仁之義。但以推我過高·令人益加慚赧·夫人生大倫·其數唯五。謂君臣·父子·兄弟·夫婦·朋友。而父生·師教·君食·三者相等。何五倫之中·不列其師。不知師有成我之德者·則屬於父。次則誘掖獎勸·以達其材·則屬於兄。故孟子謂師也父兄也。次則麗澤互益·如二月互照·二手互援·則屬於友。(朋從二月、友從二手、古文友作又、手也、係又之變體。)故佛門每謂尋師訪友。(印光)毫無實德·不敢為人作師。而以友輔仁之心·固自志學以至今日·未嘗息念。而人不我諒·不但不加磋磨·或時反見棄捨。汝企吾親證三昧·又恐有負初衷·致書勸進·不遺餘力。吾自束髮受書以來·未遇此之益友·感甚愧甚。而死罪四字·乃直臣諫君激其必納之詞。施於師友·殊為

失體。(印光)宿業深重·初生半載。病目六月。號咷哭泣·除食息外·了無一刻止息。其痛苦不知其何如。幸承夙善根力·得見天日·實為萬幸。成童受書。由宿業引發·致服韓歐闢佛之毒。繼則深自省察·自知慚愧·歸命三寶·出家為僧。若非三寶冥垂加被·使我自省。則當今之時·久在阿鼻地獄·受諸劇苦。何能與諸君子指東話西·論自力他力·以期同證真常·誕登覺岸乎哉。其七期已滿·三昧未成·一由夙業深重·二由精神衰頹所致。然佛固不見棄於罪人·當承茲行以往生耳。十念記數·不是數息。以其從一至十·同於數息。又以蓮宗寶鑑·訛作至百千萬·恐受其病·引為證明。目為數息持名·斷斷不可。欲證三昧·自有佛祖所示三世不易之法。何得問我所證·方能續步。彌陀經雲·執持名號·若一日乃至若七日·一心不亂。(此一日七日、乃是舉例之詞、不可執定、若是等覺根性、一念即能不亂、何待一日、若是逆惡根性、畢生亦難一心、何況七日、王耕心混上中下根為一例、發而為論、深自矜誇、謂為發前人所未發、實為上違佛祖誠言、下啟後進狂妄、令人不勝悲痛哀憐而莫之能止也。)觀經雲·諸佛如來·是法界身·入一切眾生心想中·是故汝等心想佛時·是心即是三十二相·八十隨形好·是心作佛·是心是佛。(作指心想、是指心是、觀想既是作、持誦禮拜豈不是作、舉一反三、儒者尚然、況博地凡夫、上窺佛意、何得不依圓頓妙解、而以擔板之見推測乎。)楞嚴大勢至雲·都攝六根·淨念相繼·得三摩地·斯為第一。文殊選圓通偈·謂反聞聞自性·性成無上道。今例之曰·反念念自性·性成無上道。四十二章經雲·夫心者·置之一處·無事不辦。夢東雲·真為生死·發菩提心·以深信願·持佛名號·此十六字為念佛法門一大綱宗。欲修三昧·何不於此等語句中全身靠倒。不以聖言為量·而以我之罪業凡夫為準·豈不顛倒之甚乎。然汝發此言·蓋亦有由。以衷論詳示省一大師所見之境·及耕心謂承彼心傳。意者必有種種不思議妙境·及口傳心受之妙訣耳。不知三昧者·華言正定·亦雲正受。正定者·寂照雙融之謂。正受者·妄伏真現之謂。寂照雙融·有何境界之可得。

心經雲·照見五蘊皆空·度一切苦厄·又曰·以無所得故·三世諸佛得阿耨多羅三藐三菩提。楞嚴雲·圓滿菩提·歸無所得。修禪定人（指四禪八定）及參禪人·以唯仗自力·不求佛加。故於工夫得力真妄相攻之時·每有種種境界·幻出幻沒。譬如陰雨將晴之時·濃雲破綻·忽見日光。恍惚之間·變化不測。所有境界·非真具道眼者·不能辯識。若錯認消息·則著魔發狂·莫之能醫。念佛人以真切之信願·持萬德之洪名。喻如杲日當空·行大王路。不但魑魅魍魎·剗蹤滅跡。即歧途是非之念·亦無從生。推而極之·不過曰·念至功純力極·則全心是佛·全佛是心·心佛不二·心佛一如而已。此理此行·唯恐人之不知·不能合佛普度眾生之願。豈秘而不傳·獨傳於汝乎。若有暗地裏口傳心受之妙訣·即是邪魔外道·即非佛法。然（印光）實有人所不得而已所獨得之訣·不妨由汝之請·以普為天下之諸佛子告。其訣唯何·曰誠·曰恭敬。此語舉世咸知·此道舉世咸昧。（印光）由罪業深重·企消除罪業·以報佛恩。每尋求古德之修持懿範。由是而知誠與恭敬·實為超凡入聖了生脫死之極妙秘訣。故常與有緣者諄諄言之。持經利益隨心論·雖發其端·未明其概。擬續一二萬言·歷引古德誠敬之跡·與其感應之道·並參己蕪語·發揮評論。俾閱者法戒分明·知所取捨。自不至以巨因而獲微果·與夫以善因而招惡果耳。斯言已與徐君說之。須知誠與恭敬·非唯學佛宜然。世出世間·一切諸法·欲得精一·莫不以此而為基本。觀孟子奕秋誨奕一事·可以知矣。徐君夙具靈根·而且歷代奉佛·自出世來。即受庭訓·又經二三十年之學問閱歷·何捨高明而取卑劣·寶（印光）之文而為之流布也。須知宏法利生·貴識時機。今人應受之法·與所受之病·高明者不肯詳言。其所言者·縱極玄妙·多非應病之藥。或由彼妙藥·反增其病。（印光）譬如無知無識之庸醫·不但不知病原·亦且不知藥性。唯以先祖秘製之阿伽陀萬應丸·舉虛實寒熱種種諸病·皆以此藥投之。倘不懷疑·取而服之·立見全愈。即秦緩扁鵲無從措手之症·一服此藥·立見起死回生。於是有心活人濟世者·為之廣出招帖·令有病者·同服

此藥。雖知秦緩等之神妙不測。而不廣告者。以病屬宿業。有神仙不能療者。況神醫乎。至於所斷評衷論語。實屬婆心真切。與（印光）交互發明。特欲開人正眼。非是文飾（印光）。仁老評語。亦極痛切。然於王生心病。及衷論流弊。尚欠發揮。（印光）所說。多致力於此二者耳。及餘所答。皆悉圓融恰當。唯論四土一段。約理固無大礙。約事殊欠精詳。以凡聖同居。方便有餘二土。乃約帶業往生之凡夫。與斷見思惑之小聖而立。不可約佛而論。若約佛論。非但西方四土。全體寂光。即此五濁惡世。三途惡道。自佛視之。何一不是寂光。故曰毘盧遮那。徧一切處。其佛所住。名常寂光。徧一切處之常寂光土。唯滿證光明徧照之毘盧遮那法身者。親得受用耳。餘皆分證。若十信以下至於凡夫。理則有而事則無耳。欲詳知者。當細研彌陀要解論四土文。而梵網玄義。亦復具明。（毘盧遮那、華言光明徧照。亦雲徧一切處、乃一切諸佛究竟極果滿證清淨法身之通號、圓滿報身盧舍那佛亦然、若釋迦彌陀藥師阿閼等、乃化身佛之各別名號耳、盧舍那、華言淨滿、以其惑業淨盡、福慧圓滿、乃約智斷二德所感之果報而言。）又須知實報寂光。本屬一土。約稱性所感之果。則雲實報。約究竟所證之理。則雲寂光。初住初入實報。分證寂光。妙覺乃雲上上實報。究竟寂光。是初住至等覺。二土皆屬分證。妙覺極果。則二土皆屬究竟耳。講者於實報則唯約分證。於寂光則唯約究竟。寂光無相。實報具足華藏世界海微塵數不可思議微妙莊嚴。譬如虛空。體非羣相。而一切諸相。由空發揮。又如寶鏡。虛明洞徹。了無一物。而復胡來胡現。漢來漢現。實報寂光。即一而二。即二而一。欲人易了。作二土說。金輪咒法所示。乃三世因果。為獵為僧。乃前世因果。今得為人。福盡將墮。乃約迷不修。示前因後果。念佛閱經。悟二空理。證實相法。乃約省悟修持。示現因後果。且勿儻侗自任。謂現生便能如是。現生證實相者。非無其人。恐賢契無此善根。若不詳陳其故。或致妄期聖證。則志高而行不逮。久而久之。必致喪心病狂。未得謂得。未證謂證。求升反墜。弄巧成拙。究其結果。難免永淪惡趣。不但埋沒

己靈·實為孤負佛恩。二空理唯言悟·則利根凡夫即能。如圓教名字位中人·雖五住煩惱·毫未伏斷·而所悟與佛無二無別。(五住者見惑為一住、思惑為三住、此二住於界內、塵沙惑無明惑共為一住、此二住於界外。)若約宗說·則名大徹大悟。若約教說·則名大開圓解。大徹大悟·與大開圓解·不是依稀仿佛明瞭而已。如龐居士聞馬祖待汝一口吸盡西江水·即向汝道·當下頓亡玄解。大慧杲聞圓悟熏風自南來·殿閣生微涼·亦然。智者誦法華·至藥王本事品·是真精進·是名真法供養如來。豁然大悟·寂爾入定。親見靈山一會·儼然未散。能如是悟·方可名大徹大悟·大開圓解。若雲證實相法·則非博地凡夫之所能為。南嶽思大禪師·智者之得法師也。有大智慧·有大神通·臨終有人問其所證·乃曰·我初志期銅輪·(即十住位、破無明、證實相、初入實報、分證寂光、初住即能於百三千大千世界、示作佛身、教化眾生、二住則千、三住則萬、位位增數十倍、豈小可哉。)但以領眾太早·只證鐵輪而已。(鐵輪、即第十信位、初信斷見惑、七信斷思惑、八九十信破塵沙、伏無明、南嶽思示居第十信、尚未證實相法、若破一品無明、即證初住位、方可雲證實相法耳。)智者大師·釋迦之化身也。臨終有問未審大師證入何位。答曰·我不領眾·必淨六根。(即十信位、獲六根清淨、如法華經法師功德品所明。)損己利人·但登五品。(五品、即觀行位、圓伏五住煩惱、而見惑尚未斷除。)蕩益大師臨終有偈雲·名字位中真佛眼·未知畢竟付何人。(名字位人、圓悟藏性、與佛同儔、而見思尚未能伏、何況乎斷、末世大徹大悟人·多多是此等身分、五祖戒為東坡、草堂清作魯公、猶其上者、次則海印信為硃防禦女、又次則雁蕩僧為秦氏子檜、良以理雖頓悟、惑未伏除、一經受生、或致迷失耳、藏性、即如來藏妙真如性、乃實相之異名。)蕩益大師示居名字·智者示居五品·南嶽示居十信。雖三大師之本地·皆不可測。而其所示名字觀行相似三位·可見實相之不易證·後進之難超越。實恐後人未證謂證·故以身說法·令其自知慚愧·不敢妄擬故耳。三大師末後示位之恩·粉骨碎身·莫之能報。汝自忖度·

果能越此三師否乎。若曰。念佛閱經。培植善根。往生西方之後。常侍彌陀。高預海會。隨其功行淺深。遲早必證實相。則是決定無疑之詞。而一切往生者之所同得而共證也。又金輪咒法。不許問事。唯許問善根。問法門。而末世眾生。無論有善根無善根。皆當決定專修淨土。法門亦不須問。善根有。固宜努力。無。尤當篤培。則善根亦不須問。只宜持咒。助修淨業。勿輒作法。煩瀆佛聖。倘動輒作法。若身心不恭敬。不至誠。或致起諸魔事。唯一事宜作法。而非汝等分上事。如有發心出家者。自未證道。不能觀機。上叩佛慈。冥示可否。庶無匪徒敗種混入之弊。而今之收徒者。唯恐其不多。明知為下流。尚急急欲收。唯恐其走脫。誰肯如此決擇。貪名利。喜眷屬。致令佛法一敗塗地。莫之能興也。至於業障重。貪瞋盛。體弱心怯。但能一心念佛。久之自可諸疾咸愈。普門品謂若有眾生。多於淫欲瞋恚愚癡。常念恭敬觀世音菩薩。便得離之。念佛亦然。但當盡心竭力。無或疑貳。則無求不得。然觀音於娑婆有大因緣。於念佛外。兼持觀音名號亦可。或兼持楞嚴大悲等咒。亦無不可。至於閱經。若欲作法師。為眾宣揚。當先閱經文。次看註疏。若非精神充足。見解過人。罔不徒勞心力。虛喪歲月。若欲隨分親得實益。必須至誠懇切。清淨三業。或先端坐少頃。凝定身心。然後拜佛朗誦。或止默閱。或拜佛後端坐少頃。然後開經。必須端身正坐。如對聖容。親聆圓音。不敢萌一念懈怠。不敢起一念分別。從首至尾。一直閱去。無論若文若義。一概不加理會。如是閱經。利根之人。便能悟二空理。證實相法。即根機鈍劣。亦可以消除業障。增長福慧。六祖謂但看金剛經。即能明心見性。即指如此看耳。故名曰但。能如此看。諸大乘經。皆能明心見性。豈獨金剛經為然。若一路分別。此一句是甚麼義。此一段是甚麼義。全屬凡情妄想。卜度思量。豈能冥符佛意。圓悟經旨。因茲業障消滅。福慧增崇乎。若知恭敬。猶能少種善根。倘全如老學究之讀儒書。將見褻慢之罪。獄犴淵深。以善因而招惡果。即此一輩人也。古人專重聽經。以心不能起分別故。如有一人出聲誦經。一人於旁。攝心諦聽。

字字句句・務期分明。其心專注・不敢外緣一切聲色。若稍微放縱・便致斷絕・文義不能貫通矣。誦者有文可依・心不大攝・亦能誦得清楚。聽者惟聲是託・一經放縱・便成割裂。若能如此聽・比誦者能至誠恭敬之功德等。若誦者恭敬稍疏・則其功德・難與聽者相比矣。今人視佛經如故紙・經案上雜物與經亂堆。而手不盥洗・口不漱蕩・身或搖擺・足或翹舉。甚至放屁摳腳・一切肆無忌憚・而欲閱經獲福滅罪・唯欲滅佛法之魔王・為之證明讚歎・謂其活潑圓融・深合大乘不執著之妙道。真修實踐之佛子見之・唯有黯然神傷・潛焉出涕。嗟其魔眷橫興・無可如何耳。智者誦經・豁然大悟・寂爾入定。豈有分別心之所能得哉。一古德寫法華經・一心專注・遂得念極情亡・至天黑定・尚依舊寫。侍者入來・言天黑定了・只麼還寫・隨即伸手不見掌矣。如此閱經・與參禪看話頭・持咒念佛・同一專心致志。至於用力之久・自有一旦豁然貫通之益耳。明雪嶠信禪師・甯波府城人・目不識丁。中年出家・苦參力究。忍人所不能忍・行人所不能行。其苦行實為人所難能。久之大徹大悟・隨口所說・妙契禪機。猶不識字・不能寫。久之則識字矣。又久之則手筆縱橫・居然一大寫家。此諸利益・皆從不分別專精參究中來。閱經者亦當以此為法。此老語錄・已入清藏。譚埽庵以名進士・皈依座下・為製道行碑・有一萬餘言。閱經時・斷斷不可起分別。自然妄念潛伏・天真發現。若欲研究義理・或翻閱註疏。當另立一時・唯事研究。當研究時・雖不如閱時之嚴肅・亦不可全無恭敬。不過比閱時稍舒泰些。未能業消智朗・須以閱為主・研究但略帶。否則終日窮年・但事研究。縱令研得如撥雲見月・開門見山一樣・亦只是口頭活計。於身心性命・生死分上・毫無干涉。臘月三十日到來・決定一毫也用不著。若能如上所說閱經・當必業消智朗。三種情見・當歸於無何有之鄉矣。若不如是閱經・非但三種情見・未必不生。或恐由宿業力・引起邪見・撥無因果。及淫殺盜妄種種煩惱・相繼而興・如火熾然。而猶以為大乘行人・一切無礙。遂援六祖心平何勞持戒之語・而諸戒俱以破而不破為真持矣・甚矣・修行之難得真

法也。所以諸佛諸祖。主張淨土者。以承佛慈力。制伏業力。不能發現耳。當以念佛為主。閱經為助。若法華。楞嚴。華嚴。涅槃。金剛。圓覺。或專主一經。或此六經。一一輪閱。皆無不可。而閱之之法。斷斷不可不依吾說。而苟且從事。致令不思議利益。由肆無忌憚。並分別妄情而失之。豈不哀哉。吾昔謂汝與師（辰爻）已能徹底信向淨土法門。及觀汝問徐君諸稿。則又欲持咒。又欲研究戒學。以密咒功德。淨土中無此稱述。便中心漾漾。毫無定見。汝是何等根機。而欲法法咸通耶。其急切紛擾。久則或致失心。吾與徐君言。祈彼極力開示。以盡法門師友之誼。師（辰爻）以密宗氣沖塵沾。皆獲解脫。淨宗無此等益。何不觀五逆十惡。臨終獄現。念佛數聲。即獲往生乎。又何不觀華嚴證齊諸佛之等覺菩薩。尚以十大願王回向往生。以期圓滿佛果乎。若謂有勝此者。便欲廢此修彼。何不體貼佛祖千經萬論殷勤丁寧之至意乎。刻實論之。大乘法門。法法圓妙。但以機有生熟。緣有淺深。故致益有難得與易得耳。善導。彌陀化身也。其所示專修。恐行人心志不定。為餘法門之師所奪。歷敍初二三四果聖人。及住行向地等覺菩薩。末至十方諸佛。盡虛空。徧法界。現身放光。勸捨淨土。為說殊勝妙法。亦不肯受。以最初發願專修淨土。不敢違其所願。善導和尚。早知後人者山看見那山高。渺無定見。故作此說。以死盡展轉企慕之狂妄偷心。誰知以善導為師者。尚不依從。則依從之人。殆不多見。豈夙世惡業所使。令於最契理契機之法。覲面錯過。而作無禪無淨土之業識茫茫。無本可據之輪迴中人乎。哀哉。吾以汝究學心切。若常致書通問。彼此皆為煩擾。因問師（辰爻）有無教乘法數等書。令請去。則有處查閱。翻譯名義。係釋梵語名義之書。釋氏稽古略。係載歷代佛門事蹟之書。閱藏知津。係標示大藏經論語錄及諸著述大意之書。龍藏彙記。即是清藏目錄。此諸書皆不可不有。有此諸書。如一師相隨。有問即答。未斷煩惑之人。須依事懺。懇切極處。不思議妙理。徹底圓彰。若捨事說理。只成得一個畫餅利益。說時則有。用時則無。又高僧傳初二三四集。居士傳。比丘尼傳。善女人傳。

淨土聖賢錄·皆記古德之嘉言懿行。閱之·自有欣欣向榮之心·斷不至有得少為足·與卑劣自處之失。宏明集·廣宏明集·鐔津文集·折疑論·護法論·三教平心論·續原教論·一乘決疑論·皆護教之書。閱之·則不被魔外所惑·而摧彼邪見城壘矣。此等諸書·閱之·能令正見堅固·能與經教互相證明。且勿謂一心閱經·置此等於不問。則差別知見不開·遇敵或受挫辱耳。汝書所陳·有未標示者·若能詳細體察·其意固自彰彰。又二空·即我空法空。我空者·謂於五陰色受想行識中·了知若色若心·(色即色法、下四即心法。)悉皆因緣和合而生·因緣別離而滅·了無主宰之實我可得。法空者·於五陰法·了知當體全空。心經照見五蘊皆空·即是其義。只此法空之理·即是實相。由破無明·證實相·故曰度一切苦厄也。實相者·法身理體·圓離生滅斷常空有等相·而為一切諸相之本·最為真實。故名實相·此之實相·生佛同具。而凡夫二乘·由迷背故·不能得其受用。喻如衣裏明珠·由不知故·不免貧窮。非曰在迷凡夫與證真諦之二乘·無此理體也。悟者·了了分明·如開門見山·撥雲見月。又如明眼之人·親見歸路。亦如久貧之士·忽開寶藏。證者如就路還家·息步安坐。亦如持此藏寶·隨意受用。悟則大心凡夫·能與佛同。證則初地不知二地舉足下足之處。識此悟證之義·自然不起上慢·不生退屈。而求生淨土之心·萬牛亦難挽回矣。又凡鈔錄文字·必須諦審精詳·不可粗略了事。彌陀要解序·經成時大師節略·語句便不圓潤。而末後雲·不敢與二翁競異·亦不必與二翁強同·譬如側看成峯·橫看成嶺·縱皆不盡廬山真境·要不失為各各親見廬山而已。時師略去此譬·不必與二翁強同之必字·訛作敢字·便成我慢自大·藐視二翁。意中便有二翁所註違經·不敢依從之義。並與下譬相反。實為冤誣蕩益·貽誤後學·讀之令人痛心疾首。今之時·是何時也。南北相攻·中外相敵。三四年來·人死四五千萬。自有生民以來·未聞有如此之慘淒者。又復風吹·水衝·地震·瘟疫·各處頻頻見告。又兼水旱·不一年中·每兼受其災。諸物之貴·比昔幾倍。當斯時也·幸而得生·敢不竭力

專修淨業·以期往生淨土乎。敢以幸得之身·遊逸其志·不註定一法·而泛泛然致力於不契時機之法門乎。倘或一息不來·而欲再聞如此之徑直法門·恐無有如是之傲倖也已。

復永嘉某居士書六

（光）既無學問·又無色力。若說話過多·目即發赤·而難觀字矣·何可講經。況現有刻書一事·萬不能假手於人。即無一事·亦不能應此事。汝所說之語·乃是為土木形骸裝金·聽得甚好。倘令人識破·則不值半文矣。已後不可如此說話·免令（光）生慚愧·而人見譏誚也。學道之人·道念重一分·則凡情輕一分·此必然之勢也。然未斷惑之人·常須努力。若一放縱·舊病定至復發。見思惑斷盡者·纔好任運騰驤·無須制束攝持也。人家欲興必由家規嚴整始。人家欲敗·必由家規頹廢始。欲子弟成人·須從自己所作所為·有法有則·能為子弟作榜樣始。此一定之理。今欲從省事省力處起手·當以因果報應為先入之言。使其習以成性·庶後來不至大有走作。此淑世善民·齊家教子之第一妙法也。智者大師世稱釋迦化身。其所證者·誰得而知。然佛為眾生現身作則·故即以凡夫自居。其曰我不領眾·必淨六根者·以己誡人·乃現身說法也。以大師最初志期斷惑證真·直登地等。（地、十地、等、等覺。）以弘法利生·荒曠自己禪定工夫·故止證得圓五品觀行位而已。故曰·損己利人·但登五品。五品者·即隨喜·讀誦·講說·兼行六度·正行六度五種耳。圓五品位·圓悟藏性。（藏性即實相妙理、在纏名如來藏、出纏名法身、纏、即無明、未斷、故名在纏。）與佛所悟·了無有二。圓伏見思塵沙無明煩惱·而見惑尚未能斷。若斷見惑·即證初信。及至七信·則思惑斷盡·得六根任運不染六塵之實證·故名六根清淨位。又於一一根中·俱能具六根功德·作六根佛事·故亦名六根互用。如法華經法師功德品所說。南嶽即示居此位。此位之人·不但有大智慧·而且有大神通。其神通又非小乘阿羅漢所能比。故南嶽生前歿後·皆有不可思議之事·令人若見若聞·發起信心。南嶽智者·皆法身大士。其實證地位·誰能測其高

深。此不過欲勉後世專精學道。而作此曲折耳。豈真止證十信相似位。五品觀行位而已耶。我等博地凡夫。那堪擬彼。我等祇好麤持重戒。一心念佛。兼修世善。以為助行。依永明蓮池之法行之。則無往不利矣。自己改惡修善。一心念佛。凡一切親故並有緣之人。亦當以此教之。其反對之人。當作憐憫想。不可強制令行。按牛頭吃草。萬萬做不得。若曰我一心念佛。諸事不理。不唯與世法有礙。亦不與佛法相合。素位而行。方為得之。勸人念佛修行。固為第一功德。然下而妻子兄弟。上而父母祖妣。皆當勸之。倘不能於家庭委曲方便。令吾親屬。同得不思議即生了脫之益。便為捨本逐末。利疏而不計利親。其可乎哉。勸人念佛之功。淨土書中說者甚多。恐費筆墨。故不詳書。汝與師壽既修淨業。祇可在家念佛。普陀不可常來。即其餘名山。縱然朝謁。亦不過看看山景而已。豈若在家修持。不廢錢財時日。不勞身心奔馳之為愈也。又無知愚人。以耳為目。一人傳虛。萬人傳實。妄謂地藏菩薩。是暹羅國太子。其肉身塔遇閏大七月。彼國之王。親來開塔。此等無稽之談。切不可當做真實。待至其時便去。以致人多地少。或致推擠跌撲。備受痛苦。此係新羅國王族出家。姓金名喬覺。於唐玄宗時來九華。居數十年。後坐脫。肉身不壞。遂以全身入塔。絕無開塔之說。當唐之時。高麗有三國。一高句麗。二新羅。三百濟。後高句麗吞滅二國。而但名高麗耳。近時愚人。不知新羅。遂訛作暹羅。唐時亦無暹羅之名。彼係兩國。一暹國。一羅斛國。後併為一。遂名暹羅。此僧事跡。俱載九華志。宋高僧傳。若欲一禮法顏。當於閒空時節。九華香期。香客之多。多於普陀百倍。況今年有此謠言。其朝山之人。不知比常時會期。更多幾倍。況塔在高處。前面若有二三百人。即有推擠跌撲之事。若不洞事帶婦女去。其因擠而喪身失命者。或亦難保。何可不依法言。而專信謠話。以自討煩惱也。(光)以二尊人年高。恐汝等不知利害。以為盡孝。故不禁絡索言之。統祈洞察。幸甚。

與徐福賢女士書

餘寄食普陀二十餘年。在家二眾。概無交涉。茲因至愚老友。駐錫慈巖。時常晤語。近來福嚴師至。不浹旬日。每過予舍。言及貞操。輒興悲感。因慰之曰。彼雖貞烈可風。無奈不知修途。吾當略陳綱要。令隨分隨力。篤修淨業耳。嚴師即隨禮懇。因為言曰。佛法者。一切眾生即心本具之法也。三乘（聲聞、緣覺、菩薩）六凡（天、人、阿脩羅、地獄、餓鬼、畜生）皆當遵行。在家出家。俱能受持。而況女身多障。諸凡不能自由。離鄉別井。易招外侮譏毀。為爾慮者。只宜在家持戒念佛。決志求生極樂世界。斷斷不可遠離家鄉。出家為尼。至於研窮經教。參訪明師。乃決烈男子分內之事。非女人所宜效法也。女人但當篤修淨業。專持佛號。果能都攝六根。淨念相繼。自然現生親證念佛三昧。臨終往生上品。縱未能親證三昧。亦得以高預海會。長侍彌陀。由是親證無生。復本心性。無邊教海。皆悉了知。如寶鏡當臺。萬象俱現。然後承佛慈力。及己願輪。不違安養。迴入娑婆。種種方便。度脫眾生。俾一切有情。同登蓮邦。悉證無生。庶不負一番決烈修持之心。可謂火裏蓮花。女中丈夫矣。凡修淨業。以決志求生西方為本。而淨土法門。以信願行三法為宗。所言信者。須信娑婆之苦。苦不可言。極樂之樂。樂無能喻。娑婆之苦。所謂生。老。病。死。愛別離。怨憎會。求不得。五陰（音印、與陰同、蓋復也）熾盛。（五陰熾盛者、謂眾生於色受想行識五陰之中、起惑造業、如火熾然、不能止息也、此一屬招苦之因、前七乃所招苦果、娑婆之苦、雖多逾恆沙、此八攝無不盡、諸苦既經身歷、不煩備釋。）極樂之樂。約根身則蓮花化生。長生不死。體稟男質。絕無女形。不聞惡道之名。況有其實。約器界則黃金為地。七寶為池。行樹參天。樓閣住空。思衣得衣。思食得食。凡所受用。無不如意。而諸凡用度。皆是化現。非如此土。由人力造作而成也。而彌陀導師相好光明。無量無邊。一睹慈容。即證法忍。況復觀音勢至。清淨海會。各舒淨光。同宣妙音。故雖具縛凡夫。通身業力。若能信願真切。即蒙佛慈攝受。一得往生。

則煩惱惡業·徹底消滅。功德智慧·究竟現前。能如是信·可謂真信。欲詳知者·當熟讀阿彌陀經·無量壽經·觀無量壽佛經·此名淨土三經·專談淨土緣起事理。其餘諸大乘經·咸皆帶說淨土。而華嚴一經·乃如來初成正覺·為四十一位法身大士稱性直談一乘妙法。末後善財徧參知識·於證齊諸佛之後·普賢菩薩為說十大願王·普令善財及與華藏海眾·回向往生西方極樂世界·以期圓滿佛果。而觀經下品下生·五逆十惡·具諸不善·臨命終時·地獄相現·有善知識·教以念佛·彼即受教稱念佛名·未滿十聲·即見化佛授手·接引往生。大集經雲·末法億億人修行·罕一得道·唯依念佛得度生死。是知念佛一法·乃上聖下凡共修之道·若愚若智通行之法。下手易而成功高·用力少而得效速。以其專仗佛力·故其利益殊勝·超越常途教道。昔人謂餘門學道·似蟻子上於高山。念佛往生·如風帆揚於順水。可謂最善形容者矣。若欲研究·阿彌陀經有滿益大師所著要解·理事各臻其極·為自佛說此經來第一註解·妙極確極。縱令古佛再出於世·重註此經·亦不能高出其上矣。不可忽略·宜諦信受。無量壽經有隋慧遠法師疏·訓文釋義·最為明晰。觀無量壽佛經有善導和尚四帖疏·唯欲普利三根·故多約事相發揮。至於上品上生章後·發揮專雜二修優劣·及令生堅固真信·雖釋迦諸佛現身·令其捨此淨土·修餘法門·亦不稍移其志。可謂淨業行者之指南針也。若夫台宗觀經疏妙宗鈔·諦理極圓融·中下根人·莫能得益。故不若四帖疏之三根普被·利鈍均益也。既知如上所說義理·必須依此諦信。自己見得及者如是信·即自己見不及者·亦必也如是信。仰信佛言·斷斷不可以己凡情不測·稍生絲毫疑念。方可謂真信矣。既生信已·必須發願。願離娑婆·如獄囚之冀出牢獄。願生極樂·如窮子之思歸故鄉。若其未生淨土以前·縱令授以人天王位·亦當視作墮落因緣·了無一念冀慕之想。即來生轉女為男·童真出家·一聞千悟·得大總持·亦當視作紆曲修途·了無一念希望之心。唯欲臨命終時·蒙佛接引·往生西方。既得往生·則了生脫死·超凡入聖·位居不退·忍證無生。回視人天王等·及出家為

僧・不知淨土・修餘法門・歷劫辛勤・莫由解脫者・如螢火之與杲日・蟻垤之與泰山矣。可勝悲哉・可勝悼哉。以故修淨土人・斷斷不可求來生人天福樂・及來生出家為僧等。若有絲毫求來生心・便非真信切願・便與彌陀誓願間隔・不能感應道交・蒙佛接引矣。以此不可思議殊勝妙行・竟作人天有漏福因。而況享福之時・必造惡業。既造惡業・難逃惡報。如置毒於醍醐之中・便能殺人。不善用心者・其過如是。必須徹底斬斷此等念頭・庶淨土全益・通身受用矣。既有真信切願・必須志心執持南無阿彌陀佛六字聖號。無論行住坐臥・語默動靜・穿衣喫飯・及大小便利等・總不離此六字洪名。(或四字持亦可)必須令其全心是佛・全佛是心・心佛無二・心佛一如。若能念茲在茲・念極情忘・心空佛現。則於現生之中・便能親證三昧。待至臨終・生上上品。可謂極修持之能事也已。至於日用之中・所有一絲一毫之善・及誦經禮拜種種善根・皆悉以此功德・回向往生。如是則一切行門・皆為淨土助行・猶如聚眾塵而成地・聚眾流而成海・廣大淵深・其誰能窮。然須發菩提心・誓願度生。所有修持功德・普為四恩三有法界眾生回向。則如火加油・如苗得雨。既與一切眾生深結法緣・速能成就自己大乘勝行。若不知此義・則是凡夫二乘自利之見・雖修妙行・感果卑劣矣。念佛雖一切時・一切處・皆無妨礙。然須常存敬畏・必須視佛像一如活佛。視佛經祖語・一如佛祖對己說法一樣・不敢稍存疑慢。雖孝子之讀遺囑・忠臣之奉敕旨・當不過是。至於平時念佛・聲默隨意。若睡臥・大小便・澡身濯足等・及經過臭穢不潔之地・俱宜默念・不可出聲。出聲則便為不恭・默念則功德一樣。吾常謂欲得佛法實益・須向恭敬中求。有一分恭敬・則消一分罪業・增一分福慧。有十分恭敬・則消十分罪業・增十分福慧。若或了無恭敬・則雖種遠因・而褻慢之罪・有不堪設想者矣。今之在家讀佛經者・皆犯此病。故於有緣者前・每諄諄言之。念佛必須攝心・念從心起・聲從口出・皆須字字句句・分明了了。又須攝耳諦聽・字字句句・納於心中。耳根一攝・諸根無由外馳・庶可速至一心不亂。大勢至所謂都攝六根・

淨念相繼·得三摩地·斯為第一者·即此是也。文殊所謂反聞聞自性·性成無上道者·亦即此是也。切不可謂持名一法淺近·捨之而修觀像觀想實相等法。夫四種念佛·唯持名最為契機。持至一心不亂·實相妙理·全體顯露。西方妙境·徹底圓彰。即持名而親證實相·不作觀而徹見西方。持名一法·乃入道之玄門·成佛之捷徑。今人教理觀法·皆不了明。若修觀想實相·或至著魔。弄巧成拙·求升反墜。宜修易行之行·自感至妙之果矣。淨土十要·乃滿益大師以金剛眼·於闡揚淨土諸書中·選其契理契機·至極無加者。第一彌陀要解·乃大師自註。文淵深而易知·理圓頓而唯心。妙無以加·宜常研閱。至於後之九種·莫不理圓詞妙·深契時機。雖未必一一全能了然·然一經翻閱·如服仙丹。久之久之·即凡質而成仙體矣。(此是譬喻法門之妙、不可錯會謂令成仙)淨土聖賢錄。歷載彌陀因中行願。果上功德。及觀音·勢至·文殊·普賢·馬鳴·龍樹·諸菩薩·自行化他之事。次及遠公·智者·暨清初諸大祖師善知識往生事蹟。及比丘尼王臣士庶婦女惡人·畜生·念佛往生之事。又復采其言論之切要者·併錄傳中·俾閱者取法有地·致疑無由。以古為師·力修淨業。較參叩知識·更加真切矣。龍舒淨土文·斷疑起信·修持法門·分門別類·縷析條陳。為導引初機之第一奇書。若欲普利一切·不可不從此以入手。此上三種·及無量壽經疏·觀經四帖疏·共五種·前已為福嚴師說·令請而郵寄·不知已請得否。若無·當寄回音·即為郵寄。有此諸書·淨土眾義·可以備知。縱不徧閱羣經·有何所欠。倘不知淨土法門·縱令深入經藏·徹悟自心。欲了生死·尚不知經幾何大劫·方能滿其所願。阿伽陀藥·(梵語阿伽陀、此雲普治·普治一切諸病也。)萬病總治。此而不知·可痛惜哉。知而不修·及修而不專心致志·更為可痛惜也已矣。女人出門·大有妨礙·況用度艱難·更為不便。受戒一事·若男子出家為僧·必須入堂習儀·方知叢林規矩·為僧儀則·則遊方行腳·了無妨阻。否則十方叢林·莫由住止。若在家女人·家資豐厚·身能自主·詣寺受戒·亦非不可。至於身家窮困·何必如此。但於佛前懇切至誠·

懺悔罪業一七日・自誓受戒。至第七日・對佛唱言・我弟子福賢・誓受五戒・為滿分優婆夷・（優婆夷、此雲近事女、謂既受五戒、堪事佛故、滿分者、五戒全持也。）盡形壽不殺生・盡形壽不偷盜・盡形壽不淫欲・（若有夫女、則曰不邪淫。）盡形壽不妄語・盡形壽不飲酒。如是三語・即為得戒。但自志心受持・功德並無優劣。切勿謂自誓受戒者・為不如法。此係梵網經中如來聖訓。普陀秋不傳戒。傳戒在於正月上旬開堂・至二月十九圓滿。然祈安住修持淨業・不可奔馳跋涉。倘或執著不改・便為不識好惡。妨自己之清修・負老僧之忠言。我欲汝即生成就道業・斷不至障汝法緣。汝但諦思・自知取捨。至於不能出家・即欲捨命・此念雖烈・此心實癡。今之尼僧・誰堪為師。住持庵廟・強暴實多。汝既是女・上士則難為禦侮・為避嫌故。下愚則竭力夤緣・欲造業故。汝祇知出家為尼之解脫・不知出家為尼之障礙。故不辭煩瑣・剴切言之。汝將謂捨命便解脫乎。不知識隨業牽・又復受生。驢女馬女・亦未可知。欲復得人女之身・恐未有此之大幸。縱令復得人女・或得為男・或為人王・天王・安保其能遇佛法而信受也。又安保其於佛法中・又復遇此即生了脫之淨土法門也。縱令能遇・何若今生忍耐住世・報盡即生西方之為愈也。汝從生已來・有如此為汝籌畫者否。倘或不依吾言・即為忘恩負義・則將來之苦・當更甚於今日無量無邊倍矣。把手牽他行不得・直須自肯始相應。可聽與否・祈自裁度。併祈以此告福蓮貞女知之。

與康澤師書

（光）宿業深重・現行劣弱。雖起長期・絕無進步。妄念勝於佛念・業識障彼智識。佛慈普被・猶不蒙益。每一思及・慚赧無喻。然佛既不以攝受誑人・（光）必以死期敗烈（死期敗烈、北方土語、烈者功烈、敗者敗壞、如張巡守睢陽、誓立滅賊功烈、以死為期、決不退敗、若不死必定要成此功烈、若死才見敗壞耳、此語北人常談、南方來曾未聞、故標其意致耳、）哀求加被。即當時不蒙加被・終有加被之日。今擬三十隨眾過年・至初一日仍復起期・直至和尚退院・方始

解期。再定後來章程。決定要得心佛相應。方可稍安此心。現在法道日見傾頹。後來事體。將有不忍言者。宜著力念佛求生西方。庶不虛此出家修行矣。否則恐後來雖欲修行。無地可修。雖欲求法。無法可求矣。奈何奈何。期中略將無量壽經疏。細閱兩徧。其玄譚總判。雖不及台宗。而消釋文義。甚是清楚。不可不看。觀經疏。閱三徧。善導和尚專以平實事相法門。接引末世凡夫。不用觀心約教等玄妙法門。其慈悲可謂至極無加矣。良以業識未消。三昧未成。縱談理性。終成畫餅。又以古人聞理性當體便是。則進行彌速。今人聞此等語言。則廢弛道業。但欲任己業識茫茫之天真耳。其書經中外抄錄。錯訛不勝其多。仁山楊子。凡點句讀處皆恰當。至於校訛。亦只照樣校對。並未釐正錯訛。如所刻彌陀疏鈔等。(光)不惜獲罪。略為正訂。覺善導婆心。更加親切。然不敢與楊子及今之當道弘法者觀。彼若見之。將又如通公之罵聰明人耳。往生論註。閱一徧。文義顯豁直捷。真能上繼匡廬。下啟天臺西河長安等。宜細看之。此三種訛字皆標於頂格。待明春解期時當呈上一覽。

與諦閑法師書

(光)自出家以來。即信淨土一法。但以業障所遮。二十年來。悠悠虛度。口雖念佛。心不染道。近蒙法師訓勵。誓期不負婆心。無奈昏散交攻。依舊昔時行履。因日閱十餘紙淨典。以發勝進之心。至寶王隨息法門。試用此法。遂覺妄念不似以前之潮湧瀾翻。想久而久之。當必有霧散雲消徹見天日之時。又查文類。聖賢錄。皆錄此一段。因悟慈雲十念。謂籍氣束心。當本乎此。而蓮宗寶鑑亦載此法。足見古人懸知末世機宜。非此莫入。而預設其法。然古人不多以此教人者。以人根尚利。一發肯心。自得一心。而今人若(光)之障重根鈍者。恐畢生不能得一念不亂也。故述其己私。請益高明。當與不當。明以告我。(光)又謂只此一法。具攝五停心觀。若能隨息念佛。即攝數息念佛二觀。而攝心念佛。染心漸可斷絕。瞋恚必不熾盛。昏散一去。智慧現前。而愚癡可破矣。又即勢至都攝六根法門。愚謂今之悠忽念

佛者·似不宜令依此法。恐彼因不記數·便成懈怠。有肯心者·若不依此法·決定難成三昧。法師乘願利人·自雖不用·當為後學試之·以教來哲。若是利根·一七二七定得一心。縱（光）之昏鈍魯劣·想十年八年或可不亂矣。

與玉柱師書

竊聞如來為一大事因緣故出現於世·隨機逗教·說種種法·無非欲令眾生開示悟入佛之知見而已。然佛之知見·眾生本具。而無始迷昧·淺深不同。迷之淺者·隨修一法·便得悟入。迷之深者·匪仗彌陀宏誓願力·往生淨土·決難克證。況茲一門·為諸法之歸宿·乃修證之極致。如來初成正覺·說華嚴經·具無量法門·收一乘根性。而善財於證齊諸佛之後·普賢菩薩乃令發十大願王·導歸極樂。並勸海會大眾·咸求往生。由是而諸大乘經皆悉讚揚·而淨土三經專明其致。有謂淨土為權漸小乘·而不肯修習·復障他修者。總因未能研究大乘經論·但執直指之指·未見自心之月。觀華嚴行願品可以知矣。而況迦葉·阿難·馬鳴·龍樹·智者·永明等諸大祖師·皆註經造論·極力讚揚。謂非六方諸佛之化身·兩土教主之嫡嗣者乎。所謂千經萬論·處處指歸。往聖前賢·人人趣向。矧茲末世·人根陋劣·知識希少。捨此一法·其何能淑。願兄於宗教之暇·略分心於此法。自利利他·報佛深恩。如或不無疑惑·當廣閱淨土經論。而淨土十要·斷疑啟信·乃破堅衝銳之元勳。當先讀之。而彌陀疏鈔並演義·尤為參研宗教之良導。愈當熟讀而精思之·非徒發明淨土而已。中峰謂禪者淨土之禪·淨土者禪之淨土。二書之謂也。又兄欲徧搜賢宗妙註·而疏鈔二書·乃賢宗妙註之最切于身心修證者。當購而研之·其妙利非弟所能形容也。

與廣東許豁然居士書代康澤師作

居士身居善堂·力行善事·終日宣講·勸人為善。擔荷聖賢居家為政在野盡忠之道·遵守佛祖諸惡莫作眾善奉行之法。每一思及·美

慕不已。然善事固有大小不同，善書亦有淺深不等。欲令自他同登善域，宜擇其善書之最精微顯著者，刊印流通。使天下後世之見聞此書者，皆悉改過遷善，希聖希賢。何異閣下徧提天下後世之耳而面命之。較宣講於一時一處者，其功德大小，不可同年而語矣。但善書雖多，所說皆世間小因小果。惟安士全書，覺世牖民，盡善盡美。講道論德，超古超今。言簡而該，理深而著。引事蹟則證據的確，發議論則洞徹淵源。誠傳家之至寶，亦宣講之奇書。言言皆佛祖之心法，聖賢之道脈。淑世善民之要道，光前裕後之秘方。若能依而行之，則繩武聖賢，了生脫死，若操左券以取故物。與彼世所流通善書，不啻有山垓海濤之異。茲因了得師由普陀朝九華，（衲）特令繞道至金陵請來，呈於閣下，祈細心玩索，則食嘉肴而知旨，學至道而知善，其刊板流通博施濟眾之心，必有決江河而莫禦之勢焉。安士先生姓周名夢顏，一名思仁，江蘇崑山諸生也。博通三教經書，深信念佛法門。弱冠入泮，遂厭仕進。發菩提心，著書覺民。欲令斯民先立於無過之地，後出乎生死之海。故著戒殺之書，曰萬善先資，戒淫之書，曰欲海回狂。良以眾生造業，唯此二者最多，改過亦唯此二者最要。又著陰騭文廣義，使人法法頭頭，皆知取法，皆知懲戒。批評辯論，洞徹精微。可謂帝君功臣。直將垂訓之心，徹底掀翻，和盤托出。使千古之上，千古之下，垂訓受訓，兩無遺憾矣。以其以奇才妙悟，取佛祖聖賢幽微奧妙之義，而以世間事跡文字發揮之，使其雅俗同觀，智愚共曉故也。又以修行法門，唯淨土最為切要。又著西歸直指一書，明念佛求生西方，了生脫死大事。良以積德修善，只得人天之福，福盡還須墮落。念佛往生，便入菩薩之位，決定直成佛道。前三種書，雖教人修世善，而亦具了生死法。此一種書，雖教人了生死，而又須力行世善。誠可謂現居士身，說法度生者。不謂之菩薩再來，吾不信也。竊念虞舜為善，捨己從人。商書修德，主善為師。素知閣下及同堂諸位善人，無功不立，有善皆納。敢請刊板，宣講流通，則展轉傳揚，燈燈相續，盡未來際，皆受其賜。祈發救世之婆心，勿以人微而廢言，則幸甚幸甚。

居士傳·係乾隆間蘇州長洲進士彭紹升·博覽羣書之暇·採自漢至今之大忠大孝·清正廉潔·有功名教·深通佛法者·錄其入道修證之事·兼載發揮佛法之文。人有數百·書成六冊。三教平心論·係元學士劉謐所作。先明三教並是勸人止惡行善·不可偏廢。次明極功淺深不同。後廣破韓愈之說·並歐陽程朱之說。釋氏稽古略·以歷代紀年為綱·儒釋事蹟為目。自伏羲至明末以來·國家之治亂·佛法之興衰·信毀之罪福·修持之利益·祖師法言·高僧行實·並及出格忠孝·至極奸惡·皆錄其大端。使人展卷便知法戒·端坐曠觀古今。豈徒有益於修道之士·而實為讀書論古者之袖裏奇珍也。佛法唯教人止惡修善·明心見性·斷惑證真·了生脫死。一大藏經·絕無一字教人運氣煉丹·求成仙升天·長生不老。國初魔民柳華陽作慧命經·盡用佛經祖語·證煉丹法。挽正作邪·以法謗法。未開眼人·見其邪說·認為真實·正見永失。所言所修·皆破壞佛法。而猶囂囂自得謂吾幸遇真乘·得聞正法。所謂認賊為子·煮砂作飯·一盲引眾盲·相牽入火坑。可不哀哉。夫煉丹一法·非無利益。只可延年益壽·極功至於成仙升天。尚非老子真傳·況是佛法正道。孔子曰·朝聞道·夕死可矣。老子曰·吾有大患·為吾有身。若能領會此語·便不被彼所迷。兼能熟閱安士全書·居士傳·平心論·稽古略等書。則明鏡當臺·妍醜自分。洪鑪驗金·真偽立判。恐曾從事此書·故不禁覩縷雲。禪宗一法·惟令人真參實悟。故所有言句·皆無義路。不可以凡夫知見·作文字義理領會。若非親近明眼善知識·及用拚命死心一番工夫參究·必不能頓明自心。心既不明·必不解祖師意旨。切不可依文解義·學口頭禪。譬如山野小民·妄號帝王·罪必滅族。凡稽古略居士傳及一切語錄中機鋒轉語·切勿妄會·至禱至禱。

復丁福保居士論臂香書

臂香者·於臂上然香也。靈峯老人·日持楞嚴梵網二經·故於然香一事·頗為頻數。良以一切眾生·無不愛惜自身。保重自身。於他則殺其身·食其肉·心更歡樂。於己則蚊啣芒刺·便難忍受矣。如來

於法華楞嚴梵網等大乘經中，稱讚苦行。令其然身臂指，供養諸佛。對治貪心及愛惜保重自身之心。此法於六度中仍屬布施度攝。以布施有內外不同。外則國城妻子，內則頭目髓腦。然香然身，皆所謂捨。必須至心懇切，仰祈三寶加被。唯欲自他業消慧朗，罪滅福增。（言自他者、雖實為己、又須以此功德、回向法界眾生、故雲自他、）絕無一毫為求名聞及求世間人天福樂之心，唯為上求佛道下化眾生而行。則功德無量無邊，不可思議。所謂三輪體空，四弘普攝。功德由心願而廣大，果報由心願而速獲。其或心慕虛名，徒以執著之心，效法除著之行。且莫說然臂香，即將全身通然，亦是無益苦行。以執著心，求名譽念。既無三輪體空之解，又無四弘普攝之心。以如來破除身見之法，轉增堅固身見。罪福由心而分，果報由心而異。故華嚴謂牛飲水成乳，蛇飲水成毒，智學證涅槃，愚學增生死者，此也。

與廣東蕭永華孝廉書代康澤師作

五燈會元，各經房仿單俱無，無從購請。但不知閣下求此書之意，故不禁翫縷雲，為真參實悟，洞明自心，徹見父母未生前本來面目耶。抑欲學其一棒一喝，喝佛罵祖，但取口舌辯給，以邀譽於流俗耶。或欲記其言句，以雄筆劄，使揮毫染翰時，神機活潑，文詞幽邃，如蘇子瞻輩出詞吐氣，殆非食人間煙火者所能也。若欲得第一者，須先研究佛經，使教眼明瞭。又須親近具眼高人，得聞一言一句，窮參力究。至力極功純，自然冷灰豆爆，徹悟自心，如伸手見掌，了無自他之疑。又須高人印證，恐或錯認消息。若能如此，再看此書及一切禪書，猶家裏人共家裏人說家裏話，但有所益，毫無所損。若未能如上用功，及開悟印證。先觀禪書，欲得開悟者。如蒙塵古鏡，欲頓發光明，不去磨垢，但塗白粉，塗至經劫，亦無光發。所謂依他作解，塞自悟門，說食數寶，何濟飢貧。若欲得第二者，則雖是善因，反招惡果。此現世僧俗同陷之萬丈深坑也。良以禪宗舉揚，皆歸向上一著。悟者便能神會，迷人盡隨語轉，不知古人棒喝罵之意，便以此為行持。其失豈止王莽學周公，曹操學文王。醍醐上味，為世所珍，遇斯人等，翻

成毒藥。裴公美謂得其意則疾成佛道·失其旨則永入泥犁。可不懼哉。祈閣下勿萌此念也。至於欲文類古人作詞料用者。不知古人皆於自心大有發明·故出言吐詞·妙合禪機。譬如庖丁解牛·由基射猿·非學而能者也。

與某居士書代了餘師作

仲春來山·瞬息半載。縱壽百年·彈指即過。一息尚存·當求出路。毋使臨終·悔之無及。每憶經雲·人身難得·中國難生·佛法難遇·信心難生。四者幸備·尤當努力。如登寶山·要得摩尼。良以在凡夫地·未斷惑業·生死不了·難免墮落。所以如來極勸眾生·發真信心·及切願心·持佛名號·求生淨土。當以供養三寶·守戒一生·一切所作·種種功德·不求來生人天福報·不求現世長壽康寧·唯求臨終往生淨土。則與佛誓願相契相合·感應道交·定滿所願。如人墮海·有船來救·若肯上船·即登彼岸。求人天福·不求往生·如不上船·難免沈溺。佛欲令汝超凡入聖·汝卻願得有漏之福。福報一盡·永墮三途·如摩尼珠·用彈黃雀。所得者少·所失者多。可不惜哉·宜警省者焉。當知念佛往生一法·乃一切眾生速出生死之第一要道·實一切諸佛疾成正覺之最上法門。不可以簡便易行·視作等閑。必須以勤懇志心·方能成辦。至於修持法則·龍舒文中具載。又有安士全書·且載念佛往生法則並隨事積德·居塵學道·齊家教子·淑世善民·種種法則·悉臻奧妙。可謂通儒釋於不二·冠古今而無雙。一切縑素男女·皆堪永為龜鑑者也。

與海鹽某夫人書代悟開師作

身乃招苦之本·厭乃得樂之基。宿因厚而現善濃·則多劫之重報·轉而現生輕受。罹災戾而猛修持·則娑婆之痛苦·即是極樂導師。當作償債之想·懊悶自消。倘生怨尤之心·罪障續起。逆來順受·始為樂天知命之人。厭此欣彼·方是修淨念佛之士。緬想居士崇信大法·世德相承·固當報享康寧·何緣身膺篤疾。得非彌陀如來觀音大士·

他心天眼·放大光明·借夫人之幻病·作同人之棒喝·俾於苦海·普拯沈溺耶。敢祈深勸子媳·以及奴僕·外及族黨·與諸親眷·悉令戒殺放生吃素念佛。則淨如之家法·千秋續美。庶熙朝之天爵·萬古聯芳。如是則只此淒淒之病身·為苦海之舟楫。惶惶之病話·作塵世之津梁。又何待證無生忍·方可入俗利生。登不退地·始堪現身說法也哉。經雲·至心念佛一聲·能滅八十億劫生死重罪。教人念佛一聲·勝於百年所行七寶布施。但能至心念佛·則病無不愈·馮氏夫人之芳躅可追。教人念佛·則生品最高·荊王夫人之懿範不遠。以此禱佛·立見痊癒。請即致力·無或疑貳。又淨如彌陀疏鈔擷·言簡而精·理深而著·乃淨土之要書·實初機之良導。宜熟閱之。並祈有便人來·多帶幾部·以廣淨如法施。

與海鹽顧母徐夫人書代悟開師作

某某來山·問及起居。言日閱禪錄·常談機鋒。愚謂衰老之年·當勤念佛·即淨為宗·方有實詣。請試論之。禪與淨土·理本無二。若論事修·其相天殊。禪非徹悟徹證·不能超出生死。故為山雲·可中頓悟正因·便是出塵階漸。生生若能不退·佛階決定可期。又雲·初心從緣·頓悟自性。猶有無始曠劫習氣·未能頓盡·須教渠盡除現業流識。弘辨謂頓悟自性·與佛同儔。然有無始習氣未能頓盡·須假對治·令順性起用。如人吃飯·不一口便飽。長沙岑謂天下善知識未證果上涅槃·以功未齊於諸聖故也。所以五祖戒又作東坡·草堂清復為魯公。古今宗師·徹悟而未徹證者·類多如此。良由惟仗自力·不求佛加·絲毫惑業不盡·生死決不能出。淨土則具信願行三·便可帶業往生。一得往生·則永出生死。悟證者頓登補處·未悟者亦證阿鞞。所以華藏海眾·悉願往生。宗教知識·同生淨土。良由全仗佛力·兼自懇心。故得感應道交·由是速成正覺。為今之計·宜屏除禪錄·專修淨業。於一塵不染心中·持萬德洪名聖號。或聲或默·無雜無間。必使念起於心·聲入乎耳·字字分明·句句不亂。久之久之·自成片段。親證念佛三昧·自知西方宗風。是以觀音反聞聞自性之工夫·修

勢至都攝六根淨念相繼之淨業。即淨而禪。孰妙於是。

復永嘉某居士書一

念佛之人。亦非不可持呪。但須主助分明。則助亦歸主。若泛泛然無所分別。一目視之。則主亦非主矣。準提大悲。豈有優劣。心若至誠。法法皆靈。心不至誠。法法不靈。一句佛號。包括一大藏教。罄無不盡。通宗通教之人。方能作真念佛人。而一無所知一無所能之人。但止口會說話。亦可為真念佛人。去此兩種。則真不真皆在自己努力。依教與否耳。至於修行淨土。有決定不疑之理。何必問他人之效驗。縱舉世之人。皆無效驗。亦不生一念疑心。以佛祖誠言可憑故。若問他人效驗。便是信佛言未極。而以人言為定。便是偷心。便不濟事。英烈漢子。斷不至捨佛言而取信人言。自己中心無主。專欲以效驗人言為前途導師。可不哀哉。隨自意三昧。乃從凡至聖通途修法。其言初發心菩薩。雖該攝一切凡夫。實則乃是三心圓發三德圓證之圓初住菩薩。(約別教則是初地)以正因理心發。證法身德。了因慧心發。證般若德。緣因善心發。證解脫德。故能於十方世界。現十法界身。普應羣機。上求下化。汝將謂初發心即凡夫之初發心修行者而已乎。汝見金輪所示悟二空法證實相理。便踴躍歡喜。即欲擔荷。(光)恐汝著魔。故詳示其身分。令汝了然無惑。悟二空法。證實相理。正此初發心菩薩之身分耳。其書中所示之法凡夫皆可依之而修。其所示之身分。且莫說凡夫。聲聞緣覺具大神通。尚不能殫。何況凡夫。其書另刻出時。當諦視之。於無所住生心。(一)不住法而行布施。(二)三輪體空。(三)一道清淨之義。(四 此四句乃佛法綱要、看經修行者宜知之、)大有發明。(光)欲取此義為頌揭出。令閱者得其綱要。已與蔚如言之。而人事叢遫。力不暇及。且待來年。十往生經。乃觀經初首三種淨業之流。刻以傳世。亦無不可。已與蔚如言之。而其錯字等未暇標示。當將原經寄去。古字雖不錯。亦不宜用。至言觀身不觀一切。唯觀無緣。無緣者。即隨自意三昧謂空無所有性。既無所有。故無從用其攀緣。若不從根本上一刀兩斷。則心緣紛紛。何能解脫。

此數語簡略之極。而意義宏深。祈與蔚如言之。

復永嘉某居士書二

法幢和尚。宿具靈根。初為真儒。後為真釋。可謂不枉讀書學道耳。世有真儒。方有真僧。彼無賴之徒出家者。固皆破壞佛法之魔王外道也。其語錄皆痛快直捷。豁人心目。可以刊板流通。以為禪家法寶。然此乃唯發揮直指人心見性成佛之道。吾人專修淨業。勿於彼言句中捉摸卜度。以致兩失其益。不可不知。宗家提倡。唯指本分。此外概不闡發。其修因剋果。斷惑證真。皆密自修持耳。門外漢見宗家不提此等修證道理。遂謂宗家全不用此等法。便成謗宗及謗佛謗法矣。馬僧摩見地高超。文字美妙。亦可壽梓流通。王幻如於宗門非無見處。但以不肯深研教理。兼亦絕未親近知識。故祇成一個宗門文字知見而已。其人於光緒廿一年乙未春至普陀。於法雨寺住持化聞和尚座下披剃。未受戒。居半載歸家。而遂復為居士。初冊中謂丙申至普陀。與化聞為知己。擬欲剃染。因家事促歸。其言行不相應。於此可見。(光)曾見其人。未與一言相交。問其常與相晤者。彼何行持。言亦不念佛。亦不看經。其明心錄中所說。半皆彼昔時鏡花集中之言。其禪宗之意。實有所得。禪宗之行。實未措辦。故致不知時務。妄投法藥。致令無知無識者。學此空套子話。反撥棄經中實理實事以自盲盲人耳。其始終不露出朝代及年號者。皆其意欲後世謂己是上古之高人已。此全體是凡夫生死結業心。何嘗有任運隨緣自樂天真之意。此等人亦不可讚。恐人因我讚而認彼為全是。亦不須謗。恐人因我謗而謂彼為全非。但子守子法。吾行吾道即已。那有閒工夫論他家不關己分之閑事乎。卍蓮淨土詩小序。前兩行發明遮表一心。亦屬謬論。善導專修淨業。可名表專一心。永明萬善圓修。何名遮專一心。直是一錯到底。當雲淨土法門。修有專圓。由眾生根器不一。致諸祖立法不同。善導令人一心持名。莫修雜業者。恐中下人以業雜致心難歸一。故示其專修也。永明令人萬善齊修。回向淨土者。恐上根人行墮一偏。致福慧不能稱性圓滿。故示其圓修也。要之人未到大徹大悟地位。其立言決難無弊。

譬如井蛙·祇見一井量之青天而已。隨自意三昧校正重刻序·於初發心菩薩·約大心凡夫·通說。約圓教初發心住菩薩·正說。了此則不生我慢與退屈二種過愆矣。

復永嘉某居士書三

普陀已來過幾次·當在家息心念佛·不可常來。來則曠功費日耗財·於己於他·均無利益。未曾來過·一瞻菩薩道場則可。已經來過·便可在家供養恭敬禮拜。豈菩薩唯在普陀·不徧界以應感乎哉。觀音菩薩·常在一一切眾生起心動念處·顯大神通·演說妙法。無奈眾生迷背錯過·孤負慈恩。倘能常念觀世音菩薩名號·自於一切時一切處·常蒙覆被矣。宜以此意·轉告一切知交。

復永嘉某居士書四

茲知欲居通州之意。雖志在成就子弟·而不知子弟之成·唯在家教。凡屬子女·必須從幼教以孝弟忠信·勤儉溫恭。至其長而入學讀書·方有受益之基。倘自幼任性而慣。且無論無天姿無善教。即有天姿有善教·亦祇成得個文字工人·儒門敗類而已。世有才高北斗·學富五車·而其所作所為·皆仗此聰明·以毒害生靈·毀滅道義者。其原皆由初無家教以為之肇也。文王刑于寡妻·至於兄弟·以禦於家邦。與大學欲治天下國家者·必從格物致知誠意正心而起·同一臭味。此儒門教人希聖希賢之無上秘訣。舍是而求·皆其末耳。為今之計·子女當能言語知人事時·即於家庭先令認字塊。(女子雖不必令其造大學問、斷不可不識字、不通文理、母尚宜胎教、若識字通文理、則所生子女、便易為學矣、)每一塊紙方·祇寫一字·不可兩面俱寫。若兩面寫·則便同記口歌矣。日限幾字·每日將認過熟字·又須徧認一二過。不上年餘·便認許多。後讀書時·凡讀過者·通皆認得·不致有祇記口歌之弊。凡彼力能為者·必須令其常做以習勤。(如洒掃執侍等)凡飲食衣服·勿令華美。但凡拋撒五穀及損壞什物·無論物之貴賤輕重·必須告其來處不易·及折福損壽等義。倘再如此·定遭撲責·決

不放過。如此則自能儉約·斷不至奢侈暴殄。及能讀書·即將陰騭文·感應篇·令其熟讀·為其順字面講演之。其日用行為·合於善者·則指其二書之善者而獎之。合於不善者·則指其二書之不善者而責之。(彭二林居士家、科甲冠於江浙、歷代以來、遵行二書、其家狀元甚多、然皆終身守此不替、)如金入模·如水有堤。豈有不能成器·仍舊橫流之理乎。人之為人·其基在此。此而不講·欲成全人·除非孟子以上之天姿則可矣。然讀書之時·不可即入現設學校。宜合數家請一文行兼優深信因果之師·令其先讀四書及五經耳。待其學已有幾分·舉凡文字道理·皆不被邪說俗論所惑。然後令其入現學校·以開其眼界·識其校事。不致動與時乖·無由上進矣。能如是·則有天姿者·自能有為。無天姿者·亦為良善。獨善兼善·自利利他·實不外此老僧常談也。又前在揚州請感應彙編十三部送人·雲雷亦送一部。次日雲雷至寓·令為汝帶一部去。彼令送餘人·言當於有正書局去請。不知已請與否。此書文筆議論·悉皆超妙。(有三幾處微有礙、然大體俱好、故可取、)但不如安士全書之貫通佛法耳。除安士全書之外·當推此為第一。然此不易與婦孺開道。(光)於揚州·因見此書首未刻感應篇文。令其補刻。因尋其書·遂遇一本感應篇直講。此書係大通家所著·其註直同白話。但順文一念·其義自顯。最宜於幼年子女。今將此寄來·以企依此訓誨其子女·將來必能得實用而釋親憂矣。(王雷夏曾刻彭希涑二十二史成應錄、係正史事實、最易令人警惕、止有二本。)

復永嘉某居士書五

蔚如所說·頗有道理。但爾我乃無知無識自了漢·其教人亦以自了漢之法則。彼乃欲人大通佛法·方期由茲深信淨土。故致表面似不相合·而內情實各有所主·各有所長。及其弊也·則各有所失。若能取其益·不致成弊·則法門之大幸也。然而難矣。如來諸祖所立之法·後人尚依之成弊·況吾儕乎。但各守一法·以期自利兼以利於有緣者·則可耳。無緣者佛尚不能度·吾儕縱設種種法·亦將曰奈何奈何而已。蔚如兩書·過譽不慧·令人慚惶無地。此之派頭·斷不可學。學之則

是令人疑藐古人·反致彼此受損矣。汝書說得亦甚有理。但（光）事體甚多·無暇詳述。彼請問者·合則告之·違則令其別參高人。如市間店鋪·各有專售之貨。或一種貨·亦可通商裕國·興家立業。或多種貨·亦不過通裕興立而已。吾人既不豎大法幢·檢得大富長者門首所棄之殘羹餽飯以自資養。有不嫌酸臭者·不妨展轉相施。否則任伊取龍肝鳳髓以自資補。豈曰盡人皆貽·盡人皆受我此殘羹餽飯·方愜吾心哉。市間專售一貨者往往起家·俱售眾貨者或亦折本。弘法利生·何獨不然。千機並育·乃如來出世事。如來降跡為善知識·亦不以此為準。吾法法不通·但肯念佛·亦可仗之以了生死。吾之不通·亦何愧哉。所愧者言行不相應·有名而無實耳。

復永嘉某居士書六

嘉夢奇特·必有嗣書香而繩祖武·出類拔萃之嘉男·賜自佛天也。不勝欣慰·賀賀。華嚴經雲·一切眾生皆具如來智慧德相·但因妄想執著·不能證得。是知智慧德相·乃生佛所同。即性德也。有妄想執著·離妄想執著·則生佛迥異。即修德也。修德有順有逆。順性而修·愈修愈近。修極而徹證·證而了無所得。逆性而修·愈修愈遠。修極而永墮惡道·墮而了無所失。了此則愚者可賢·賢者可愚·壽者可夭·夭者可壽。富貴貧賤·及與子孫之蕃衍滅絕·一一皆可自作主宰。則有憑據者亦可無憑據·無憑據者亦可有憑據。如山之高不可登·人不能由·不妨鑿巖設砌·則絕頂亦可直到矣。古今人不知隨心造業隨心轉業之義。多少大聰明大學問人·弄得前功盡棄·尚且遺害累劫。若不修德·即親身做到富有天下貴為天子·與夫位極人臣聲勢赫奕之宰輔地位·有不即世而身戮門滅者哉。是親得者皆無憑也。袁了凡頗會此義。故一切所享者·皆非前因所定也。前因俗所謂天。天定者勝人·謂前因之難轉也。人定者亦可勝天·謂兢業修持·則前因不足恃。是以現因為因而消滅前因也。若恣意妄為則反是。了此則欲愚者賢·庸平者超拔·皆在自己之存心修德與隨時善教而已。可不以努力栽培·以祈嘉夢有據也已。

復永嘉某居士書七

一行居集·其刻字跡過細·少刷數千部。此蔚如諸人不仔細體貼處。其校對頗精細·不見錯訛。其書誠為淨宗之一大護衛。然亦有令人受病之處·今不得不為汝說·餘人當從略耳。二林居士最信扶乩·所錄乩語·實皆與教脗合。若肯依之而行·自能得大利益。然彼一時也·此一時也。倘執著乩語皆悉與教脗合·皆悉可依從。必有從乩違教之失。乩中多係靈鬼·絕少真仙。縱是真仙·豈能超於諸佛諸祖之上。切不可以二林居士尚信乩·吾人何敢不信。則錯之多多矣。內有禪宗秘密了義經跋·謂為的係佛說。此二林之差別智未開·而啟後人濫漫杜撰之端也。此經法雨先亦有一本·(光)曾看一過·其語實無過咎。但是摘取楞嚴華嚴圓覺金剛等經·及六祖壇經·並淨宗合會禪淨二宗之語句以湊成之。通家看之固有益·不通家以此准一切乩語則誤。(光)因燒之以滅禍胎。二林為之校正重刻·此二林之智只知其有益·而不知其流弊之無窮。將有以邪說作正教·皆此一跋倡導之也。若(印光)刻此書·斷不刻此一跋。流通佛法·大非細故·豈可不慎之於始哉。爾我世外人·何須賀節賀歲。陽曆過年·何亦送片相賀·豈非無事生事。即堯曆過年·亦不須賀。此世諦人情之俗套·如有因緣·隨便提句亦可。特為賀歲數千里轉致一片·則不如息心省事為妙矣。

復永嘉某居士書八

接手書·知由病中蒙三寶力·化險為夷。方知生死了手·非一門深入·不克濟事。因研閱淨宗各書。方知彌陀為我發願立行·以期成佛。我違彌陀行願·以故長劫恆淪六道·永作眾生。了知彌陀乃我心中的佛·我乃彌陀心中的眾生。心既是一而凡聖天殊者·由我一向迷背之所致也。如是信心·可為真信·從此信心上·發決定往生之願·行決定念佛之行。庶可深入淨宗法界·一生取辦·一超直入如來地·如母子相會·永樂天常矣。雖然·知之匪艱·行之維艱。世有一班掠虛漢·聞得心佛眾生三無差別之理·或由閱教參宗·悟及此理。遂謂

我與佛同。而了無所用。其若修若證。遂放心恣意於一切境緣之中。誤謂六塵即覺。貪瞋癡即戒定慧。何須制心攝身。無繩自縛。此種見解。最為下劣。謂之執理廢事。撥無因果。如以畫餅充飢。陵空作屋。自誤誤人。罪豈有極。以善因而招惡果。三世諸佛。名為可憐憫者。汝當仗此心佛因果不二之理。切實修持信願行法。則往生可期。成佛有望矣。幸甚慰甚。一行居集禪宗秘密了義經序。已與蔚如言之。彼回書雲。彼絕未見此經。故刻時忽略過去。當將此序抽去。免滋疑誤。又令刻字須粗。以期多刷。彼亦言已與刻工囑令粗些。又言於二月初當即北上。(光)亦不問仍復從政與否。然北京現創刻經處。非蔚如照應不可。戒煙方散佈四遠。有依之戒者。皆得藥盡病除。真神方也。如來說法。原為被機。故有為實施權。開權顯實。五時施化之事。又以仗自力了脫則難。仗佛力了脫則易。兼以末世眾生。根機陋劣。故特開淨土法門。俾上中下三根。等蒙利益。同登不退。世有好高務勝者。不觀時機。每以多分不能契悟者。令人修習。其意雖亦甚善。然約教而遺機。則其用力也多。而得益者少矣。

復永嘉某居士書九

來書頗合善導專修之說。又契吾人庸劣之機。喜甚。眾生習氣。各有所偏。愚者偏於庸劣。智者偏於高上。若愚者安愚。不雜用心。專修淨業。即生定獲往生。所謂其愚不可及也。若智者不以其智自恃。猶然從事於仗佛慈力。求生淨土一門。是之謂大智。倘恃己見解。藐視淨土。將見從劫至劫。沈淪惡道。欲再追隨此日之愚夫。而了不可得。彼深通性相宗教者。吾誠愛之慕之。而不敢依從。何也。以短綆不能汲深。小楮不能包大。故也。非曰一切人皆須效我所為。若與我同卑劣。又欲學大通家之行為。直欲妙悟自心。掀翻教海。吾恐大通家不能成。反為愚夫愚婦老實念佛往生西方者所憐憫。豈非弄巧翻成大拙。騰空反墜深淵乎哉。一言以蔽之。曰自審其機而已矣。吾人但安分守愚。一任舉世之人盡作通家。俾佛法大明於世。眾生盡得度脫而已。快何如之。師壽處祈亦以此言告之。弘一師擬僻居深山。可謂

篤信真修之士矣。欣慰無量。

復永嘉周羣錚居士書

汝所說頗有道理。慰甚。生死大事。須當預辦。若待臨行方修。恐被業力所奪。閉方便關。拒絕不急事緣。甚為有益。羅臺山之不往生墮福處。在於文字氣習重耳。此習既重。則雖曰念佛。實念念在文字裏做工夫。念佛工夫。祇是支撐門面而已。此文人通病。非臺山一人而已也。世智辨聰。佛謂為八難之一者。正為此也。念佛欲得一心。必須發真實心。為了生死。不為得世人謂我真實修行之名。念時必須字字句句從心而發。從口而出。從耳而入。一句如是。百千萬句亦如是。能如是。則妄念無由而起。心佛自可相契矣。又須善於用心。勿致過為執著。或致身心不安。或致起諸魔事。都攝六根。淨念相繼。依此而行。決無歧誤。了凡四訓。不知是鈔安士書中者。或單有流通之本。(光)見一流通本。積善篇中。缺十條因果事蹟。若欲排印當以安士書後所載者校之。缺則補之。訛則改之。序文湊千餘字。意雖可取。文不舒暢。(光)本欲發揮四訓未暢之旨。而意為詞阻。究亦無所發明。但弁之於首。亦可作互相參證之微益耳。又現在見佛之志。可謂真切。然此事頗不容易。當以都攝六根。淨念相繼。以期一心不亂。為決定主宰。於未得一心前。斷斷不萌見佛之念。能得一心。則心與道合。心與佛合。欲見即可頓見。不見亦了無所礙。倘急欲見佛。心念紛飛。欲見佛之念。固結胸襟。便成修行大病。久之。則多生怨家。乘此躁妄情想。現作佛身。企報宿怨。自己心無正見。全體是魔氣分。一見便生歡喜。從茲魔入心腑。著魔發狂。雖有活佛。亦未如之何矣。但能一心。何須預計見佛與否。一心之後。自知臧否。不見固能工夫上進。即見更加息心專修。斷無誤會之咎。唯有勝進之益。世間不明理人。稍有修持。便懷越分期望。譬如磨鏡。塵垢若盡。決定光明呈露。照天照地。若不致力於磨。而但望發光。全體垢穢。若有光生。乃屬妖光。非鏡光也。(光)恐汝不善用心。或致自失善利。退人信心。是以補書所以耳。永明雲。但得見彌陀。何愁不開悟。今例其詞曰。

但期心不亂・不計見不見。知此當能致力於心與佛合之道矣。

復弘一法師書

接手書・知發大菩提心・誓證念佛三昧。刻期掩關・以祈遂此大願。(光)閱之不勝歡喜。所謂最後訓言・(光)何敢當。然可不盡我之愚誠以奉之乎。雖固知座下用此種絡索不著・而朋友往還・貧富各盡其分・則智愚何獨不然。但盡愚誠即已・不計人之用得著與否耳。竊謂座下此心・實屬不可思議。然於關中用功・當以專精不二為主。心果得一・自有不可思議感通。於未一之前・切不可躁妄心先求感通。一心之後・定有感通・感通則心更精一。所謂明鏡當臺・遇形斯映・紆紆自彼・與我何涉。心未一而切求感通・即此求感通之心・便是修道第一大障。況以躁妄格外企望・或致起諸魔事・破壞淨心。大勢至謂都攝六根・淨念相繼・得三摩地・斯為第一。敢為座下陳之。

復無錫尤惜陰居士書

居士無我・樂受磋磨。但有誤會(光)意之失・故首稱師尊・不用印光法師四字。未免於(光)於己・皆所未安。夫(印光)一粥飯僧耳。稱為法師・已經過分之極。然通途泛稱・亦不能不如是。至於不名・且稱為師尊・實失正名交友之道。下次切勿用此故套。至於署名之下・古今通用・凡平交皆當如是・非於尊者前方用和南頂禮等也。今禮教陵遲・凡研究佛學者與知識信劄・多皆用合十合掌謹啟等・而不肯稍屈。夫禹拜昌言。子夏喪明怨天・曾子責之・尚投杖而拜。是同儕有一言啟迪於我者・皆以屈禮謝之。今行於歧路・有所不決・擬欲問人尚須合掌。況欲資之以了生死大事・而以行路之儀奉之・是輕法也。輕法則不能實得法益。昔古靈贊禪師大悟後・欲報剃度師恩・多方啟迪。其師異之・令其為伊宣說。彼謂當設法座・令其師迎已升座禮拜・然後可說。其師依之・遂於言下大悟。使古靈不如此重法・其師不如此重得法之人。莫道不說・說亦只得文字知見而已。決不能一言之下・明白本心。語雲・下人不深・不得其真。夫如來滅度・所

存者唯經與像。若以土木金彩等像視作真佛。即能滅業障而破煩惱。證三昧而出生死。若以土木金彩視之。則亦土木金彩而已。又土木金彩。褻之則無過。若以褻土木金彩之佛像。則其過彌天矣。讀誦佛經祖語。直當作現前佛祖為我親宣。不敢稍萌怠忽。能如是者。我說其人必能即生高登九品。徹證一真。否則是遊戲法門。其利益不過多知多見。說得了了。一絲不得真實受用。乃道聽塗說之能事也。古人於三寶分中。皆存實敬。不徒泛泛然口談已也。今人口尚不肯談一屈字。況實行乎。昔清世祖章皇帝。拜玉琳通琇禪師為師。尚欲取一法名。琇師謂帝王何須用此。彼不肯。祈取一醜字眼名之。玉琳乃書十餘醜字。令其自選。乃取一癡字。其派在行字輩。故名行癡。凡與玉琳之法徒書。其署名則雲法弟行癡和南。開國之皇帝尚如此自屈。若以今人推之。當先加以刑。然後問法。方合其式。否則平人失其為平人。皇帝失其為皇帝矣。(光)於佛學。一無所得。如盲對五色。聾對五聲。了不知其如何為聲。如何為色。然於主敬存誠之表面。頗願竭我愚誠。以盡他山石之小益。既屬心交。當不以瑣屑棄之。

擬答某居士書附某居士原書

(鄙人信從淨土、已決定奉行、而於願行兩字、尚須乞教、願與行是否兩種分運、抑須同運、一、若以兩種而論、則念佛時先發願求生、如慈雲十念求生文然後再念、惟念佛時只存心外無佛佛外無心之旨、心口如一、歷歷而轉、於念念中但存這麼念、並亦無求生之願、而依此念法往生均屬上品、此是照徹悟禪師之語、二、若以願行同運而論、則念佛時聲聲如嬰兒墮水急呼母救、此杭州玉峯禪師之說、又若堅密大師雲、六字洪名、念念之間、欣厭具足、與玉峯師說正同、惟以上兩說、第一說所雲、念佛時似少懇切之旨、滿益大師曾雲、求生淨土、全賴信願、若無信願、則雖念至風吹不入、雨打不濕、如銀牆鐵壁、亦無得生之理、然則雖念到一心不亂、恐未能十足穩當、照第二說所雲、雖念佛時願行具足、而念念之間、心中多存一願、則於一心不亂似又嫌不純、近時杭僧口口師亦以不能兼顧、不能不顧為慮、

玉峯有用兵之喻、末學純根未明究竟、想高賢必有確論以作後學津梁。)

淨土法門·以信願行三法為宗。如鼎三足·缺一不可。閣下既已篤修淨業·信之一字·諒已全體擔荷·究竟無疑矣。至於願行二法·似猶有彼此對待之執·不能融會貫通。致於圓融無礙法中·生起許多障礙。俾徹悟堅密滿益三大師之普照萬彙圓滿月光·祇因一絲當目·便成分隔矣。惜哉。今謂真念佛人·當念佛時·信願行三·全體具足。如子憶母·其間斷無狐疑不信·與不願見母之念頭可得。說甚同運分運·說甚願存則一心不純。原是一個·何得頭上安頭·以不能兼顧及不能不兼顧為慮。觀閣下之所說·與某僧之論·皆實未能著實從事·乃於未發足前·先擬議到家景象。故於古人對治分別之法言·反生出種種分別。試問心外無佛·佛外無心·不懇切而能然乎·無信願而能然乎。徹悟堅密二師之語雖有異·而意實相資而相成。認做分運同運·可謂無擇法眼。至於滿益所說·乃是為一輩倚傍宗門·念自性彌陀·生唯心淨土·及不依淨土宗旨而修·但以念至一心不亂為究竟極則事者之法藥也。何可引此淨宗門外之事·以例信願具足之真修·致門徑混濫也。此上約理通說也。若約事別說·發願當於朝暮念佛畢時·(晨朝十念·亦先念佛後發願)或用小淨土文。若身心有暇·宜用蓮池大師新定淨土文。此文詞理周到·為古今冠。須知發願讀文·乃令依文發願耳。非以讀文一徧·即為發願也。除朝暮發願外·一切時但以至誠懇切念佛即已。

與高鶴年居士書

南五臺山·乃千三百年前·觀世音菩薩·現比丘身·降伏毒龍·所開之古道場也。亦蓮宗八祖·雲棲蓮池大師·中興蓮宗之發源處也。明嘉靖時·有性天文理老和尚者·隱居此山無門洞。後因雲遊至杭州·住西山黃龍庵。蓮池大師仰其道風·與夫人湯氏·歸依座下。不二三年·又依之出家。使此老無有出格道德·豈能令如大師之博學鴻詞·躬行實踐·盛德君子·屈身座下·始終依止·以為弟子乎。大師出家

後·老人復歸關中。大師志慕徧參·未能遠從。而關中法道·至清乾隆後·日漸式微。哲人雲亡·志乘佚失·致老人嘉言懿行·無由永傳於世·何勝悼歎。然以異地之僧·能令蓮池歸依出家·可以想見其為人。事見雲棲法彙蓮池大師塔銘中。其派為宗福法德義·普賢行願深·文殊廣大智·成等正覺果。大師正在殊字輩。其改為祿者·以洪武時·有一高僧·洪武詔見·甚加優寵·特以玉盞·賜乳令服。因詠謝恩詩·有一盞瓊漿來殊域·九重恩德自上方之句。洪武姓殊·遂謂殊者·歹殊·是罵己。即令斬之。及斬·乃悟其非罵·而已悔無所及矣。此宿世殺業所感·業力現時·不能自主。殺業之難消如此·可不戒哉。如來於諸戒之中·皆以殺戒居首。其深慈大悲·至極無加矣。而迷倒愚夫·不知感恩·反加謗毀。勢必從劫至劫·互相殺戮·可不哀哉。蓮池大師以此之故·去歹加衣·而用祿字。世多不察·每每訛作從示之祿。其不識字義·粗心浮氣·有如此者。而大師慎微杜禍正名順言之道·遂因之埋沒·惜哉。無門洞者·即今之湘子洞。億昔或名湘子洞·老人居之·改為無門洞。及老人去世·無知僧俗·不知無門之義。以韓湘子修行成仙為奇·故仍呼為湘子洞耳。何以知之·南五臺山·無有大洞·可以住人。亦無有洞·名無門者。唯湘子洞·高深寬大·可以住人。兼復僻居山后·上下懸崖。而逼近聖泉·柴水方便。又復地勢向陽·冬暖夏涼。遊人樵夫·皆所不至。洵為辦道最勝之地。咸同以來·兵火連綿·以故久無人住。至光緒初·法忍冶開等老·卜居於此·至今成大蘭若。而道由人宏·地由人靈·可不信哉。名無門者·蓋以大士以普門法道·度脫眾生。老人效法大士·名其居曰無門。亦取楞伽佛語心為宗·無門為法門之義。須知無門即是普門。良以法法頭頭·迷之則皆可起惑造業·悟之則皆可斷惑證真。故楞嚴二十五聖·於六根·六塵·六識·七大·各證圓通。故無一法不是三諦妙理·亦無一法不契三德秘藏。唯其普皆是門·故不須另立一門·而號為無門焉。居士幸住此山·諒亦宿受此老之法潤所致。宜將此意詳告大茅篷主僧。令知有高人故事·及無上甚深之真正名目在。不可仍以外道虛

名·相沿傳去·以致失卻佛法中之正名耳。攝身巖者。以其峯巒陡峻·壁立萬仞。至其巔者·向下望之·不禁戰兢惕厲·身心悚然·妄想消滅·正念昭彰。即楞嚴所謂都攝六根·淨念相繼之意。蓋以身為總名·六屬別目。以總攝別·故但曰攝身耳。其後哲人悉沒·志乘佚失。無知僧俗·遂訛作捨身。以訛傳訛·無人改正。誣罔名山·莫此為甚。豈有菩薩現身親開之山·而以此害道誤人之名·以名其山峯之理乎。又有魔民·造作魔說·謂觀音於此捨身·方成道果·以誑惑愚夫愚婦。如是齊東無稽之談。玷汙大士·貽辱法道·招外道之邪謗·啟愚人之魔思·為害誠非淺淺。此與普陀以觀音眺作觀音跳·同一魔見。誠令人可歎可恨可悲可憐。南五臺山·開山緣起·昔年毫無根據。光緒十一年·(光)住大頂·親侍大士香火。一日下山·至劉村西寺中·(係大頂下院)見有數碑·所載皆非最初緣起。中有一碑·被水垢封蔽·成一石板。(光)取甃磨之·乃元至元七年依古碑所序之緣起碑也。使(光)不磨出·安知無知俗僧·不取之以作石板用乎。則大士救苦不思議靈跡·永劫埋沒矣。今幸失而復得·故為居士詳言耳。碑記鈔奉·並祈存覽。(碑記列入附錄)

致諦閑法師問疾書

二月下旬·聞公自溫歸來·身嬰篤疾·手足不便運動。光固知我公悲心深重·欲令現在諸學子·及一切四眾·及早努力修行。勿待病魔臨身時·則不易擺脫矣。其直以口說·尚恐不親切·遂現身以說。可謂深慈大悲無以復加矣。光自愧財法兩缺·欲效愚忱·直無其力。但只旁問於根祺然雲輩。後聞佛曦謂病已復原·但足尚不能大行。意謂行固能行·但艱於出外而已。昨萬年寺住持了悟見訪·問及·言喫飯說話·與好人無異。唯手足絕不能動·雖飲食便利·一一須人代為周旋。光竊念病體如此·何以弘法。或令淺見之人·謂佛法無靈。以故數十年講經·天下聞名之大法師。身嬰痼疾·祇管求醫服藥·亦不見愈。彼素謂依教修持·能轉定業·及阿伽陀藥·萬病總持者·皆誑人耳。若其不誑·彼當依教轉彼定業。彼素崇淨土·以彌陀名號為阿

伽陀藥·何不服之。又普門品·觀音圓通·講時不曉得多有道理。直是菩薩跟到稱名求救者。彼既如此·何不放下身心·拌一條窮性命·志心念觀音菩薩·以求身心悉皆安隱。以及得大解脫·獲真圓通也。光念世人多有此見。倘我公能仰求大士垂慈·即令貴體復原·福慧崇朗。則彼淺知淺見者·將斷盡狐疑·增長正信。當相率而出邪途·入佛道·以期普利自他於無既也。是誠所謂以大慈悲·現身說法也。其利益大矣。按周克復觀音持驗記·載一事。其病與公稍同·其人品與公天地懸殊。彼尚能蒙菩薩加被·令其宿業頓消·痼疾立愈。況我公為現在法門第一人·其法道之興衰·係於一身之存亡。倘能將平日與人講普門品·及觀音圓通之全幅精神·用稱念洪名。當不離此心·即蒙消宿業而獲安隱。轉使先生譏誚·謂為佛法不靈者·皆相援而皈依信奉·唯恐或後也。明崇禎辛巳。當塗縣官圩·有山東一癱子至。以手代足·乞食於市·人多厭之。癱者雖病而負氣·被罵詈·輒不平。聞塘橋庵·有修行僧曰水穀·往訴以乞食艱難之苦。穀曰·汝能發心出家·仗慈悲大力·或有施主。癱子從之·遂剃髮·受齋戒。雖行乞·不茹葷血。雖被辱罵·安忍而受。穀又教以念觀世音名號·兼持準提咒。受持踰二年。戊子秋·忽夢一老嫗呼之曰·汝起汝起。癱子雲·我是癱子·何能起。老嫗以手扯其兩足·覺直而不拳。晨起癱病遂愈·居然一昂藏之僧矣。取號曰半崖·遂有供養之者。出唐宜之已求書。觀音大士·唯以尋聲救苦為事。從古至今·其蒙感應而離苦惱者·何止百千萬億也。而載籍所傳·乃億萬中略見一二而已。然公之本心·光固不得而知·且約己淺見為論。即實受安樂·絕無苦惱。亦當以求菩薩救苦·為大眾作榜樣也。

復弘一師書一

座下勇猛精進·為人所難能。又欲刺血寫經·可謂重法輕身·必得大遂所願矣。雖然·光願座下先專志修念佛三昧。待其有得·然後行此法事。倘最初即行此行·或恐血虧神弱·難為進趣耳。入道多門·唯人志趣·了無一定之法。其一定者·曰誠·曰恭敬。此二事雖盡未

來際諸佛出世。皆不能易也。而吾人以博地凡夫。欲頓消業累。速證無生。不致力於此。譬如木無根而欲茂。鳥無翼而欲飛。其可得乎。今將辦法之利弊。並前人證驗。略開一二。庶可隨意作法矣。刺血寫經。有專用血寫者。有合金合硃合墨者。合金一事。非吾人力所能為。憨山大師寫經。係皇太后供給紙與金耳。金書之紙。須用藍色方顯。白紙則不顯。即藍紙金字。亦不如白紙墨字。及硃字之明瞭。光曾已見過矣。若合金硃墨等。則血但少許。以表其志誠心。如憨山於五臺妙德庵。刺舌血研金。寫華嚴經。妙峯日刺舌血為二分。一分研硃書華嚴經。一分著蒙山施食中。施鬼神。高麗南湖奇禪師。見滿益彌陀要解。欲廣流通。刺舌血研墨寫要解。用作刻板底樣刻之。冀此書徧法界。盡來際。以流通耳。其寫一字。禮三拜。繞三帀。稱十二聲佛名。可謂識見超拔。修持專摯者也。此三老之刺舌血。當不須另行作法。刺出即研金硃墨而寫之便了。決非純用血。當仍用水參合之。若專用血寫。刺時先須接於小碗中。用長針盡力周帀攪之。以去其筋。則血不糊筆。方可隨意書寫。若不抽筋。則筆被血筋縛住。不能寫矣。古有刺血寫華嚴。以血筋日堆。塑成佛像。有一寸餘之高者。又血性清淡。著紙即散。了無筆劃。成一血團。其紙必須先用白礬礬過。方可用。礬過之紙不滲。最省血。大紙店中有賣的。不須自製。此係備畫工筆者之用也。其礬過之紙。格外厚重。又復經久。如黃紙已染者便堅實。未染之紙頭即硃脆。古人刺血。或舌或指。或臂或胸前。亦不一定。若身則自心以下。斷不可用。若用則獲罪不淺。不知座下擬書何經。若小部頭。則舌血或可供用。若大部。及專用血書。則舌血恐難足用。須用指及臂血。方可告圓。以舌為心苗。取血過多。恐心力受傷。難於進修耳。光近見刺血寫經者。直是造業。以了無恭敬。刺血則一時刺許多。春秋時。過二三日即臭。夏日半天即臭。猶用以寫。又有將血曬乾。每寫時。用水研乾血以寫之者。又所寫潦草。毫不恭敬。直是兒戲。不是用血以表志誠。乃用刺血寫經。以博自己真心修行之名耳。竊謂指血舌血。刺則不至太多。若臂則一刺或可接半

碗血。與其久則臭而仍用，及曬乾研而方用。似不若最初即用血合硃作錠，曬乾聽用。為不虛耗血，又不以臭血污經，為兩適其宜矣。然此錠既無膠，恐久則硃落。研時宜用白芨再研，庶不至落。又將欲刺血，先幾日即須減食鹽，及大料調和等。若不先戒食此等，則其血腥臊。若先戒食此等，則血便無濁氣。又寫經不同寫字屏，取其神趣，不必工整。若寫經，宜如進士寫策，一筆不容苟簡。其體必須依正式體。若座下書劄體格，斷不可用。古今人多有以行草體寫經者，光絕不贊成。所以寬慧師發心在揚州寫華嚴經，已寫六十餘卷，其筆法潦草，知好歹者，便不肯觀。光極力呵斥，令其一筆一畫，必恭必敬。又令作訟過記以訟己過，告誡閱者。彼請光代作，故蕪鈔中錄之。方欲以此斷煩惱，了生死，度眾生，成佛道。豈可以遊戲為之乎。當今之世，談玄說妙者，不乏其人。若在此處檢點，則便寥寥矣。尤君來書，語頗謙恭。光覆之，已又致謝函，可謂篤信之士。然仍是社會之知見，於佛法中仍不能息心實求其益。何以見之，今有行路之人，不知前途。欲問於人，當作揖合掌。而尤君兩次來函，署名之下，只雲合十。是以了生死法，等行路耳。且書劄尚不見屈，其肯自屈以禮僧乎。光與座下心交，與尤君亦心交。非責其見慢，實企其獲益耳。

復弘一師書二

接手書。見其字體工整，可依此書經。夫書經乃欲以凡夫心識，轉為如來智慧。比新進士下殿試場，尚須嚴恭寅畏，無稍怠忽。能如是者，必能即業識心，成如來藏。於選佛場中，可得狀元。今人書經，任意潦草。非為書經，特藉此以習字，兼欲留其筆跡於後世耳。如此書經，非全無益。亦不過為未來得度之因。而其褻慢之罪，亦非淺鮮。座下與尤居士書，彼數日前亦來信。意謂光之為人，唯欲人恭敬。故於開首即稱師尊，而印光法師四字亦不用。光已詳示所以。座下信首，亦當仍用印光二字。不得過為謙虛，反成俗套。至於古人於同輩有一言之啟迪者，皆以作禮伸謝。此常儀也，無間僧俗。今禮教陵替，故多多皆習成我慢自大之派頭。學一才一藝，不肯下人，尚不能得，況

學無上菩提之道乎。此光盡他山石之愚誠也。刺血寫經一事。且作緩圖。當先以一心念佛為要。恐血耗神衰。反為障礙矣。身安而後道隆。在凡夫地。不得以法身大士之苦行。是則是效。但得一心。法法圓備矣。

復汪夢松居士書

昨接手書。備悉介懷。雖未覲面。卻叨知心。光一介庸僧。毫無淑狀。不過所說皆按己本分。不敢以過頭大話。自瞞瞞人。蔚如居士。以其與己之意見合。遂屢為排印流布。致其殘餽酸臭之氣。徧刺人耳目。不億閣下不以酸臭見棄。而復過為推崇。不禁令人慚惶無地。然由此一函。備知閣下之德與過。不以光為無知。且請言其大略。厭儒者假聖賢經傳以欺世盜名。佛者假普度眾生以誑騙錢財。有此志操。自強不息。必能正心誠意。以為真儒。斷惑證真。以為真佛。厭之之心愈切。則修之之心愈力。修之之心愈力。則證之之益愈大矣。其德誠可繼往開來。若惟知厭而不肯從事。則成厭世疾俗狷介者之志操耳。所謂不善用厭。則即德成過矣。閣下一向似偏於用厭。今於厭中打一轉身。遂全過以為德。而其於儒佛之心法。將必因是而親得矣。敢為閣下預賀。欲為真佛。須先從能為真儒始。若於正心誠意。克己復禮。主敬存誠。孝友弟恭等。不能操持敦篤。則根基不固。何以學佛。選忠臣於孝子之門。豈有行悖儒宗。而能擔荷如來家業。上續慧命。下化眾生乎。佛法大無不包。細無不舉。世出世間。無一法不在範圍之中。世之拘墟者。每以出家為悖倫理。遂不體究。反加謗毀。因噎廢食。自喪性命。實可哀憐。若能放開眼界。方知佛法流布中外。二千年來。其道盛行。經幾多聖君賢相。傑士偉人。為之護持傳佈者。固自有非凡情所測之真道在也。縱有一二拘墟之儒闢之。暴惡之君毀之。究屬集手遮日。仰面唾天。適自形其少知少見。妄作妄為之過咎耳。於佛究何損哉。又有外彰闢撥之名。內取修證之實。由宋以來。凡儒門大宗。莫不皆然。光所謂誠意正心。由此致有欠缺者。實屬決定論也。閣下宿根深厚。故能於厭中企求其真。不以光不肖而求其入階。

然光學喻如蚊蟲飲於大海，只知飽腹，不測深廣。若欲作大通家，須從通途佛學而論。則起信論，楞嚴經，最為切要。當專攻之，以為自利利人，上求下化之本。然其道理宏深，得大通且不易，況由通而親證乎。其餘大乘經論，悉當研究。而法門無量，必須以禪淨二法為本。如是則自可宏揚法化，導利眾生。若非天資高邁，斷難實獲巨益。若欲隨分隨力修持，即生便了生死，當專主淨土一門。以真信切願，念佛求生西方。則不論工夫深淺，無不臨終得遂所願。此之一法，乃如來為末世眾生，無力斷惑，不能了生死者，特設一決定了之之法。使佛不開此法，則無力斷惑者，皆於了生死無望也。何幸得遇此法，雖無大根，能自斷惑。而帶業往生，速出生死，又何歉憾乎。然此一法，統攝一切，能自斷惑，自了生死者。猶須迴心嚮往，方可速登佛地。切勿謂此為淺近之法，以為愚夫愚婦之所從事者，則當自得其益矣。其宜看書，光文鈔中亦略標一二，今不復贅。就欲念佛求生西方，必須知因識果。身之所行，心之所念，須與佛合。若與佛悖，則縱能念佛，亦難往生。以感應之道，不相交故。若能生大慚愧，大怖畏。改過如去毒瘡，立志如守白玉。則萬無一失，各得往生。其意光文鈔，及淨土諸書，皆詳言之，不須多說。

復陳慧超居士書

接手書。知居士慕道之心，極其懇切，不勝欣慰。但以校定安士書，及諸冗務，不暇裁復，故遲至今。貪瞋癡心，人人皆有。若知彼是病，則其勢便難熾盛。譬如賊入人家，家中主人若認做家中人，則全家珍寶，皆被彼偷竊淨盡。若知是賊，不許彼在自家中停留一刻，必須令其遠去淨盡。庶財寶不失，而主人安泰矣。古德雲，不怕念起，只怕覺遲。貪瞋癡一起，立即覺了，則立即消滅矣。若以貪瞋癡為自家正主，則如認賊為子，其家財寶必致消散矣。念佛時不能懇切者，不知娑婆苦，極樂樂耳。若念人身難得，中國難生，佛法難遇，淨土法門更為難遇。若不一心念佛，一氣不來，定隨宿生今世之最重惡業，墮三途惡道，長劫受苦，了無出期。如是則思地獄苦，發菩提心。菩

提心者·自利利他之心也。此心一發·如器受電·如藥加硫。其力甚大·而且迅速。其消業障·增福慧·非平常福德善根之所能比喻也。被境所轉·係操持力淺。則喜怒動於中·好惡形於面矣。操持者·即涵養之謂也。若正念重·則餘一切皆輕矣。是以真修行人·於塵勞中煉磨。煩惱習氣·必使漸漸消滅·方為實在工夫。在家人不隨眾·各人念佛。坐立繞跪·皆無不可。但不可執定一法·若執定·則人易勞而心或難得相應。當斟酌其自己之色力及工夫·而取其合宜行之·則有益矣。若常途通行·宜先繞·次坐·次跪。繞跪皆覺辛苦·宜坐念。坐念若起昏沈·宜繞念·或立念。昏沈去·常復坐念。宜按鐘·不宜掐珠·以掐珠難養心故。安士全書·實為末世最勝良導。尤惜陰居士極欲全國流布。俾大家同開眼界。由茲挽回世道人心·止息天災人禍。現已募得一萬餘部·尚難廣布。今寄上通告·並辦法一張·祈閣下閱之。隨分隨力相助·隨緣隨機相勸。無力出資·則以言讚歎·令人發心·亦是功德。務使迷昧之流·聞晨鐘而夢醒。貪惡之輩·見因果而心驚。人心若轉·天災自息。此係正本清源之道。即世諦淺近之法·而直達乎出世深遠莫測之法之最勝方便也。凡在知交·當為勸發。無信心人·亦勿強勸·以係結善緣故。若一強勉·便雜煩惱。雖有小功·實獲大咎。未能令彼得巨益·有礙自己利人心故。

復鄺隱叟書

昨由嘉興海屍道人處·轉來閣下手書。知其久攻道學·深有所得。今又欲問津於佛法中·成始成終之淨土法門。可謂宿生曾於佛法深種善根。不執河伯之拘見·而擬知法海之要津也。既知海屍道人·何不問彼。乃捨高明而求卑劣·致負所望。夫海屍者·乃宗教兼通·禪淨雙修·實生死海中之大願船也。但以謙抑過甚·故以屍名。生死海中·若遇此屍。管保速登彼岸·歸家安坐矣。若光者·尋常粥飯僧耳。法門中事一無所知。然既謬為過問·不妨為君稍除疑滯而已。竊以釋道本源·原無二致。其末流枝派·實有天殊。佛教教人·最初先修四念處觀。觀身不淨·觀受是苦·觀心無常·觀法無我。既知身受心法·

全屬幻妄。苦空無常無我不淨。則真如妙性。自可顯現矣。道教約原初正傳。亦不以煉丹運氣。唯求長生為事。後世凡依道教而修者。無一不以此為正宗也。佛教大無不包。細無不舉。不但身心性命之道。發揮罄盡無餘。即小而世諦中孝弟忠信。禮義廉恥等。亦毫善弗遺。唯於煉丹運氣等。絕無一字言及。而且深以為戒。以一則令人知身心為幻妄。一則令人保身心為真實耳。此所謂心。乃指隨緣生滅之心。非本有真心也。煉丹一法。非無利益。但可延年益壽。極而至於成仙生天。若曰了生脫死。乃屬夢話。閣下既知仙劫有數。佛壽無量。當此高年。正宜於念佛法門。專精緻力。其餘禪教諸法。且從簡略。以彼諸法。廣大深遠。不易研窮。即窮到極處。尚須歸宗淨土法門。方能究竟了辦。凡淨土經論。當急急研窮。依教奉行。不可以己見不到。稍生一念疑心。仰信佛祖誠言。生信發願。持佛名號。自能蒙佛慈力。接引往生。一得往生。則便超凡入聖。了生脫死。長侍彌陀。參隨海眾。當即徹證無生。速登補處矣。迴視成仙而為天帝所轄。殆天淵相隔矣。閣下所言夢東語錄。及彭紹升諸說。似皆煉丹家抄錄妄行改削之文。非從原書中見也。以煉丹家亦有以打坐為參禪者。故雲念佛與參禪同。與道法少別。與道法少別一句。的是丹家糅入。除此一句外。其上下之文。雖於義無大謬。然亦僂侗顛預。夢東語錄。絕無此文。殆彼取其義。而實不知其所以然者之抄錄耳。今亦不須詳辨。祈息心看夢東語錄自知矣。所引彭二林居士語。亦與此同。而其訛更有甚焉。所雲阿彌陀佛四字易念。只要念念相續一心不亂。才能一氣循環。精氣神凝聚一處。久之成舍利子。再久之結為菩提珠。而成佛矣。此語乃以念佛法。作煉丹法。二林斷斷不為此語。正眼未開。援正入邪。諸多此類。慧命經。仙佛合宗。乃其甚者。引人之語而不知其義。妄為改削。以作己法之證。其饑理誣人。惑世誤人之罪。非口筆所能宣也。欲圖一時之虛名。不懼長劫之實禍。如來稱為可憐愍者。至雲迴光返照之法。雖無大礙。兩眼看著指尖。當是鼻端之訛。此或是二林居士所立。雖亦有益。然長時合掌。甚為吃力。固不如觀鼻端白之安

樂自在・身心各適其適也。以初心習定・念難歸一。若能常觀鼻端・則心自不外馳而紛動耳。此係最初之淺近法耳。夢東語錄・乃錢伊庵居士・於夢東遺集中・摘其專示淨土言句・於南方流通・以補久仰無緣會晤之憾。全集北京則有・南方唯伊庵略本。此書詞理精妙・為蕩益省庵後之第一著作。若於此書能一踏到底・諦信無疑。光敢保閣下蓮蕊敷榮於珍池・臨終即託質其中・而為淨土之嘉賓矣。彌陀要解・為自有此經以來之妙註・實為修淨業者之指南。其書載於淨土十要之首。淨土十要・乃大師採淨土著述之最契理契機者・匯而成之。共十種・故名十要。以要解註經・故居其首・乃尊經也。言舍利者・係梵語。此雲身骨・亦雲靈骨。乃修行人戒定慧力所成・非煉精氣神所成。此殆心與道合・心與佛合者之表相耳。非特死而燒之・其身肉骨發變為舍利。古有高僧沐浴而得舍利者。又雪巖欽禪師剃頭・其髮變成一串舍利。又有志心念佛・口中得舍利者。又有人刻龍舒淨土文板・板中出舍利者。又有繡佛繡經・針下得舍利者。又有死後燒之・舍利無數・門人皆得。有一遠遊未歸・及歸致祭像前・感慨悲痛・逐於像前得舍利者。長慶閑禪師焚化之日・天大起風・煙飛三四十裏。煙所到處・皆有舍利。遂羣收之・得四石餘。當知舍利・乃道力所成。丹家不知所以・妄億是精氣神之所煉耳。以丹家見佛法中名相・不究本而著跡。故以己丹家之事・妄為附會耳。得菩提道則成佛。未聞煉精氣神・先為舍利子・後為菩提珠而成佛也。丹家保固色身・謂其保之及極・則可成佛。此其一證。明眼人見之・不值一笑。丹家所謂性・所謂命・皆在色身神識上作活計。反謂佛教止知修性・不知修命。不知彼之所從事者・皆係佛教之所破除者。觀四念處・自可了知。慧命經・係清初魔民柳華陽所著。彼出家為僧・而種性邪謬。故引佛經中文・一一皆以己意妄會・以作煉丹之證。有不便者・則改其字句・而且又自為註。其意欲人以己為千古第一高人。而一班無知無識輩・為之刻板・私相授受。恐明眼人知之・則殃禍不淺。凡看此種書者・皆邪正不分之流。若具眼者見之・當即付之烈火・以免瞎天下後世人之正眼。

仙佛合宗。其誣謗佛法。比慧命經為更甚。夫欲煉丹。即以己煉丹家之言論倡導即已。何得挽正作邪。作掩耳盜鈴之計。引人之言而不依人之義。即慕其名而反惡其實。豈非喪心病狂。求升反墜乎哉。此等本不足掛齒。何堪詳談。但以閣下未知彼此之源雖同。彼此之流迥異。若不分辨。則尚以丹法為負郭田。不能如莊復真之直下捨彼而取此耳。光豈好辯哉。誠恐含糊其詞。致閣下二門皆不得其益矣。觀世音菩薩。於往劫中。久已成佛。號正法明。但以慈悲心切。雖則安住常寂光土。而復垂形實報方便同居三土。雖則常現佛身。而復普現菩薩。緣覺。聲聞。及人天六道之身。雖即常侍彌陀。而復普於十方無盡法界。普現色身。所謂但有利益。無不興崇。應以何身得度者。即現何身而為說法。普陀山者。乃菩薩應跡之處。欲令眾生投誠有地。示跡此山。豈菩薩唯在普陀。不在他處乎。一月麗天。萬川影現。即小而一勺一滴水中。各各皆現全月。若水昏而動。則月影便不分明矣。眾生之心如水。若一心專念菩薩。菩薩即於念時。便令冥顯獲益。若心不志誠。不專一。則便難蒙救護矣。此義甚深。當看印光文鈔中。石印普陀山志序自知。名觀世音者。以菩薩因中由觀聞性而證圓通。果上由觀眾生稱名之音聲而施救護。故名為觀世音也。普門者。以菩薩道大無方。普隨一切眾生根性。令其就路還家。不獨立一門。如世病有千般。則藥有萬品。不執定一法。隨於彼之所迷。及彼之易悟處。而點示之。如六根六塵六識七大。各各皆可獲證圓通。以故法法頭頭。皆為出生死成正覺之門。故名普門也。若菩薩唯在南海。則不足以為普矣。閣下於佛菩薩不思議事理。概未究心。故於此淺近之事。悉皆迷悶不了耳。此上所說。乃以閣下所問而談。實非閣下究竟得益之淨土法門之事也。若欲詳說。則太費筆墨。當請無量壽經。觀無量壽佛經。淨土十要。淨土聖賢錄。徹悟語錄。看之。自知其若何修。若何證也。又徐蔚如居士。哀集印光應酬筆劄。兩次排印於京。名印光法師文鈔。二本。所代來者。已經散了。今春又令商務印書館另編重排。兼令留板。而本館又謂凡各處分館。皆為代售。現在尚未出書。或年終春初

出書・祈購而閱之。雖無大發揮・而於初機頗有小益。以故蔚如為之屢印・而期其廣傳也。閱此・則禪淨之界限分明・自力佛力之利益大小・明如觀火。自不致欲了生死・不知路頭。並於一切法中・見其法法圓妙・不至無所適從耳。

復尤弘如居士書

閣下宿根深厚・慕道心切。又與弘一大師・向為摯友。今又欲扳光為蓮池會中法契・不勝欣忭。但以曬經因緣・不暇即復・歉甚。光少失問學・老無所知。近三二年・每有謬聽人言・有所問訊者・然祇以己之所知所能者告之。至於佛法之精義・禪定之實證・則非光所知。亦不敢以不知為知・而妄為談敍也。弘一師博學多聞・以光雖固陋・而其居心頗真實・其修行頗依固陋者之本分・故相與周旋・實未一覲其面。今發心掩關・拒絕一切・當必親證念佛三昧・以之餉一切有緣也。不勝盼望之至。今人研究佛法・多多皆欲作一通家。擬於一切大眾前・清談高論・令人悅服。少有為了生死特學佛法者。閣下若欲作第一等人・則光之知見・了無裨益。當請益於當世緇素中之大通家・則可不孤所期。若欲即俗修真・以有限光陰・兼營世事・又期即生定了生死者。則光不妨以聞於古人者・轉以告閣下也。夢東雲・真為生死・發菩提心・以深信願・持佛名號。此十六字為念佛法門一大綱宗。此一段開示・精切之極・當熟讀之。而夢東語錄・通皆詞理周到・的為淨宗指南。再進而求之・則蕩益老人彌陀要解・實為千古絕無而僅有之良導。倘能於此二書・死心依從。則即無暇研究一切經論・但常閱淨土三經・及十要等。仰信佛祖誠言・的生真信・發切願。以至誠恭敬・持佛名號。雖在暗室屋漏・如對佛天。克己復禮・慎獨存誠。不效近世通人・了無拘束・肆無忌憚之派。光雖生死凡夫・敢為閣下保任即生便可俯謝娑婆・高預海會。親為彌陀弟子・大士良朋矣。如於淨土一法・不能死盡偷心・決志修持。於主敬存誠・克己復禮等・猶欲以不執著・為疏散放逸作遮護之巧符。則其所得之利益・固非光劣知劣見所得而知也。餘則光蕪鈔中已備言之・故不多瀆。看經一事・

惟恭敬方能得益。若不恭敬·縱得·亦不過依文解義之益。而其業消智朗·徹悟自心·斷斷無此僥倖。況褻慢之過·有不可勝言者乎。此舉世通病·可為痛哭流涕長太息者。

復戚智周居士書一

既在杭州·便可息心辦道。何須待香會過·又來普陀。大士無刹不現身·何處不好禮拜供養。即曰特為見光·亦不必來。文鈔此番所印·有九十餘篇。光滿腹中草料·通通倒出矣。豈更有口傳心授之秘訣·以私授於汝乎。光學識褊淺·無大發揮。然能依之而行·決定有益無損。決定能了生死於現生·侍彌陀於沒後。誠恐視為卑劣·則卑劣矣。譬如金木泥彩所造之佛·以真佛敬之·即可成佛。以金木泥綵視之·則亦金木泥綵而已。然褻金木泥綵·則無罪愆。若褻金木泥綵之佛像·則罪過彌天矣。善得益者·無往而非益·鴉鳴鵲噪·水流風動·無不指示當人本有天真。(禪宗所謂祖師西來大意)況光之文鈔·文雖拙樸。所述者皆佛祖成言。不過取其意而隨機變通說之·豈光所杜撰乎哉。光乃傳言譯語·令初機易於曉了耳。然雖為初機·即做到極處·亦不能捨此別修。以淨土一法·乃徹上徹下之法。非如小乘之法·大乘便不用以修習也。

復戚智周居士書二

光順師至·持汝手書。並夏布蓮子交光。言汝已住伊庵等情。竊念汝資非餘裕·何須效世諦人情·作投桃報李之儀。爾我以道相交·當以直道而行耳。茲既寄來·當以為作福之資。謝謝。令嚴·令岳母·既生信向。當時以淨土利益為之啟迪。令其信心·由微而著。倘能信願真切·決定可生淨土。其為孝也·豈世間之孝所能比擬乎哉。汝於淨土修法·尚未了了。當唯以翻閱研究淨土為事。半日學解·半日學行。必期於徹頭徹尾·了無疑惑而後已。楞嚴正脈·且作緩圖。縱親見如來藏妙真如性·亦不能即了生死。見性是悟·非是證。證則可了生死。若唯悟未證·縱悟處高深·奈見思二惑不能頓斷·則三界輪迴·

決定莫由出離矣。若不通楞嚴·倘淨土法門·能仰信佛言·決定無疑。真信切願·以修實行。則決定往生·為極樂世界中人。況兼現世國界危岌。尚欲以危險時際·有限精神。作不急之法務·企得大通家之名聞·以充體面。致自己專修一事·竟成瞞盱乎哉。倘淨土法門·悉皆諦信深知。不妨再研楞嚴·及各經論。汝昔求光開示·光以文鈔相寄·尚不一一全閱。光固知汝不知緩急·泛泛然學時人研究佛經·只期作一通家而已。光文鈔文字雖劣·頗能示人修持門徑。昔大智律師·深通台教·嚴淨毘尼。行願精純·志力廣大。唯於淨土·不生信向。後因大病·方知前非。嗣後二十餘年·手不釋卷·專研淨土。方知此法·利益超勝。遂敢於一切人前·稱性發揮·了無怖畏。雖則三歲孩子·亦會念佛。汝此法門徑·尚未認清。又非講期見逼·如講家之擬撐門庭·何須先研楞嚴·不以歸家識路為急務乎。至於光之所說·不過塘塞差事·不致負彼來意。豈真能顯示楞嚴之要義乎。如來欲令一切眾生·就路還家。故令二十五聖·各陳宿因。末世眾生·無論上中下根·皆當以勢至念佛法門·自利利人。都攝六根·淨念相繼。反念念自性·性成無上道。此居士所當致力者。至於徵心辨見·破陰超濁。且待念到心佛不二·心佛兩忘·親證念佛三昧後·再商量。則可如世尊拈華·迦葉微笑矣。否則入海算沙·腦暈心迷。說食數寶·飢寒莫濟。知好歹者·決不以吾言為河漢也。

復戚智周居士書三

光意欲令閣下·安居己家·即俗修真。上可感發上人·發生淨信。下可率其妻子·同沾佛恩。如必欲寄居他寺亦可。至於聽經·不須往靈隱去·以慧明法師·脫略文義·專以援引宗門公案為事。大達之人·或得其益。初機之士·將茫無所從。稍聰明點·或致宗教混濫。其過誠非淺鮮。普賢十願·文殊一行·若能精修·一切經論即不貫通·亦可頓脫煩籠·高預海會。若於此仗佛力一法·信不真·靠不定。即深通宗教·亦只是口頭三昧。欲以此口頭三昧了生死·真同欲以畫餅充飢。必致途窮深悔·而毫無裨益也。現今世道·不知將來作何相狀。

尚欲以將盡之光陰·作不急之務哉。光雖有修山志之願·若非大士冥加·俾目力明瞭·斷不能從事。倘目力有餘·何地不堪纂集。而必欲往杭·借居他所耶。祈專心念佛·即是真法門眷屬。切勿來山·以致彼此為難。至於必欲出家·當另禮高明知識·斷勿以光為隔礙·不便另拜餘師·致失巨益也。甯波觀宗諦法師病未好·亦不須往彼聽經。古人雲·少實勝多虛·大巧不如拙。說得一丈·不如行取一寸。真心為己者·其繹思之。

復范古農居士書一

淨土一法·以信願行三法為宗。唯其具真信切願·方有篤行。禍害迫切·便能誠懇·優遊無事便寬緩·此凡夫通病也。然當今之時·其世道局勢·有如安臥積薪之上。其下已發烈火·但未燒至其身。轉瞬則全體熾然·徧界無逃避處。尚猶悠忽度日·不能專志求救於一句佛號·其知見之淺近甚矣。佛法諸宗修持·必到行起解絕·方有實益。不獨淨宗修觀為然。宗家以一無義味話頭·置之心中·當作本命元辰。不計時日·常為參叩。待至身心世界·悉皆不知·方能大徹大悟。非行起解絕乎。六祖謂但看金剛經·即能明心見性。非行起解絕乎。愚謂起之一字·義當作極。唯其用力之極·故致能所雙忘·一心徹露。行若未極·雖能觀念·則有能有所。全是凡情用事·全是知見分別·全是知解·何能得其真實利益。唯其用力及極·則能所情見消滅·本有真心發現。故古有死木頭人·後來道風·輝映古今·其利益皆在極之一字耳。又今人多尚空談·不務實踐。勸修淨業·當理事並進·而尤須以事為修持之方。何也·以明理之人·全事即理。終日事持·即終日理持。若理事未能大明·一聞理持·便覺此義深妙。兼合自己懶惰懈怠·畏於勞煩持念之情·遂執理廢事。既廢於事·理亦只成空談矣。願閣下以圓人全事即理·為一切人勸·則利益大矣。

復范古農居士書二

中陰者·即識神也。非識神化為中陰·即俗所謂靈魂者。言中陰

七日一死生・七七日必投生等・不可泥執。中陰之死生・乃即彼無明心中・所現之生滅相而言・不可呆作世人之死生相以論也。中陰受生・疾則一彈指頃・即向三途六道中去・遲則或至七七並過七七日等。初死之人・能令相識者・或見於晝夜。與人相接・或有言論。此不獨中陰為然。即已受生善惡道中・亦能於相識親故之前・一為現形。此雖本人意念所現・其權實操於主造化之神祇。欲以彰示人死神明不滅・及善惡果報不虛耳。否則陽間人不知陰間事。則人死形既朽滅・神亦飄散之瞽論・必至羣相附和。而舉世之人・同陷於無因無果・無有來生後世之邪見深坑。將見善者則亦不加惕厲以修德・惡者便欲窮凶極欲以造惡矣。雖有佛言・無由證明・誰肯信受。由其有現形相示等・足徵佛語無妄・果報分明。不但善者益趨於善・即惡者其心亦被此等情理折伏・而亦不至十分決烈。天地鬼神・欲人明知此事。故有亡者現身于人世・陽人主刑於幽冥等。皆所以輔弼佛法・翼讚治道。其理甚微・其關係甚大。此種事古今載籍甚多。然皆未明言其權之所自・並其事之關係之利益耳。中陰雖離身軀・依舊仍有身軀之情見在。既有身軀之情見・固須衣食而為資養。以凡夫業障深重・不知五蘊本空・仍與世人無異。若是具大智慧人・則當下脫體無依。五蘊空而諸苦消滅・一真顯而萬德圓彰矣。其境界雖不必定同・不妨各隨各人之情見為資具。如焚冥衣・在生者只取其與衣之心。其大小長短・豈能恰恰合宜。然承生人之情見・並彼亡人之情見・便適相為宜。此可見一切諸法・隨心轉變之大義矣。死之已後・尚未受生於六道之中・名為中陰。若已受生於六道中・則不名中陰。其附人說苦樂事者・皆其神識作用耳。投生必由神識與父母精血和合。是受胎時・即已神識住於胎中。生時每有親見其人之入母室者・乃係有父母交媾時・代為受胎。迨其胎成・本識方來・代識隨去也。欲海回狂・卷三第十二頁・第八九十十一十二行・曾有此問。原答頗不中理・光為之改正・當查閱之。原答雲・譬如雞卵・有有雄者・有無雄者。未有識托之胎・如卵之無雄者也。不知卵之無雄者・即令雞孚・亦不生子・何可為喻。光只期

理明·不避僭越。故為居士陳其所以。圓澤之母·懷孕三年。殆即此種情事耳。此約常途通論。須知眾生業力不可思議。如淨業已成者·身未亡而神現淨土。惡業深重者·人臥病而神嬰罰於幽冥。命雖未盡·識已投生。迨至將生·方始全分心神附彼胎體。此理固亦非全無也。當以有代為受胎者·為常途多分耳。三界諸法·唯心所現。眾生雖迷·其業力不思議處·正是心力不思議處·亦是諸佛神通道力不思議處。光近十餘年·目力不堪為用·故於經論不能廣引以證。然其理固非妄出臆見·以取罪戾也。死生·眾生之大事。因果·教化之大權。願閣下不惜廣長舌·以因果報應為轉煩惱生死·成菩提涅槃之一助。則法門幸甚·眾生幸甚。

復吳希真居士書一

念佛一法·約有四種。所謂持名·觀像·觀想·實相。就四法中·唯持名一法·攝機最普·下手最易·不致或起魔事。如欲作觀·必須熟讀觀經。深知是心作佛·是心是佛·及心淨佛現·境非外來唯心所現·不生取著。既不取著·則境益深妙·心益精一。能如是·則觀想之益·殊非小小。如觀境不熟·理路不清。以躁妄心·急欲境現。此則全體是妄·與佛與心·皆不相應·即伏魔胎。因茲妄欲見境·心益躁妄·必致惹起多生怨家·現作境界。既最初因地不真·何能知其魔業所現。遂大生歡喜·情不自安。則魔即附體·喪心病狂。縱令活佛現身救度·亦末如之何矣。須自量根性·勿唯圖高勝·以致求益反損也。善導和尚雲·末法眾生·神識飛颺·心粗境細·觀難成就。是以大聖悲憐·特勸專持名號。以稱名易故·相續即生。誠恐或有不善用心·致入魔境也。宜自詳審。又志誠懇切·亦消除躁妄魔境之一妙法也。宜竭盡心力以行之·則幸甚。

復吳希真居士書二

得預楞嚴法會·何勝慶倖。觀想一法·非理路明白·觀境熟悉·無躁妄欲速之心·有鎮定不移之志者·修之·則損多益少。至於實相

念佛。乃一代時教。一切法門。通途妙行。如台宗止觀。禪宗參究。向上等皆是。所謂念自性天真之佛也。楞嚴一經。實為念實相佛之最切要法。然又為持名念佛。決志求生極樂。無上大教。何以言之。最初徵心辨見。唯恐以妄為真。錯認消息。迨其悟後。則示以陰入界大。皆如來藏妙真如性。乃知法法頭頭。咸屬實相。既悟實相。則覓陰入界大之相。了無可得。而亦不妨陰入界大行布羅列。所示二十五圓通。除勢至圓通。正屬持名。兼餘三種念佛之外。餘者總為念實相佛法門。以至七趣因果。四聖階位。五陰魔境。無非顯示於實相理。順背迷悟之所以耳。如是念實相佛。說之似易。修之證之。實為難中之難。非再來大士。孰能即生親證。以此之難。固為持名念佛之一格量勸贊。了此而猶欲仗自力以斷惑證真。復本心性。不肯生信發願。執持佛號。求生西方者。無有是處。以實相徧一切法。持名一法。乃即事即理。即淺即深。即修即性。即凡心而佛心之一大法門也。於持名識其當體實相。則其益宏深。外持名而專修實相。萬中亦難得一二實證者。能得蘇東坡。曾魯公。陳忠肅。王十朋等之果報。猶其上焉者。了生脫死一事。豈可以志大言大而成辦乎哉。宜自詳審。是知實相之理。不可不知。息心研究楞嚴。則凡聖因果迷悟修證之若事若理。明如觀火。而自力佛力。持名實相之利益大小。亦明若觀火。固當若自若他。皆期以即持名而實相。決不致以好高務勝。離持名以修實相。致使徒有修心。而無證果也。

復吳希真居士書三

佛視眾生皆是佛。眾生視佛皆是眾生。佛視眾生皆是佛。故隨順機宜。為之說法。俾得消除妄業。親證本有。即一切眾生皆得究竟涅槃。了不見我為能度。眾生為所度。以彼原是佛故。眾生視佛皆是眾生。故西天九十五種外道。及此方拘墟儒士。莫不竭盡心力。多方毀謗。必期於佛法斷滅。了無聲跡。而其心始快。然杲日當空。集手焉遮。適足以彰佛法之光明。而形自己之淺陋而已。有宿根者。由謗佛闢佛因緣。遂復歸依佛法。為佛弟子。代佛揚化。無宿根者。當乘此

業力·永墮阿鼻地獄。待其業報盡時·往劫聞佛名之善根·當即發現。由茲方入佛法·當即漸種善根·以至業盡情空·復還本有而後已。甚矣·佛恩之廣大深遠·莫能形容也。一句染神·永為道種。譬如聞塗毒鼓·遠近皆喪。食少金剛·決定不消。能如是生信·是謂正信。爾宜勉之。又善得益者·無往而非益。甘受損者·無往而非損。今之人每以世智辨聰之資·研究佛學。稍知義路·便謂親得。從茲自高位置·藐視古今。且莫說現今之人·不入己目。即千數百年之高僧·多有古佛再來·或法身菩薩示現者。彼皆以為庸常·不足為法。未得謂得·未證謂證。聽其言·高出九天之上。察其心·卑入九地之下。如是習染·切宜痛除。否則如貯醍醐於毒器中·便能殺人。若能念念返究自心·不但如來所說諸法·即能得益。即石頭碌磚·燈籠露柱·以及徧大地所有種種形色音聲·無非第一義諦實相妙理也。謂古今無人者·何曾夢見。祈諦信而勉行之。

與陸稼軒居士書

昨晚鶴年居士·持來莊居士所書法華經。見其筆法堅勁精秀·不勝欽佩。但其用筆·猶有文人習氣。於流通法道·似有未合。如俗體帖體變體等·則有從俗之弊。又有執泥古體·如魔作磨·懸作縣·瑪瑙碑礫作馬腦車渠·陣作陳等·則有違時之失。如必曰悉依古文·即時行正體·皆不堪用。則字字皆須更換·無一字可用矣。楊仁山破泥古者曰·字須遵時·何必泥古。如必欲從古·且請先從人入二字改起。古人字作入·入字作人。如人入不能改·則餘字何須特改。且古體亦非當日蒼頡所制之字·不知幾何變更·方成此體。君既好古·宜從蟲文鳥書為正體·則吾無由置喙矣。否則畢竟為無事生事·勞而無功。生今反古·聖有明訓。如莊居士志在流通·當一掃文人習氣·字字遵時。凡諸破體俗體等·一概不用。俾一筆一畫·皆可為法。則刊而傳之·令見者聞者·發起信心。光雖固陋·當為序贊。此本且請保存家中·以為後世子孫作遺念可也。又凡書經·中縫必須書經名卷數頁數·俾閱者一目了然。即紛亂亦不難整理。何可不依此法·以致後遇不通

佛法之人·便成顛倒錯亂之咎。祈將中縫宜書之字·按頁補足。則書經功德·方堪圓滿矣。光目力不給·兼以略無閒暇·未能逐一齊閱。其中有三四字·隨便標出。餘未閱者·不能知也。

復劉智空居士書

昨接手書·知久病始愈·不勝欣幸。生死事大·無常迅速。耳聞者之驚懼·遠不如身歷者之痛切也。當發起大菩提心·以教家親眷屬·外及朋友故舊·及有緣者·則其利溥矣。書中言念佛急進·中氣虛極·此汝不善用心所致。夫念佛一事·當隨各人力量·隨便出聲默念·大聲小聲·皆無不可。何得一向大聲念·致令傷氣受病耶。然汝此大病·雖由傷氣而起·實無量劫來業力所現。以汝精進念佛之故·逐轉後報為現報·轉重報為輕報。即此一病·不知消幾何劫數三途惡道之罪。佛力難思·佛恩難報·當生大慶倖·生大慚愧·生大淨信。以淨土一法·自行化他。俾家中眷屬·與一切有緣者·同生西方。則可不負此病·及佛為現身也。普陀可不必來·以來往用費·動須數十。居家念佛·一易進功·二不需費。甚好甚好。

復周智茂居士書

周木居士鑒·接手書·知生淨信心·欲皈依佛法。然皈依佛法·必須諸惡莫作·眾善奉行·力敦倫常·恪盡己分·生信發願·念佛求生西方。並須戒殺護生·吃素·如不能淨素·亦當以不貪食為是·更須持六齋·或十齋·否則便與佛相背矣。今為汝取法名為智茂·以心性如木·由煩惱障蔽故·心性不能顯現·如木枯槁。既有智慧·則煩惱不生·而心性之木自然茂盛也。所言五戒·且自考心·如能受而不犯·則向化三問其佛前受之規矩·彼當教汝·光不備書。既皈依佛法·當熟讀文鈔·依之而行·自不致受庸人所誤·致求來生福報·及外道煉丹運氣·以求成仙等。汝果能領會得文鈔義·縱百千外道·亦不能搖動汝心。且勿謂此係光所說·恐不足依據。須知光乃取佛菩薩祖師善知識之意而說·非光自出心裁妄說也。祈慧察·則幸甚。

汝心高如天·志劣如地·口雖雲依光所說·實則全依自己偏見。淨土法門·唯信為本·信得極·五逆十惡皆能往生。信不及·通宗通教未曾斷惑者·皆無其分。汝既不能通宗通教斷惑證真·仗自力以了生死。又不信佛力不可思議·自性功德不可思議·若具真信切願念佛求生西方·無一人不得生者。淨土法門·乃即生了生死之無上直捷圓頓法門·於此法門方向尚未知·便以好高務勝之狂妄心·去研究起信論。起信論實為學佛之綱要·然於劣根·及初機人·亦難得益。即研得起信論通徹無疑·其用工尚須依念佛求生·方為穩當。況法相禪教之精微奧妙高深而不可企及乎哉。汝心如此其高·乃不知分量之高。其志又謂根性劣弱·何望生西·但能不墮惡道·此堪自慰。不知不生西方·將來必墮惡道。此係違背佛教·及與光說·何可雲始終奉行教誨·一心持念彌陀乎哉。今以汝之身·膺人之職業·又非上等資格·其所立之心與志·真令人可歎可笑。汝且息彼做大通家之狂妄心·專心研究淨土法門中書·文鈔與高邵麟徐女士書中備說。隨所開示·依之生信發願·不以自己根器下劣·高推往生於度外。且常隨動隨靜·將一句彌陀·當做本命元辰。其居心行事·須要與諸惡莫作·眾善奉行之宗旨合。儻有餘力·諸大乘經·不妨隨意受持讀誦·當以志心受持為本·且勿急欲洞徹其義理為事也。果能志誠之極·教理自會透徹。若先欲透徹·不從志誠持誦做·即透徹亦效實益·況決難透徹乎。法相禪教·畢生研究·也難得其旨歸。即得·誰能不斷惑業·了生脫死。欲斷惑業了生死·恐夢也夢不著。汝於光文鈔尚未詳閱·故其所說·高則沖於霄漢·卑則入乎滄溟。文鈔中屢屢說所當看之書·及看經等法則·並法相禪教之難以得益處。以淨土法門·仗佛慈力·其餘法門·皆須己力。一為通途教理·如世之士人·由資格而為官。一為特別教理·如世之王子·一墮地即為一切臣宰所恭敬。二種法門·不可並論·而具足惑業之凡夫·可不慎所擇哉。流通基金·縱欲增益·何可作募緣辦法。有信心有財力者·與之商量·俾其補助·即可矣。又經典甚多·汝心欲大開門庭·鄭州有幾箇人請。但取普通人能看者·請以備

購。有大部普通人不看者，須預訂，轉為代請，則省資本，亦不至請來售不出，將錢佔到不得受用耳。汝自謂來日無多，實力有限，光故作如此說。儻不以為然，仍依自己心相而行，則光亦不強汝。能做得一箇大通家，亦是佛門之幸。恐汝大通家做不到，淨土法門又信不及，則兩頭落空。今生稍修點功德，來生必定生於富貴家。汝試細思之，富貴人有幾箇不造業的。今日之國運危岌，民不聊生，皆是一班無智慧修行人之來生福報所搗亂而成者。汝打甚麼窮妄想，欲不墮惡道。不生西方，則一生不墮者或有之，二生不墮者便少也。

佛說經呪甚多，誰能一一徧持。古人擇其要者列為日課，早則楞嚴大悲十小呪心經，念畢，則念佛若干聲，回向淨土。晚則彌陀經，大懺悔，蒙山，念佛回向。今叢林皆圖省工夫，早則只念楞嚴呪心經，晚則單日念彌陀經，蒙山，雙日念大懺悔，蒙山。汝言禪門日誦經呪甚夥者，不知乃朝暮課誦外之附錄者。在家居士，功課亦可照禪門朝暮功課做，亦可隨自意立。如早晚專念彌陀經往生呪念佛，或早則專念大悲呪念佛，晚則念彌陀經往生呪念佛。或有持金剛經者亦可。然無論誦何經持何呪，皆須念佛若干聲回向，方合修淨業之宗旨。汝之所說，乃見異思遷，雖是好心，實為心無定主，隨境所轉。何經何呪，不稱讚其功德殊勝。依汝知見，則看此經必廢彼經，持此呪則廢彼呪，以力不能兼顧，勢必如此，是尚得名為明理真修之士乎。再推廣言之，汝若遇參禪者讚禪而破斥淨土，必至隨彼參禪。及他天臺，賢首，慈恩，秘密各宗，每遇一知識提倡，必至捨此修彼。不知汝是甚麼根性要做法法皆通之大通家，但以業深智淺，大通家做不到，並將仗佛慈力帶業往生一法置之度外。到臨命終時，不向鑊湯鑪炭裏去，定向驢胎馬腹裏去。即幸而不失人身，以今生尚無正智，頗有修行之癡福，以茲享彼癡福，便造惡業，一氣不來，直入三途，欲得知天地父母之名尚不能，況得知淨土法門乎。汝看光文鈔，作麼生解，須知一句阿彌陀佛，持之及極，成佛尚有餘，將謂念彌陀經念佛者，便不能滅定業乎。佛法如錢，在人善用，汝有錢則何事不可為。汝能專修一法，

何求不得。豈區區持此呪念此經。得此功德。不得其餘功德乎。善體光言。自可一了百了。否則縱說的多。汝仍是心無定見。有何益乎。凡夫在迷。信心不定。故有屢信屢退。屢修屢造之跡。亦由最初教者不得其道所致。使最初從淺近因果等起。便不至有此迷惑顛倒也。然已往之罪。雖極深重。但能志心懺悔。改往修來。以正知見。修習淨業。自利利他。而為志事。則罪障霧消。性天開朗。故經雲。世間有二健兒。一者自不作罪。二者作已能悔。悔之一字。要從心起。心不真悔。說之無益。譬如讀方。而不服藥。決無愈病之望。倘能依方服藥。自可病癒身安。所患者立志不堅。一暴十寒。則徒有虛名。毫無實益矣。

復某居士書

易本聖人觀象立法。示人以明明德親民之道。非徒只為卜吉凶已也。後世學者。捨本逐末。遂成藝術。可哀也已。試觀每卦之大象。其語言多剴切詳明。如乾卦。則曰天行健。君子以自強不息。坤卦。則曰地勢坤。君子以厚德載物。六十四卦之大象。可錄之一幅。以為立身行道之準。將由此以繼往聖。開來學。豈區區然只成一算命之藝。以求糊口而已哉。吾言不足為輕重。試熟讀各卦之大象。自可悉知。況各卦之全文。及一部之全文乎。易乃聖道之源也。故孔子讀至韋編三絕。年將七十。尚期天假以年。以期學易而免大過。其自強不息。厚德載物。為何如哉。願深長思之。則幸甚。

復黃智海居士書

接手書。知修持嚴密。欣慰之至。五旬外人。兼以事務多端。只好專修淨業。若泛泛然研究。或恐經論不能大通。淨業反成副事。所言性心意之分別。心。多約體而言。意。即念慮。乃心之用。性。則約心體之不變動者為論。若泛言之。心性皆可通稱。而意則必指其念慮而已。然心有真心。有妄心。言約體者。乃指真心。妄心亦屬念慮。乃心體上之妄念耳。藏通別圓四教。乃如來隨眾生根機。說相契之法。

有此等義。故智者依義而立此名目。藏教。為小乘根性。說經律論之三藏。故名藏教。大乘亦有三藏。此單指小乘說耳。通教。乃大乘初門。以根機不同。鈍根則通前藏教。利根則通後別圓。故名通教。別者。各別。此教獨菩薩法。所有教。理。智。斷。行。位。因。果。一一各別。未能如圓教之圓融互攝。故名別教。圓者。圓滿。圓融。以法法圓融。法法圓具。故名圓教。此教為最上佛法。乃佛以自己所證所悟之理。與一切大根菩薩所說者。當看教觀綱宗。自知其義。若欲用筆墨敘說。不但太費力。且不如看彼之為得也。末世眾生。根機淺薄。欲於教義禪宗。得真利益。甚難甚難。唯淨土法門。方可依怙。試觀顯蔭之死。遠不如愚夫愚婦。而顯蔭之所知。非愚夫愚婦所能企及。而愚夫愚婦之所得。又非顯蔭所能企及。正光所謂性水澄清。由分別而昏動。識波奔湧。因佛號以淳凝。故致上智不如下愚。弄巧翻成大拙也。願居士專志淨業。勿歆羨於宗通說通。庶可於了生脫死。不成畫餅。周德廣。二月初二。念佛坐逝。無悲戀之情。有悅豫之色。當必直入蓮邦。為彌陀弟子矣。去年病中。發願以所積萬金作善舉。因以七千元交光。三千四百元。印大士頌一萬部。一千六百元印不可錄。二千元印新排之增廣文鈔。餘三千元。作別種善舉。其子四人。俱不甚豐裕。而能以親所積者。為親作功德。不肯自己受用。亦可謂難行能行矣。祈專志淨宗。勿被密宗現身成佛之語所動。現身成佛。乃理性。非事實。若認做事實。則西藏東洋之佛。不勝其多。且勿說平民。即班禪之心行作為。佛氣尚無。況說成佛乎。以彼於民不聊生之時。猶然不惜百姓脂膏。任其鋪排耗費。而錢到己手。便當命寶貴。毫無慈悲喜捨之念故。顯蔭自命得密宗正傳。謂佛法東流中國。唯弘法大師教理圓妙。歷斥中國各宗祖師。皆不及弘法大師之正傳。而死時竟成一業識茫茫。無本可據之人。其已現身成佛矣。何又結果如是也。祈洞鑒是幸。

菩薩之心。猶如太虛。無不包括。欲利益眾生。作種種方便。先以欲鉤牽。後令入佛智。不得以凡夫知見。妄生測度。以彼已證法忍。

了無人我之可得。唯欲攝受一切眾生，入於如來大覺法海。若有計校，便屬情見，便與無人我之道，不能冥契矣。雲布施頭目髓腦，則誠然。至於妓女綵女等，不過擴充菩薩布施之心，不可以詞害意。若死執其語，則願令阿僧祇世界妓女充滿之文，又將如何安置乎哉。此顯菩薩內外俱捨，了無貪惜。內而頭目髓腦，外而國城妻子，無一法生貪著，故能於生死中獨得解脫。彼受施者，由菩薩願力攝持，或於即時，或於後世，無不親蒙利益，了生脫死。如歌利王之割截身體，後為最初得度之憍陳如。此種如太虛量之大菩提心，何可以凡夫小知小見測量。須知未得法忍之凡夫，心中當慕菩薩之道，其行事當依凡夫常理。否則便於住持法道，或有妨礙。若未證無生法忍，即不住持法道，亦不宜學菩薩之捨頭目髓腦等。以自力不足，不堪忍受，若自若他，俱無所益。凡夫須按凡夫能行者行之，則可矣。

復潘對臯居士書

前者大夢未醒，致有衝突，不勝慚愧。今夢醒矣，本欲無言，然恐閣下或有未喻，且略陳之。孟子雲，有不虞之譽，有求全之毀。孟子此語，極確切，而未明其所以然。佛說一切利，衰，毀，譽，稱，譏，苦，樂，各有前因，致獲現果。了此，則只宜自懺宿業，何暇怨人乎哉。所以君子上不怨天，下不尤人，素富貴行乎富貴，素貧賤行乎貧賤，素夷狄行乎夷狄，素患難行乎患難，受寵若驚，受辱不怨，逆來順受，無往而不自在逍遙也。此傳作於民國十三年，彼在青島悅來公司，函告於（光），實未寄文來。（光）極力呵斥，令毀其稿。至今年四月，彼持其自作之年譜令（光）看，於十三年譜內，有此文。（光）即將傳文撕作粉碎，極力呵斥，謂彼是甚麼人，何得自作年譜。而又何得妄造謠言，陷（光）於以凡濫聖，藐視天下宗教知識，及賢士大夫之極大罪中乎，令永勿再錄。至八月，因催印觀音頌到申，于友人處，見彼油印之文（光）持回撕之。時彼亦寄居太平寺，謂之曰，汝以此恭維（光），甚於持刀殺（光）百千萬倍，令勿流布。豈知彼早已寄於海潮音令登報矣。及閣下寄來，（光）意謂才印未久，尚可收拾。

所以祈蔚如勸閣下盡行焚燬·務成愛我之實。又令上海居士林·淨業社·各於林刊月刊聲明·免致不知者謂彼承（光）意而作耳。及閣下來書·方知不可收拾·遂悟孟子·子思·及佛所說之各事理·而心中已於此了不介意。是蓋宿業所使·只可自怨宿生少栽培·何暇怨彼之妄造謠言乎。馬契西此舉·（光）於一切前境·皆悉無煩計慮·或可完我天真·卒能無愧於自心耳·則是因禍而得福·實為大幸。閣下所印之傳·隨閣下意·燒之也好·散之也好。如其愛我情殷·略將（光）誠彼之意·撮略敍百數十字·印于皮子裏邊之白墊紙中·以免無知者之效尤更好·並非為洗雪此誣·免人唾罵也。何以故·唾罵者愈多·（光）得利益愈深·以非（光）自為·而（光）受唾罵·則其消業障而增福慧·有如金剛經十六分所說者。（光）色力衰弱·冗事繁多·以致淨業工夫·徒慚疏略·得此因緣·用作不修而獲益之據·幸何如之。

與聶雲台居士書

接貴家語·不勝欽佩。文正公心法·閣下得而傳之·故能脫離富貴習氣·樂我天真·不隨物轉也。致某君書·實為振興頹敝之妙法·恐某君無此志向·則了無所益。然公之眾覽·必有肯取法者。盜竊因緣·推至其極·則可以為聖為賢·實為救世至文。由是知因果之道·至深至遠·彼以因果為權漸小乘者·皆道聽塗說之流也。光常曰·因果者·世出世間聖人·平治天下·度脫眾生之大權也。當今之世·若不提倡因果報應·雖佛菩薩聖賢俱出於世·亦末如之何矣。又曰·善教兒女·為治平之本·而教女尤要。又曰·治國平天下之權·女人家操得一大半。以世少賢人·由於世少賢女。有賢女·則有賢妻賢母矣。有賢妻賢母·則其夫其子女之不賢者·蓋亦鮮矣。彼學堂提倡男女平權·直是不知世務。須知男有男之權·女有女之權。相夫教子·乃女人之天職·其權極大。不於此講究。令女子參政等為平權·直是不識阜白者之亂統也。光之愚見如是·不知閣下以為然否。如其不甚悖謬·敢祈大加發揮·亦未始非挽回世道之一助也。

復喬智如居士書

凡人做事·當認真做·不可潦草塞責。況佛弟子為監獄之教誨師·有感化人心·成就正器之責任乎。語云·君子思不出其位·既膺此職·必期於令監犯革心服化為事·則功德大矣。所言三女居士·既欲歸依·當與彼說·要吃素念佛·求生西方·不可求來生人天福報。必須要諸惡莫作·眾善奉行·戒殺護生·善教兒女。兒女雖小·萬不可任性嬌慣·必須對彼常說因果報應·使彼心中常存畏懼·自然不至將來作傷天損德之事。此提倡因果報應·及善教兒女·乃天下太平之根本法輪·對一切人·皆當以此相勸·非但為女人言也。陳吳氏法名志清·康金氏法名志淨·倪康氏法名志澄·總以出此濁惡世界·生彼清淨佛國為志而已。祈為函致·兼說光所囑之意·令彼作一真實修行人·並教兒女亦修行·庶不愧歸依佛法之一大事也。天下治亂·在於家庭中操之有道與否·此根本上之切實議論也。

復江易園居士書

接手書·知貴地淨土法門·由閣下提倡·得以大行·慰甚。光徒張虛名·毫無實德·但願有益於人·即屬虛張聲勢·其損在我·而人或得益·亦所樂為。如談梅口酸·想崖足戰·雖無實事·人起斯心。亦非無益。至於閣下擬以慈覺故事·直令光慚愧無地耳。光願再寄二十包文鈔·以期送有緣·並留圖書館以長供閱覽。又今之提倡佛學·須注重於淨土法門·及因果報應。並令入社之人·各各戒殺護生·各各善教兒女。國之荒亂·由乏賢人·其源由家無善教而始。而家庭之教·母教更為要緊·故教女比教子關係更大也。有賢女·則有賢妻賢母矣。人少有賢母·長有賢妻·欲不為賢人·不可得也·此正本清源圖太平之良策也。願閣下於提倡佛學時·諄諄以此告之·庶佛法世間法皆振興也。

復唐大圓居士書

觀汝書言學生話·不禁令人好笑。今說一喻·譬如太醫院禦醫·

凡醫書·病源·脈訣·讀得熟如明鏡映現·及至臨證·則茫無所從·不知該用何藥。汝之所問·與此醫生見識·毫無有異。佛法原是教人了生死的非只當一種高超玄妙話說說。彼下劣知見之當哲學研究佛法者來·必須先對彼說佛說法之所以然·是要人對治習氣·洗心滌慮·敦倫盡分·慈悲仁讓·諸惡莫作·眾善奉行·斷惑證真·了生脫死·自利利他·共證真常·漸次修習·至成佛道耳。所有經教·皆為發明如上所說諸事理故。若唯求明瞭·不欲實行·豈非優人作戲·尚得謂之為學生乎。如其天姿聰敏·不妨研究性相各宗·仍須以淨土法門而為依歸·庶不至有因無果·致以了生脫死之妙法·作口頭活計·莫由得其實益也。必須要主敬存誠·對經像如對活佛·不敢稍存怠忽·庶幾隨己之誠大小·而得淺深諸利益也。至於根機鈍者·且專研究淨土法門·果真信得及·守得定·決定現生了生脫死·超凡入聖·校彼深通經論·而不實行淨土法門者·其利益奚啻天地懸殊也。如上所說·無論甚麼資格·最初先下這一味藥。則無論甚麼邪執謬見·我慢放肆·高推聖境·下劣自居等病·由此一味阿伽陀萬病總治之藥·無不隨手而愈。汝學到一肚皮佛法·於此二種學生·便沒奈何。可知汝但知說藥·自己也未實行·使汝實行·斷不至懷此種疑。而以昔某某為文殊普賢之儔·此皆由不能鑑別真偽·遂致茫無所從·或至以偽為真也。汝父之不能吃素·由於不細心體貼·反身而觀。設使自己作了食物之牲·斷不至願人殺而食我·今有五穀養命·尚欲助其貪饒·生死不了·到了被人食時·誠可哀閔·而已無可救援矣·哀哉。念如已剃發·受戒固為正理·何必又待。但須審其本心·及察其平日對境之感想·果能具足清操·便當成就僧相。如或雖近此種氣象·難具百折不回之真切鐵心·則還是從夫為嘉。念光亦然。汝於某報中·載念如念光二人之論·（光）絕不以為然。即使實是九歲童女所說·不登報有何所損。儻代為作·則成欺世欺人而令作偽。即彼自作·或致自矜自恃·遂成我慢。此等皆汝不知臨證下藥之實案。汝既不以（光）為無知·（光）不妨以無知為有知而與汝言之。汝絕不知教小人之法則·故有此舉。

使汝知者·斷不登報。顯蔭之天姿極聰明·自己本好勝好名·諦法師不能下抑彼矜張之藥·至於短命而死。汝於念光亦然。無得居士·既有六十老父·何得要出家。使不出家·無由聞法修行·尚有可原。今藩籬大撤·在家人研究修習者其多如林·得利益生西方者·亦常有其事·何得要離親出家乎。此事（光）絕不贊成。按實說·當今修行·還是在家人好·何以故·以一切無礙故。出家人之障礙·比在家人多·是以非真實發道心者·皆成下流坯·無益於法·有玷於佛也。

復汪雨木居士書附來書

雨木念佛十年·略知旨趣。竊謂靈峯·夢東諸大師·及我師文鈔·所示念佛方法·大抵皆就愚夫愚婦通途立說。若吾輩能通文字·心思複雜之人·仍用彼愚夫愚婦之念佛方法·斷斷不能往生淨土。鄙意以為念佛求生之人·當先求知念佛的是誰·蓋既見主人翁·則念佛方有用處·往生方有把握。不特念佛應當如是·即念經持咒·亦何莫不然。今人動謂老實念佛·死心念佛·即可往生。不知苟不能識得念佛的是誰·則念佛何能老實·何能死心。縱使日夜十萬聲·於生死有何相干哉。有以古人多專主持名·不參是誰相詰者·雨木曰·此乃古德罷參以後之事·初心非可效法也。雨木見今日念佛之人·十九不明此旨·實可哀愍。嘗時時苦口勸人·而居士中竟有謂我為邪見者。佛法真義·沈晦至此·曷勝痛歎。茲特披陳所懷·敬求印證·並乞詳加闡示·眾生之幸·非僅雨木一人之幸也。

詳觀來書·不勝欽佩。閣下欲令一切人親見本來·直登上品·觀經所謂讀誦大乘·解第一義·發菩提心·勸進行者·其閣下之謂乎。雖然·說法當須觀機·若不察機·妄投法藥·則與庸醫以藥殺人無異。須知禪淨二宗·歸元是一·修法各別。禪以徹見本來面目為宗·淨以信願念佛求生為宗。使世皆上根·則閣下所說·誠為有益。而上根甚少·中下甚多·不教以信願求生·而教以參究是誰·參而得之·固為大幸·尚須重發切願·以求往生。若參而不得·以心中常存一不知是誰不能往生之念·則斷無與佛感應道交·親蒙接引之事矣。而今之參

者。其能真到大徹大悟地位者有幾。夫知念佛的是誰者。乃大徹大悟明心見性也。勿以餘人論。即閣下亦未曾到此地位。何以知閣下未到。以到則決不敢說靈峯夢東為就愚夫愚婦立說。而不知是誰。即老實念。死心念。亦不得名為老實死心。縱使日夜十萬。於生死有何相干。及謂古人專主持名為罷參後事。初心不可效法等語。由是言之。閣下之心。實欲自利利人。閣下之語。實為自誤誤人矣。切請緘默莫說。否則如來普度眾生之一大法門。被閣下關塞錮蔽。莫由開通。其罪當與謗佛謗法謗僧相等。可不慎乎。閣下之見。以不知契理契機之所以然。妄執利上根之法。而普勸一切修習。遂成偏執謬見。以不合機之法。妄行勸修。謂為佛法真義。光雖庸劣。敢與閣下同陷謗佛謗法謗僧之咎。而妄為讚許乎哉。如謂不然。祈付丙丁。各行各道即已。光豈能強閣下捨己所學而從我乎。不過以閣下見問。不得不直貢愚誠耳。祈洞察是幸。

復盛機師書

昨接汝書。不勝慨歎。汝學佛者。何得以自己知見。測佛境界。測之不得。遂生疑惑乎。夫證真如者。則三際坐斷。十界平沈。有因緣故。亦可於一念現無量劫。於無量劫作一念。念劫圓融。兩不混濫。汝謂六十小劫。猶如食頃。五十小劫。只如半日。無此事理。然則經中所有大小互入。念劫互現之說。皆為妄語乎。如來初成正覺。現圓滿報身相。為四十一位法身大士。說華嚴經。二乘在座。不見不聞。所見之佛。乃老比丘相。所聞之法。乃生滅四諦。故維摩經雲。佛以一音演說法。眾生隨類各得解。汝將謂無此事理乎。須知時無定法。隨人所見不同。佛菩薩境界且置。姑以凡小之境明之。周靈王子子晉。學仙。過七日。於緱山出現。已到晉朝。故有詩曰。王子去求仙。丹成入九天。洞中方七日。世上幾千年。(幾、讀平聲、近也。從周靈王至晉彼出時、將及一千年耳。)又呂純陽遇鍾離權於邯鄲逆旅中。鍾勸其學仙。呂意欲得富貴後方學。鍾與一枕令睡。則夢見由小至大。以至宰相。五十年富貴榮華。世所罕有。子孫滿堂。其樂無央。後以

一事與上意不合·遂自引退·乃醒。睡時逆旅主人煮黃梁米粥·夢中出入將相·做許多大事·經五十年之久·及醒·黃梁粥尚未煮熟·此不過仙人所現·尚能於一念中作五十年境界事業。況佛為天中天·聖中聖·諸大菩薩已證法身之境界乎。故善財入彌勒樓閣·入普賢毛孔·皆於十方世界·行六度萬行·經佛剎微塵數劫·汝看此文·又將何以測度乎。須知三際無實體·而在凡夫分中·只見凡夫所應見之境·不得以凡夫所見之境·謂佛菩薩亦復如是·了無有異也。今為喻明·如鏡照數十重山水樓閣·實無遠近·而復遠近歷然。世閒色法·尚能如是·況已證唯心自性之心法者乎。故曰·於一毫端·現寶王剎·坐微塵裏·轉大法輪。十世古今·始終不離於當念·無邊剎土·自他不隔於毫端也。汝既發心閉關·當懇切至誠禮拜持誦·以求三寶加被·令其業消智朗·障盡福崇。凡屬不思議境界·但當仰信佛言·勿妄測度。果能懇切至極·自可悉皆明瞭·亦不須問人也。若不在懇切至誠禮拜持誦上致力·終日取非凡夫所能測之境界而妄測之·則與幻人法師同一覆轍·欲不受謗佛謗法謗僧之罪報·何可得乎。祈慧察是幸。

與方遠凡居士書

世間人之病。多多都是自己造者。即如令嚴之病·乃不知慎口腹·貪食水果涼物之所致者。及乎有病·不能從善養上令恢復·而一味靠醫生轉移。醫生每遇富貴人之病·便大喜過望·遂用種種方法·令其闊張·而後始令收斂·則金錢自可大得矣。然醫之善者·亦只醫病·不能醫業。即如子重病腸癰·醫雲非開剖不可·汝四孀不放心·遂不醫·與德章拌命念佛念金剛經·五日即愈·此病可謂極大·極危險矣·然不醫而五天即愈。子庠之顛·乃屬宿業·汝四孀以至誠禮誦·半年即愈。汝父既皈依佛法·當依佛所說·不當信從洋醫·特往彼醫院去醫也。使一切病皆由醫而始好·不醫便不好者·則古來皇帝·及大富貴人·皆當永不生病·亦永不死亡。然而貧賤者病少·而壽每長·富貴者病多·而壽每短。其故何哉·以一則自造其病·二則醫造其病·有此二造之功能·欲脫病苦·其可得乎。祈為汝父說·不必往上海求

西醫·就在家中求阿彌陀佛·觀世音菩薩之大醫王·則自可勿藥而愈矣。求西醫好否參半·求大醫王·或身軀上即好·即身軀上未好·而神識上決定見好。若妄欲即好·完全廢棄先所持之戒·大似剜肉做瘡·有損無益。西醫未入中國·中國人有病皆不治乎·固宜放下妄想·提起正念·則感應道交·自可全愈矣。所言天冷身弱·衣絲綿者·必須非此不能生活方可。若借冷弱為名·以自圖華美輕快·則是不知慚愧之人·以所殺蠶命·實非小可。至於服阿膠·更非所宜問者·此與吃肉有何分別。阿膠吃了就會不冷乎·倘日常禮拜·身體自然強壯·何用阿膠為哉。彼貧人亦曾過冬·誰曾用絲綿阿膠乎。一言以蔽之·曰不知慚愧·與不知自己是甚麼人而已。祈洞察是幸。

復慧朗居士書

接手書·不勝感愧·(光)粥飯庸僧耳·何可與諸君論外典事。然既見托·只得略說所以·欲知此義·及所主·先須知命為何物·力為何物·並列子意中將二子認作何物·然後再講所主·則便成有功于世道人心之言論。若俱不知·則此力命之說·皆非儒佛所許。命者何·即前生所作之果報也。又依道義而行所得者·方謂之命·不依道義而行所得者·皆不名命。以此得之後·來生之苦·殆有不忍見聞者·如盜劫人錢財·暫似富裕·一旦官府知之·必至身首兩分·何可以暫時得樂·便謂之為命。力者何·即現生之作為之謂。然作為有二·一則專用機械變詐之才智·一則專用克己復禮之修持。列子所說之命·混而不分·所說之力·多主於機械變詐。故致力被命屈·無以回答。以孔子困陳蔡·田恆有齊國為命·是尚可謂之知命哉。孔子不遇賢君·不能令天下治安·乃天下羣黎之業力所感·于孔子何干·顏淵之夭·義亦若此。田恆之有齊·乃篡奪而有·何可為命。現雖為齊君·一氣不來·即為阿鼻地獄之獄囚·謂此為命·是教人勿修道義而肆志劫奪也。吾固曰·列子不知命。不觀孟子之論命乎·必窮理盡性以至於命·方為真命·則不依道義而得·不依道義而失·皆非所謂命也。列子論力·多屬於機械變詐之才智·聖賢之所不言。聖賢所言者·皆克己復

禮之修持也。唯聖罔念作狂，唯狂克念作聖。積善之家必有餘慶，積不善之家必有餘殃。作善降之百祥，作不善降之百殃。木從繩則正，後從諫則聖。惠迪吉，從逆凶，惟影響。行年五十而知四十九年之非，欲寡其過而未能。假我數年，五十以學易，可以無大過矣。人皆可以為堯舜，戒慎乎其所不睹，恐懼乎其所不聞，皆力也，此儒者之言也。至於佛教，則以一切眾生，皆有佛性，皆當作佛，令其懺悔往業，改惡修善，必期於諸惡莫作，眾善奉行。以戒執身，不行非禮。以定攝心，不起妄念。以慧斷惑，明見本性。皆克己復禮修持之力，依是力而行，尚可以上成佛道，況其下焉者。故楞嚴經雲，求妻得妻，（求妻者、求賢慧貞靜之妻也、否則妻何得向菩薩求。）求子得子，求長壽得長壽，求三昧得三昧，如是乃至求大涅槃得大涅槃。大涅槃者，究竟佛果，皆由依教修持而得，其力之大，何可限量。袁了凡遇孔先生，算其前後諸事，一一皆驗，遂謂命有一定。後蒙雲穀禪師開示，兢業修持，孔生所算，一毫不應。然了凡乃一賢者，使其妄作非為，則孔生所算，亦當不靈。是知聖賢訓世，唯重修持，如來教人，亦復如是。故所說大小權實法門，無非令眾生斷除幻妄之惑業，徹證本具之佛性。故世有極愚極鈍者，修持久久，即可得大智慧，大辯才。列子以一切皆歸於命，則是阻人希聖希賢之志，而獎人篡奪奸惡之心，俾下焉者，受此禍害於無窮，即上焉者，亦頹奮志時勉之氣，以致終身不入聖賢之域，作一碌碌庸人。此一篇文，完全於世無益，有何可研究之價值乎哉。（光）少不努力，老無所知，偶因問及，任己意說，其是與非，任人所指。又（光）年近七旬，精神衰頹，兼以冗務繁多，直是不能支持。祈勿再以此種事來問，再來問，則原函寄回，決不答復，以免於人無益，於己有損也，祈慧察是幸。

復龐契貞書

道濟禪師，乃大神通聖人，欲令一切人生正信心，故常顯不思議事。其飲酒食肉者，乃遮掩其聖人之德，欲令愚人見其顛狂不法，因之不甚相信。否則彼便不能在世間住矣。凡佛菩薩現身，若示同凡夫，

唯以道德教化人。絕不顯神通。若顯神通。便不能在世間住。唯現作顛狂者。顯則無妨。非曰修行人皆宜飲酒食肉也。世間善人。尚不飲酒食肉。況為佛弟子。要教化眾生。而自己尚不依教奉行。則不但不能令人生信。反令人退失信心。故飲酒食肉不可學。彼吃了死的。會吐出活的。你吃了死的。尚不能吐出原樣的肉。何可學彼吃肉。彼喝了酒。能替佛裝金。能將無數大木。從井裏運來。汝喝了酒。把井水也運不出來。何可學他。濟公傳有幾種。唯醉菩提最好。近有流通者。雲有八本。多後人敷衍之文。醉菩提之若文若義均好。所敘之事。乃當日實事。世人不知所以然。不是妄學。便是妄毀。妄學則決定要墮地獄。妄毀則是以凡夫之知見。測度神通聖人。亦屬罪過。比之學者。尚輕之多多矣。見其不可思議處。當生敬信。見其飲酒食肉處。絕不肯學。則得益不受損矣。祈洞察是幸。

復袁聞純居士書

接大圓書。謂居士與夫人。並令郎。皆欲皈依於光。夫光一迂腐不堪之粥飯僧。大圓不詳察而謬為皈依。何居士又踵襲其謬。而不以為浼乎。雖然。泥塑木雕之佛。敬之亦可生福。汝既發心。且即將錯就錯。一旦翻然悟其非真。不妨再轉而敬真佛。固未始不可也。今為汝取法名為智純。令夫人為智本。以眾生本具佛智。由煩惱夾雜。則如金在礦。不得真實受用。則此本具之智。變而為妄知。雖此妄知依本智而起。而本智之體用全失。若反而念佛以自攝其心。則其智漸歸於純而得其本矣。此與令夫婦命名之大意也。不知有合於汝心否。又智本既能持月十齋。年三齋。何不長齋。食彼之肉。養我之身。人固習而安之。試一反思。則將戰懼不安。況實殺之食之乎。孟子謂如知其非義。斯速已矣。夫與子皆長齋。汝何忍不長齋。淨業正因。以慈心不殺。修十善業為第一。食肉之人。雖不自殺。亦難免殺業。以非殺無肉故。以錢雇人代殺故。扶球當名福球。以環球之禍。由於不知因果報應生死輪迴之事理。遂致任自己野蠻心。行弱肉強食。互相殘害之慘事。汝既皈依佛法。當以此事此理。由自行而漸及於他。俾

一切內而眷屬·外而鄉黨鄰裏與一切相識之人·同知此理·同皆諸惡莫作·眾善奉行·戒殺護生·吃素念佛·則殺業消而風俗淳厚·神人和而天下太平矣。諸惡莫作二句·乃三世諸佛之略戒經·切勿淺視·當從舉心動念處審察。若能推致其極·尚可以上成佛道·況其餘福慧果位乎哉。佛於大乘經中屢言之·非出於陰騭文·乃文昌帝君引用佛經耳。其餘修持淨業之說·文鈔中具說之·此不詳書。今之世道·乃患難世道·若不以阿彌陀佛·觀世音菩薩為依怙而常念之·則禍患之來·或所不測·及其卒遇·徒喚奈何。倘能預先持念·必有冥為轉移。況生死到來·人各有此日·故宜常作臨終想·則一切非分之妄想·與不能資之以了生死之諸法門·自不致力馳驚·而令此決定仗之可了生死之法荒疏不修也。願汝夫妻父子·同不以光言為迂腐·則幸甚。

末世眾生·根機陋劣·不依淨土法門·決定無由了脫。一班好高務勝者·多多越分自命·覺得禪教之理性淵深·遂不以淨土為事。從茲棄佛力而仗自力·弄到結局時·皆成種遠因而了不得其實益耳。智本與汝夫婦也·汝能實行·彼久而久之·則相觀而化·固無所用其憂慮也。譚碧雲之著急·不獨彼一人獨犯此病·一切學佛之人·多多皆犯此病·既有此病·不是招感魔境·便是未得謂得。須知心本是佛·由煩惱未除·枉作眾生·但能使煩惱消滅·本具佛性自然顯現。如磨鏡然·止期垢淨·勿慮無光。如醫目然·但能去翳·自復本明。若於垢未淨·翳未去時·即欲大發光明·曷可得乎。若發·便是妖魔所現·決非鏡目之真正光明也。凡初發心人·俱宜以此意告之。

復袁福球居士書

所言由佛學撮要·頓生正信·一以宿有善根·一以令嚴慈之薰陶使然。印光一介庸僧·於法道無所知曉·唯諦信淨土·以期帶業往生。有志願相同者·隨便酬答以自分之事業·意似有可取者·而文筆膚淺·實為貽誚高明·不禁慚惶無地。何得以理圓詞妙等以譽之·不懼膺以凡濫聖之愆乎。所言念佛三昧·說之似易·得之實難·但當攝心切念·

久當自得。即不能得。以真信切願攝心淨念之功德。當必穩得蒙佛接引。帶業往生。事一心。若約蕩益大師所判。尚非現世修行人之身分。況理一心乎。以斷見思惑。方名事一。破無明證法性。則名理一。若是內秘菩薩行。外現作凡夫。則此之二一。固皆無難。若實係具縛凡夫。則事一尚不多得。況理一乎。當過細看印光與永嘉某居士之極長一信。則可知。至於悟無生以後。護持保任。銷鎔餘習。彼自了明。何須預問。如人飲水。冷暖自知。否則縱令飲者說得十分的確。而未飲之人。究不知其是何滋味。以居士將此悟無生忍。看得容易。恐自己或悟而不知保任護持。致餘習復蒙。得而復失。故有此問。真無生忍。實非小可。乃破無明證法性。最下者為圓教初住菩薩。即別教之初地也。談何容易。祈且依印光文鈔所說而行。待其悉知淨土法門之所以然。及信願行俱能不被一切知識異說所奪。此後若有餘力。不妨兼研諸大乘經論。以開智識。以為宏淨土之根據。如是則雖是凡夫。可以隨機利生。行菩薩道。且勿妄意高遠。恐或於事理不清。則難免著魔。永嘉某居士之長信。專治此病。彼病與汝病。名目不同。性質是一。光固不願多說。祈於彼信領會之。須知悟後之人。與未悟之人。其修持仍同。其心念則別。未悟無生者。境未至而將迎。境現前而攀攬。境已過而憶念。（攀攬二字、賅攝好惡憎愛、勿謂好愛為攀攬、憎惡為不攀攬。）悟無生者。境雖生滅。心無生滅。猶如明鏡。來無所黏。去無蹤跡。其心之酬境。如鏡之現象。絕無一毫執著繫戀之思想。然雖於境無心。猶然波騰行海。雲布慈門。凡世間綱常倫理。與夫上宏下化之事。必須一一認真實行。雖喪身命。不肯踰越。且莫認作於境無心。便於修持自利利他上宏下化之事。悉皆廢弛。則是深著空魔。墮於頑空。由茲撥無因果。肆意冥行。乃成以凡濫聖。壞亂佛法。疑誤眾生之阿鼻地獄種子矣。此中關係。甚深甚深。光固不得不為略陳其利害也。

人能弘道。非道弘人。世間之亂。乃眾生同分惡業所感。彼邪僻諸說亦然。世風之變。最初皆一二人為之發起。治亂邪正。無不皆然。

何可不於人力轉變處講·而專歸於佛菩薩顯神變乎。佛菩薩非不能顯神變·奈眾生業重·亦無如之何。譬如濃雲厚霧·渺不見夫天日·將謂天日已無有乎。而人與天地·稱為三才·僧與佛法·名為三寶·其如此稱者·以參讚化育·宏揚法道之義而名之。汝專欲棄人力·而任佛菩薩天地之力·是尚可謂知道者乎。大亂之世·大悲菩薩示現救護·亦救其有緣耳。以亂乃同業·其宿因現緣乃別業·有感菩薩之別業·則蒙菩薩加被救護·何可儻侗而論。菩薩逆順方便·救護眾生之事·非膠知板見者所能知。今為汝說一例·由此而推·勿道是菩薩·即真怨家·亦好作入道成佛之基。諸佛以八苦為師·成無上道·是苦為成佛之本。又佛令弟子最初即修不淨觀·觀之久久·即可斷惑證真·成阿羅漢·則不淨又為清淨之本。北俱盧洲之人·了無有苦·故不能入道。南閻浮提苦事甚多·故入佛道以了生死者·莫能窮數。使世間絕無生老病死·刀兵水火等苦·則人各醉生夢死於逸樂中·誰肯發出世心·以求了生死乎。至謂擁強兵踞高位·作種種苦惱眾生事者·或亦有大悲示現者歟。此義唯可與通人言·不可與無知無識者道。若是通人·即真惡魔·亦可得益。無知無識者若知此義·則不知發心修行·反去毀謗佛法。譬如用藥·小兒不肯吃藥·塗之於乳·則不吃而吃矣。汝欲作通人大張此義·則害人處多而利人處少矣。且祈緘默·勿妄談說。佛菩薩之境界·非凡夫所能測度。中國之貧弱·由於不依禮義·依禮義何至貧弱。試問貧弱之因·何一不是貪贓受賄以利外人乎。汝未認清病源·便謂藥不見效·可謂智乎。外國之強·以國小·不同心協力·不能自立。中國則人各異心·縱有同者·外人以賄誘之·則隨賄所轉·不但不顧國與民·並將自身亦不顧·謂為奉行禮義之失·其可乎哉。昔林文忠公之驅夷·即是其證。以後大小事·何一非中國代為周旋令成乎。中國之人·多半皆屬亡八字·故致外國如是之強·中國如是之弱·使皆守禮義·則外國之無益各貨·將無處可消·而中國一年當保全數千萬萬金矣。中國人之下作·誠可謂下作之極矣。孟子曰·獨孤臣孽子·其操心也危·其慮患也深·故達。汝雖讀書閱世·

未知讀書閱世之道。故有此問也。為今之計。當以提倡因果報應。生死輪迴。及改惡修善信願往生。為挽回劫運。救國救民之第一著。談玄說妙。尚在其次。然欲救世。非自己躬行。斷無實效。由身而家。由家而邑。由邑而國。此風一倡。或可有意料不及之效。否則便難夢見矣。

與周法利童子書

人之一生成敗。皆在年幼時栽培與因循所致。汝已成童。宜知好歹。萬不可學時派。當學孝。學弟。學忠厚誠實。當此輕年。精力強壯。宜努力讀書。凡過讀之書。當思其書所說之事。是要人照此而行。不是讀了就算數了。書中所說。或不易領會。而陰騭文。感應篇等皆直說。好領會。宜常讀常思。改過遷善。於暇時尤宜念阿彌陀佛。及觀世音菩薩。以期消除業障。增長福慧。切勿以為辛苦。古語雲。少壯不努力。老大徒傷悲。此時若錯過光陰。後來縱然努力。亦難成就。以年時已過。記性退半。所學皆用力多而得效少耳。第一先要做好人。見賢思齊焉。見不賢而內自省焉。第二要知因果報應。一舉一動。勿任情任意。必須想及此事。於我於親於人有利益否。不但做事如此。即居心動念。亦當如此。起好心。即有功德。起壞心。即有罪過。要想得好報。必須存好心。說好話。行好事。有利於人物。無害於自他方可。倘不如此。何好報之可得。譬如以醜像置之於明鏡之前。決定莫有好像現出。所現者。與此醜像。了無有異。汝果深知此義。則將來必能做一正人君子。令一切人皆尊重而愛慕之也。祈審慎思察。則幸甚幸甚。

與馬契西書

人生世間。須安本分。越分作為。及與讚譽。皆為招禍取辱之本。光一庸劣粥飯僧。汝為甚麼為我作傳。膽敢以去聖時遙。真修日尠等四句下。便以我承之。令我得罪於天下宗教知識。賢士大夫。汝意謂說得好聽。便為榮幸乎。不知以凡濫聖。罪在不原。汝亦曾看楞嚴經。

何不知犯大妄語。其罪重於殺盜淫罪。百千萬億倍乎。汝如此妄為。不但汝自己罪過得不得了。且令光現在受明眼人唾罵。將來受阿鼻地獄之苦報。無有出期。譬如庶民。妄稱帝王。罪必滅族。良以大妄語能壞亂佛法。疑誤眾生。汝以此當架子擺乎。祈將其稿焚之。以後不得另有所述。我只要得生西方。要傳做甚麼。汝將謂由此便可留芳百世乎。而不知瞎造謠言之傳。不但遺臭萬年。且復受苦永劫也。若以吾言為非。則是魔王眷屬。請從此絕。

印光法師文鈔卷第二

書二

復包右武居士書一

適接手書·不勝感愧。(印光)一粥飯僧耳。法門中事·概不能知。唯於淨土·頗欲自他同生。以故凡有縑素見訪·皆以此奉答。徐蔚如居士·以其於禪淨界限·分析明瞭。並佛力自力之難易得失·及主敬存誠等種種膚論·皆於初機稍有利益。以故雖文詞鄙拙·亦不見棄·而三四次排印流布。以期有志了生死者·同皆納此芻議而已。然以殘羹餽飯·陳于飽餐王膳者前·則噁心發嘔矣。況敢注經乎哉。閣下既不以酸臭見棄·敬贈蕪鈔一部。此去年蔚如令商務印書館另編排印·今年所出者。彼書館恐售不出·故止印二千。出書後·尚未發行·已經售盡。雖已留板·但以彼館急於時尚之新書·至今未印二板。一二年來·亦有知友勸(光)刻板·(光)擬待商務書館編好出書後·再刻·則可省心力。去歲北地大荒·各善士設法籌捐。(光)遂盡數將刻款助賑矣。兩次共五百元。如以為有益初機·肯為刊佈·未始非利人之一端也。

復包右武居士書二十

生死大海·非念佛無由得度。欲知念佛之所以然·不看淨土經論·何由而知。固當日誦阿彌陀經·常看無量壽經·及觀無量壽佛經。此名淨土三經。讀此則知彌陀之誓願宏深·淨土之境緣殊勝·行人之往生行相。此外最親切開示念佛方法·有楞嚴經第五卷末後大勢至菩薩念佛圓通章。又有華嚴經·普賢行願品。以十大願王·導歸極樂。讀此知念佛求生西方一法·乃華嚴一生成佛之末後一著。實十方三世諸佛因中自利·果上利他之最勝方便也。彼妄謂淨土法門·為權漸小乘者。皆毀謗華嚴·及謗佛謗法謗僧之極重罪人也。其淨土三經之註·並淨土諸書之宜專精看者。光文鈔中與徐女士書中備言之·此不具書。晨朝十念·當於盥漱後·功課前行之。淨土十要·西歸直指中·各有

其儀·依而行之即已。但不可過十念·以多則傷氣。光文鈔中亦屢言其利害。朝暮功課·照功課中念之即已。如公事多端·不暇念功課·則但用十念亦可。此外則但止念一句南無阿彌陀佛即已。所謂十念者·以盡一口氣為一念。如是念十口氣·名為十念。如氣壯之人·一口氣多念一二十句。氣弱之人·只能數句。不論佛數多少·但以一口氣·至十口氣·為度耳。其法之妙處·文鈔亦說之。若多念·則又傷氣受病矣。不可不知。古語雲·聰明不能敵業·富貴豈免輪迴。生死到來·一無所靠。唯阿彌陀佛·能為恃怙。惜世人知者甚少·知而真信實念者更少也。通州王鐵珊·前清曾作廣西藩台。其地土匪甚多·彼設計剿滅·所殺無算。前年得病·合眼即見在黑屋中。其鬼甚眾·皆來逼惱·隨即驚醒。如是三晝夜·一合眼即見此象。人已困極·奄奄一息。其夫人勸令念佛·隨念數十聲即睡著·因睡一大覺。而精神漸健·病遂痊癒·即長齋念佛。使此時無人以念佛告之·恐萬不能至今日也。故知教人念佛·功德無量。知念佛利益者·皆多生多劫善根所使也。所示令親之事·甚為希奇·可謂宿有善根。然又須兢兢業業以自修持·庶不虛此一夢。倘以凡夫知見·妄謂我已蒙三寶加被·已入聖流·從茲生大我慢·未得謂得·未證言證·則是由善因而招惡果。末世之人·心智下劣·每受此病。楞嚴經所謂不作聖心·名善境界。若作聖解·即受羣邪者。此也。請以力修淨土法門自勉·則將來決定獲大利益矣。須知淨土一法·乃十方三世諸佛。烹凡煉聖之大鑪鞴。九法界眾生·無一不入其中·能出其外者。以出則究竟成佛矣。能如是信·方名正信·方名有淨土耳。

復永嘉某居士書一

昨接來書·言及教女為齊家治國之本·可謂見理透徹。周之開國·基於三太。而文王之聖·由於胎教。是知世無聖賢之士·由世少聖賢之母之所致也。使其母皆如三太·則其子縱不為王季文王周公。而為非作奸·蓋亦鮮矣。而世人祇知愛女·任性嬌慣·不知以母儀為教。此吾國之一大不幸也。人少時常近於母·故受其習染最深。今日之人

女·即異日之人母。人欲培植家國·當以教女為急務。勿曰此異姓之人·吾何徒受此憂勞哉。須知為天地培植一守分良民·即屬莫大功德。況女能德鎮坤維·其子女必能肖其懿範。榮何如之。況自己子孫之媳·亦人家之女乎。欲家國崛興·非賢母則無有資助矣。世無良母·不但國無良民·家無良子。即佛法中賴佛偷生之蟒流僧·一一皆非好母所生。使其母果賢·斷不至下劣一至於此。惜哉。佛法大無不包·細無不舉。譬如一雨普潤·卉木同榮。修身齊家治國親民之道·無不具足。古今來文章蓋一時·功業喧宇宙者。與夫至孝仁人·千古景仰。人徒知其迹·而未究其本。若詳考其來脈·則其精神志節·皆由學佛以培植之。他則不必提起。且如宋儒發明聖人心法·尚資佛法·以為模範。況其他哉。但宋儒氣量狹小。欲後世謂己智所為·因故作闢佛之語·為掩耳盜鈴之計。自宋而元而明·莫不皆然。試悉心考察·誰不取佛法以自益。至於講靜坐·講參究·是其用功之發現處。臨終預知時至·談笑坐逝·乃其末後之發現處。如此諸說話·諸事迹·載於理學傳記中者·不一而足。豈學佛即為社會之憂乎。宋葛繁之日行利人事。趙閱道之日之所為·夜必焚香告帝。袁了凡之立命·周夢顏之著書。莫不汲汲然企人諸惡莫作·眾善奉行。明因果·示罪福。使人知舉心動念·天地鬼神·無不悉知悉見。雖欲欺人·以天地鬼神悉知悉見·而有所不敢。從茲勉力為善·實心戒惡。雖最剛強難化·不可以理喻者。聞三世因果之道·必漸行戢斂·以致轉暴惡為良善者·不知其幾。竊謂父母愛子·無所不至。唯疾病患難·更為嬰心。小兒甫能言·即教以念南無阿彌陀佛·及南無觀世音菩薩名號。即令宿世少栽培·承此善力·必能禍消於未萌·福臻於不知。而關煞病苦等險難·可以無慮矣。稍知人事·即教以忠恕仁慈·戒殺放生·及三世因果之明顯事迹。俾習以成性。在兒時不敢殘暴微細蟲蟻·長而斷不至作奸作惡·為父母祖先之辱。佛法遇父言慈·遇子言孝·遇兄言友·遇弟言恭·夫唱婦隨·主義僕忠。雖統名為出世之法·實具足乎經世良謨。經世良謨·亦同儒教。但儒教祇令人盡義·而佛教一一各言因果。盡義則可教上

智·難化下愚。因果則上智下愚·無不受益。今之社會·專以智巧而為主體。故發而為事·則借為民作共和幸福之名·成同室操戈之實。使國勢日危·人民日益困悴於爭意氣爭權力中。若是結果·總以不知因果報應。使人人知因果·則自利利他·已立立人矣。何至如此其極乎。所謂小兒學佛者·學其前來所說數義而已。豈即令其參禪悟性·閱教觀心等耶。王君未知佛法·所以過慮如是之甚。若即其言而推之·殆將畢世不敢言及佛法矣。答王君書·當并光所說之意而融會之·則更闊大矣。法名如數寫來。竊謂小兒取一名·恰當即已·何必定取三名。孔子之名·原是乳名。豈乳名便祇可兒時用乎。法名亦後世所立。佛諸弟子·莫不皆是在家俗名。今之取法名者·以別其入法與否。若兒女輩俗名·最初即取好·畢生可用。何須絡索二三耶。先盡人事·後聽天命。人謀不及處·以三寶之威神是託。則冥冥中自有不思議之轉旋矣。

復永嘉某居士書二

昨接汝書·知師壽已心有回轉·不決定即欲出家。幸甚。出家一事·今人多以為避懶偷安計。其下焉者·則無有生路·作偷生計。故今之出家者·多皆無賴之徒。致法道掃地而盡·皆此輩出家者為之敗壞而致然也。光觀師壽根性·在家修持·固不失為一鄉之善士。雖不能大弘法化·于自於他·皆有實益。若出家·則年時已過。又且身弱·不堪受苦。其於學教參禪一道·若不問津·則了不知其方向。若去參學·則盡此生力·亦未有得。宗教不知·於一心念佛之道·惟能利己。其於利人·尚欠參學。以故不如在家·依龍舒安士二林等之修持為愈也。

復永嘉某居士書三

昨接手書·知又得麟兒。喜甚。書中所說·皆有道理。張奐伯教子女之事·乃知體而不知用·不可全取為法。至於幼時·又須以因果報應之事·與淨土法門之利益·於學堂回時·諄諄訓誨。則子女現時

蒙念佛之益·必能免意外之虞。將來以為立家立業·及滅罪得福之本。若全不與學堂交涉·則不諳時務。縱有作為·亦難進步·況庸常者乎。在家人必須先要得一謀生之法。奩伯之舉·可用於三十年前·不可用於今日。今之時·是何時也。乃偽安排擠·互相競爭之時。倘與伊等全無交涉·必受其欺侮·而難以安身矣。至於法名·大兒已經皈依·即不須另取。餘者仍以福字為首·慧融淵和明。其母宜名師越。以宋荊王夫人王氏·自行化他·專修淨業·為女中之冠。若名師王·似不合宜。以夫人亦稱越國夫人·故以名越為妥。又離五濁·生淨土·乃超越凡俗濁惡。至往生以後之漸漸上升·亦超越事也。名者·實之賓。必須常垂訓誨·令諸子女知世間道理·知佛法道理。將來為人父母時·自能為子女立規立法。不至雖有上等天姿·如俗某某·僧某某者。皆以堪作佛祖之姿·為自他塞人天之正路·掘地獄之深坑。其源皆由於乃父乃母初未嘗以因果報應之若事若理·以啟迪之故也。因果不講·則名實絕不相應矣。而況欲得為聖為賢·成佛作祖之實效乎哉。因果二字·為今日救國救民之正本清源·決定要義。捨此則無術矣。況教子女乎哉。

復永嘉某居士書四

汝家屬甚多。倘諸弟婦令妹令女等·學堂歸來·宜以因果報應·及念佛利益·與之談論。俾彼等各各心中自知己心與天地鬼神相通·與彌陀慈父相通。由茲斷除惡念·增長正信。俾彼現在堪為人之賢妻·將來堪為人之賢母。以此風于鄉邑·是亦治天下國家之根本法輪也。菩薩隨俗利生·并不另起鑪竈。對病發藥·令彼各各就路還家而已。現今學堂中婦女·多多妄生異圖·擬操政權。不知各守本分·相夫教子·乃天下太平之根本。以故周之王業·基于三太。彼太姜太任太姒·乃女中聖人。但以陰相其夫·胎教其子為事。今人不此是學。其所計慮·皆為亂天下之媒蘖·可勝道哉。光本世外人·何論婦女事。以汝家女眷多故。亦願將來師表女流·儀型閨閫·以揚佛日之光耳。

復永嘉某居士書五

教子女當於根本上著手。所謂根本者，即孝親濟眾，忍辱篤行。以身為教，以德為範。如熔金銅，傾入模中。模直則直，模曲則曲。大小厚薄，未入模之先，已可預知，況出模乎。近世人情，多不知此。故一班有天姿子弟，多分狂悖。無天姿者，復歸頑劣。以於幼時失其範圍。如熔金傾入壞模，則成壞器。金固一也，而器則天淵懸殊矣。惜哉。佛以無我為教。今人每每稍有知見，便目視雲漢。是以知文字義理為佛法，而不知以修身淨心，滅除我相，力修定慧，以期斷惑證真為佛法也。

復永嘉某居士書六

娑婆世界，是一大冶洪鑪。能受得烹煉，則非世界中人矣。不能受得烹煉，則烹煉之大冶洪鑪，反為毒器，為苦具。是在各人能自得益耳。同室之人，固宜於閑暇無事時，委曲宛轉，開陳至理，令其心知有是非可否。則心識不知不覺，漸摩漸染而為轉變。至其愚傲之性發現時，可對治，則以至理名言，和氣平心以對治之。否則任伊，一概置之不理。待其氣消，再以平心和氣，論其曲直，久之則隨之而化。若用強蠻惡辣手段，斷非所宜。以彼有所恃，（所恃者子女也，）兼失子女觀法之訓。念佛要時常作將死，將墮地獄想。則不懇切亦自懇切，不相應亦自相應。以怖苦心念佛，即是出苦第一妙法。亦是隨緣消業第一妙法。

復永嘉某居士書七

靈峯老人，乃末法絕無而僅有者。其言句理事具足，利益叵測。隨人分量，各受其益。子弟之有才華，有善教，則易于成就正器。無善教，則多分流為敗種。今日之民不聊生，國步艱難，幾於蹶覆者。皆有才華無善教者，漸漸釀成之也。無才華，固宜教其誠實。有才華，益宜教其誠實。然誠實亦可偽為。最初即以因果報應，及人之一舉心動念，天地鬼神，一一悉知悉見，作常途訓誨。而陰騭文，感應篇。

必令其熟讀。且勿謂此非佛書而忽之。以凡夫心量淺近。若以遠大之深理言之。則難于領會。此等書。老幼俱可聞而獲益。而況德無常師。主善為師乎。佛尚以死屍糞穢毒蛇。令人作觀。以之證阿羅漢者。逾恆河沙。況此種貼實存養省察之言句乎。楞嚴一經。不知淨土者讀之。則為破淨土之元勳。知淨土者讀之。則為宏淨土之善導。何以言之。以自力悟道之難。淨土往生之易。十法界因果。一一分明。若不仗佛力。雖陰破一二。尚或著魔發狂。為地獄種子。而且二十四圓通之工夫。今人誰能修習。唯如子憶母之念佛。凡有心者。皆堪奉行。但得淨念相繼。自可親證三摩。知好歹者讀之。其肯唯主自力。不仗佛力乎。不知好歹者反是。以其止欲為通家。無心了生死耳。

復永嘉某居士書八

來書發明普敬僧尼。此理此事。實為至當。然教兒輩。又須反復為論。若止一往。則或恐不知去取親疏。或致受損。譬如有人。若詩若文。若宗若教。皆悉高超。而其品行卑劣。不堪為人榜樣。倘不加分別。概行親近。此人親之。不但行為或隨彼轉。而其任己臆見。妄說道理處。無真知見。或被所惑。須必居心則若賢若愚。通皆恭敬。不生傲慢。行事則親賢遠愚。取優去劣。如是則可免相染之弊。及挂悞之愆。天下事。有一定之理。無一定之法。若不以情事而為定奪。如執死方子醫變證。則生者少而死者多矣。必使情與理相合。法與事相契。則得之矣。

復永嘉某居士書九

來書所說。皆從自己身心習氣上究竟。不勝欣慰。然在凡夫地。不能無病。亦不能任而不治。其治之之法。最省力。最得益處。在以病為藥。以病為藥。則病不為累矣。即如愛子女之病。決不能斷。不妨即以此愛為本。必欲使子女生為正人。沒生淨土。此其愛。乃以世間凡情。成就出世間聖果。若不善用愛。任性嬌養。則與殺其身。過百千萬億無量無邊倍者多多也。國之滅亡。民之塗炭。皆此種不洞事

之父母釀成之。可不哀哉。每日功課回向。一一當與法界眾生。若此功課為此。彼功課為彼。亦非不可。然必又有普回向之願。方為與三種回向相合。三種回向者。一回向真如實際。心心契合。二回向佛果菩提。念念圓滿。三回向法界眾生。同生淨土。人各有志。人各有業。（業、謂職業）但隨緣隨分即可。不必與一切人皆同也。

復何槐生居士書

接手書。知居士有向上志。然未知法門所以。及與時機。縱曾讀光文鈔。亦未究光所說之意旨也。夫修行用功。原為了生死耳。倘用功而生死不能了。猶不肯依能了者而為之。豈非擔麻棄金。自貽其咎乎。參禪縱能大徹大悟。如五祖戒。草堂青。真如哲。斷崖義。尚不能了。而再一受生。反致迷失。校前為遠不能及。況吾儕乎。某某和尚。雖于禪門知所向方。猶未打破禪之區域。故不能令閣下息心念佛。意謂一悟即便無生死可了。亦無涅槃可證耳。不知縱悟到無生死可了。無涅槃可證地位。依舊仍在生死中不能出。在涅槃中不能證。末世眾生。仗自力斷惑證真。了生脫死者。甚難甚難。況汝既看此一念落在何處。當時時專一看此念之落處。除此之外。皆不理會。直如怨家相尋。不肯一瞬失照。令彼走脫。必欲直下捉得。令其喪身失命而後已。而說出此念來時。種種境界。遂將看落處全體丟開。而以現出之境界為心得。不知此種境界。雖由靜定而發。實為參禪之障。何以故。以忘卻窮究此念落處。而以幻境為得故。且此境界。夾雜煉丹家之境界。閣下殆先曾用過彼之工夫。今由靜定而發現耳。倘以為得。後來尚有著魔發狂之慮在。閣下不知全體拋卻。尚企常久。以不能得。為之椎心警呵。豈非認賊為子。令守家業乎。金剛經云。凡所有相。皆是虛妄。心經云。照見五蘊皆空。度一切苦厄。閣下此相。為是相耶。非相耶。為是五蘊耶。非五蘊耶。若是相。是五蘊。皆在所棄。何得寶貴。若非相。非五蘊。則能看之念尚不可得。此種境相。從何而出。古云。學道之人不識真。皆因從前認識神。無量劫來生死本。癡人認作本來人。正閣下貼切之對證妙藥也。禪豈可妄以己意參乎。當此一

念起時·直須看其落處。不在此處著力·則差之毫釐·失之千里。而猶以為得·豈不大可哀哉。雖然。(光)非禪客·絕不以禪學教人。此不過以閣下不識其境·為邪正是非·不禁稍為辯析。倘閣下欲高豎禪幟·以大徹大悟為事·當更參禪宗大老。如曰吾于即生決定要了生死·請將參禪之念·拋向東洋大海外。依淨土法門·生信發願·念佛求生西方·則仗佛慈力·決定可以滿其所願。倘不依淨土法門·所有修持·皆成人天福報·及未來得度之因緣而已。欲了生死·斷難夢見。欲知禪淨之所以然·非博覽禪淨諸書不可。即能博覽·倘無擇法智眼·亦成望洋興嘆·渺不知其歸著。是宜專閱淨土著述。然淨土著述甚多·未入門人·猶難得其綱要。求其引人入勝·將禪淨界限·佛力自力·分析明白·了無疑滯。語言顯淺·意義平實·為研古德著述之初步向導者·其印光文鈔乎。祈息心研究·當自知之。

復周羣錚居士一

蕩益生於明末·沒於清初。一生弘法·皆在南方·未曾一到北地。兼以順治初年·南方多未歸服。故大師於崇禎升遐·明圖版蕩之後。凡所著述·但書歲次·不書國號及年號耳。及至福建寧波·各處歸順之後·不一二年·即入涅槃。而台宗有倣之者·於康熙時著述·亦不書國號年號·可謂誣譏蕩益與國家耳。其不善學·有如此者。南方學者·多宗台教。北方學者·多宗賢首·慈恩。彼既不相習·故其流通也少。世宗雖倡刻大藏·其年初夏·即已賓天。其清藏中·所入所出·容有世宗裁奪者。實多半由當時所派之親王·總理刻藏首領大和尚主持。又刻藏預事之僧·盡屬賢首慈恩臨濟宗人。台宗只一人·而且尚屬校閱無權之人。蕩益著述·所入唯相宗八要·釋大乘止觀法門二種。餘者北方所無·將何由而附入乎。此係雍正末乾隆初年事。至乾隆末年·蕩益著述·京中尚無多少。徹悟老人·見閱藏知津·即欲刻板。擬再得一部·即不須另寫·庶省心力。因徧詢各剎·止得一部。凡大師流通到京之著述·徹悟·及徹悟之門人·皆為刻板。亦有一二十種。不知世務之人·一歸之於世宗不取·可謂誣罔世宗。使世宗若全見蕩

益著作。斷當具足入藏。一部不遺。須知清藏肇始於世宗。及世宗崩後。高宗繼立。凡刻藏事。皆當時僧俗中之權人主之。高宗亦不過應名而已。何以知之。世宗所著揀魔辨異錄。草稿甫畢。尚未謄清。隨即崩駕。高宗雖令繕寫刻板。亦不暇檢點。由未派一大通家主事。竟致錯訛不勝其多。此其父之手澤。尚且如是。況大藏乎。又世宗於開首著此之時。即頒上諭。內有入藏流通之語。迨後止刻書冊板。竟未入藏。但將此上諭。附於圓明居士語錄之後。將謂世宗亦嫌其習氣而不入乎。此其不入之由。以漢月藏子孫之外護。多屬當權之人。故不敢提倡耳。若言習氣。蕩益可謂絕無。而一般瞎眼禪和。謂為徒有文字。未得大悟。貢高我慢。此等人乃仰面唾天。何得據以評論耶。至於毀世宗者。亦與毀蕩益者知見相同。皆道聽塗說。隨聲附和之流輩耳。

復周羣錚居士書二

昨接師導信。言汝上月病勢甚險。近已痊癒。幸甚。人之處世。一一須按當人本分。不可於分外妄生計慮。所謂君子思不出其位。又曰君子素其位而行。汝雖於淨土法門。頗生信心。然猶有好高務勝之念頭。未能放下。而未肯以愚夫愚婦自命。須知了生死。愚夫愚婦則易。以其心無異見故也。若通宗通教。能通身放下。做愚夫愚婦工夫。則亦易。否則通宗通教之高。人反不若愚夫愚婦之能帶業往生。淨土法門。以往生為主。隨緣隨分。專精其志。佛決定不欺人。否則求升反墜。乃自誤耳。非佛咎也。

復周羣錚居士書三

學佛必須專以自了為事。然亦須隨分隨力以作功德。若大力量人。方能徹底放下。徹底提起。中下之人。以無一切作為。遂成懶惰懈怠。則自利也不認真。利人全置度外。流入楊子拔毛不肯利人之弊。故必須二法相輔而行。但專主於自利一邊。二林之語。亦不可誤會。誤會則得罪二林不小。二林之意。乃專主自利。非并隨分隨力教人修習淨

土法門全廢也。利人一事，唯大菩薩方能擔荷。降此誰敢說此大話。中下之人，隨分隨力以行利人之事。乃方可合於修行自利之道。以修行法門，有六度萬行故。自未度脫，利人仍屬自利。但不可專在外邊事迹上做。其於對治自心之煩惱習氣，置之不講，則由有外行，內功全荒。反因之生我慢，自以功利為德，則所損多矣。譬如喫飯，須有菜蔬佐助。亦如身體，必用衣冠莊嚴。何於長途修行了生死之道，但欲一門深入，而盡廢餘門也。一門深入盡廢餘門，唯打七時方可。平時若非菩薩再來，斷未有不成懈怠之弊者。以凡夫之心，常則生厭故也。天之生物，必須晴雨調停，寒暑更代，方能得其生成造化之實際。使常雨常晴，常寒常暑。則普天之下，了無一物矣。況吾儕心如猿猴，不以種種法對治。而欲彼安於一處，不妄奔馳者，甚難甚難。人當自諒其力，不可偏執一法，亦不可漫無統緒。以持戒念佛，求生西方為主。遇一切人，上而父母，中而兄弟朋友，下而妻子奴僕，皆以此為導，將謂非自利乎。一燈只一燈，一燈傳百千萬億燈，於此一燈，了無所損。孰得孰失，何去何從。豈待問人方了知乎。

復周羣錚居士書四

前月十五，接到汝書。以汝言孟由一到，即便登程。恐回書落空，是以不復。即午復接汝書，知孟由尚未歸省。其所以稽遲不歸者，殆不敢擔由彼歸而汝即走出之擔子也。汝何不體我心，及諸人之心，而硬做道理乎。光亦出家之人，豈必定礙滯汝，阻止汝，學在家人戀戀于家不願令人速得解脫乎。但人之際遇，萬有不齊。約汝分論。實為在家益大，而出家益小。汝祖業頗可度用，上有慈親可事，中有兄弟可靠。室有賢妻，膝無子女。而且汝之大兄，頗信佛法。三弟四弟，亦皆與道不相悖戾。汝在家篤修淨業，亦可為慈親生信念佛，以期了脫之導。亦可為兄弟在外，料理家門之事。亦可以率其妻室，弟婦等，同修淨業，同出輪迴之計。外而鄉黨親戚，隨緣開導。即家舍為道場，舉慈親，及兄弟妻室子姪，鄉黨親朋，皆為法眷。隨力隨分，身率言化。俾永嘉一班迷途之人，并彼邪見種性之人，同納于佛法至極圓頓

淨土法門大冶洪鑪之中，共成法器，同修淨業。將來同登蓮邦，共證菩提。豈不如汝出家為僧，舍親遠去。室人有無依之恨，慈親有怨子之懷。而且一班不明至理之人，反謂佛法為背畔世道，妄生謗毀。俾此等人造口業，墮惡道。未見其益，而先受此等大損之為愈乎。況汝慈親，既不應許，豈可不遵慈命，仍懷此心乎。如汝親絕不許汝修行，猶有可原。汝親甚歡喜汝修行，何得必欲離親修行乎。佛法中有六度萬行種種之功業，皆為利益眾生。汝不出家，則于親有大利益。只此一事，即可曲順親心，居塵學道。俾親日見之熟，不期其信向而自然信向，即為莫大功德。況不止親一人乎。又親既不許，則義不可再思出家。以佛戒律中，父母不許出家，自己任意求出家者，不許攝受剃度，及受戒等。否則師弟各皆得罪。汝既以光為師，謂為善知識。然光實非善知識，而于背佛法事，斷不敢為。但祈依光所說，順親之心，在家修行可也。古人有為知己者，不妨以身許之。況慈親留汝，光勸汝，豈可違抗，固執不改乎。當知孝順父母，奉事師長，慈心不殺，修十善業，乃往生正因。宜隨王虛中，周安士，彭尺木，三先生，則不愧為佛弟子矣。

復周羣錚居士書五

天下事皆有因緣。其事之成與否，皆其因緣所使。雖有令成令壞之人，其實際之權力，乃在我之前因，而不在彼之現緣也。明乎此，則樂天知命，不怨不尤。素位而行，無人而不自得矣。汝獨不知身為人子，義當從親之命。又欲為人徒，猶當從師之命。然父母為子謀者，或有不當，以恩愛重而或有偏處。師則既能視為知識，斷不至所謀過於失當。居塵學道，即俗修真。乃達人名士，及愚夫愚婦，皆所能為。勉力修持，以在家種種繫累，當作當頭棒喝。長時生此厭離之心，庶長時長其欣樂之志。即病為藥，即塞成通。上不失高堂之歡，下不失私室之依。而且令一切人同因見聞，增長淨信。何樂如之。但祈上遵母命，併順光心。隨分隨緣，自利利人。菩薩捨頭目髓腦，以救眾生飢餓。在家修行，于親於汝，皆有大益。何得妄生違拒。如必曰決欲

依我心行。光豈能令其不許如是。但祈將師徒之假名字取消。一任汝拜甚麼高僧。光概不過問。他日相見。一同路人。不得猶執師弟之禮。若不如是。且請依我所說。代光勸化甌江士女。同入蓮池海會。校與汝強欲為僧。致高堂失其歡心。兄弟妻室各懷憂念。而甌人妄生誹謗佛法之心。與業。其得失實不啻天地懸隔。汝試詳審思之。光其為汝耶。害汝耶。光言盡于此矣。過此則一字不肯虛寫。任汝自便而已。

復周羣錚居士書六

因果一法。為佛教入門之初步。亦為誠意正心修身齊家治國平天下之要圖。丁氏所錄。或有紕繆。然其大體卻好。未可以袁氏之不德。而謂其為不足流通也。且袁氏往矣。能知其不德者幾何人哉。使因果報應之事。寓諸目。感諸心。即素鄙袁氏者。亦當閑邪存誠。克己復禮。以自求免于罪戾。培植來福耳。未可以一眚而掩之也。且袁氏初則闢佛。繼則閱歷轉深。的知因果毫無差忒。雖未息心研究佛典。觀其所載感應事迹。實于佛法心悅誠服。所以未能如彭二林者。以文字障深。又以懶惰懈怠。致其結果。只為將來因種。為可惜耳。吾謂以袁氏紀氏之博達。尚孜孜然以因果報應是輯。後之鑒者。或必有深感焉。不欲流通即已。若意欲流通。即便流通。政不宜過於計慮也。

復周羣錚居士書七

講起信論甚好。但恐能領會者少。則於天機淺者失利益矣。似宜淨土法門。與之並行。令彼先知了生死之要道。又知佛法心法之要。則為機理雙契矣。現在人的對證藥。唯因果為第一。宜修法。唯淨土為第一。若夫研究起信。雖亦具因果淨土。而凡夫知見。不能普領全義。又不能按論起修。則只一解義了之矣。無論何等根性。因果淨土。為必不可不先講究也。至於教相。亦須擇人而施。以學生各有所學之事。佛學乃兼帶耳。天機若淺。則專務教相。或將淨土拋在腦後。致成有因無果之結果。是不可不相機而設法也。今之崇相宗者。其弊亦復如是。彼提倡者。實不為了生死。只為通理性。能講說耳。使彼知

自力了生死之難·斷不肯唯此是務·置淨土於不問·或有誹薄之者。此其人皆屬好高務勝·而不知其所以高勝也。使真知之·殺了亦不肯棄置淨土法門而不力修也。甚矣·學道之難也。弘一師之志·唯弘一師則可。若無大精進·生死心不切·則成懶惰懈怠之流矣。今之僧人·實難令人生信。但既追悼僧人·何可誹謗僧人。若舉其善者·戒勵不善者·則無過矣。然自既在學生之列·即戒勵亦宜緘默。以此種事·唯有德望者·方可舉行·非黃口雛生之所宜為也。殘經無可修補·燒則無過。如可看可補者·則不宜燒。有不知變通·一向不敢燒。此經畢竟不能看·兼不能如好經收藏·反成褻瀆。兼以褻瀆之過·貽於後人也。豈可不知權變乎哉。光常曰·因果者·世出世間聖人平治天下·度脫眾生之大權也。今時若不以因果為救國救民之急務·任汝智巧道德·如何高超·皆屬虛設·以不講道理·兼無王法故也。

復洪觀樂居士書

古之聖賢·無不戰戰兢兢·以自操持·故其心不隨富貴窮通所轉。窮則獨善其身·達則兼善天下。今之人於日用云為·父子兄弟夫婦之間·尚不能一一如法。稍有知見·便妄企作出格高人。未得其權·則肆其狂妄之瞽論·以惑世誣民。已得其位·則逞其暴虐之惡念·以誤國害民。其病根皆在最初其父母師友·未曾以因果報應之道·以啟迪之也。使稍知因果報應·則舉心動念·皆有所畏懼·而不敢肆縱。即不欲希聖希賢·戰戰兢兢·如臨深淵·如履薄冰·不可得也。以故天姿高者·更須要從淺近處著手。勿以善小而不為·勿以惡小而為之。少時栽培成性·如小樹標使壁直。其至長成·欲令其曲·不可得也。

復汪穀人居士書

真境有限量·乃不識真境二字之妄計。世界無同異·唯圓證寂光者方見。生死涅槃同一源·而迷悟不同·故縛脫有異。真妄本無二體·而迷真成妄·則祇見其妄·不見其真。若問何故如是·且請扣己而參。直待己亦了不可得·則故自親知。如人飲水·冷暖自知。若向別人口

裏討分曉。縱令別人說得了了。亦如話餅。豈能令自己知其滋味。消其飢餓乎。全真成妄。何問真體奚有。有在何處。全妄即真。何問妄相本無。無至何底。如是問者。不名智人。佛語雖如雷。奈業障于心耳何。一乘若真通達。則四大各失本性。六根一一互用矣。如是理體。說之似易。證之實難。在昔或有其人。而今皆成好高務勝。不事實修。妄談般若之掠虛流派。祈熟讀普賢行願品。與證齊諸佛之等覺菩薩。同求往生。乃光之所深望也。否則各守己志。不須相商。

復徐蔚如居士書一

律藏不許未受戒者看。一則恐其未明遠理之人。見其因犯制戒之迹。不知乃大權菩薩。欲佛制戒以淑後世。遂現作不如法相。以啟如來立制以垂範耳。由其未明此理。唯據近迹。遂謂如來在世。佛諸弟子多有不如法者。從茲起邪見以藐親僧倫。則其罪不小。二則律藏中事。唯僧知之。倘令未為僧者閱之。或有外道假充比丘。作不法事。誣謗佛法。則其害非小。故此嚴禁而預防耳。至於好心護法。校正流通。何可依常途為例。若執定此語。則律須僧書僧刻。僧印。僧傳。方可不違佛制矣。天下萬事。皆有一定之理。而當其事者。須秉一定之理。而行因時適宜之道。理與權相契。法與道相符。斯為得之。律中必有明文。(光)以目昏。未能徧閱。蕩益毘尼集要。亦有此議。亦不須檢查。但無上不明遠理。只據近迹。及欲知佛法中機密之事。擬欲假充比丘等過。則放心安意。校正流通。其功德無量無邊。何須過慮。然須緘默。不可以律中文相。對無知無識之人宣說。及泛泛然錄之於尋常文集中。以啟無知人妄造口業之釁。世出世間。理皆有定。法皆無定。大而經國治世。小如一飲一啄。莫不如是。何獨於律藏而板執乎哉。

與徐蔚如居士書二

前在揚州。知太夫人身嬰貴恙。閣下回申侍疾。意謂年過七十。淨業已熟。或欲警策同流。以西歸一大事。為當頭之棒喝乎。及(光)

於九月初四至申。次日見雲雷。言太夫人身已康健。閣下亦已回京數日矣。不勝幸慶之至。誰知太夫人。畢竟不欲久住此界。以身說法。唯企一切親朋眷屬。咸知世相無常。生必有死。篤修淨業。速求出離此五濁惡世。徹證吾人本具之天真佛性而後已。可謂真大慈悲。現身說法也。適接雲雷之信。心甚悲傷。繼思太夫人。實欲免吾等輪迴之苦。示現來去耳。所可傷者。閣下失恃。坤倫失導而已。雖然。既已神超淨域。業謝塵勞。蓮開九品之華。佛授一生之記。縱閣下天眼未開。不能徹見。在太夫人覆庇分上。固不閒絲毫。更甚曩昔也。祈節哀念佛。以企蓮品轉高。無生速證為事。斷不可過為悲傷。以致彼此無益也。(光)忝蒙不棄。得預友倫。財法俱貧。將何為禮。亦只可朝暮禮誦時。為太夫人回向菩提。以盡方外友誼而已。

與徐蔚如居士書三

昨接手書。並哀啟。讀之。不禁悲感無已。夫諸佛菩薩。法身大士。愍念眾生。示生世間。和光同事。以行教化。或男或女。或國王大臣。妃後大家。及與貧窮下賤之流。俾觸目感發。隨地隨人。而得入于一乘閭奧而不自知。如是則法道流通。如春迴禹甸。日朗堯天。無一處一人。不蒙其光明。沐其含育也。觀太夫人一生行迹。及臨終景象。(光)前所謂乘願輪以示生。居坤維而說法者。為的確之極。(光)虛受男身。濫廁僧倫。四十年來。於法門毫無裨益。讀太夫人汲汲流通大藏。刻印契理契機之書。直欲愧死。而朝暮禮誦時回向。乃據我愚誠。尚望太夫人慈愍。挽彌陀聖眾。以速度我。何可謂為法施。然不妨借此緣事。以增長自利利他之心。故博地凡夫。當禮誦時。尚為諸佛回向。況示居凡位。於理又有何妨。至於七中。及一切時。一切事。俱宜以念佛為主。何但喪期。以現今僧多懶惰。誦經則不會者多。而又其快如流。會而不熟。亦不能隨念。縱有數十人。念者無幾。唯念佛。則除非不發心。決無不能念之弊。又縱不肯念。一句佛號。入耳經心。亦自利益不淺。此(光)絕不提倡作餘道場之所以也。人當臨終。唯同聲念佛為有益。若識心未去。沐浴舉哀等。大有所妨。是

以修淨業人。須於平日。與眷屬說其所以。庶不至誤用親愛。若過量大人。出格高士。正不必懼其被此牽挂耳。良由彼福德深厚。當穢業已滅。淨境現前時。即在此時。其所見所聞。已非此間景象矣。太夫人蓋非常流。固不得以常格律之。其往生可必。其品位當不在中下。然佛法宏曠。唯成佛方可歇手。欲決得往生。正不妨懇切念佛。常行追薦。即佛經所謂雖知罪性本空。而常悔先罪。不說已得清淨。蓮池謂年中常須追薦先亡。不得謂已得解脫。遂不舉行耳。須知念佛誦經。雖曰薦親。實為現前眷屬親知。開心地。種善根。及所有薦親功德。回向法界一切眾生。以廣大自他存亡之心量。以消滅自他存亡之執礙耳。至於不主於誠。唯以奢華張羅誇耀於人。則所謂以親喪作鬧熱。非人子所宜為也。閣下深通佛法。斷不至此。或恐眷屬知交。有被近來諸大家行事。豔羨歆動者。不妨與閣下言之。以杜其違法違理趨時之心耳。

與徐蔚如居士書四

前日雲雷寄無依道人金剛了義。閱之。知閣下佛學。其來也遠。不勝感佩。孟由將一行居集寄來。見其字迹過細。不受久刷。此京中刻經處未能慮及者。明書冊藏。刻得甚粗。現今版小。不能照彼。然亦當如南京揚州款式。祈寄信經理人。說其所以。令一副板多印幾千。其利益大矣。又一行居集。若文若理。通通皆好。唯禪宗秘密了義經跋。為醍醐中含有毒味之作。此經出於乩壇。其文悉取華嚴法華楞嚴圓覺之成文。並六祖壇經。及合會禪淨語錄中文。大通家看之固有益。不具眼者。謂此經乩壇中出。金口親宣。由茲遂謂乩壇中經。皆是佛經。古有閉目誦出之經。皆不流通者。恐其筆杜撰之端耳。大明仁孝皇后夢感經。其義理利益。皆不思議。而靈峰老人。閱藏知津。目為疑偽。清藏初亦刻入。高宗後又撤去。以防偽濫。二林見地甚高。何以慮不及此。法雨先亦有一本。(光)燒之以杜禍胎耳。以法門知己。不妨絡索一上。現今國窮民困。已至極點。貼骨之煙患。尚未能除。亦有世道民生之責任者。一大憾事。今夏有友。自哈爾濱來。言其地

煙禁大弛。亦有二三友人。欲戒而苦無良方。(光)先聞陳錫周戒煙方。靈得非常。為從來所未有。候其來山。令開出寄去。又開一張與本寺副寺。令其送人。以彼曾在商務中做過事。交遊必寬。企其普徧流傳。至十一月間。哈爾濱有信來。言(光)所寄方。靈得非當。代為戒好友人致謝。不勝歡喜。因問本寺副寺。彼言其友汪蟾清。其內人以氣痛喫煙。後欲戒之。即買市賣藥丸服之。終不斷根。若不喫藥。煙氣二病即發。得此方一料服完。煙氣二病。化為烏有。其子開汪李濟堂藥店。生大感激。印其方送人。並依方製成丸藥。藥水。以期濟人。於自己各店賣之。(光)即令要二百張方子來。凡遠近知交有信來。皆為附寄一張。有力者令其排印廣傳。竊念閣下及雲雷。悉皆有心利人。宜將此方。長年上報。俾舉世咸知。則功德無量矣。已與雲雷談過。當出半分報費。此費當覓三五有心世道之人均認。則事在必行。於報館。于自己。皆無妨礙。倘欲戒者。即可頓離此苦。亦救國救民之一端也。(光)於廣東雲南各處。皆隨文鈔寄去。令其排印此方。普徧傳佈。前與哈爾濱寄方時。亦令彼覓三五有財力肯利人者出資。於當地兩報館。長年登報。俾本界及外界咸知。今既親獲靈驗。當必能常時登報矣。真辦道人。何預他事。但未能通身放下。斬斷萬緣。不妨帶培心地。以救取一半耳。(方附集末)

與徐蔚如居士書五

王弘願居士。雖則崇信密宗。頗有效驗。然始則錯認消息。將有未得謂得之失。繼由多閱教典。方知錯認。次則現雖工夫得力。而虛火上炎。無法自治。(光)以此二事。斷其密宗一法。不能普被三根。不如淨土法門之千穩萬當。謂君宿具靈根。見地高超。尚有錯認。及受病不知對治之失。則世之不及君者可知矣。彼謂密宗高出顯教之上。引種種言論以辨。然佛無二心。亦無兩法。欲擡高密宗。但當論密宗所以高處。既以密宗之妙處。與顯教之妙處證同。是欲推尊而實持平也。彼之所論。乃約教而遺機。(光)乃約機而論教之利益。蓋契理而不契機。則不能感應道交。所謂說法不投機。便是閑言語矣。大意如

此。(光)所說多絡索·兼以目力不給·凡屬信札·概無存稿。一位攝一切位·而從淺至深·行相仍復歷然。圓融不礙行布二語·最為恰當。蓋以圓融·正圓融其行布。若無行布·說甚圓融。行布·正行布其圓融。若無圓融·則其行布·便成生滅·便屬小乘諦理·便非因該果徹之道矣。

與徐蔚如居士書六

接手書·及觀經嘉祥大師義疏。一再細閱·其文法實在令人迷悶。一句話反覆數說·而義意含糊。兼且只派名義·前不詳其所以·後不結其歸宿。(光)億此疏·恐未必是嘉祥大師親筆。當是東洋耳食之徒·冒名而作。否則縱令傳寫致訛·不致通皆不成文理·雜沓瑣碎·絕無顯示大義·如須彌高出於海·八風悉吹不動。縱令好為更端者·不能移易一字之處。是為可疑。十一面疏亦然。彼慕吾國高人之名·妄自著書。不知自非高人·冒名亦冒不到耳。又北京近所印書·皆用毛邊紙。此紙現視頗好·久則發脆。(光)在京時·見百餘年外之書·紙皆發脆。粗心人翻閱·便見破碎。心竊疑之·而不知其以。光緒三十一年·問仁山先生。彼云·被煤煙熏過之故。其說雖有理·亦不能息疑。以藏書多者·豈皆在有煤煙處。紅螺無煤·書亦發脆。知先生此言·殆想出之理由·非實驗之的據。至前年到藏經院·與一老做書者·談及紙性·因說北京舊書皆發脆·彼云此係毛邊。毛邊新時覺得厚實堅固·以草料多·竹料少·故久則發脆。毛太重太紙質·不如毛邊堅實·經久不變。外行人多以毛邊為美·我等做書各工·亦願做毛邊·以其硬爽好做。實則毛太重太經久。(光)聞·疑心豁釋。

與徐蔚如居士書七

觀經疏·釋文釋義·甚為疏漏。其科則三四次頻標·直是蕪蔓不堪。今閣下亦知是偽·似宜令發心者息此刻事·勿令嘉祥大師受誣。凡流通古人註疏·須擇其義理文字·能啟發人心·暢徹經義者為準。如此疏文·刻之何益。即令(光)修·亦無生色。若大改換·直成另

著·不名為修。況天台善導各疏·徧法界流通。何不惜金錢·作此無益之事耶。取其嘉者流通·則於古人有光·於後學有益。若不論真偽·并皆流通。則令古人受誣·令後人煩神亂思·而了無利益。祈為彼言之。(光)前年見十一面疏·亦以為偽·特未形之言論耳。此等書斷以不流通為是。

與丁福保居士書

近世士大夫·多守拘墟之見。有以因果報應·生死輪迴之事理相告者·則曰此稗官野史小說家憑空造者·何足信乎。其人亦曾讀經閱史·雖見此種事·亦不體察其所以然·其拘墟也仍復如是。居士將歷史之因果報應生死輪迴等事·集之於一編之中。上而麟經·下及明史·其事迹的的可考。彼拘墟者讀之·當必啞口不敢謂其無稽妄造矣。至於學佛一事·原須克盡人道·方可趣向。若于孝弟忠信·禮義廉恥等事·一不實踐。雖終日奉佛·佛豈佑之哉。良以佛教該世出世間一切諸法。故于父言慈·于子言孝。各令盡其人道之分·然後修出世之法。譬如欲修萬丈高樓·必先堅築地基·開通水道。則萬丈高樓·方可增修·且可永久不壞。若或地基不堅·必至未成而壞。語云·選忠臣于孝子之門·學佛者亦復如是。昔白居易問鳥窠禪師·曰如何是佛法大意。師曰·諸惡莫作·眾善奉行。欲學佛法·先須克己慎獨·事事皆從心地中真實做出。若此人者·乃可謂真佛弟子。若其心奸惡·欲借佛法以免罪業者。何異先服毒藥·後服良藥。欲其身輕體健·年延壽永者·其可得乎。實驗一書·堪破此弊。流通于世·大有利益。又蘇州彭希涑曾輯二十二史感應錄·于歷史中·摘錄因果事實百八十餘條。不知閣下曾有此書否。若有·宜一併排印·以闢拘墟者之眼界。又二十四史·奇事固多。居士博覽無遺。宜將非凡情所測之事·如欲海回狂後所標者·併諸因果輪迴等事·盡錄而輯作一書。以為治國安民·了生脫死之一助·則其功德大矣。不知肯滿我愚願乎。

復寧波某居士書

接手書。知治習之心。唯勤唯切。而消習之效。未得未見。其故何也。蓋以生死心不切。而只將此超凡入聖。消除惑業。成就淨念。作口頭活計。故無實效也。倘知人身難得。佛法難聞。淨土法門更為難聞。今幸得此大丈夫身。又聞最難聞之淨土法門。敢將有限光陰。為聲色貨利消耗殆盡。令其仍舊虛生浪死。仍復沈淪六道。求出無期者乎。直須將一个死字。(此字好得很)挂到額顱上。凡不宜貪戀之境現前。則知此吾之鑊湯鑪炭也。則斷不至如飛蛾赴火。自取燒身矣。凡分所應為之事。則知此吾之出苦慈航也。則斷不至當仁固讓。見義不為矣。如是則塵境即可作入道之緣。豈必屏絕塵緣。方堪修道乎。蓋心有所主。不隨境轉。則即塵勞為解脫。所以金剛經屢屢令人心不住相。發心度盡一切眾生。而不見能度之我。所度之人與眾生。并所得之無餘涅槃之壽者相。方為真行菩薩道。若見有我為能度。生為所度。及無餘涅槃之所度法者。雖則度生。實於一乘實相之道。未能相契。以不了眾生當體是佛。佛性平等平等。妄起凡情聖解。致無為利益。成有為功德矣。何況聲色貨利之貪戀粘著乎哉。然人生世間。不可無所作為。但自盡誼盡分。決不於誼分之外。有所覬覦。士農工商。各務其業。以為養身養家之本。隨分隨力執持佛號。決志求生。凡有力能及之種種善事。或出資。或出言。為之讚助。否則發隨喜心。亦屬功德。以此培植福田。作往生之助行。如順水楊帆。更加艣棹。其到岸也。不更快乎。臘月三十日。乃一歲之盡日。倘預先未曾打疊得好。則債主怨家。羣相繫縛。那容你過。臨命終時。乃一生之臘月三十日也。倘信願行資糧未具。貪瞋癡惡習猶存。則無量劫來怨家債主。統來逼討。那肯饒你。莫道不知淨土法門者。無可奈何。隨業受生。即知而不務實修者。亦復如是。被惡業牽向三途六道中。永永輪迴去也。欲求出苦之要。唯有念念畏死及死而墮落三途惡道。則佛念自純。淨業自成。一切塵境。自不能奪其正念矣。心經云。照見五蘊皆空。度一切苦厄。內之根身。外之器界。五蘊包含淨盡。能見其是空。則即

五蘊・離五蘊。法法頭頭・皆是大解脫法門・大涅槃境界矣。

與友人書

凡為善知識・一舉一動・皆有關於如來慧命・眾生善根。非止陞座說法・方為宏法利生也已。吾讀續傳燈錄・見投子顥禪師・有大智慧・具大作略。陞座而左右顧視・能令富鄭公直下知歸。從茲力參・徑造其極。而以十餘擔行李・令司馬溫公欲見而中止。畢生于如來大法・自己本性・為門外漢。使顥師一鉢一杖・則溫公未必不如鄭公。而溫公以吹毛求疵・自失鉅益。顥師以什物過多・損眾福田。有法道之任者・俱宜鑑之。

復岳仙嶠居士書

若欲此生親得實益・當依淨土法門・信願念佛・求生西方・則可決定了生脫死。若不依念佛法門・且莫說未得佛教之真傳者不能了・即得亦不能了。何以故。以得真傳・乃大徹大悟・非是實證。證則可了・悟則未了。修餘法門・皆須斷惑證真・方了生死。淨土法門・但具真信切願・持佛名號。諸惡莫作・眾善奉行。正助合行・不但決定往生・而且品位優勝。不但精粹純篤之人・決定往生。即五逆十惡之流・臨終能生大慚愧・生大怖畏・志心念佛數聲・隨即命終者・亦得決定往生。以佛慈廣大・專以度生為事。一念回光・即蒙攝受。所謂仗佛慈力・帶業往生也。末世眾生・不依淨土・修餘法門。但得人天福報・及作未來得度之因緣而已。以無力斷惑・則生死根尚在・何能不發生死之苗芽乎哉。

與揚州萬壽寺寂山和尚書

久仰高風・未獲一晤。幸由通公開蒙法緣・得承警欬・而且不輕末學・下詢芻蕘。感愧之私・筆難盡述。昨悟開師一接華翰・即持以相示。知黎端甫居士・已允修治・刻期告圓。晚喜出望外・不禁手舞足蹈。公在山時・晚亦議及黎公。但慮應聘校對地論・恐不暇及。今既允公請。足徵大士智慧・猶如日輪當午・大地普照・非我輩持螢火

以尋行墨者可比也。然通公開蒙·實纂集諸家菁華。其于發揮理性·可謂深切著明。但以賦性率真·不事支末。故于措詞立言·不無參差疏漏之弊。若夫略玄黃而取神駿·須待得意忘言之人。玩圖像而怖真龍·每多尋行數墨之士。若不大加修治·決難三根等益。竊思魯史春秋·一經仲尼筆削·遂成千古致治之大經。憨山全集·因囑謙益修治·即為隨藏流通之妙典。古既如是·今亦宜然。只期徹露廬山真面·不必確守原稿成規。譬如拆倒五鳳樓以重修·打散左氏序以另集。材料雖則仍舊·結構須隨所宜。不妨以柱為梁·一任截長補短。文之贅者去之·義之闕者補之。宜在前者移之于前·當在後者置之于後。俾大佛頂理·圓通常性·與夫若義若文·悉皆徹底掀翻·和盤托出。使上中下根·無不一目瞭然·各獲鉅益。庶可令通公黎公我公之本懷·究竟舒暢矣。若限以兩月告圓·恐致成略加讎校。日期過促·黎公之匠手莫形。修治不精·通公之婆心仍晦。刊而傳之·欲與楞嚴諸註·併壽于世·恐難必矣。宜革欲速見·多限數月。俾得反復研究·諦審精修。自然上契諸佛之妙心·下滿諸公之宏願。罄來際以流通·盡生界而得度也已。疏首題名·二公並書。初云憶蓮沙門通智尋源述·次云端甫居士黎養正重治。雖黎公心游華藏·志在利人·悟人我以皆空·了自他之不二。然在吾人感恩頌德分上·固應如是施設也。修治已訖·即付手民·不須寄來。黎公儒門山斗·法海津梁。宗說兼通·行解相應。若非觀音普賢之應化·定是方山無為以再來。所有著述·機理雙契。倘懸之國門·易一字者·賞以千金。當窮年竟月·無一人敢一著筆。有何所疑·尚須旁人相證耶。待至全部刻圓·即祈普惠法施。晚雖盲目·不能親見日光·然長夜重昏之中·常欲蒙其照燭也已。臨穎依依·不任神馳。

復江西端甫黎居士書

東風解凍·企闡顯密融通之宗。化日舒長·願蒙佛頂圓滿之光。恭維端甫黎公大居士·夙植德本·乘願再來。博極羣書·深入經藏。閱象教之衰頹·明法性之綱要。出言成章·機理雙契。立願濟世·解

行俱崇。破夢醒迷。震驚心之霹靂。扶教宏宗。施當頭之棒喝。而且成人之美。不辭勞苦。曲引末學。和光利物。若非普門應現。維摩後身者。儔克如是也耶。光幼失問學。長無所知。宗教門高。末由進步。權依淨土。以為躲根。天姿陋劣。故無從廣參知識。客路嶢嶢。因廿載寄食普陀。壬子仲冬。得睹佛學叢報。始知宏法大士。多現儒門。歡喜感歎。非言可喻。其于閣下著述。更加欽佩。但恨根鈍骨朽。不能常侍丈室。叨蒙雕琢耳。季秋萬壽寂公。以開蒙因緣。俯臨光舍。因勸重治。注意于公。又慮其力不暇及。幸三寶加被。預示夢兆。得蒙俞允。幸何如之。寂公即函示其由。期以兩月告成。光以公未詳睹原稿。彼未細陳修法。恐公但隨彼意。略加譌校。因稍陳梗概。以致寂公。不億轉蒙蓮鑒。感愧無極。茲于除日。得承手教。足徵我公接物閱經。直同洪鐘在簾。有叩則鳴。寶鏡當臺。無形不映。感荷感荷。竊謂開蒙草稿。雖屬通公。其發揮潤色。全仗閣下。若精神不給。只得將計就計。倘色力強健。何妨于顯宗外。處處另標密宗綱要。俾閱者知顯密圓通。法門無二。事修宜一門深入。理性固二法融攝。當不惜如椽之筆力。使佛頂放圓滿之光明。以普照于盡未來際一切有情也。又末世講家。每好談宗。致令聽眾。多隨語轉。竊謂禪家機語。絕無義味。唯就來機。指歸向上。只宜參究。何可講說。如是講經。唯超格大士。能得其益。其他中下之流。盡受其病。于宗則機鋒轉語。不知力參。妄自以義路卜度。于教則實理實事。由非己境。便認作寓意表法。以宗破教。以教破宗。近世流弊。莫此為甚。伏祈出廣長舌。拯此沈溺。又悟開師宿根固深。好勝心切。始則專意禪宗。藐視淨土。後預通公法會。從茲漸生信心。但負性狂妄。志願則高不可扳。色力尪羸。行持則遠難相應。去冬曾露本心。光遂深加呵斥。奈執心過重。豈能挽回。不億亦白閣下冬月廿一。抱病回山。與其師兄敘外面事未畢。即不能言。至次日未刻即逝。有何祥瑞感應之可言也。楊次公謂愛不重。不生娑婆。念不一。不生極樂。悟師非不信有西方。但以愛根固結。念頭不一。平生所期。皆成畫餅。其求見道。求臨終普現瑞

相。皆其愛根發露處。打頭不遇作家。到老終是骨董。悟師之謂也。哀哉。又壬子臘月。因念佛學叢報。印用洋紙。不如本國紙之耐久。致諸公所著奇文偉論。因用紙失當。不能經久廣益。遂不避罪責。略陳鄙懷。事雖數條。唯此為主。于癸丑正月初。寄至編輯所。豈料一乘濮公。嫌其蕪穢。絕不寓目。高居士來。重為抄錄。企轉達諸公。以詳知洋紙之害。不知曾蒙青盼否。現雖叢報停版。亦須仰白者。以洋紙之害。甚于洪水猛獸。窮國。屈民。斷滅儒釋聖教。其禍無有底極。企有力大人。遏此習風。以福同胞而永法道耳。楚青狄公。有志流通。有正書局。近印數種。皆用洋紙。若不痛示利害。將來各處所刻大藏。定難免用。則是以流通而致速滅亡。此不慧所痛心疾首。籲訴無門者。今幸蒙垂教。故敢上呈。我公學冠通國。道高當世。交遊徧于中外。言論服于人心。懇祈普告宏法諸公。併撰述鴻文。長登報紙。俾舉世同胞。咸知禍害。凡屬聖賢傳世經書。及契約文憑。概勿用此。庶三教不至速滅。五族同霑洪惠矣。

與張連勝總戎書代友人

禹甸春迴。堯天日永。北苑梅開。花陳箕疇之五福。東園竹秀。葉報華封之三多。恭維總戎張大人。才兼文武。職任爪牙。道隨時以暢茂。爵共日以高升。入春以來。榮膺尊秩。而復地近南海。密邇觀音。此乃多生多劫。于大士所。曾種善根。及大士悲心。欲仗其威力。護持法門之所致也。其道體康泰。起居納福。可以不卜而知矣。慰慰賀賀。竊念普陀。乃大士應化之地。歷朝敕建。舉世欽崇。而尤與總戎。有大因緣。往古則不及詳。近世有大功勳于此山者有三。明萬曆間。總戎侯公繼高。講武之暇。纂修山志。護持流通。拳拳于茲。國初以來。海氛不靖。山寺頽敗。至康熙廿八年。世道升平。翠華南幸。總戎黃公大來。啟奏名山廢墜狀。隨即賜帑敕修。而黃公未經一年。即升尊爵。次年總戎藍公理蒞任。奉旨監造。鞠躬盡瘁。竭力經營。佛事王事。一肩擔荷。前後兩寺。為立生祠。永隨大士享受香火。而于黃公。亦設祠祀之。其他武臣。護持此山者。多難枚舉。良由武臣。

每當兩軍對壘·鋒矢交馳之際。多默念大士·密蒙護佑。由之立戰功·致太平·故致然也。縱時屬靖謐·亦藉大士威力·鎮軍威于遐域·消禍亂于未萌。唯其沐恩也深·故其報恩也切。唯其報恩也切·故其食報也厚。如黃藍二公·及近世曾彭左等諸公·莫不皆然也。現今時值末法·法弱魔強。每有無賴之徒·混入法門。不守清規·敗壞佛法。由是不達深理之儒士·見此遊行人間造作惡業之僧。遂謂舉世僧眾·無不如是。從茲一唱百和·誹謗沮遏。甚至毀廢寺宇·焚燒經像。不知玉雖出于崑岡·必玉隱而石露。若不鑽鑿·則止見其石·不見其玉。以不見玉·遂欲措以烈火·則因惡頑石而盡焚美玉矣。昔人負荊山之世寶·尚且兩獲刖足。況負無上大涅槃山實相妙寶者·而世俗知見·何能識之·宜其頻加毀辱也。伏願閣下·護持名山·摧邪輔正。以國家之爪牙·作大士之金湯。繼黃藍之芳蹤·抉俗眼之翳膜。其食報也·當必果證無生·地登不退。成正覺于將來·作調御之丈夫。豈第印變成方·秩轉為文·百年福壽·裔世聯芳而已哉。

復張雲雷居士書一

梁任公·有出羣之才·值相忌之世。何不卷而懷之·賦歸歟而力究出世大法·以期徹悟本具妙性。又須力修淨業·回向往生。俾所悟者·一一親證。然後乘大願輪·示生濁世。以不思議神通變化·作對治法。于強弗友·剛克。燮友·柔克。無論上中下根·無一不被其澤。此大丈夫繼往開來·自利利他之究竟實義。于此時此世·而不竭力研究。徒存憂世之心·不免危身之慮。乃英雄豪傑憤世悶時之迹·非聖賢素位而行·樂天知命之本色也。宿生培此慧根·固不容易。倘不于此專精致力·以期親證。則如坯器未火·經雨則化。光陰短促·人命幾何。一氣不來·即屬後世。未證道人·從悟入迷者·萬有十千。從悟增悟者·億無一二。忍令無上法器之坯·經再生之雨·而復為塵土乎哉。任公與光·素無交情。近以謬聽人言·亦可攀為知己。知己者為知己謀·須于大體統處立言·方不失為一言相契·畢生知己之誼也。不知梁公視此·為豎點頭乎·抑橫搖首乎。祈以此意轉達之。

復張雲雷居士書二

入佛問答一書·導引未悟·令生正信。隨機開示·漸入漸深。贈送結緣·誠屬莫大功德。然此係泛論入佛事理。雖亦偏讚淨土·實未大暢厥旨。若已有信心·當閱淨土諸書。若不能多閱·其最顯豁者如徑中徑又徑一書。採輯諸家要義·分門別類·令閱者不費研究翻閱之力·直趣淨土壺奧。于初機人·大有利益。入佛問答所示研究次第·唯天姿高·宿根深者·方堪擔荷。若二俱退半·仍欲依彼所示而為研究。恐教理不能大通·而淨土一法·由篤志研窮教理·遂成擔閣矣。佛法因人而施·斷不可執通途宏規·而與機相違·致失即生了脫之殊勝利益。是在當人自量根性·而為修持耳。往生咒梵文·學之亦甚好。但不得生分別心·謂此略文為非。一起此念·則一大藏所有咒·皆生疑心·謂為未合佛意。須知譯經之人·皆非聊爾。何可以他譯不同·便藐視之乎。千餘年持之得利益者·何可勝數。豈千餘年來之人·皆不知梵文乎。學固宜學·斷斷不可起優劣勝負之念。則利益自不可思議矣。又持咒一法·與看話頭相似。看話頭以無義路·故能息分別之凡情·證本具之真智。持咒以不知義理·但止至誠懇切持去。竭誠之極·自能業消智朗·障盡福崇。其利益有非思議所能及者。禮佛儀式·極忙之人·不便特立。但至誠懇切·口稱佛號·身禮佛足·必致其如在之誠則可矣。世當劫濁·互相戕賊。不有護身符子·斷難永無禍害。所謂護身符子·亦只至誠禮念阿彌陀佛而已。而觀音大士·悲願洪深。尋聲救苦·隨感即應。宜于朝暮禮念佛外·加以禮念大士。則冥冥之中·必蒙加被·自可轉禍為福·遇難成祥·而不自知也。此方外野人為知己作救世之方法也。若曰為舉世·非不能救。但人不肯依法而行·則無如之何矣。

復張伯巖居士書

息戰書·略閱一徧。江神童·可謂非常之人·抱非常之志。擬欲作非常之事·普令天下人民·同得非常之常道。實為千古希有。若非

聖賢再世。便是菩薩示生。其生也。必非聊爾。而天下萬國。當由此長夜洪鐘。通皆震醒。由茲己欲立而立人。己欲達而達人。自利利他。視人猶己。同歸無我之域。共用大同之風。光老矣。恐不及見。不妨預為萬國賀。雖然。其立法猶有不合時機處。光無知無識。何敢評論江君著述。而知己人前。不妨一為商榷。諒無罪責見加耳。當今世道人心。壞至極點。欲挽救之。但以五教聖賢道德為訓。此唯能轉變天機深者。若中下之人。任汝說得脣敝舌焦。彼縱能領會。亦與自心了無干涉。況不領會者。居其多半乎。則用力多而收效鮮矣。欲萬國共敦此誼。除非萬國之人。皆屬上等天姿。欲力求聖賢之道。而未得其門徑者。方有實益也。否則誨爾諄諄。聽我藐藐。衛武公早言之于二千餘年前矣。江神童可謂知體而不知用。得根本智而未明差別智也。又其設會之法。範圍過大。恐無此汪洋支費。不落空談。亦屬有始無終。又此種大會。何可特設女會。女會一立。將必全國女人。戮力爭權。事事皆須男女一體。果皆如虞之二妃。周之三太。則實為大幸。否則其弊有不可勝言者。以天生非常之奇人。而開此弊端。實為不慧所痛惜。吾嘗謂治國平天下之權。女人操得一大半。以相夫教子于家庭之中。俾有天姿者。即可希聖希賢。大立德業。無天姿者。亦可循規蹈矩。作一善良人民。若捨此不講。而專欲操權與男人同。則是亂天下之第一大禍也。神童何其未慮及此。又其論佛教。亦大有失言之弊。若上等人聞之。當必汲汲以求其戒定慧空。若下等人聞之。或致欲人其人。火其書者。相繼而起。當此殺劫熾盛之時。不以佛之慈周無形。悲拔三世之道。為救國救民第一要義為訓。而發揮偽佛教。即以棄倫物。談禍福為證。夫因果報應。乃世出世間聖人。平治天下。度脫眾生之大權。當此人心陷溺之際。正宜倡明因果報應。使中下之人。雖欲為惡而有所不敢。雖欲不為善而有所不能。而反破斥談禍福為偽。為所痛恨。豈真知佛教哉。夫棄倫物談禍福。何嘗無偽。又何嘗無真。而概以偽目之。則釋迦如來便成罪魁。自佛以下。何堪再論。若曰諸賢所闢者迹。未知其真。則吾無閒然。而謂諸賢闢者是偽。則

過在佛教·不在諸賢。充所謂偽佛教之詞·則非滅除佛教·唯留戒定慧空不可也。夫戒定慧空·佛未出世·法未東來·固已充塞宇宙·無少欠缺。而堯舜周孔之聖·亦未發明。迨至佛教東來·則方知吾人日在戒定慧空中過活·從生至死·不能出乎其外。而無端怖頭狂走·為可憐耳。醫家治病·急則治標·緩則治本。譬如有人咽喉壅腫·飲食難入·氣息難出。必先消其腫·然後方可按其病原·調理臟腑。若不先消其腫·則人將立斃。縱有治本之良方妙藥·將何所施。因果者·即今日消腫之妙法也。然因果一法·標本統治。初機依之·可以改惡修善。通人依之·可以斷惑證真。乃徹上徹下·從博地凡夫·以至圓滿佛果·皆不能離者豈徒治標而已哉。

與謝融脫居士書

貴鄉之知有淨土法門·由林介生之請淨土典章。倘諸居士于宿世中·向此法門·未種善根。何能以古為師·一聞之下·即便生信發願·自行化他。不十五年·其道大行之若是乎。觀閣下之天姿境緣·及現在之法運時機·似宜以持五戒而護持三寶·宏淨土而普勸往生為契理契機之第一要義。何以言之。閣下年已過四十·天姿非上等。欲研窮經藏·參訪知識恐有法門無量·光陰不多·縱欲鑽研·措手不及之歎。又現今雖有知識·而僧多濫汙·同行乏人。(同行、名為內護、能互相磋磨、挾持進道、)若向上之志一衰·則懶惰懈怠隨之·而不復振矣。如(不慧)二十一歲·辭親出家。亦可謂發心真而立行猛矣。至今五十三歲·若宗若教·毫無所得。徒負親恩·空為佛子。所幸者淨土一法·於出家學彌陀經時·已生信心。實未蒙一知識開示。以當時業師·與諸知識·皆主參究。所有開示·皆破淨土。吾則自量己力·不隨人轉。雖佛祖現身·猶不改作·況知識所說乎。又現今法弱魔強·欲護持佛法·在俗則易·在僧則難。閣下若能嚴持五戒·專念彌陀。克己復禮·言行相應。然後廣行化導·普利羣倫。不可居師位而自高·不可受錢財而自益。在家為一家演說·對眾為大眾詳陳。則人皆仰其德而信從其言。所謂其身正不令而行·草上之風必偃也。令郎不信此道·

亦不可強。俟其遇境逢緣，天機發現時，一啟迪之，自有沛然莫禦之勢矣。蓮社初開，須有定規。女人入社，斷乎不可。切不可效他方之漫無檢約，以致一法才立，而百弊叢生矣。至要至要。舍利不能禮拜，叢林不能親炙，有何所欠。但能見佛像，即作真佛想。見佛經祖語，即作佛祖面命自己想。必恭必敬，無怠無忽。則終日見佛，終日親炙諸佛菩薩祖師善知識。舍利叢林云乎哉。市井習氣，出家若不真修，更甚於俗。若欲遠離，先須了知世間一切諸法，悉皆是苦，是空，是無常，是無我，是不淨。則貪瞋癡三毒，無由而起矣。倘猶不能止，則以忠恕忍辱治之，則自止矣。若又不止，則設想於死，自然無邊熱惱，化為清涼矣。報恩經謂次第受戒。今出家受戒者，亦先三皈，次五戒，次十戒，次具戒，次菩薩戒。但古之受戒者，是發心為了生死。今之受戒者，多是為充大僧而圖體面。得戒之言，從未措懷。故外方之蟒流子，下流坯，無不皆是受過三壇大戒之僧。此其弊由於清世祖罷試僧，免度牒。與近世之為師者貪名利，喜眷屬之所致也。吾恐貴地諸僧，不知此義。謂度人出家，是第一好事。致匪類入法，法隨以滅。故不避繁瑣，而覩縷言之也。須知淨土一法，乃如來一代時教，最玄最妙，至圓至頓之法門。（一法具一切法名圓、即生修、即生證名頓、）博地凡夫，亦能入此法中。等覺菩薩，不能出此法外。實上聖下凡，速成佛道之一條捷徑。諸佛諸祖，普度眾生之一隻慈航。於此不生信心，或信不真切，便是業深障重，不合了生脫死，超凡入聖。永世永劫在此世界，常輪六道，無有出期。縱得人天，為時甚少，如客邸寄居。一墮三途，則其時甚長，如安住家鄉。每一思及，衣毛皆豎。不惜苦口，懇告同人。今為閣下引一明證。庶可策發信願之心，而鼓勵宏贊之力耳。此之法門，唯阿彌陀經，觀無量壽佛經，無量壽經，專說。其餘一切大乘經中，無不發明此事。其他勿論。華嚴一經，乃佛初成道，為十住，十行，十回向，十地，等覺，四十一位法身大士，直說界外大法，不與凡夫二乘所共。末後入法界品，善財童子，（童子，乃斷惑證真，破無明復本性之美稱，非如塑像作小孩子，為童子

也、文殊菩薩、華嚴有處亦稱文殊童子、餘經亦有作此稱者、）受文殊教，徧參知識。初見德雲，即聞念佛法門，遂證初住。從此隨參隨證。至五十三普賢菩薩所。普賢以威神加被，令善財所證與普賢等，與諸佛等。（是名等覺菩薩）然後普賢令善財，與華藏海眾，一切諸大菩薩，發十大願王。以此十大願王功德，回向往生西方極樂世界，以期圓滿佛果。又觀無量壽佛經，下品下生章云，下品下生者，或有眾生，作不善業，五逆十惡，具諸不善。如此愚人，應墮惡道，經歷多劫，受苦無窮。臨命終時，遇善知識，教稱佛名。滿十聲已，滅罪往生。龍舒淨土文中張善和，張鍾馗等，即是其人。上之則文殊（文殊有發願經）普賢，久成佛道之大菩薩。下之則五逆十惡，將墮地獄之惡眾生。皆承彌陀接引之力，皆為淨土所攝之機。可見法門廣大，了無棄物。佛願宏深，等視眾生。吾嘗有聯云，捨西方捷徑，九界眾生，上何以圓成佛道。離淨土法門，十方諸佛，下不能普利羣萌。閣下當發大勇猛，發大精進，擔荷此法。取古人宏揚淨土之逗機言論，為鄉里倡。居塵不染，即俗修真。方合融脫命名之義。蓋融脫者，乃和光而不同其塵之謂也。鄙見如此，不知閣下以為何如。祈自裁度。

復顧顯微居士書

令友某君，對於佛學種種情見。及復閣下書，雖數百言。只因因果，空有，事理，性相，混亂。致于金剛，于淨土，悉皆不依佛祖誠言生信。妄自違理究理。欲為出格之大智慧人，不肯墮于愚夫愚婦之窠臼。而自謂為理障，實則是業障于心。如盲覩日，了不見其光相。尚謂見者為妄。豈不大可哀哉。此種知見，誠不易破。況（光）之所說，語涉支離，理難徹透。固當愈滋疑議，有損無益矣。欲不奉命，恐或見責。且作塞責之計，而妄評之。祈勿致于某君。否則撕裂踐踏，或所不免。若以（光）之文論，則適當其宜。若以其中所說，不是引經之文，便是宗經之義。而字又為世間至寶，被彼踐踏。不但彼自獲罪不淺，閣下與（光），亦復獲罪不淺也。今代為復曰，諦觀來書，種種議論。一言以蔽之，曰以凡夫知見妄測佛智而已。且吾人從生至死，

內而身心·外而境界·何一能知其所以然。從自有知識以來·見前人之所為·而自亦為之。遂得身體成立·諸事順適·身心安樂。從生至死·受用自在。若如來諭·己不知佛之所以然·及淨土之所以然。雖佛祖誠言·亦不肯因之生信。推是以求·閣下終日喫飯·終日穿衣。其充飢禦寒之所以然·為知也·否也。若道知·則知者為誰·請的的指出。若指不出·猶依前人成規穿衣喫飯·何于了生死第一妙法·必企其先知所以然而生信·斷不肯因佛祖之誠言而生信耶。又閣下有病·須服藥者。為先徧閱本草脈訣·知其藥性病原·方始按病立方·而後服藥耶。為即請良醫診脈·立即服藥耶。若立即服藥·則治病與學佛相悖矣。縱令徧閱本草脈訣·知其藥性病原。亦與學佛相悖。何以故。本草脈訣·係前人之成言。汝未能親見·何可取信。若謂本草脈訣之言·不可不信。則佛祖善知識之言·何以皆不生信·必欲自見方信耶。如汝知見·刻實論之。當先見某藥走某經·治某病·方肯開方服藥。斷不肯依本草脈訣所說·以開方服藥。何以故·以未見故。今充飢禦寒治病之所以然未見·而即穿衣喫飯服藥。佛與淨土之所以然·己未親見·縱佛祖誠言·皆不生信者·此何故也。一則以性命相關·雖不知不敢不如是行。一則以高明自詡·必徹見方肯修持其法。古今來幾多出格豪傑·由此知見·畢生不沾佛法實益。彼謂為愚夫愚婦者·初亦不知。而能依前人成規·顓蒙念佛。因茲潛通佛智·暗合道妙。遂得帶業往生·及斷惑往生者。將見悉證佛果·況徒知之而已乎。而此種自命出格者·因疑生謗·將從劫至劫·長墮惡道。被彼愚夫愚婦念佛往生者之所憐憫·欲垂救援亦不可得。何也·以宿世之不信惡業所障也。閣下之智·如干將莫邪·切玉如泥。以不善用其智·如以干將莫邪切泥·則泥無所成·徒損鋒銑。可不哀哉。佛法乃心法·非世間一切法所能喻。其喻者·不過令人會其義。何得死執其事·而敵體論之。舉扇喻月·動樹訓風。必于扇上求光明·于樹上求披拂。是尚得名為智乎。夢境是假的·因果是真的。亦不妨以夢境喻因果·悉令敵體相符。何也·妄心是因·夢境是果。若無妄心·決無夢境。此決定

不易之論也。善惡及修持之心之事是因・得善惡及修持之果報是果。閣下為信也・否也。妄心為夢因・則得夢境。念佛之心為佛因・則近之即得往生西方・遠之畢竟圓成佛道。是滋君之疑也・抑起君之信也。佛為究竟有無且置。閣下必欲致詰佛之有無・且問閣下自己畢竟是有是無。若謂是無・此一上絳索・是誰述說。若謂是有・請的的指出其述說者。語言・係喉舌與識心相即而有文字・亦識心手筆運動而現。二者皆不出色受想行識五蘊之外・皆非閣下自己。離此五法指得出・許閣下問佛究竟有無為大智慧問。若指不出自己之有無・欲先知佛為有無・乃狂妄無謂之問・非切己窮理之問也。佛畢竟是有・因汝凡情未滌・決不能見。閣下自己亦是有・因汝五蘊未空・亦不能離色受想行識・的的指出也。金剛經令發菩提心菩薩・發心度盡一切眾生・令其皆證無餘涅槃・而不見有一眾生得滅度者。不住色聲香味觸法。而行布施。布施為六度萬行之首・舉布施則持戒忍辱精進禪定智慧・乃至萬行・皆當不住色聲香味觸法而修。此經文略・唯舉布施以該其餘。應無所住而生其心・無我人眾生壽者相・修一切善法。如上所說・且道是有相耶・是無相耶。如此廣大光明之相・逼塞太虛・而謂之為無・是何異于生盲乎哉。其言無一眾生得度・不住相・無相・無所住者・欲人不滯凡情聖見之執著相耳。其言度盡眾生・行布施・生心・修善法・欲人稱性修習自利利他之法・以期自他同得圓滿菩提而後已。不于此中著眼・妄執無相為究竟。與啗酒糟漢同一知見・尚得謂有智慧人乎。信有何難起・疑有何難去。汝決定不肯起・決定不肯去。雖佛親與之說法・亦無如之何・況吾儕具縛凡夫乎。欲知佛之虛實・淨土文・西歸直指・所論之理・所載之事・何不于此起信斷疑。將謂此種言論事迹・皆係妄造謠言。不堪寓目乎。若作此見・則靈魂決定不墮餘五道・唯在阿鼻地獄・盡未來際。長享隨心所現之鑊湯鑪炭劍樹刀山・種種自在受用之樂境耳。其為樂也・莫能喻焉。必欲知佛虛實・雖淨土文西歸直指所說・皆非實・唯自己親見親證方為實。今有一事相問・汝須直心相酬・不得含糊躲托。北通州王鐵珊者・前清曾作廣

西藩台。其時廣西土匪甚多。彼于作兵備道時。即設計勦滅其黨。所殺甚多。四年前得病甚重。一合眼即見在黑屋中。其屋甚大。又甚黑。其鬼無數。皆來逼迫。遂即驚醒。久則復合眼。其境仍如是。復驚醒。三晝夜不敢合眼。其人已奄奄一息。其妻因諭之曰。你如此只麼樣好。你念南無阿彌陀佛巴。念佛總會好。鐵珊一聞此言。遂拌命念。未久。即睡著。遂睡一大覺。了無境界可得。而病亦漸漸痊愈矣。因長齋念佛。鐵珊前年與陳錫周來山。親與（光）說耳。設閣下當此境。為先知佛之虛實而後念耶。為一聞即念耶。若此時不暇究虛實而即念。則現在何得并前人與人示虛實之言論事迹。概指為妄。唯求于仲。援救此徬恍迷離之心境。而欲涕泣求之耶。富貴尚能如敝屣。何不以執著亦作敝屣。淨盡棄之乎。汝將謂此知見為入道之門耶。不知乃墮阿鼻地獄之達道也。以夢喻佛者。妄心為因。夢境為果。喻念佛為因。往生見佛為果。何可以金剛六喻為證。夫世間語言文字。雖是一字一事。不妨尊卑並詮。美惡兼訓。即如子之一字。稱夫子亦好單用。稱平人亦好單用。稱兒子亦好單用。須必以文定義。斷不能將稱夫子者。亦作兒子訓也。佛國為夢境。須待閣下成佛以後說。此刻就說。則唯損無益矣。事理性相空有因果混而不分。但可學愚夫愚婦。顛蒙念佛。須致恭致敬。唯誠唯懇。久而久之。業消智朗。障盡福崇。此種疑心。徹底脫落。則佛之有無。己之有無。入佛之門徑。彼岸之確據。何待問人。若不專心致志念佛。而于別人口裏討分曉。亦與看金剛經。而不知實相。看淨土文。西歸直指。而不生信心。以業障於心。不能領會。如盲覩日。日固在天。覩固在眼。其不見光相。與未覩時無異也。倘復其明。則一覩即見光相矣。念佛一法。乃復明之最切要法。欲見實相之相。當竭誠于此法。必有大快所懷之時矣。真我欲親見。非大徹大悟不可。欲證。非斷惑證真不可。欲圓證。非三惑淨盡。二死永亡不可。若論所在。則閣下之長劫輪迴。及現今之違理致詰。皆承真我之力而為之。以背覺合塵。故不得真實受用。譬如演若之頭。衣裏之珠。初未嘗失。妄生怖畏。妄受窮困耳。念佛人臨終蒙佛接引。乃

生佛感應道交。雖不離想心。亦不得謂獨是想心所現。絕無佛聖迎接之事。心造地獄。臨終則地獄相現。心造佛國。臨終則佛國相現。謂相隨心現則可。謂唯心無境則不可。唯心無境。須是圓證唯心之大覺世尊說之。則無過。閣下若說。則墮斷滅知見。是破壞如來修證法門之邪說也。可不慎諸。一一具說。太費筆墨。知一反三。當無遺義矣。

復四川謝誠明居士書

適奉手書。知貴地尚有儒佛心法。一肩擔荷者。欣慰無似。至于譽不慧處。頗涉世諦俗套。誇魚目逾寶珠。謂寸木高岑樓。令人慚惶無地耳。光一介庸僧。無法自給。常時行乞于大富長者之門。見其所棄之殘羹餽飯。取而自資。有不嫌酸臭者。亦復以此用施。而徐蔚如謂其有益飢人。遂屢為流布。雖意有可取。而文不足觀。不意竟瀆閣下青眼。感愧何極。蕪鈔二次所印。以蔚如丁母憂出京。託友人校對。由通家不能細心。遂致錯訛數十。去春蔚如又令上海商務印書館。另編另排。兼以留板。(此次校對頗精)至今春正月出書。以印二千部。未出正月。即已售盡。該館事忙。不暇再印。後由請者屢催。許抽暇先印一千以應之。待後有暇。再為多印。今奉上二部。祈查收。此中比京中二次印者。多卅餘篇。其於正心誠意。竭誠盡敬之旨。亦略為發揮。以對治今人向外馳求。及肆無忌憚之病。于初學稍有裨益。若通宗通教者見之。未免有發嘔者。然果嘔盡宗教不消之陳食。則此殘羹餽飯。亦可培補元氣。待其氣力充足。再用王膳。則方得實益矣。川中若有不嫌酸臭者。當令商務印書分館。代為發售可也。至律教禪淨之種種法門。何者合機。當于淨土決疑論。息心詳閱。自知梗概。今不具書。至謂以佛法助儒道。二法並行。俾一切人于世法為真儒。于出世法為真釋。若大通家。則禪淨雙修。而必以淨土為主。若普通人。則亦不必令其徧研深經奧論。但令諸惡莫作。眾善奉行。一心念佛求生西方即已。此人不廢居家業。而兼修出世法。雖似平常無奇。而其利益不可思議。良以愚夫愚婦。顛蒙念佛。即能潛通佛智。暗合道妙。校比大通家之卜度思量。終日在分別中弄識神者。為益多多也。

以故愚夫愚婦念佛·易得益。大通家能通身放下·亦易得益。若唯以義理是卜度者·則不得益·或反得病。及未得謂得·流入狂派者有之。參禪一法·非現今人所宜學。縱學亦只成文字知見·決不能頓明自心·親見自性。何以故·一則無善知識提持決擇·二則學者不知禪之所以。名為參禪·實為誤會。光于宗教不宜混濫論·及淨土決疑論·已示大概。今人無論上中下根·皆須以力敦倫常·主敬存誠·深信因果·廣行眾善·一心念佛求生西方為事。因果一法乃世出世間聖人·烹凡煉聖之大冶洪鑪。若最初不以因果是究·則通宗通教之後·尚或有錯因果事。因果一錯·則墮落有分·超升無由矣。且勿謂此理淺近而忽之。如來成正覺·眾生墮三途·皆不出因果之外。而凡夫心量小·凡經中所說之大因果處·或領會不及。當以世間淺近者·為入勝之方便。如文昌陰騭文·太上感應篇等·(感應篇、上海中華書局有感應篇彙編、為古今註此篇者之冠、文理俱佳、有二本、)俾熟讀而詳審以行之。則人人可以為良民·人人可以了生死矣。光前年曾刻安士全書(文鈔中有二序、可知大概、)板存揚州·各經房皆為流通。誠淑世善民之要書也。念佛所重在往生·念之至極·亦能明心見性。非念佛于現世了無所益也。昔明教嵩禪師·日課十萬聲觀音聖號·後于世間經書·悉皆不讀而知。當看淨土十要·淨土聖賢錄·方可知念佛之妙。而光之蕪鈔·屢屢言之。居士謂現世無益者·不但未深體淨宗諸經論·即光鈔亦屬走馬觀燈·未暇詳究耳。律不獨指粗迹而已·若不主敬存誠·即為犯律。而因果又為律中綱骨。若人不知因果·及瞞因昧果·皆為違律。念佛之人·舉心動念·常與佛合。則律教禪淨一道齊行矣須知如來所說一切法門·皆須斷惑證真·方可了生脫死。絕無惑業未斷·得了脫者。念佛法門·斷惑業者往生·則速證法身。具惑業者往生·已超登聖地。一則全仗自力·一則全仗佛力·又兼自力。二者難易·奚啻天淵。每有聰明人·涉獵禪書·覺其有味·遂欲以禪自命·擬為通方高人。皆屬不知禪淨所以·妄自尊大之流類。如是知見·斷斷不可依從。依之則了生脫死·恐經塵點劫數·尚無望也。祈紬閱光文鈔

自知。

與吳璧華居士書

吾人心性・與佛同儔。祇因迷背・輪迴不休。如來慈憫・隨機說法。普令含識・就路還家。法門雖多・其要唯二。曰禪與淨・了脫最易。禪唯自力・淨兼佛力。二法相校・淨最契機。如人度海・須仗舟船。速得到岸・身心坦然。末世眾生・唯此堪行。否則違機・勞而難成。發大菩提・生真信願。畢生堅持・唯佛是念。念極情忘・即念無念。禪教妙義・徹底顯現。待至臨終・蒙佛接引。直登上品・證無生忍。有一秘訣・剴切相告。竭誠盡敬・妙妙妙妙。

復馬契西居士書一

所言長齋念佛外之應守規律・即是敦行孝友・務盡倫常。諸惡莫作・眾善奉行。居心動念・不干邪僻・並及虛偽。與人做事・克盡厥職。遇有緣者勸令入道。其種種行相・不須具標・但勤看印光文鈔・及安士全書自知。須知為佛弟子・凡所作為・必須超過世俗所行・方能自己得真實益・令他相觀而善。若口說修行・心懷不善。於父母兄弟・以及一切世人上・未能盡其本分。如是之人・名為假善人。因地既偽・實益何得。聖賢之學・皆從格物致知・誠意正心而始。況欲了生脫死・超凡入聖者乎。格物致知・當看四書蕩益解重刻序・及袁了凡四訓序。昔白居易・問烏窠禪師。如何是佛法的大意。窠曰・諸惡莫作・眾善奉行。白曰・這兩句話・三歲孩童也會恁麼道。窠曰・三歲孩童雖道得・八十翁翁行不得。須知此語・乃一切學佛法人之總關切要語。諸惡眾善・皆須在心地上論。不專指行之於事而已。心地上了不起惡・全體是善。其念佛也・功德勝於常人百千萬倍矣。欲得心地唯善無惡・當於一切時處・主敬存誠・如面佛天・方可希企。心一放縱・諸不如法之念頭・隨之而起矣。

復馬契西居士書二

西方路書中・權實頓漸辨疑之文。須先明權實頓漸四字・然後再

論念佛參禪之為權為實為頓為漸。則可了無疑義矣。權者。如來俯順眾生之機。曲垂方便之謂也。實者。按佛自心所證之義而說之謂也。頓者。不假漸次。直捷疾速。一超直入之謂也。漸者。漸次進修。漸次證入。必假多劫多生。方可親證實相之謂也。彼參禪者。謂參禪一法。乃直指人心見性成佛之法。固為實為頓。不知參禪。縱能大徹大悟。明心見性。但見即心本具之理性佛。若是大菩薩根性。則即悟即證。自可永出輪迴。高超三界。從茲上求下化。用作福慧二嚴之基。此種根性。就大徹大悟人中論之。亦百千中之一二人耳。其或根器稍劣。則縱能妙悟。而見思煩惱未能斷除。仍須在三界中。受生受死。既受生死。從悟入迷者多。從悟入悟者少。是則其法雖為實為頓。苟非其人。亦不得實與頓之真益。仍成權漸之法而已。何以故。以其仗自力故。自力若十分具足。則何幸如之。稍一欠缺。則只能悟理性。而不能親證理性。今時則大徹大悟者。尚難其人。況證其所悟者哉。念佛一法。徹上徹下。即權即實。即漸即頓。不可以尋常教理批判。上至等覺菩薩。下至阿鼻種性。皆須修習。(此徹上徹下之謂也)如來為眾生說法。唯欲令眾生了生脫死耳。其餘法門。上根則即生可了。下根則累劫尚難得了。雖此一法。不論何種根性。皆於現生往生西方。即生死即了。如此直捷。何可名之為漸。雖有其機。不如尋常圓頓之機。有似乎漸。而其法門威力。如來誓願。令此等劣機。頓獲大益。其利益全在仗佛慈力處。凡禪講之人。若未深研淨宗。未有不以為淺近而藐視者。若深研淨宗。則當竭盡心力。而為宏揚。豈復執此權實頓漸之謬論。而自誤誤人哉。念佛須善發心者。心為修持之主。心若與四宏誓願合。則念一句佛。行一善事。功德無量無邊。況身口意三業。恆以念佛利生為事乎哉。心若唯求自利。不願利人。所行之事雖多。而所得之功德甚少。況或再加以傾人害人之意。及自銜自矜之心。則所念之佛。所行之善。亦非全無功德。實屬百千萬億分中。僅得一分半分。而其惡念之過。亦復不少。故修行人。皆須善於發心。不止念佛人耳。言取捨者。此約究竟實義為難。(難者、反詰問也、)不知

究竟無取無捨·乃成佛已後事。若未成佛·其間斷惑證真·皆屬取捨邊事。既許斷惑證真之取捨·何不許捨東取西·離垢取淨之取捨。若參禪一法·則取捨皆非。念佛一法·則取捨皆是。以一屬專究自心·一屬兼仗佛力。彼不究法門之所以然·而妄以參禪之法破念佛·則是誤用其意。彼無取捨·原是醍醐。而欲念佛者·亦不取捨·則便成毒藥矣。夏葛而冬裘·渴飲而飢食。不可相非·亦不可固執。唯取其適宜·則有利無弊矣。所願汝篤盡倫常·專志念佛。以其餘力·於父母兄弟妻子朋友等·隨分隨力·為之勸導。俾可同得念佛實益。庶不虛此生此遇矣。

復馬契西居士書三

傅大士語錄·錯訛不勝其多。兼且偈頌多屬提倡禪宗。恐汝無此學識·不是疑大士訛說·便是以己意誤會·則罪過無量。宜送大通家看·汝千萬勿看。縱要看·待明年興慈法師·二次刻成刷印出·再請看之。初興慈法師·得此本監定刻板。前年送光一部·光息心校正·勸彼另刻。彼擬明年方刻·此板當好看多矣。護法錄甚好·但非專主淨土者。其談宗處·不可妄會。而高僧嘉言懿行·閱之則能長人善根。往生論註·照光標示·已標過否。此書文理甚好·宜熟看之。汝妄想之心·徧天徧地·不知息心念佛。所謂向外馳求·不知返照回光。如是學佛·殊難得其實益。孟子曰。學問之道無他·求其放心而已矣。汝學佛而不知息心念佛·於儒教尚未實遵·況佛教乃真實息心之法乎。觀世音菩薩·反聞聞自性。大勢至菩薩·都攝六根·淨念相繼。金剛經應無所住而生其心。不住色聲香味觸法而行布施·乃至萬行。心經照見五蘊皆空。皆示人即境識心之妙法也。若一向專欲博覽·非無利益。奈業障未消·未得其益·先受其病矣。

復馬契西居士書四

永明等錄·有何不合。汝且認真念佛。淨土十要一書·多看即已足矣。餘且待財智有餘時·再請而讀之·不晚也。念佛之樂·唯真念

佛者自知。然必須志誠懇切。攝心而念。不可著外境相。否則心地不通。觀道不熟。魔境現前。亦不了知。則殆矣。切囑切囑。今之真宏淨土者。實難其人。徧參知識之念。改作一心念佛。則利益大矣。否則徒成一箇勞碌奔波而已。諦法師處。宜多請教。餘則非光所知也。安士全書。為古今善書之冠。擬排印普徧流布。藉以挽回世道人心。幸尤惜陰居士極力料理。特出廣告。普勸印施。因令打四付紙板。擬印二三十萬部。俾全國二千四十一縣之各要機關。及各要人。皆得瞻視。則以後之流通。當更普徧廣遠矣。然成事在天。不必預計。但以救國救民為事。盡力而為即已。念佛不能純一。必須制心不令外馳。久久自會純一。成片者。純一無雜之謂也。大丈夫能令文章蓋天下。功業宣宇宙。而不能斷惑證真。了生脫死者。以著於外而遺其內。著於有為之末。而遺其無為之本也。世間人誰能一一占全。吾人但取其克盡倫常。力修淨業即已。何暇計其他哉。

復馬契西居士書五

念佛時各隨所宜。今叢林念佛堂。皆先念彌陀經。經完。念往生咒。或三徧或一徧。然後舉讚佛偈。至偈畢。接念南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀佛。即繞念。須從東至南至西至北繞。此為順從。為隨喜。順從有功德。西域最重圍繞。此方亦與禮拜均行。若從東至北至西至南。則是反繞。有罪過。不可不知。繞念一半。即坐默念。約一刻。又出聲念。念畢跪念佛十聲。觀音勢至清淨大海眾各三聲。然後念發願文。在家人恐室小難繞。則立跪坐念。皆須按己精神而定。正不必令他人為立法則也。念而無念。無念而念者。乃念到相應時。雖常念佛。了無起心動念之相。(未相應前、不起心動念念、則不念矣、)雖不起心動念。而一句佛號。常常稱念。或憶念。故云念而無念。無念而念也。無念。不可認做不念。無念而念。謂無起心動念之念相。而復念念無間。此種境界。殊不易得。不可妄會。觀想一法雖好。必須了知所見佛像。乃屬唯心所現。若認做心外之境。或致著魔發狂。不可不知。唯心所現者。雖其像歷歷明明。實非塊然一物。若認做外

境·作塊然實有·便成魔境矣。合眼開眼·但取合宜可也。兼持觀音聖號·甚有恃怙。一切人皆宜如此修之。作事時·不能念茲在茲者。以未到一心不亂境界·則心無二用·難免間隔。苟能常存覺照·亦無所礙。人須各守本分。汝上有祖母父母·下有小弟妻室。而且職業極閒·最易修持。不於此境·真實用功·而妄欲出家修行。汝出家有此好機緣·專心辦道乎。不知出家有出家之事·誰能一事不理。即如光了無一事·亦幾終歲長忙·無暇專心念佛。況其餘者哉。祈隨分隨力修持·勿作分外之想·則幸甚。

復馬契西居士書六

修行之人·要息心靜養。汝名靜庵·何不顧名思義·一味無事找事·弄得一切人討厭。自己胸膈膨脹·頭暈神疲。再不自重·必致吐血。輕則便成廢疾·重則或致殞命。反貽人謂汝學佛修行·不唯無益·而反受損。從茲一班無知·遂謂佛法之咎。因之誹謗阻遏·斷人善根。不知由汝不依佛教而行之所致也。汝須自知好歹。修行要各盡其分·潛修默契方可。汝之病·皆爾自取·謂之何哉。急急改過·攝心念佛·即經典亦暫且勿看。過一二月·便可復原。不然·即絕交。他日再見·一任情同陌路而已。

復馬契西居士書七

名者·實之表。有實有名·亦不為榮。何以故。以屬本分故。無實得名·辱孰甚焉。況欲張羅·動人視聽·必致徧登報紙·彼於表彰處·必加一番疑議·則成欺世盜名之實案矣。汝只知其一·不知其二。以故不得不一再詳告也。汝信心頗深·但好張羅·及好遊·好結交·實為修行一大障。且汝年始二十餘·即如此結交。後來佛學大通時·當日不暇給矣。祈沈潛杜默·則其益無量戒之。

復馬契西居士書八

屢次戒汝·沈潛杜默·一心念佛。然究不肯將張羅習氣放下。顯蔭將知事稿寄海潮音·已屬太不洞事。汝又以為得意·不亦唯名是求

乎。募印文鈔之事且止。以汝尚非做此種事業之時。汝且息心念佛。毋求博覽。令內既發心皈依。當名契淨。名說以現無工夫。且待暇時為之。汝後所問者。實皆切要之語。祇因汝不能息心念佛。故茫然不知下落。汝且認真念佛。久當自知。不須人說。令內既皈依。當令心依佛說。身去女習。庶可獲大利益。依佛說。即依四宏誓願。及諸惡莫作。眾善奉行。雖尚非彼分。然其心固宜發利己利人之心。除女習。即勿事妝飾。勿懷諂曲。於上人同輩。必盡孝盡友。如此方不愧為佛弟子矣。

復馬契西居士書九

便蒙鈔。乃道光末年。紅螺山慕蓮法師所著。淨土決疑論。特借彼口氣。而作發起。民國三年。狄楚青致書令作論。以湊佛學叢報材料。光先概不用印光之名。故借彼名。於題下標云。紅螺山慕蓮法師遺稿。雲水僧釋常慚鈔寄。及與孟由寄。則標云借紅螺慕蓮法師口氣。及蔚如排印。兩種標語全刪去。故致汝疑光曾著有此書也。前所問者。今條示之。心本無象。而森羅萬象皆由心現。心本非法。（法即事也、世間凡可以名目者通謂之法、）而一切諸法。皆由心顯。故曰無象而為萬象之主。非法而為諸法之宗。（宗者、歸趣之義、如江漢朝宗於海、又主質之義、以諸法莫不以心為體故、）生佛體同。有何差別。差別何可名同。汝將相用。混而為體。故有此問。生佛體本無二。其不同者。乃迷悟順逆於體之相用耳。生迷逆於體。佛悟順於體。迷逆悟順之相與用。則天地懸殊也。普賢以十大願王。勸進善財。及與華藏海眾。當看普賢行願品自知。光文鈔中。處處說之。何不領會。極樂四土。帶業往生者。居同居。斷見思惑者。居方便。破無明者。居實報。無明淨盡者。居寂光。又實報。約所感之果報說。寂光。約所證之理性說。本屬一土。講者冀人易曉。故以分證者屬實報。滿證者屬寂光。實則二土中。俱有分證滿證。文鈔中亦詳述之。同居雖具三土。而未斷惑者。止受用同居之境耳。雖屬帶業往生之人。不可以凡夫定名之。以皆得三種不退故。此乃以常途教理。與極樂往生所證者。相比較。

細閱自知。事持者·信有西方阿彌陀佛·而未達是心作佛·是心是佛。但以決志願求生故·如子憶母·無時暫忘。此未達理性·而但依事修持也。理持者·信西方阿彌陀佛·是我心具·是我心造。心具者·自心原具此理。心造者·依心具之理而起修·則此理方能彰顯·故名為造。心具即理體·心造即事修。心具即是心是佛·心造即是心作佛。是心作佛·即稱性起修。是心是佛·即全修在性。修德有功·性德方顯。雖悟理而仍不廢事·方為真修。否則便墮執理廢事之狂妄知見矣。故下曰·即以自心所具所造洪名·為繫心之境·令不暫忘也。此種解法·千古未有。實為機理雙契·理事圓融。非法身大士·孰克臻此。以事持縱未悟理·豈能出於理外。不過行人自心未能圓悟。既悟焉·則即事是理。豈所悟之理·不在事中乎。理不離事·事不離理·事理無二。如人身心·二俱同時運用。斷未有心與身·彼此分張者。達人則欲不融合而不可得。狂妄知見·執理廢事·則便不融合矣。全真成妄·全妄即真。猶如全水成波·全波即水·水是靜相·波是動相。動靜雖異·濕性原同。終日隨緣·終日不變。終日不變·終日隨緣。猶如虛空了無諸相·而雲屯則暗·日照則明。塵由風起則昏濁·塵因雨灑則澄清。虛空是不變·不妨隨種種緣·成明暗清濁。雖則明暗清濁不同·而虛空本體了無改變。了此·則可隨悟淨之緣·以造即心本具之佛界。棄迷染之緣·以滅即心幻現之六界·與三界也。(此約十法界說、故以六道為六界、三乘為三界也、勿錯會、)此心周徧常恆·如虛空然。吾人由迷染故·起諸執著。譬如虛空·以物障之·則便不周徧·不常恆矣。然不周徧·不常恆者·乃執著妄現。豈虛空果隨彼所障之物遂不周徧·不常恆乎。是以凡夫之心·與如來所證之不生不滅之心·了無有異。其異者·乃凡夫迷染所致耳。非心體原有改變也。彌陀淨土·總在吾人一念心性之中。則阿彌陀佛·我心本具。既是我心本具·固當常念。既能常念·則感應道交。修德有功·性德方顯。事理圓融·生佛不二矣。故曰以我具佛之心·念我心具之佛。豈我心具之佛·而不應我具佛之心耶。下所說由不了真無自相·隨迷染而當

體成妄。妄無自性。當迷染而其體原真。終日隨緣。終日不變。終日不變。終日隨緣兩語。乃互相發明。互為讚助。由汝心無正智。遂疑矛盾。念佛畢。起我人。則是自生障礙。凡行菩薩道者。需發四宏誓願。能以四宏要心。縱有我人之境。心地內究不起我人之執著也。起我人者。皆由心住於相。不知菩薩心無所住。而行六度萬行上求下化之微旨也。如上所說。能自領會固好。如仍不領會。但息心念佛。到業消智朗時。自可了了悉知。不必專以問人為事也。

復馬契西居士書十

令愛法名。宜作福貞。貞者。正也。女德之本。若能一心念佛。俾煩惱惑業。消滅淨盡。功德智慧。徹底全彰。亦如女德之貞而無所外染。正而卓然自立也。故易曰。貞者。事之幹也。幹為樹之正身。故修行人得其菩提正身。則道業自可成就。福慧自可滿足。雖小人未能即如是。然須以如是望之。以如是呼之。期彼顧名思義。而終得如是。則後之為人賢妻。為人賢母。助成夫德。胎教子女。榮孰大焉。令內既皈依。須當勤為修持。勿令有名無實。則幸甚。經目略為一閱。不宜看者勾之。即宜看者。亦祈少看。但以念佛治習消業為事。業消看書。一覽知妙。此由約而得之妙法也。今人根性陋劣。一博則泛漫無依。心緒紛張。難以相應矣。

與馬契西居士書十一

兩次颶風。各處被災。普陀亦然。殆眾生同分惡業之所感召。不知貴宅房屋如何。居科長年正壯盛。氣象淳厚。堪為入道之器。光之為人。絕無執著。前念相信。不妨相交。後念不信。不妨即絕。來去任人。我固無心於交與絕也。然他人教人。多在玄妙處著力。光之教人。多在盡分上指揮。設不能盡分。縱將禪教一一窮源徹底。也只成一個三世佛怨而已。況尚無窮源徹底之事乎。居君既已到過山上。何必七月又來。往返跋涉。路途資費。動需若干。祈勿復來。即有疑問。尚有顯微居士。即欲問光。郵遞最便。何必重來。作無益以害有益也。

今為居君取名契心·以彼名秉磐·字漱庵。以其心果能如磐石之貞固不動·又加以漱蕩其外垢·則心之本體自可顯現矣。心字·指常住真心而言·非隨緣所起之習心也。習心·乃情染耳·非本體也。

與馬契西居士書十二戒磕頭布上列印

下院當家來·以所寄壬午年信·及物件交光。知所寄白布·託壬午以打印者。此事罪過之極·以菩薩名號作拜墊用·已屬褻瀆至極。況尚有就地作坐墊用者。余光緒二十年在普陀一見·二十一年在育王又見·以為詫異。告於舍利殿殿主·彼云此寧波家風也。自慚無力挽此惡風。使光若作一方主人·當必到處聲明此事之過。俾有信心者·唯得其益·不受其損也。且託者既屬至戚·何不開陳罪福·以祈用白布作墊。一則仍不污衣·二則唯益無損·其於彼方為有益。何可循例緘默·仍代為彼轉求。安士全書書底印字·汝尚肯說其過失。此過失大於彼百千萬倍·固宜為一切信心人詳言之。育王之印·現已破碎不成字相。(此約光緒二十一年所見說)實則釋迦如來真身舍利寶塔之印。普陀印有幾顆·法雨寺金印玉印·皆是敕建南海法雨禪寺觀音寶印。世有子孫將其祖父之名·用作拜墊·人必以為忤逆。況佛菩薩大聖人之名號哉。宜于親信人前·勸其勿用。以一傳十·至百至千至萬·豈不能即滅此惡風耶。凡事皆由一人倡之·眾人和之·遂成俗例。反邪歸正·何獨不然。

致陝西陳柏生督軍書

光一介庸僧·毫無淑狀。雖出家四十一年·離秦三十六年。而道業依然未成·無顏見故鄉人·不敢再賦歸歟。去歲蒙閣下青盼·令定慧和尚促光回秦·弘揚法化。光雖感不去心·而實無才德勝此重任。故以最初立願·倘道業不成·即老死他鄉·終不回秦為辭。閣下藻監高懸·遂原情而恕之。不肖如光·尚蒙如是嘉許。足見閣下尊德好道·為法為民之心。今春上海商務印書館·排印光文鈔出版。特寄五部·以答厚愛。秦地之民·素稱良善。世風日變·法律廢弛·遊手遊食之

敗類·遂得肆意橫行。勾通當地壞人·劫掠鄉村·慘不忍聞。近數年中·有自秦來·言及秦地現狀·無不哽噎涕零。蓋土匪一至·遇稍有餘裕者·則炮烙燒燎·無所不施·以期其盡獻貯積而後已。其苦不堪·勢必盡獻。而一受此刑·即當時不死·亦難久生。多有富人之室·通皆掘地三尺。凡竈炕牆壁·悉皆毀壞·以求埋金。其淫掠之迹·為千古所未聞。以官府不能制·百姓無控訴。直同長處地獄·了無出期矣。此大幫土匪也。至於小幫·其人眾雖少·其酷烈亦然。其來多在夜間·凡聞有此消息·天將暮·先送女人於村外·或田禾中·樹林間·墳墓間。即風雨霜雪·亦不敢歸。小兒啼哭·則以物杜口·每有閉氣致死。男子多宿于房上。土匪一過·如火燎原·了無生物。此種苦況·說不能盡。尚不知其何所底止。閣下雖在秦地·實所未聞·以出則兵擁·居則兵衛。既未親身察訪·百姓亦難控訴·則無由而知。以是之故·凡稍有家資·可逃出外方者·悉皆棄祖籍·而逃命於他鄉矣。上海逃者·不計其數·況各處乎。止一土匪·已屬不堪。再加以靖國一軍·數年交戰·其兵所到處·蹂躪淫掠·何可名言。嗚呼。秦人何辜·罹此鞠凶。閣下宿根深厚·才略宏遠·以故士卒推為督帥。惜于往昔劫中·少結人緣。至多數人民·不肯愛戴。由是一般不為國與民慮者·私投南軍·為靖國軍·以與閣下對敵。雖鏖戰數年·未分勝負·而兩軍對敵·炮聲如雷·子彈如雨·所殺傷者·皆吾秦之同胞。其兩軍之兵·所經之地·人民遭其淫掠·亦吾秦之同胞。哀哉同胞·呼天不應·入地無門·身為魚肉·其誰痛惜。光竊謂閣下雖則位尊威重·人莫敢侮。實與百姓之畏土匪·不相上下。凡欲行刺者·不知幾何。況靖國軍之揭旗聲鼓·以為對敵者乎。幸閣下宿福深厚·卒未有虞·然兩軍交攻·固已危險萬狀矣。倘一有不測·則高堂二親·及兄弟妻子·將何倚靠。況敵人之心·決難推孝友之情·以保護全家·不肯一加殘傷乎。是百姓之苦茶·其毒尚淺。閣下之苦茶·其毒更深。中央政府·軫念民生·意謂閣下雖則才德深遠·但以未洽民心·故有靖國一軍·為之發起。閣下若退·靖國自可取消。以故特派閻督相代。閣下已經

交謝。固當回思數年以來。仇敵林立。雖未受傷。亦甚危險。縱然軍威赫赫。實屬夢寐不安。即欲抽身事外。亦不可得。今幸有人替代。自可釋此重任。退歸田里。逍遙安樂。以孝友為為政。樂我天真。屏競爭於度外。化彼貪殘。雖處競爭時代。身作義皇上人。一則不負所學。一則永為民望。其于廢專制而興共和。與同胞而作幸福之名詞。徹底相應。了無乖違矣。何可聽不知大體。妄冀得功者之扇惑。拒不受命。帥兵相攻。俾人民塗炭。國用空乏乎哉。縱令閣下一戰即勝。仍復原職。豈能免以後之各軍相攻乎。夫兵者不祥之器。聖人不得已而用之。今非出于不得已。特以聽讒諂面諛之人言。徒欲固己爵位。不顧百姓常遭塗炭。國家喪失元氣。如此作為。如堅立射侯。以期眾矢交集。何可以最重之身命。與嚴慈兄弟妻子。日在仇敵中討生活。印光雖愚。亦不以是為得計。縱始終無虞。于清夜靜思中。能不愧忤于戰死饑亡之兵民乎。孟子曰。雖有智慧。不如乘勢。雖有鎡基。不如待時。閣下之才略。乃智慧鎡基也。其民不佩服。羣起而攻之。乃宿世少結人緣。現政未洽民心。是無勢可乘也。無勢可乘而強為之。是失時也。大丈夫欲建大功。立大業。未有不順天理。下合民心而能者。故孔子可以仕則仕。可以止則止。可以久則久。可以速則速。相時適宜。無所適莫。曾謂顏淵曰。用之則行。舍之則藏。惟我與爾有是夫。祈閣下以孔子為法。以督軍之位。視若毒藪。不但不起戰事。亦復不生憾心。非惟秦民受賜。國家無虞。實則閣下獲福無疆。餘慶覃及後裔矣。若堅持此見。不肯回慮。則成乾卦上九亢龍之象。以其貴而無位。高而無民。必有後悔。悔之于後。將何及乎。孔子釋之曰。亢之為德也。知進而不知退。知存而不知亡。知得而不知喪。其惟聖人乎。知進退存亡。而不失其正者。其惟聖人乎。再言其惟聖人乎者。令人深思而取法也。縱閣下不以聖人自居。亦豈不欲趨吉避凶為哉。懇祈閣下上思縣祖宗之厚德。下思貽子孫之幸福。生知足想。頓息戰事。則秦地人民。尚可蘇息。各處強暴。無從藉口。雖退歸田里。實與秦民普施生死肉骨之莫大恩澤也。印光才德俱無。何敢干冒鈞威。

不過欲報答閣下一番厚愛，以冀秦民少受兵災耳。由是不避誅戮，直詞上陳。倘能俯鑒愚誠，則秦民幸甚，國家幸甚。又以閣下念切民生，必欲究禍福之所由來，善惡之所結果。一切以開拓心胸，一以導化同人。故將自所存之感應篇彙編一部，佛學捷徑，佛學基礎，佛學起信編，佛學指南，六道輪迴錄，各一本，隨函寄來。以期閒暇無事時閱之。則誠意正心，窮理盡性，超凡入聖，了生脫死之道，當自得于心矣。安士全書，為天下古今善書之冠。劉省長曾請四百部結緣，當已送閣下垂覽矣。此外則感應篇彙編，即屬第一。其論議雖不及安士全書之十分透徹，然于諸善書中，未見及者，況能過乎。餘五書皆以由淺入深，由因果而至于了生死。無機不被，無法不攝。深者見深，自可斷惑證真。淺者見淺，亦堪消災增福。法無定相，損益在人。有志于己躬下永劫常存之大事者，當不以光為多事也。佛法一聞，利益無盡。北通州王鐵珊者，前清曾作廣西藩台。以其地土匪甚多，彼遂設法剿滅，殺戮無算。至前年得病，一合眼即見身在黑屋中。其鬼無數，欲來逼惱，遂驚醒。久則復合眼，所見亦然，隨復驚醒。凡三晝夜不能安寢。人已困憊不堪。其夫人教令念南無阿彌陀佛，彼遂竭誠朗念，未久即睡著，遂睡一大覺。病漸痊愈。方知念佛功德，不可思議。鐵珊去夏來山，親與光道其事。光以此陳于閣下者，亦欲閣下得念佛之實益也。

復甬江某居士書

色欲一事，乃舉世人之通病。不特中下之人，被色所迷。即上根之人，若不戰兢自持，乾惕在念，則亦難免不被所迷。試觀古今來多少出格豪傑，固足為聖為賢。祇由打不破此關，反為下愚不肖。兼復永墮惡道者，蓋難勝數。楞嚴經云，若諸世界六道眾生，其心不淫，則不隨其生死相續。汝修三昧，本出塵勞。淫心不除，塵不可出。學道之人，本為出離生死。苟不痛除此病，則生死斷難出離。則念佛法門，雖則帶業往生。然若淫習固結，則便與佛隔，難於感應道交矣。欲絕此禍，莫如見一切女人，皆作親想，怨想，不淨想。親想者，見

老者作母想・長者作姊想・少者作妹想・幼者作女想。欲心縱盛・斷不敢於母姊妹女邊起不正念。視一切女人・總是吾之母姊妹女。則理制於欲・欲無由發矣。怨想者・凡見美女・便起愛心。由此愛心・便墮惡道。長劫受苦・不能出離。如是則所謂美麗嬌媚者・比劫賊虎狼・毒蛇惡蠍・砒霜鳩毒・烈百千倍。於此極大怨家・尚猶戀戀著念・豈非迷中倍人。不淨者・美貌動人・只外面一層薄皮耳。若揭去此皮・則不忍見矣。骨肉膿血・屎尿毛髮・淋漓狼藉。了無一物可令人愛。但以薄皮所蒙・則妄生愛戀・華瓶盛糞・人不把玩。今此美人之薄皮・不異華瓶。皮內所容・比糞更穢。何得愛其外皮・而忘其皮裏之種種穢物・漫起妄想乎哉。苟不戰兢乾惕・痛除此習。則唯見其姿質美麗・致愛箭入骨・不能自拔。平素如此・欲其沒後不入女腹・不可得也。入人女腹猶可。入畜女腹・則將奈何。試一思及・心神驚怖。然欲于見境不起染心・須于未見境時・常作上三種想・則見境自可不隨境轉。否則縱不見境・意地仍復纏綿・終被淫欲習氣所縛。固宜認真滌除惡業習氣・方可有自由分。每日除了己職分外・專心念佛名號。朝暮佛前・竭誠盡敬・懇到懺悔無始宿業・如是久之・當有不思議利益・得於不知不覺中。法華經云・若有眾生・多於淫欲・常念恭敬觀世音菩薩・便得離欲。瞋恚・愚癡・亦然。是知能至誠念彌陀觀音聖號者・貪瞋癡三惑・自可消除也。又現今乃患難世道・須於念佛外・加念觀音聖號・冥冥中自有不可思議之轉迴。庶不至宿業現前・無法躲脫耳。更宜常閱戒淫因果報應之書・遠離狂蕩匪鄙之友・則內志正而外誘絕・淨業自可成就矣。勉之勉之。

復徐蔚如居士書

接手書・以瑣務紛沓・未能即復。光為太夫人雖則朝暮回向・豈能有益於太夫人。實則企太夫人閔我一念之誠・挽彌陀觀音而拔濟我耳。閣下譽之過甚・不禁令人慚惶。令弟同皆發心・祈為講演。足知宿世同種善根・將來同作蓮池海會之永劫昆季。慰慰賀賀。戒煙方登報・須長年常登・方能廣知。須拉有財力者共之。若一人供費・恐力

綿而難久矣。蕪鈔所節，皆恰當之至。以光信筆所書，原只對彼一人。若普及大眾，當須了無所妨，方可不招譏議。唯斥魔子之狂妄處，用撮略敘法，於文體甚合。然今之宗徒，多不識宗。既未指彼妄造謠言之實迹，彼宗徒必謂光為謗宗。即宗教不宜混濫論，不知宗氣之宗徒，亦以為謗宗。宗徒多分之見識皆如是，則宗法殆掃地而盡矣。近來佛法流通，潮州居士王弘願，素好密宗。依之修持，頗有效驗。於餘宗雖未大通，亦各涉其藩籬。彼譯出東瀛密教綱要，刻出寄兩部來。今寄上一部，以祈隨喜。然彼係弘密之人，故偏擡高密宗。約教而論，固無大礙。若與淨土三根普被，教機相投之法門論，固相懸殊。王弘願來書所說，皆約教而遺機。光與彼書，乃約機而論教之利益也。雖不相合，亦無大背。其人年四十餘，若再研究得十餘年，當亦可為一大通家矣。禪宗秘密了義經跋，斷宜取消，免滋疑誤。至於聲聞回己所證小果，趣向如來大道。雖則頓漸有異，而中間位次，必不磨滅。大鵬一舉九萬，亦是自下升高。利刀一截千紙，亦是從一至千。頓教唯約頓說，故有無位次之論。然無位次中，不妨位次歷然。若異漸，則漸非頓家之漸，頓非漸家之頓。二法判然各別，了不相即。唯宜以實義立言，不當以漸頓之表語為據。則佛法無一法不相通矣。王弘願論密宗，亦以弘密宗之詮表為論。是知尚未知如來教須契機之至意也。羅漢根性，亦不一定。有回向即超證深位者，有入住漸升者。然頓漸有異，位次仍復歷然，似無大謬。十方世界隨類現身，圓教初住即能。不歷行住向等，唯佛後所示羅漢則然。若實證，實回小向大之羅漢，恐無此本領。若有，則住行向地等位菩薩，皆成鈍根無奇之人矣。有是理乎。離頓說漸，離漸說頓。離教說宗，離宗說教。高擡密宗，藐視顯教。皆所謂徐六擔板，只見一邊耳。佛法善會，則法法皆通，否則法法互礙。光實少聞少見，然約理約義而論，當如是為融通，斷無兩個道理。鄙見如是，不知閣下以為何如。

復徐彥如軼如二居士書

所言俗務糾纏，無法擺脫者。正當糾纏時，但能不隨所轉，則即

糾纏便是擺脫。如鏡照像，像來不拒，像去不留。若不知此義，縱令屏除俗務，一無事事。仍然皆散妄心，糾纏堅固，不能洒脫。學道之人，必須素位而行，盡己之分。如是則終日俗務糾纏，終日逍遙物外。所謂一心無住，萬境俱閒，六塵不惡，還同正覺者，此之謂也。至于念佛一事，最要在了生死。既為了生死，則生死之苦，自生厭心。西方之樂，自生欣心。如此則信願二法，當念圓具。再加以志誠懇切，如子憶母而念。則佛力法力，自心信願功德力，三法圓彰。猶如果日當空，縱有濃霜層冰，不久即化。初心念佛，未到親證三昧之時，誰能無有妄念。所貴心常覺照，不隨妄轉。喻如兩軍對壘，必須堅守己之城郭，不令賊兵稍有侵犯。候其賊一發作，即迎敵去打。必使正覺之兵，四面合圍。俾彼上天無路，入地無門。彼自懼獲滅種，即相率歸降矣。其最要一著，在主帥不昏不惰，常時惺惺而已。若一昏惰，不但不能滅賊，反為賊滅。所以念佛之人，不知攝心，愈念愈生妄想。若能攝心，則妄念當漸漸輕微，以至於無耳。故云，學道猶如守禁城，晝防六賊夜惺惺。將軍主帥能行令，不動干戈定太平。

致包師賢居士書

溫州之災，聞之慘然。天災人禍，無有底極。實足為三界無安，猶如火宅之證。亦堪為信願念佛，往生西方之最切警策也。念佛心不歸一，由于生死心不切。若作將被水衝火燒，無所救援之想。及將死，將墮地獄之想。則心自歸一，無須另求妙法。故經中屢云，思地獄苦，發菩提心。此大覺世尊最切要之開示，惜人不肯真實思想耳。地獄之苦，比水火之慘，深無量無邊倍。而想水衝火燒則悚然，想地獄則泛然者。一則心力小，不能詳悉其苦事。一則親眼見，不覺毛骨為悚然耳。

與弘一上人書

講起信論，雖不必定宗裂網疏，然決不可謂裂網為非。此決定不易之法也。靈峰著述，千古少有。彼等正眼未開，不知其要，故輒吠

影以惑初學。果真具正知見者聞之。則彼之心腹。徹底了知矣。靈峰老人。乃末法絕無而僅有者。其言句理事具足。利益叵測。隨人分量。各受其益。

復法海大師書

座下十餘年來。參師訪道。自利利他。不勝欽羨。今則放下萬緣。一心念佛。以果地覺。為因地心。當必親證念佛三昧。臨終定登上品。但辦肯心。決定成就。然世人念佛者多。證三昧者甚少甚少。良由未能通身放下一念單提。故致心與佛難得相應也。座下之放下既真切。決無不得之理。所說了生脫死。明心見性。及證道把柄在手等。須稍分別。若按通途教理而修。雖明心見性。去了生死。尚大遠在。以明心見性是悟。不是證。今人能悟者尚少。況能證乎。證則惑業淨盡。生死之因既斷。自不感生死之果矣。初果七生天上。七返人間。方能斷盡見思二惑。而證阿羅漢果。天台示居五品。南嶽示居十信。如此大士。尚自隱其本德。示居內外凡位。則證道之說。實非易易。此約通途教理。欲即生證道之難也。若按如來所立之特別法門。生信發願。念佛求生西方。則上至等覺。下至五逆十惡之流。莫不蒙佛慈力。往生西方。既生西方。則悟道證道。直同拾芥。極速極易。座下既專心念佛。於臨終不曰往生。而曰可能得證道憑據到手。夫曰證道即已。何得說憑據到手。憑據到手。則不須論。憑據不到手。又將如何。觀座下之語意。似是唯止念佛。不生信。不發願求生。乃禪家以念佛作話頭用者。非淨土宗信願行三并行之法也。無信願念佛。雖校參禪看話頭功德大。然自未斷惑。自力不能了脫。又無信願。不能蒙佛接引了脫。猶是仗自力之通途法門。其證道也。大非容易。且勿謂信願求生為卑劣。華藏海會。同以十大願王。回向往生。為華嚴末後一著。況淨土諸菩薩祖師。所有言教。皆示信願求生。何座下自立門庭。不按佛祖之成規乎。且終日終年終身念佛之人。豈可于佛。不行禮敬。十大願王。禮敬居首。座下一切可以不。禮佛決不可以不。若不禮佛。便難感通。何以故。以身圖安逸。心之誠亦末由必致其極也。善導專

修·身業專禮·口業專稱·意業專念。念至其極·則心佛外佛·一如不二。其證道也·非自力證道之所能比也。古人謂劣夫乘輪寶力·一日可以徧遊四大部洲。何得以念佛之特別法門·修通途之自力觀行。光雖下愚·不敢肯許。倘以此一塵不染之清淨心·圓發三心。則現生親證三昧·臨終往生上品·便可豫為座下賀。一得之愚·尚祈矜鑑。

復王與楫居士書

光一介庸僧·毫無淑狀。一向行乞·亦不能得。遂於大富長者之門·拾取所棄之殘羹餽飯·以自滋養。亦有不嫌酸臭者·迫以求施·遂即以此見與。但取彼此相適·并不計餘人之所厭聞而不欲見也。以故一無所宗·二無門庭·三無眷屬。并未與人結一同參·立一社會。凡有來者·則令其各盡己分·諸惡莫作·眾善奉行·信願念佛·求生西方。即上等天姿·出格學識·亦以此相奉。喻如童子奉沙·只期據我之誠·絕不計及彼之可用與否。不億二字賤名·竟瀆閣下之耳。二十日接手書·不勝慚惶驚懼欣慰憂戚之至。以閣下誤聽人言·誤許為法門中人。遂將錯就錯·陳我劣見于左右·以答謬為稱許之意。知所說固不當閣下一盼·然不妨聊表我心而已。竊謂現今世道人心·陷溺至于極點。又加國用空乏·賦稅比前重得數倍。諸物昂貴·民不聊生。天災人禍·頻頻降作。值此時際·欲宏法道·只可普與來者·指其學佛要義。于父言慈·於子言孝·兄友弟恭·夫倡婦隨。各盡己分·以立基址。由是加以主敬存誠·克己復禮。明因識果·期免輪迴。諸惡莫作·眾善奉行。信願念佛·求生西方。天姿縱高·亦當依此而行。于有餘力時·不妨研究一切經論。令其在己家庭·隨分修持。則不須廣建屋宇·備立人員。彼此往來·曠職費日。此誠現今宏法·將計就計之最上一著也。若如閣下所訂之破天荒章程·雖國家興盛·人民豐富之時·亦不能辦。況此國運危岌·民不聊生之時乎。然閣下此議一出·全國之人·當無一不歡喜讚歎·慶法道之將興。光實懷深憂·不能不為閣下略陳其概。謹按章程所列之事·雖數百萬萬·亦不足用。若閣下能變大地作黃金·則光之所說·誠為愚癡無知。若欲靠捐欸而

作此彌綸宇宙之事業。則直同春夢。毫無實際。況閣下未聞已具大神通。無論何人。在遠在近。皆能以法攝持。令其不稍踰越。如優波鞠多尊者。則如此大事。其所用之人。能保其一一悉以為公之心而為之。絕無弊端乎。現今之人。子于父事尚作弊。況此汪洋無邊際之大事乎。又今人了無定志。無論何等社會。多皆彼此同入。倘有心懷異圖之人。入于其中。引誘無知無識者為之黨援。一旦事發。必至火炎崑岡。玉石俱焚。閣下當此人心陷溺已極之時。何不計慮及此乎。宋慈雲懺主。赴蘇講經。聽者日萬夜千。屠沽為之不售。法道之盛。誠所未有。慈雲懼之。恐致意外之虞。遂即中輟。夫慈雲乃具大智慧。大辯才。兼有神通之高僧。當國家成平。人心淳善之時。尚如此慎重。閣下內秘。則非光所知。若據外現者。則比慈雲。何止泰山之比須彌耳。況時當上無道揆。下無法守。雖父母之大恩。夫婦之各別。尚欲棄置。公然提倡。謂盡孝為奴隸性質。共妻為大同之道。倘此等人混入。則將何以處。否則彼忌我法。加以蜚語。又將何以處乎。夫一法既立。百弊潛生。不謹于始。決難令終。且古德宏法。皆各人自為範圍。閣下于廢置專制世代。立一佛法專制之門庭。居然我為法王。于法自在。千機并育。萬派朝宗。美則美矣。誠恐無神通制伏。必有奸人入中以破壞。或懷嫉忌以誣謗。則未見興法之益。竟罹滅法之禍。以大菩提心。獲此惡果。有人心者。莫不痛傷。然雖痛傷。究有何益。以故光不得不預為閣下言之。而不計其見錄否也。即決欲依所訂章程而行。光亦只有讚美閣下之心而已。豈能強閣下以勿行哉。千祈將印光賤名取消。印光決不敢承認上座導師之名與職也。光一向退縮。故所見與人不同。若不以光之言為是。將有悔無所及之時。易曰。其唯聖人乎。知進退存亡而不失其正者。其唯聖人乎。願閣下詳察焉。

與永嘉某居士書

令友求子。擬捨百金。當令請百部感應篇彙編。以送通文理有信心之正人君子。實為不可思議功德。當獲感通。又須知求子。先須從培德節欲起。印施善書。乃培德之一端。非止乎此而已。培德。當常

看感應篇·陰騭文。善則隨分隨力而行·惡則如怨如讐而去。袁了凡行功過格·乃認真體察·絲毫不容放過。故命本不壽而壽·無大功名而大功名·無子而有子。果能追彼芳躅·以期德日增而過日減。即不用功過格·凡了凡之所得者·令友亦當得之。况彼主持報館·握言論機關之權。凡傷風敗俗之無益文字·概勿登報。凡淑世善民之格言至論·日載幾則。漸摩漸染·令人日趨于善而不自知。此實大丈夫不據位而行救國救民善政之大權。具此因緣·不知如此而為。所謂雖登寶山·仍復空手而歸耳。惜哉。節欲一事·其理甚深·其關係甚大·其話甚不易說。夫天生男女·聖人法天立則·令男女居室·以為人倫之最大者。以上關風化·下承宗祧。豈為人日圖快樂·而常以欲事為事乎。貪欲之人·其精薄而無力·如粃種不能生芽·故難生。即生·多多皆未成人而夭。即幸而不夭·亦必單弱柔懦·無大樹立。若能保養精神·節欲半年·待其婦天癸發後·擇良宵吉期·相與一交·決定受孕。從此永斷欲事·則所生之子·不但性行貞良·欲念輕薄。而且體質龐厚·無諸胎毒痘疹疾病等患。天癸·即經水也。經水盡後方受孕·餘時多不受孕。經水未盡·斷不可交。交則婦即受病成帶·勿望受孕矣。人之大倫之事·豈可惡日惡時而行·故須擇良宵也。禮記月令篇·記聖王于仲春·先雷三日·奮木鐸以令兆民曰·雷將發聲·有不戒其容止者·生子不備·必有凶災。奮木鐸以令兆民者·令地方官聲鐸以告百姓也。容止·猶言動靜。不戒容止·謂行房事也。生子不備·即五官不全等。世每有生子·或異人類·或形體缺損·皆坐此故。必有凶災·言其父母·尚有凶禍災殃·如惡病·夭壽等·不止生子不備也。古聖王重民生·故特注意其事·奮木鐸以告之。不但震雷當忌·即大風大雨·惡星值日·及天時交節·佛聖誕期·皆所當忌。此實尊天敬聖·遵王制而敦人倫之大道。惜世人概不肯出諸口·俾其子子孫孫體質·一代劣於一代。或者少年早夭。或由欲事過度·雖不早夭·竟成衰殘·無大樹立。多半皆乃父乃母·不知人倫之道之所致也。乃父乃母之不知·由於乃祖乃妣之無教也。子女成人時·當以節欲保身等·

委曲開導。父教女不便。母則無妨。能如此。方為真愛子女。而世之愛者。多皆任其縱欲。則其害更有甚于殺子女者。可不哀哉。聖人重胎教。于此致意。乃未胎而預教也。予濫廁僧倫。何得論夫婦房室之事。一以出家之前。曾閱過古人敦本至論。欲以饋知己而報護法之恩。一以佛為大醫王。無病不療。光為佛弟子。亦欲隨分隨力而行醫道。此病乃舉世間人之通病大病。若通病大病。任其發生滋長。而去詳治別病小病。豈非輕重倒置乎。鄧伯誠亦欲求子。光答書亦略述此意。及蔚如所印三信稿。及文鈔。皆刪去。意謂此事不合僧道。亦不合于佛法中說。其意固善。然人苦無子。敢以其事向佛求。向僧說。僧為說其所以然之善法。令彼子子孫孫。得大受用。又有何過。將謂僧教人節欲。便涉淫欲。則僧教人戒殺。便涉殺業乎。但此事不可為無知無識者告。恐彼不會其意。反作笑柄。若對明理君子說之。正是不據位而振木鐸以令兆民也。致治于未亂。保邦于未危。與此同一作略。謂之為過。則聖王聖賢佛菩薩。乃過之渠魁元首也。湖南一儒士姓劉忘其名。娶妻不與相親。妻謂曰。娶妻原為生子。汝不相親。則宗支斷絕矣。遂親一次。即生子。因名傳支。即絕欲。妻又謂曰。一子獨立。孤無倚靠。曷若再生一子。又親一次。復生一子。名再支。二子皆入翰院。其人一生。止行兩次房事。而又詳述房事忌日。并清心寡欲。保元毓神之事。載于家乘。冀子孫世守焉。湖南友為予言之。欲求貴子。捨是而求。縱得之。亦屬倖倖。依是而求。求則得之矣。凡發科發甲。皆其祖父有大陰德。若無陰德。以人力而發。必有大禍在後。不如不發之為愈也。歷觀古今來大聖大賢之生。皆其祖父積德所致。大富大貴亦然。其子孫生于富貴。止知享福造業。忘其祖父一番栽培。從茲喪祖德以蕩祖業。任其貧賤。此舉世富貴人之通病。能世守先德。永久勿替者。唯蘇州範家。為古今第一。自宋文正公以來。直至清末。八百餘年。家風不墜。科甲相繼。可謂世德書香之家。而長洲彭家。自清初以來。科甲冠天下。其家狀元。有四五人。有同胞三鼎甲者。而世奉佛法。雖狀元宰相。猶日誦感應篇。陰騭文。以為

誠意正心·致君澤民之鑑。彼狂生謂此等書·乃老齋公老齋婆之所從事者。非但不知聖賢之所以為聖賢·并不知人之所以為人。生為行肉走尸·死與草木同腐。而且惡業難消·永沈惡道。彼囂囂然自命為博雅通人·致令後世并天地父母之名字亦不得聞者·何可勝數。欲子孫之不趨敗途。共入正道者。當以感應篇彙編·陰騭文廣義·為定南針。則世俗習染之惡浪滔天·黑雲障日·亦不至不知所趨·而載胥及溺。否則縱令風平浪靜·天日昭彰·亦難保不入洄瀟·而隨即沈溺矣。況絕無風平浪靜天日昭彰之望之世道人心乎。須知陰德二字·所包者廣。成就他人子弟·令入聖賢之域·固屬陰德。成就自己子弟·令入聖賢之域·亦是陰德。反是。則誤人子弟固損德·誤己子女亦損德。力能兼及·何幸如之。否則且就家庭日用云為·以作為聖為賢之先容。正所謂即俗修真·現居士身而說法者。祈以此意·與令友·及一切知交·愷切言之。亦未始非己立立人·自利利他之一端也。

復黃涵之居士書一

接手書·知夫人身嬰貴恙·已經月餘。用藥頗難·諸醫束手。當此時機·正好用萬病總持之阿伽陀藥。閣下每以此藥·普施于人。何於夫人之病·尚沾沾然以難于用藥為憂哉。其令郎令愛令媳等·既受生育之恩。當此大病臨身·存亡莫保之時。教以各各為其母志誠懇切念南無阿彌陀佛·以祈壽未盡則速愈·壽已盡則速得往生西方。令郎等孝心淳篤·當必皆如救頭然·而常持念也。如是則豈但有益于夫人·實則深有益於令郎等也。凡人有病·可以藥治者·亦不必決不用藥。不可以藥治者·雖仙丹亦無用處·況世間藥乎。無論能治不能治之病·皆宜服阿伽陀藥。此藥絕不誤人·服則或身或心·必即見效。然人生世間·無論久暫·終有一死。其死不足惜·其死而所歸之處·可不預為安頓乎。有力量者·自己預為安頓妥帖·則臨終固不須他人為之輔助。然能輔助·則更為得力。無力量者·當令家屬代為念佛·則必能提起正念·不致恩愛牽纏·仍舊被愛情所縛·住此莫出也。(光)之為此言者·非徒為令夫人計也。以太夫人已經八十有三。雖閣下之德·

足能延親之壽。而期頤之後，終必有去世之一日。恐閣下未能慮及于此，而猶復注意于醫藥，則為捨本逐末。益不能得，而反將一心念佛，由忙碌于醫藥而成間斷，不能純一，則其損大矣。故借夫人之病，預為閣下陳其盡心力于親之神識得所，以期閣下究竟能報親恩耳。今將陳了常之佛性助念發隱，附函寄來。雖文不雅馴，而意義有可取焉。至于保病薦亡，今人率以誦經拜懺做水陸為事。（光）與知友言，皆令念佛。以念佛利益，多于誦經拜懺做水陸多多矣。何以故，誦經則不識字者不能誦，即識字而快如流水，稍鈍之口舌，亦不能誦。懶坯雖能，亦不肯誦，則成有名無實矣。拜懺做水陸，亦可例推。念佛則無一人不能念者。即懶坯不肯念，而大家一口同音念，彼不塞其耳，則一句佛號，固已歷歷明明灌于心中。雖不念，與念亦無異也。如染香人，身有香氣。非特欲香，有不期然而然者。為親眷保安薦亡者，皆不可不知。

復黃涵之居士書二

五月廿八接廿四手書。知尊夫人病體沈重，諸醫束手。因祈令令眷，代為念佛。以祈壽未終則速愈，壽已終則速生耳。豈料夫人淨業已熟，脫體而去。昨由契西來函方知，不禁為閣下失賢助，為令郎失所恃歎。然夫人宿根深厚，殆欲令令慈，及閣下，并令郎等，切念世相無常，急求出離。特以身說法，冀同修淨業，同生淨土耳。（光）過蒙青盼，亦不能不盡我心。但（光）向與時人異道，雖摯友親喪，絕不行挽誄等儀。但于朝暮課誦時，于佛前回向一二七，以盡友誼。已于昨晚，為尊夫人回向。擬以二七為度。以日間諸冗叢集，惟夜方克有暇耳。祈閣下以大義開示令郎等，俾息哀念佛，以期存歿咸益。倘唯執世誼，哀毀縱至其極。究于其親之靈，有何利益。至于作佛事，不必念經拜懺做水陸。以此等事，皆屬場面。宜專一念佛，俾令郎等亦始終隨之而念。女眷則各于自室念之，不宜附于僧位之末。如是則不但尊夫人令眷，實獲其益，即念佛之僧，并一切見聞，無不獲益也。凡作佛事，主人若肯臨壇，則僧自發真實心。倘主人以此為具文，則

僧亦以此為具文矣。如一期佛事已畢，夜間放臺焰口即已。（光）以四十三年之閱歷，謹為知己者陳之。若不以為迂腐，則幸甚幸甚。書尚未封，適郵差持閣下初五日書至。因知夫人病體雖重，正念尚自昭彰。既能常見大士，兼有信願，其往生也，可以決斷。所言尼姑服飾，則所不須。其既願受皈戒，仍照常服，但加法衣于上即已。（即僧人所穿之袍子）或著于身，或附于棺。棺已蓋，則燒之于靈前。皈戒當于今夜，（光）一人于佛前虔誠禮拜後，為說之。固不須作鋪張羅列諸儀，但取其至誠感通即已。法名當云蘊空，乃三皈五戒優婆夷也。若作尼師形式，于事于理，皆有妨礙。但宜勸諸子女媳等，以成就母往生之志為孝。認真代母念佛，俾蓮品轉高，華開轉速以盡孝。切勿徒效世人作無益以害有益也。至于喪事，始終不須一葷，藉此倡導愚俗，亦公之一大責任也。

復黃涵之居士書三

初九之書，諒已收到。昨得初十手書，知尊夫人確得往生，了無疑慮。其宿世固于淨土法門，有大栽培。惜閣下提倡較晚，倘于十年前即提倡，俾淨土法門之若事若理，一一明了，兼以力修。則其淨業之成，當比此高超數倍矣。平時愛子孫心重，自顧劣弱，至臨終時，則反能擺脫情愛，決志求生，乃宿世善根所使。平時面東臥，終時則面西右脅，亦宿善根力所使，有不期然而然者。有臨終種種景相，即可決其往生，并無須驗其頂胸之熱，何處先涼也。著法衣為佛弟子相，能滿其願，甚善甚善。既囑兒媳女輩早晚靈前多念佛，閣下當開示彼等，祈以妥親之神識，為孝之極致。即真實往生，亦須志誠念佛，以祈蓮品高升，無生速證，以各盡孝思。此雖為利亡者，實則令兒女媳輩同種善根也。孫之能念者，亦令隨之而念。終時全家能不哭泣念佛，最有利益。然其時猶短，宜以三小時不斷佛聲，不起哭聲，及動轉等為最善。祈切記之。六數亦不必敷衍附會，以無關緊要。若認定以說，反成穿鑿。須知六為坤數，夫人德鎮坤維，堪為世範。即無一數是六，而從生至死，日在六數中周旋，固無一息不是六也。六之義在躬行，

不在年月房屋等。然年月房屋等，適逢其數，亦極平常，毫無奇特。所謂諸法從緣生，諸法從緣滅。惡業重者，動輒得咎，善根深者，無往不吉。亦自然而然，非有所安排者，而實似有安排者。世人欲得吉慶，不知培德，如滅燭以求明，北轅而適越。徒勞苦心，有損無益。祈以此義，與令郎及媳女等說之，則其利大矣。做佛事一事，（光）前已詳言之。祈勿徇俗，徒作虛套。若念四十九天佛，校誦經之利益多多矣。念佛之法，重在信願，信願真切，雖未能心中清淨，亦得往生。何以故，以心中有佛為能感，故致彌陀即能應耳。如江海中水，未了無動相。但無狂風巨浪，則中天明月，即得了了影現矣。感應道交，如母子相憶。彼專重自力，不仗佛力者，由于不知此義故也。

復黃涵之居士書四

接手書，不勝欣慰。尊夫人宿生有大善根，故感閣下曲為成就淨業，資以往生。兼率兒女媳等為之長時念佛，豈但亡者得益，實令彼等，深種善根。如是之法，可謂大慈。校彼世人存者以殺生折福折壽，令亡者拘滯幽途者，不可同年而語矣。尊夫人之事，可謂得法。然太夫人年已八十有三，當常勸諭，令其信願念佛。若令終日長念，或恐不能如是。前者頗欲設法，在生助念，思之未得。鎮守使王悅山，奉母來山，見其眷屬甚多，因得一絕妙之助念法。已與彼略說之。亦與彼說，當與閣下言之。倘閣下能實行，彼亦不至漠然置之，亦自利利他之道也。閣下眷屬，兒輩則各有職業，固難常時依行。若媳輩，則無事清閒。女使輩若奶媽等，則無甚要事。當令諸人，按鐘點日在太夫人旁，高聲念佛半點鐘。過時換班，一日不斷佛聲。太夫人能隨之而念亦好。如不能隨，但令攝心諦聽。則一日之中，常不離佛。在諸人亦不吃力。以一日之中，不過當一回值，或至兩回，亦隔許久時候。彼等一無事事，借此令盡孝思，令種善根。即女使等，亦得因此之故，得植出離生死之緣。從此以往，率以為常。即太夫人壽過期頤，此法無令中輟，其利益不可思議。凡有信心人，欲成就父母往生之道業者，皆當以此告之。閣下政務多端，不能按定。若有暇亦如是念一次，以

作表率。則兒媳女使等。當更踴躍歡喜也。(光)意謂如此而行。實為利便。當以此法述為一文。以附於排印文鈔之後。俾欲報父母之恩者。不至徒詠昊天罔極也。

復崇明黃玉如書

接手書。不勝欣慰。持名一法。最為末法透機之法。善導雖疏觀經。實最重持名一行。不觀末法眾生。神識飛颺。心粗境細。觀難成就。大聖悲憐。特勸專持名號。以稱名易故。相續即生之言乎。觀雖十六。行者修習。當從易修者行。或作如來白毫觀。或作第十三雜想觀。至于九品之觀。不過令人知行人往生之前因與後果耳。但期了知即已。正不必特為作觀也。觀之理。不可不知。觀之事。且從緩行。若或理路不清。觀境不明。以躁心浮氣修之。或起魔事。即能觀境現前。若心有妄生喜悅之念。亦即因喜成障。或復致退前功。故楞嚴云。不作聖心。名善境界。若作聖解。即受羣邪。祈一心持名。以為千穩萬當之行。待至心歸于一。淨境自會現。四帖疏錯訛甚多。光二十年前。先曾約校。去年南京羊皮巷觀音庵妙蓮和尚。要其本去另刻。明年當可出書。祈為請閱。隨自意三昧。為上中下三根同修之行。念佛人雖不專以彼為主。亦不可不知。知此。則念佛之菩提心更為殊勝。以其知行住坐臥食語。無非自利利他之時也。然須從諸惡莫作。眾善奉行。吃素戒殺做起。則方為真念佛人矣。

復何慧昭居士書

接手書。知宿根甚深。現行頗純。故有種種勝境相現。然今人多半是要體面。憑空造樓閣。有一分半分。便說有百千萬分。如某居士錄。其境界皆是手筆所做。不是心地所做。汝固不妄。誠恐或有此習氣。則其過不小。佛以妄語列於根本五戒者。正為防此弊也。若或見言不見。不見言見。乃妄語之流類。若憑空造樓閣。妄說勝境界。即犯大妄語戒。乃未得謂得。未證謂證。其罪甚於殺盜淫百千萬億倍。其人若不力懺。一氣不來。即墮阿鼻地獄。以其能壞亂佛法。疑誤眾

生故也。汝切須慎重。所見之境有一分。不可說一分一。亦不可說九釐九。過說亦罪過。少說亦不可。何以故。以知識未得他心道眼。但能以所言為斷耳。此種境界。向知識說。為證明邪正是非。則無過。若不為證明。唯欲自銜。亦有過。若向一切人說則有過。除求知識證明外。俱說不得。說之則以後便永不能得此勝境界。此修行人第一大關。而台教中屢言之。所以近來修行者。多多著魔。皆由以躁妄心。冀勝境界。勿道其境是魔。即其境的是勝境。一生貪著歡喜等心。則便受損不受益矣。況其境未必的確是勝境乎。倘其人有涵養。無躁妄心。無貪著心。見諸境界。直同未見。既不生歡喜貪著。又不生恐怖驚疑。勿道勝境現有益。即魔境現亦有益何以故。以不被魔轉。即能上進故。此語不常對人說。因汝有此種事。固不得不說也。汝最初禮佛所見之大士像不的確。以若果實是。不至因念與觀經不合而隱。然汝由此信心更切。是亦好因緣。但不宜常欲見像。但志誠禮拜而已。庶無他慮。臨睡目前白光。及禮佛見佛像懸立虛空。雖屬善境。不可貪著。以後不以為冀望。當可不現。窺汝根性。似是宿生曾習禪定者。故致屢有此相也。明虞淳熙在天目山高峯死關靜修。久之。遂有先知。能預道天之陰晴。人之禍福。彼歸依蓮池大師。大師聞之。寄書力斥。謂彼入於魔翳。後遂不知矣。須知學道人。要識其大者。否則得小益必受大損。勿道此種境界。即真得五通。尚須置之度外。方可得漏盡通。若一貪著。即難上進。或至退墮。不可不知。夢入佛殿所記之二句經文。固屬善境。然此二句。語甚明白。返虛依覺路。歸真悟常空者。謂人妄認世間諸法為實。故迷入生死。若能返觀諸法當體本空。則便依乎覺路。出迷入悟。歸真諦而悟真常之真空實相矣。魔境勝境之分別。在與經教合不合上分。果是聖境。令人一見。心地直下清淨。了無躁妄取著之心。若是魔境。則見之心便不清淨。便生取著躁妄等心。又佛光雖極明耀。而不耀眼。若光或耀眼。便非真佛。佛現以凡所有相。皆是虛妄之理勘。則愈顯。魔現以此理勘。則便隱。此勘驗真偽之大冶洪鑪也。夜見白光。及虛空清白等境。乃心淨所現。何可

以法界一相·寂照不二自擬·以此自擬·則成以凡濫聖矣·其過殊非淺淺。二句經文·未見所出·蓋亦宿生記憶之文·未必即經中文也。修淨業人·不以種種境界為事·故亦無甚境界發生。若心中專欲見境界·則境界便多。倘不善用心·或致受損·不可不知。彼頭陀之所說·乃屬禪家道理。彼尚不破淨土·是其長處·然彼絕不知淨土宗旨·故與禪對論。彼注重祥光勝境一語·大須斟酌·否則誤人不淺。又謂不可著·以佛法無量·著則成有量·即不能入佛智。何止不入佛智。亦復或入魔界耳。至所云之各佛·乃禪家約心理之論·與淨宗無涉。白光清空·既為如來一毛頭許功德·汝何得以法界一相·寂照不二妄認。實則宿世定境·由淨心而發·固不得當作奇特也。淨土法門·以信願行三法為宗·有信願·無論行之多少淺深·皆得往生。無信願·即到能所兩忘·根塵迴脫之地步·亦難往生。以真證到能所兩忘·根塵迴脫之實理·便可自力了生死·則不必論。若但有工夫見此理·尚未實證·若無信願·亦難往生。禪家說淨土·仍歸於禪宗·去信願說·果能依之而做·亦可開悟。而未斷惑業·欲了生死·則夢也夢不著。以凡夫往生·由信願感佛·故能仗佛慈力·帶業往生。今既不生信願·又將佛一一說歸自心·何由感佛。感應不符·則生自生·佛自佛·以橫超法·作豎出用·其得益淺而受損深·不可不知。得益者·依彼所說·亦能開悟·受損者·既去信願·則無由仗佛慈力。吾故曰·真修淨土人·用不得禪家開示·以法門宗旨不同故·祈為慧察。如不以為然·請求之大通家·庶可契汝心志矣·光固不執著也。

復湯昌宏居士書

接手書·不勝感愧·光何人斯·何堪如是過譽耶。雖然·同病者相憐·固不得不各道衷曲也。今之學聖賢者·但學其文言而已·于聖賢之所以為聖賢處·蓋忽略不究·此舉世學人之病根·非爾我一二人之病根也。既有此根·決定不能素位而行·決定隨富貴貧賤威武之境·而為之淫與移屈也。勿道今人·即宋儒之傳聖人之心法者·于格物二字·尚未認清·況後人乎。欲明明德·不先格其心人欲之物·則明明

德便是空談。即學得文章蓋世。固常在入欲中盤桓。何能不隨境轉乎哉。所云明明德。如證菩提。儒佛固無二致。及學孔學佛。理不外大學一章等語。蓋是以明白人。強作糊塗。欲試印光于此有分曉否。有則可證閣下之明見。無則將欲發揮其所以然之至意耳。然既是同病相憐。何妨各道苦況。聊以舒其抑鬱而已。儒佛之本體。固無二致。儒佛之工夫。淺而論之。亦頗相同。深而論之。則天地懸殊。何以言之。儒以誠為本。佛以覺為宗。誠即明德。由誠起明。因明致誠。則誠明合一。即明明德。覺有本覺。始覺。由本覺而起始覺。由始覺以證本覺。始本合一。則成佛。本覺即誠。始覺即明。如此說去。儒佛了無二致。閣下所謂學孔學佛。理不外大學一章者。乃決定無疑之語。此淺而論之也。至于發揮其修證工夫淺深次第。則本雖同。而所證所到。大有不同也。儒者能明明德。為能如佛之三惑圓斷。二嚴悉備乎。為如證法身菩薩之分破無明。分見佛性乎。為如聲聞緣覺之斷盡見思二惑乎。三者唯聲聞斷見思最為卑下。然已得六通自在。故紫柏云。若能直下忘情。山壁由之直度。初果尚七生天上。七反人間。而其道力。任運不犯殺戒。故凡所至處。蟲自離開。所謂初果耕地。蟲離四寸。況二三四果乎。儒教中學者且置。即以聖人言之。其聖人固多大權示現。則本且勿論。若據迹說。恐未能與見思淨盡者比。況破無明證法性之四十一位法身大士乎。即謂明其明德。堪與破無明者比肩。然破無明者。有四十一位。為與最初之初住比肩耶。為與最後之等覺比肩耶。即與最後之等覺比肩。尚于明德未明至乎其極。直待再破一分無明。方可謂為誠明合一。始本無二耳。吾故曰。體同而發揮工夫證到不同也。世人聞同。即謂儒教全攝佛教。聞異。即謂佛教全非儒教。不知其同而不同。不同而同之所以然。故致紛紛爭論。各護門庭。各失佛菩薩聖人治世度人之本心也。可不哀哉。六月間廣東香山楊棣棠。于太平洋檀香山。寄信于山東臧貫禪。以彼輯古今和會儒釋之書。曰儒釋一貫。欲引儒入佛。謬託貫禪。祈光作序。光少不努力。老無所知。以彼之求。恐難推脫。乃湊千餘字。以塞其責。今將其稿寄來。

祈為塵政。

與泉州大同放生會書

放生一事·以提倡戒殺護生為本。凡入會者·俱宜吃素·方可以吃素之利益·與一切人說。縱不能人各依從·而人以貴會諸公·皆盛德君子·實行吃素·自然潛移默化·悉皆不殺生·不食肉矣。若仍舊食肉·放生之功德·亦不可思議·但自己所行·尚自矛盾·尚不能依慈悲忠恕之道而實行·況欲令見聞者潛移默化乎。光無道德財力·不能助貴會之善舉·謹獻愚誠·以當布施。上海諸居士·立常齋會·凡入會者·無論冠婚喪祭·概不用葷。前年關綱之居士·令光作一序·觀之自知其概。欲詳知者·當致書上海白克路懷安里關綱之居士·彼有章程·祈寄來一覽。光文鈔中·勸人戒殺之文字·有十多篇·但以文詞拙樸·不堪雅目所睹·然其意故有可取者·倘不以蕪穢見棄·亦可作輕塵益嶽之一笑具。又貴會提倡佛學·而推尊晉蘇先生·不遺餘力。且為廣施其道味錄·又為介紹欲學道者·求彼傳授真經妙訣·以期同登覺岸。其心志可謂誠懇篤實·期于利人·惜未知佛法之所以然·以煉丹運氣之長生法·當作佛法。若曰凡欲求長生者·及衛生者·則為介紹·固無所礙。以煉丹法·大得之則可延年益壽·小得之亦可葆養色身·實為有益于人之法。若儻侗名之為道·驅佛弟子而求得彼之真訣·則名實大有相反者。何以故·佛法具足世間出世間一切諸法·毫善弗遺。唯煉丹一法·絕不言及·且深以為戒。以佛入手先教人修四念處觀·一觀身不淨·二觀受是苦·三觀心無常·四觀法無我·欲看破此之幻妄身心·以期悟證本具之真心妙性也。煉丹者唯以葆養色身為事·與佛之宗旨不合。然各修各法·隨人自取其益·固彼此不相礙。觀道味錄晉蘇先生自敘·至以抽添火候口訣·為佛門了性了命之道·會三教以同歸·互萬古而不絕·離乎此道·即為外道·出乎此門·即為旁門·此先天道脈·歷代一貫相承·自達摩初祖·移西過東·至白馬七祖·衣鉢傳于火宅等。則是借佛法名目·而傳煉丹法·且反謗毀佛法。彼前月曾以二本寄來·光以彼自詡過深·彼豈肯以光之不才

而依從之乎。故置之不論。今見貴會提倡佛學。猶復不知彼非佛學。固不得不盡我愚誠相告也。如以光為多事。謂光知見錯謬。未聞大道。則亦任之。鴟守腐鼠。鳳凰決不能令其勿食也。今寄來文鈔一包共三部。祈貴會大家看。並與周子秀居士看。如謂為是。未始非貴會之幸。如謂為非。亦任其覆瓿代薪。從茲加工用行。以擴充晉蘇先生煉丹運氣之道。使天下之人。同得長生。亦好。但謂此為佛法。則雖不謗佛法。亦得謗佛法之咎。竊以貴會未能分別邪正。故致如是。既以光為法門中人。光若仍以待晉蘇者待貴會。則光便有負于貴會之意。故多此一番絡索也。

復安徽萬安校長書

貴校四語。盡性學佛。盡倫學孔。道學為體。科學為用。實為學道不易之宗旨。自儒者以詞章為事。遂將學道之法。變作學藝。曷勝痛惜。而今之新學。多皆捨本逐末。能如貴校之宗旨者。實不多見。盡性學佛。方能盡倫學孔。盡倫學孔。方能盡性學佛。試觀古今之大忠大孝。與夫發揮儒教聖賢心法者。無不深研佛經。潛修密證也。儒佛二教。合之則雙美。離之則兩傷。以世無一人不在倫常之內。亦無一人能出心性之外。具此倫常心性。而以佛之諸惡莫作。眾善奉行。為克己復禮。閑邪存誠。父慈子孝。兄友弟恭之助。由是父子兄弟等。相率而盡倫盡性。以去其幻妄之煩惱。以復其本具之佛性。非但體一。即用亦非有二也。此實也。所云佛化之儒宗。不過表示其實而已。有何不可。然在家學佛。必須深信因果。恪盡己分。戒殺護生。至心念佛。為決定不易之修持。所言恪盡己分。即慈孝友恭等。然世之不治。國乏賢人。其根本皆由家庭無善教所致。而家庭之教。母之責任更重。是以光屢言教子為治平之本。而教女為尤要者。以此。倘常以此與學生說。俾同以此相宣導。則不患不見治平之世矣。

復郁智朗居士書

福峻之事。若汝所敘。生前死後。種種是實。則可決定往生。以

生時已將軀殼看破。此係最大一種利益。以女人每每唯戀幻質。日事妝飾。既無此念。自與淨土法門。容易相應。臨終之瘦削。及病苦。乃多劫之業障。以彼篤修淨業。殆轉重報後報。為現報輕報耳。汝謂由修持精進。致身體日弱。此語不恰當。兼有令信心淺著。因茲退惰之過。須知念佛之人。決定能消除業障。其有業障現前者。係轉將來墮三塗之惡報。以現在之病苦即了之也。金剛經謂持金剛經者。由被人輕賤之小辱。便滅多劫三塗惡道之苦。則福峻之將往西方。固以此小苦。了無量劫來之惡報。實為大幸。切不可學不知事務人。謂因修持而致病及死也。念佛人平時有真信切願。無一不得往生者。況福峻臨終正念昭彰。作問訊頂禮等相。而死後身體柔輭潔淨。顏貌如生。又何必以彼工夫淺為疑乎。夫彌陀願王。十念尚度。況彼精進修持。已二三年。又有何疑。世有種人。志意下劣。雖常念佛。不求往生。唯欲求人天福報。此種人縱畢世修行。只得來生之癡福而已。有正信者。自己以信願感佛。佛以慈悲攝受。感應道交。必能仗佛慈力。帶業往生。又何須問彼見佛與否。方可斷判也。至於人未終前。若彼自能沐浴更衣。則甚善。如其不能。斷不可預行沐浴更衣。令彼難受疼痛。致失正念。以汝尚以未著法衣。令其盤膝跌坐為遺憾。不知當此之時。只好一心同聲念佛。萬萬不可張羅鋪排。(指沐浴更衣令坐等)若一張羅鋪排。即成落井下石。切記切記。令慈年邁。光若不說此弊。汝後會以盡孝之心。阻親往生。俾長劫流轉於生死中。莫之能出也。吾人但取其實。毋矜其名。汝之記頗好。並不求人作文以傳。此皆世間虛浮之事。但宜自己。并其家屬念佛。以期同生西方即已。光每日朝暮課誦回向時。兼稱福峻名。回向一七。以盡師徒之誼。又福峻此番之生與死。可謂不虛生浪死矣。幸甚。至於骨作麩丸之事。甚好。但不可粗心為之。必須將骨研成細粉。用細羅羅過。與麩無異方可。倘粗心大概研之。便和麩作丸。恐小魚食之。或有鯁刺於腹之患。光恐汝粗心。不得不說。

復某居士書

病與魔·皆由宿業所致·汝但能至誠懇切念佛·則病自痊癒·魔自遠離。倘汝心不至誠·或起邪淫等不正之念·則汝之心·全體墮於黑暗之中·故致魔鬼攪擾。汝宜於念佛畢回向時·為宿世一切怨家回向·令彼各沾汝念佛利益·超生善道。此外概不理會·彼作聲·也不理會作怕怖·不作聲·也不理會作歡喜。但致誠懇切念·自然業障消·而福慧俱皆增長矣。看經典切不可照今人讀書之毫不恭敬·必須如佛祖聖賢降臨一般·方有實益·汝果能如是·則心地正大光明·彼邪鬼邪神·便無地可安身矣。倘汝心先邪·則以邪招邪·何能令彼遠離不擾也。他心通·鬼神雖有·小而且近·若業盡情空·則猶如寶鏡當台·有形斯映。汝不至心念佛·而欲研究此之真相·不知此心·便成魔種。譬如寶鏡·無絲毫塵垢·自會照天照地。汝之心被塵垢封蔽深固·而欲得此·如塵封深厚之鏡·斷不能發光·或有發者·乃妖光·非鏡光也。此事且置之度外·如墮水火·如救頭然以念佛·則無業魔不消矣。

復張季直先生書

光一無知無識之粥飯僧耳·由徐蔚如謬以蕪稿再四排印·竟致瀆及青眼·尚不以蕪穢見棄·反謂其儒釋融通·有體有用。殆所謂志在敬佛·遂忘其僧之庸劣也·感極愧極。易園與光·殆有宿緣·每欲拉閣下以同往西方·俾無量劫來·及與現生·所培之善根福德·同歸實際·光極為佩服。以閣下當代文宗·光一無知無識之挂搭僧·故不敢隨易園之班·以修書奉勸也。今接閣下華翰·見其曾看佛經·不知何者禪也·但覺淨耳·不勝欣慰。足知閣下般若種子·殆非一佛二佛三四五佛所之所種者。夫禪至于不知·方是真禪·以見聞覺知·皆意識中事·唯其不知·方能靈光獨耀·迴脫根塵·體露真常·即如如佛耳。淨至于但覺·則全心是佛·全佛是心·心佛不二·心佛一如矣·否則何名但覺。閣下見解如此·已是超越近之學佛者萬萬。倘再能生信發願·回向往生·則上品蓮台·當可獨據。或恐閣下于禪淨之所以然·

佛力自力之大小難易·未能深知。謂既悟自心·當處便是西方·不須求生·則其悞非淺。何以故·以凡夫縱能悟到極處·尚有無始以來之煩惱習氣·未能頓斷。煩惱習氣若有一絲毫·便不能超出生死輪迴之外·此仗自力了生死之難也。念佛法門·但具真信切願·無論工夫之淺深·功德之大小·皆可仗佛慈力·帶業往生。末世眾生·欲了生死·不依此法·其難不可以喻矣。祈詳讀淨土十要·淨土聖賢錄·自知光言不謬。若不以為謬·且無多暇·但息心詳閱文鈔·自可悉知矣。

廬山青蓮寺結社念佛宣言書

大覺世尊·愍諸眾生·迷背自心·輪迴六道·久經長劫·莫之能出。由是興無緣慈·運同體悲·示生世間·成等正覺·隨順機宜·廣說諸法。括舉大綱·凡有五宗。五宗維何·曰律·曰教·曰禪·曰密·曰淨。律者佛身·教者佛語·禪者佛心。佛之所以為佛·唯此三法·佛之所以度生·亦唯此三法。眾生果能依佛之律教禪以修持·則即眾生之三業·轉而為諸佛之三業。三業既轉·則煩惱即菩提·生死即涅槃矣。又恐宿業障重·或不易轉·則用陀羅尼三密加持之力·以薰陶之·若螺贏之祝螟蛉·曰似我似我·七日而變成螺贏矣。又恐根器或劣·未得解脫·而再一受生·難免迷失。於是特開信願念佛·求生淨土一門·俾若聖若凡·同於現生·往生西方。聖則速證無上菩提·凡則永出生死繫縛·以其仗佛慈力·故其功德利益·不可思議也。須知律為教禪密淨之基址·若不嚴持禁戒·則教禪密淨之真益莫得·如修萬丈高樓·地基不固·則未成即壞。淨為律教禪密之歸宿·如百川萬流·悉歸大海·以淨土法門·乃十方三世諸佛·上成佛道·下化眾生·成始成終之法門。故華嚴入法界品·善財蒙普賢加被開示·已證等覺·普賢乃令發十大願王·回向往生西方極樂世界·以期圓滿佛果·復以此普勸華藏海眾。而觀無量壽佛經·下品下生·乃五逆十惡·將墮阿鼻地獄之人·蒙善知識教以念佛·或念十聲·或但數聲·即便命終·亦得蒙佛接引·往生西方。觀此·則上自等覺菩薩·不能出於其外·下至逆惡罪人·亦可入於其中。其功德利益·出於一代時教之上。以

一代時教·皆仗自力·以出生死。淨土法門·未斷惑者·仗佛慈力·即可帶業往生·已斷惑者·仗佛慈力·遂得速登上地。乃一代時教中之特別法門·不可以常途教道·相為並論也。以故華嚴法華等諸大乘經·文殊普賢等諸大菩薩·馬鳴龍樹等諸大祖師·悉皆顯闡讚導·普勸往生。迨至大教東來·遠公大師·遂以此為宗。初與同學慧永·欲往羅浮·以為道安法師所留。永公遂先獨往·至潯陽·刺史陶範·景仰道風·乃創西林寺以居之·是為東晉孝武帝太元二年丁丑歲也。至太元九年甲申·遠公始來廬山·初居西林·以學侶浸眾·西林隘莫能容·刺史桓伊·乃為創寺於山東·遂號為東林。至太元十五年庚寅·七月二十八日·遠公乃與緇素一百二十三人·結蓮社念佛·求生西方。命劉遺民作文勒石·以明所誓。而慧永法師·亦預其社。永公居西林·於峰頂別立茅室·時往禪思·至其室者·輒聞異香·因號香谷·則其人可思而知也。當遠公初結社時·即有一百二十三人·悉屬法門龍象·儒宗山斗·由遠公道風遐播·故皆羣趨而至。若終公之世·三十餘年之內·其入蓮社而修淨業·蒙接引而得往生者·則多難勝數也。自後若曇鸞·智者·道綽·善導·清涼·永明·莫不以此·自行化他。曇鸞著往生論註·妙絕古今。智者作十疑論·極陳得失·著觀經疏·深明諦觀。道綽講淨土三經·近二百徧。善導疏淨土三經·力勸專修。清涼疏行願品·發揮究竟成佛之道。永明說四料簡·直指即生了脫之法。自昔諸宗高人·無不歸心淨土·唯禪宗諸師·專務密修·殊少明闡。自永明倡導後·悉皆顯垂言教·切勸修持矣。故死心新禪師勸修淨土文云·彌陀甚易念·淨土甚易生。又云·參禪人最好念佛·根機或鈍·恐今生未能大悟·且假彌陀願力·接引往生。又云·汝若念佛·不生淨土·老僧當墮拔舌地獄。真歇了禪師淨土說云·洞下一宗·皆務密修·其故何哉。良以念佛法門·徑路修行·正按大藏·接上上器·傍引中下之機。又云·宗門大匠·已悟不空不有之法·秉志孜孜於淨業者·得非淨業見佛·尤簡易於宗門乎。又云·乃佛乃祖·在教在禪·皆修淨業·同歸一源·入得此門·無量法門·悉皆證入。長蘆蹟禪師·

結蓮華勝會·普勸道俗·念佛往生·感普賢普慧二菩薩·夢中求入勝會·遂以二菩薩為會首。足見此法·契理契機·諸聖冥贊也。當宋太真二宗之世·省常法師·住持浙之昭慶·慕廬山遠公之道·結淨行社。而王文正公旦·首先歸依·為之倡導·凡宰輔伯牧·學士大夫·稱弟子而入社者·有百二十餘人·其沙門有數千·而士庶則不勝計焉。後有潞公文彥博者·歷仕仁英神哲四朝·出入將相五十餘年·官至太師·封潞國公。平生篤信佛法·晚年向道益力·專念阿彌陀佛·晨夕行坐·未嘗少懈。與淨嚴法師·於京師結十萬人求生淨土會·一時士大夫多從其化。有頌之者曰·知君膽氣大如天·願結西方十萬緣·不為自身求活計·大家齊上渡頭船。壽至九十二·念佛而逝。元明之際·則有中峯·天如·楚石·妙叶。或為詩歌·或為論辯·無不極闡此契理契機·徹上徹下之法。而蓮池·幽溪·蕩益·尤為切摯誠懇者。清則梵天思齊·紅螺徹悟·亦復力宏此道。其梵天勸發菩提心文·紅螺示眾法語·皆可以繼往聖·開來學·驚天地·動鬼神。學者果能依而行之·其誰不俯謝娑婆·高登極樂·為彌陀之弟子·作海會之良朋乎。自後國運日衰·不暇提倡·法運亦隨之而衰·至咸同時·兵災四起·哲人日希·庸流日多。儒者唯奉韓歐程朱闢佛之說·以為至理名言·而不知佛法包括羣聖之薪傳·發明當人之心性·其妙義微言·功德利益·有非語言文字所能形容者。以故悉以毀滅佛法為志事·不肯讀誦受持·保護流通·致令佛法·一敗塗地。譬如小兒·見摩尼珠·不但不加保重·尚欲毀而棄之。至光緒末·廢除舉業·大開遊學之端·凡天姿高者·悉以博覽為事·所有各種學理·皆不足以饜飫其心。唯佛學幽深宏博·無妙不備·真俗互資·空有圓融·從茲羣相研究·而修習焉。禮云·雖有嘉肴·弗食不知其旨也·雖有至道·弗學不知其善也。今既知其旨·知其善矣·豈肯將此無上心法·讓古人獨得·而自己與一切同人·皆不得乎。是故研究會·居士林·念佛社·素餐會·各處建設。其戒殺護生·吃素念佛者·日見其多。譬如窮子·自迷家鄉·一旦得人指示·當即直求歸路·斷不肯仍舊循乞·孤露他方也。青蓮寺

由黃谷法師開山以來，固為淨土一大道場。其形勢雄偉，實為廬山第一勝地，以故千數百年，道風不墜。經洪楊之亂，悉成劫灰，以法門式微，無人恢復，竟成荒山。妙培大師，出家以來，即以淨土為宗。擬欲以即生了脫之法，普利同人，特往紅螺，熏修數年。今春遊廬山，深慨遠公之道，無人振興。於世道人心，殊失裨益。至青蓮寺基，見其形勢，若蓮華然。而復前臨三疊之瀑布，後倚五老之雄峯，左右則有獅子象鼻二峰，以為護衛，殆天造地設一淨土道場。不忍永令湮沒，遂發願恢復，以宏蓮宗。乃與上海諸大居士商榷，幸得均示同心，故先建立數間殿堂，以為修持之地。至於寺之全體齊備，須待龍天感應，非今所急。為今之急務者，開蓮社以行道耳。或謂念佛求生西方即已，何必結社。是不知世間萬事，須待眾緣相助，方得有成，況學了生脫死之無上妙法乎。易曰：麗澤兌，君子以朋友講習，蓋取其二澤相並，彼此互益之義。又聖人以朋友列於五倫者，蓋取其勸善規過，如二月互照，扶危保安，如兩手相援之義也。（友、古作𠂔、又、手也、今文變又作𠂔耳。）人之常情，若無依倚，則多涉因循怠忽之弊。大眾同居，功課有定，雖欲懈怠，亦不可得。功課之外，其奮發精進者，即可攝彼懈怠者，勉力而行。人皆前進，誰甘後退，彼此相輔，其行易成。或有所疑，及有所見，有可決擇。每日暇時，請諸耆宿，略示淨宗綱要，則邪正去取，了了分明。有此諸益，故古人咸以結社為倡導。即身有職業，不能親預，但依社章修持，待開會日，或親往，或函告，明己修持之勤怠，利益之大小，亦與預修，相去不遠，以心冀社友，不敢怠荒故也。須知佛法，原不離世間法，凡諸社友，必須各各恪盡己分，如父慈子孝，兄友弟恭，夫倡婦隨，主仁僕忠等。又須諸惡莫作，眾善奉行，戒殺護生，不餐葷酒，閑邪存誠，克己復禮，自利利他，以為己任。如是則基址堅正，堪受法潤，果具真信切願，當必往生上品。世之愚人，每多不修實行，偏欲得一真修之虛名，以故設種種法，妝點粉飾，成一似是而非之相，冀人稱讚於己。其心行已汙濁不堪，縱有修持，亦為此心所汙，決難得其真實利益，此所謂好名而

惡實。為修行第一大忌。倘具前之所當行。無後之所當忌。則於世間則為賢人。於佛法則為開士。以身率物。由家而鄉。由鄉而邑。以至全國。及與天下。則禮義興而干戈永息。慈善著而災害不生。庶天下太平。人民安樂矣。願見者聞者。同皆發起倡導。則幸甚幸甚。所有簡章。開列於後。

復河南第五軍副司令部楊明齋書

所言公門修行。不專指誦經持咒念佛而已。必須盡己職分。除暴安良。併所統之士卒。一一皆以除暴安良保護人民為志。則地方受福。而主將士卒同于冥冥中消除業障。增長福壽矣。若不以此事。以懇切至誠心誠勸士卒。則兵所到處。地方受淫掠之慘。殆有不堪言者。況甚至又有毀燒屋廬。殺人示威者乎。居士果能如此。以至誠心令士卒將地方人民作自己家人想。不使彼受無謂之逼抑苦惱。則其功德大矣。能如是。再加以誦持經咒。念佛名號。則必蒙佛天護佑。無事則軍威遠鎮。宵小潛伏。有事則承佛天力。克制敵軍。則是護國將軍。救世菩薩矣。光以不德。何堪為師。然泥塑木雕之佛。若作真佛敬之。則與敬真佛之利益無異。以故且順汝志。而為汝師。汝若看佛敬僧。則縱屬粥飯庸僧。亦未必不能因之以超凡入聖了生脫死。若唯以光之道德具備是責。則便失所冀望。不如不皈依之為愈也。今為汝取法名為智毅。以有智之勇毅。內之可以修聖道斷煩惱。外之可以保國家安人民。汝能顧名思義。其利益及於國家社會。豈止汝一人獨得而已。至於誦經持咒念佛。一本於至誠恭敬而受持之即已。不必急急求解義為要也。果能如是受持。久之則業障消除。智慧發現。經之實益。尚能親得。況文義乎。文鈔中屢屢言之。故不多述。祈熟閱文鈔。即是常相晤對。況一函二函者乎。

復周孟由昆季書

汝母年高。於淨土一法。未能認真修持。宜常與談說六道輪迴之苦。極樂世界之樂。人生世間。超升最難。墮落最易。若不往生西方。

且莫說人道不足恃·即生於天上·福壽甚長·福力一盡·仍舊墮落人間·及三途惡道受苦。不知佛法·則無可如何。今既略曉佛法·豈可將此一番大利益事·讓與別人·自己甘心在六道輪迴中·頭出頭沒·永無解脫之日乎。如是說之·或可發其宿世善根·信受奉行也。菩薩度生·隨順機宜·先以欲鉤牽·後令入佛智。汝能力修孝友·及以淨土法門·勸導自己眷屬·及一切有緣者·同作蓮池會裏人·則功德大矣。

世人有病·及有危險災難等·不知念佛修善·妄欲祈求鬼神·遂致殺害生命·業上加業·實為可憐。人生世間·凡有境緣·多由宿業·既有病苦·念佛修善·懺悔宿業·業消則病癒·彼鬼神自己尚在業海之中·何能令人消業。即有大威力之正神·其威力若比佛菩薩之威力·直同螢火之比日光。佛弟子不向佛菩薩祈禱·向鬼神祈禱·即為邪見·即為違背佛教·不可不知。又一切眾生·皆是過去父母·未來諸佛·理宜戒殺護生·愛惜物命·切勿依世俗知見·謂奉父母甘旨為孝。彼未聞佛法者·不知六道輪迴之事理·妄謂為孝·尚有可原·若已聞佛法之人·殺過去父母親屬·以奉養現在父母及喪祭等·豈但不是孝道·直成忤逆矣。是以通人達士·由聞佛法之真實義諦·悉不肯依世俗之權法以行。以此權法·殆姑順世俗迷情而立·非如來洞徹三世因果之道故也。若欲深知·取文鈔中諸戒殺文·及觀音頌之普勸戒殺挽劫文·閱之自知。

念佛人有病·當一心待死·若世壽未盡·則能速癒。以全身放下念佛·最能消業·業消則病癒矣。若不放下·欲求好·倘不能好·則決定無由往生·以不願生故。此等道理不明白·尚能得仗佛慈力乎。汝母之病·宜切勸放下求往生·如壽未盡·求往生·反能速癒·以心至誠故·得蒙佛慈加被也。祈與汝母婉曲言之·令勿效癡人說癡話也。

昨接守良書·知汝母求生之心·尚未實發·病中且勿提及·但勸至心念佛·即得蒙佛加被·身心安樂。待大好後·婉曲勸導·令其求生·則利益大矣。并祈於汝母前·代為問好。又當為說（光）勸彼放

下一切·一心念佛·是為自己要事·餘皆是替兒孫殫心·有累自己念佛利益矣。

羣錚知悉·汝母現有病·斷不可不瘡而去。然（光）看汝母·恐難高壽·宜與孟由及智昭等·日換班在旁念佛·俾其隨念·不能念則靜聽。若世壽盡·如此行·則決定往生。若世壽未盡·亦當消除業障·增長善根。如汝決欲來山·只好照汝此議·庶兩無所礙。現汝母病未瘡·決不可發此心·發則於世間世出·兩俱違悖矣。人之臨終·得其助念·定可往生·失其助念·或再以哭泣搬動·動其愛情瞋恨·則墮落難免矣·險極險極。汝能成就母往生·亦是三世諸佛淨業正因·所謂即塵勞行佛事·其功德比尋常殊勝萬分矣。祈與孟由說此助念法·並告汝母令聽（光）言。至為親開陳佛法·固為大善。然定省撫慰·亦須格外留意·幸甚。

汝母發願寄款交（光）隨意作功德·及助印蕪鈔。依（光）鄙見·做功德當以開人智識為最。擬以此款任印觀音頌·普徧施送於遠近·俾一切人同知觀音大士·為法界眾生之恃怙。隨類現身·尋聲救苦·兼以輔弼彌陀·接引眾生。況乎現今世人·日在患難中·無法防護。倘人人見此書·知大士之恩德·無不欲仗其威力以免災禍。既發信仰依賴大士之心·自然心存慈善·改往修來·以期不與大士相背而得蒙其覆庇護佑也。世之不治·由於人心險惡·倘人能仰慕大士之慈悲·自可日臻善域·是故此書流通·其利無窮·比校別種暫時之益者·實相去天淵。且以此增汝母福慧·消汝母罪愆·必能生獲安樂·沒歸蓮邦。至於蕪鈔·則見之發心修善念佛者甚多·茲不具書。

汝母何以病不見瘡·蓋以宿業所致·殆轉重報後報為現報輕報·於此時以了之乎。玄奘法師臨終亦稍有病苦·心疑所譯之經·或有錯謬。有菩薩安慰言·汝往劫罪報·悉於此小苦消之·勿懷疑也。當以此意安慰汝母·勸彼生歡喜心·勿生怨恨心·則決定可蒙佛加被·壽未盡而速瘡·壽已盡而往生耳。凡人當病苦時·作退一步想·則安樂無量·近來兵火連綿·吾人幸未罹此·雖有病苦·尚可作欲出苦之警

策。則但宜感激精修。自得利益。否則怨天尤人。不但宿業不能消。且將更增怨天尤人之業。當與汝母說之。果能不怨不尤。淨心念佛。其消業也。如湯消雪。(光)自回山。日日於課誦回向時。為汝母回向。祈三寶加被。壽未盡即速癒。壽已盡則速得往生西方耳。

接手書知汝母已於初二日念佛往生。不勝傷歎。雖然。汝等既知佛法。當依佛法。令親神識得益為事。不可徒為哀毀。令存亡兩無所益。至於喪祭。通須用素。勿隨俗轉。縱不知世務者。謂為不然。亦任彼譏笑而已。喪葬之事。不可過為鋪排張羅。做佛事只可念佛。勿做別佛事。並令全家通皆懇切念佛。則於汝母。於汝等諸眷屬。及親戚朋友。皆有實益。有財力。多做功德。若喪事用度無出。即以之辦喪事亦可。切勿硬撐架子。至有虧空。後來受窘。則不必矣。

接手書。知汝母去得甚好。此殆汝母往昔善根。及現在善願。並汝等助成之功效也。人一生事事皆可偽為。唯臨死之時。不可偽為。況其無愛戀之情。有悅豫之色。安坐而逝。若非淨業成熟。曷克臻此。但願汝昆弟與闔家眷屬。認真為汝母念佛。不但令母親得益。實則比自己念佛之功德更大。佛所以教人。凡誦經持咒念佛作諸功德。皆為法界眾生回向。平時尚為無干涉之法界眾生回向。況母歿而不至心為母念佛乎。以能為一切眾生回向。即與佛菩提誓願相合。如一滴水。投於大海。即與大海同其深廣。如未到海。則勿道一滴。即長江大河。固與大海天地懸殊也。是知凡施於親。及一切人者。皆屬自培自福耳。知此義。有孝心者。孝心更加增長。無孝心者。亦當發起孝心。請僧念七七佛甚好。念時汝兄弟必須有人隨之同念。婦女不必隨於僧次。以為日既多。人情熟悉。或令人起嫌疑。婦女宜另設一所。或居於幕。出入各門戶。兩不相見。是為表率鄉邑。開通儀式之懿範。若漫無界限。或他人仿之。久則弊生。昔人立法。雖上上人。亦以下下人之法為範圍。故能無弊。汝昆弟能如是為母念佛。兼又印施觀音頌文鈔等。有此善心淨資。並利人之事之功德。豈但汝母蓮品增高。將見汝祖父母。汝父。並歷代祖妣。同沾法利。同得往生也。(光)之所說。乃本

理本情。非漫然為汝等說悅心快意語也。富貴人家子弟。多不成器。其源由於愛之不得其道。或偏與錢財。或偏令穿好衣服。錢隨彼用。則必至妄吃致病。若為彼存以生息。餘不得者。於父母生嫌心。於所偏得兄弟姊妹生忌心。皆非所以教孝教弟之道。若女有錢。出嫁必以錢自驕。或輕其夫。或不洞事。以錢助夫為不法事。欲兒女成賢人。當為培福。不當為積財。財為禍本。汝等看多少白手起家者。皆由無錢。自勤而來。而大富家多多不久房屋一空。故古人云。遺子黃金滿籬。不如教子一經。能讀則讀。不能讀。或農或工或商。各有一業。為立身養家之本。女子若有錢。明道理。錢固為助道之本。不明道理。則害其女。并害其壻。并害其外孫孫女矣。汝母善理財。幸汝家祖德深厚。故兄弟姊妹。皆賢善和睦。或於一人。有偏私偏愛。亦不至彼此計校。然不可以此為法。須令兒女永無計校之嫌隙可生。及倚恃之驕情長起。庶幾家道興而子孫通皆循規蹈矩矣。(光)之性情多絡索。以汝兄弟以(光)為師。恐後來或致兒女受害。故為絮叨及之。切勿謂所說無因。視作廢言。幸甚。但祈汝兄弟認真念佛。則為報母之恩。亦為報佛之恩矣。

火葬一法。唐宋佛法盛時。在家人多用之。然宜從俗葬埋。恐執泥者妄生議論。實則燒之為易泯滅。過七七日燒彌妥。葬之年辰久。或致骨骸暴露耳。三年之喪。不作禮樂。固宜遵守。前清文官必丁憂。武官不丁憂。以軍事不可或輟。故不為制。今則廢倫非孝。紛紛而起。守制之期。尚足畦齒乎。吾人當依古禮。斟酌行之。不可遽變。不必過泥可耳。頂聖眼天生等說。實可依據。(光)恐無知者。唯以探冷熱為事。意謂有信願及臨終正念分明。即可往生。不得專以探冷熱為據。故云亦不一例。恐其探之頻數。或致誤事。不可不知。大寶積無量壽如來會所說。乃說此等墮疑悔者。名為胎生。亦有謂為疑城者。此約障蔽隔礙之義。立胎生疑城之名。以在蓮華中五百歲。不見佛聞法。何得死執其字以說義。將謂此等不在九品之數乎。須知西方無胎生。亦無城郭。乃約不能即出蓮苞及與佛相隔之義。喻取於胎於城。汝遂

執定其詞。謂此在蓮品之外。然則下品中生六劫。下生十二劫。則其胎其城。為更厚更遠矣。彼十二劫者。尚歸九品。何五百歲者。便居品外。又何不觀於蓮華中不能出現八字。是蓮為不列九品之蓮乎。佛法本無可說。一死執。則無事生事。便費盡筆墨矣。總因自己居於疑胎。其為城也。厚逾鐵圍。果能直下明瞭。則大地平沈。鐵圍了不可得矣。孟子謂以意逆志。是為得之。只此逆字。亦是疑城。若知逆即迎合之意。則疑城化為烏有。一般死執著漢。所以終日講說。終日違背。皆坐此死執著之病根未消。故致難得實益也。

復馮不疚居士書

若欲化人。必須自己實行。人自生信。光所言實行。尚不專指能念佛而已。凡發心學佛之人。必須所作所為。高出平人之上。所謂高出者。謂能力敦倫常。恪盡己分。父慈子孝。是所應然。一切時。一切處。務存真實。凡起心動念行事。俱須諸惡莫作。眾善奉行。凡有迷而不信者。必須以真實誠意為彼宣說所知之因果等事理。不能知者。不可強說。眾生在迷。如生而盲者。迷本有家。若欲歸還。須待人領。方可不致撞牆磕壁。墮坑落塹。彼得人領。當須全體依從領者所說。不得稍生違抗。彼若違抗。不但不能到家。或恐喪失身命。佛所說之淨土法門。即三界內一切眾生之導師也。眾生依佛言教而修行之。決定能到西方極樂世界。本有家鄉。享受安樂。但以凡情不解聖智。故又自作聰明。妄相詰難。殊可哀憐。今一一答之。一。物極必反。樂極生悲。為互古今通天下毫不可易之公理公則。西方以極樂名。然則亦反乎悲乎。答。世間所有若根身。(即吾人之身)若世界。(即現所住之天地)皆由眾生生滅心中同業(世界)別業(根身)所感。皆有成壞。皆不久長。身則有生老病死。界則有成住壞空。所謂物極必反。樂極生悲者。此也。以因既是生滅。果亦不能不生滅也。極樂世界。乃阿彌陀佛徹證自心本具之佛性。隨心所現不思議稱性莊嚴之世界。故其樂無有窮盡之時期。譬如虛空。寬廓廣大。包含一切森羅萬象。世界雖數數成。數數壞。而虛空畢竟無所增減。汝以世間之樂。難極

樂之樂·極樂之樂·汝未能見。虛空汝雖未能全見·當天地之間之虛空·汝曾見過改變否。須知一切眾生·皆具佛性·故佛（指釋迦佛）令人念佛求生西方。以仗阿彌陀佛之大慈悲願力·亦得受用此不生不滅之樂。以根身則蓮花化生·無生老病死之苦。世界則稱性功德所現·無成住壞空之變·雖聖人亦有所不知·況以世間生滅之法疑之乎。二。一陰一陽之謂道·世傳江慎修先生·獨居深山·做天地日月星辰皆成·惟居而不運。及得其婢之陰氣·則能運行。西方既無女身·安非獨陽不長乎。答·江慎修係清朝一隱君子·其于聖賢心法·天文地理·無不通達·實世間不可多得之人。先生未曾研究佛法·而于戒殺放生等事·頗形讚歎。（光曾為其書作序、并先生年譜、一同流通、）此佛法中最淺近者·尚且如是。使當日有通法高人化之·當必深入法藏·徹證自心矣。至謂做天地日月星辰皆成·而不能運動·必待其婢之陰氣而後運動。此煉丹之下流坯·妄造謠言·欲引諸無識行邪僻事。特借慎修做天地·證明陰陽和合為道。乃極惡不法·無倫理·無廉恥·引人作禽獸之邪見魔話。彼無知者·認為道妙·可不哀哉。一陰一陽之謂道·此孔子贊易之言。易以陰陽為本·故孔子作如此說。後世之人不知道·便將陰陽二字·崖板認作陰陽。彼邪見者·又將陰陽移于男女。所謂鸚鵡學人語·了不知人事。今不避煩瑣·略為指明。庶不致由聖人明道之言·而無知者誤之以作永墮三途之惡業耳。一非一二之一·乃混合無間之謂。陽·即明德·此之明德·人人具有·由其人欲之物障蔽·致本有明德·不能顯現。若能格除人欲之物·則明德自可顯露·是之謂明明德。陽·即明德。陰·即明明德之明。中庸所謂誠明。誠·即明德。明·即明明德之明。誠明合一·則是明明德。則是伏羲神農堯舜禹湯文武周公孔子各聖所傳之道。孔子在大學·則直言明明德。子思在中庸·則言誠明。周易一書·乃聖人觀象喻道與教之書·故以一陰一陽為道。後世智識淺劣·遂死認陰陽·竟至拉及男女·竟至邪人引為誣騙無知行邪僻事之據。其誣譏孔子·破壞易理·疑誤後人·罪豈有極。我如此說·恐汝不信。試觀乾卦六爻之龍·自可備

知·亦不必徧研六十四卦矣。彼謂陰陽相合為道·深山中豈無陰陽之氣·而必欲用人之陰陽乎。人之陰陽·是生兒女之本·豈天地日月星辰之本乎。此種邪說·臭穢之極·不堪挂齒·彼猶以為道。真所謂以人糞作栴檀·乃不識香臭之人也。哀哉。三·參禪所以調神養氣·信其有益。念佛則是多言傷氣·豈亦有益耶。且如有人·日居汝旁·叫汝名不停·汝不厭乎。答·禪者靜坐·養氣調神·亦是不知禪者之言·只得禪之皮毛·不知禪之所以也。禪者雖坐·坐而參究本來面目·非為養氣調神也。念佛亦養氣調神之法·亦參本來面目之法。何以言之·吾人之心·常時紛亂·若至誠念佛·則一切雜念妄想·悉皆漸見消滅。消滅則心歸於一·歸一則神氣自然充暢。汝不知念佛息妄·且試念之·則覺得心中種種妄念皆現。若念之久久·自無此種妄念。其最初覺有妄念者·由于念佛之故·方顯得心中之妄念·不念佛則不顯。譬如屋中·清淨無塵·窗孔中透進一線日光·其塵不知有多少。屋中之塵·由日光顯·心中之妄·由念佛顯。若常念佛·心自清淨。孔子慕堯舜周公之道·念念不忘·故見堯於羹·見舜於牆·見周公於夢。此常時憶念·與念佛何異。佛以眾生之心口·由煩惱惑業致成染污。以南無阿彌陀佛之洪名聖號·令其心口稱念·如染香人·身有香氣。念之久久·業消智朗·障盡福崇·自心本具之佛性·自可顯現·何得以世間喚人名而比之乎。若然·則孔子念念慕堯舜周公·亦為不是。若謂念念思慕為是·則聲聲稱念何得非是乎。況此念佛·乃轉凡成聖妙法·豈世間之法所能比乎。四·人之病也·體中多蟲·以藥醫之·則所以殺蟲。廢藥必坐視其死·二者如何。答·病有能醫者·有醫不能醫者。能醫者·外感內傷之病也。若怨業病·神仙亦不能醫。念佛·便能令宿世怨家·仗佛慈力·超生善道·故怨解釋而病即痊愈矣。外感內傷·念佛亦最有益·非獨怨業病有益也。江易園作校長·因極力教授生徒·致用心過度·得病甚重·(此時在上海)中西醫俱無效。彼向不知佛法·江味農來看·謂醫既不效·則不須再醫。當至心念佛·即可痊愈·易園信之·病遂痊愈。故所以極力勸人念佛耳。後回家·有一親戚·年

近七十・雙目失明・易園勸彼念佛・未至一年・其目復明。今夏婺源江灣地方旱・易園勸大家念佛求雨・不七日・即得大雨。一方之民・踴躍歡喜。易園遂起佛光社・教一切男女老幼皆念佛・亦拉光為會長。可知念佛一法・隨在何事・皆可成就。但不可念佛求作惡事成就。若欲作惡事念佛求成就・當被雷殛。恐愚人不知・故為表明。念佛之利益・古今不知有多少・今且以能見而問者言之・當無可疑。彼謂廢藥念佛・坐視其人之死。試問易園用藥何以不愈・念佛又何復得痊愈乎。然此其小利益・大利益則往生西方・了生脫死・超凡入聖・以至成佛也。彼井中蝦蟆・焉能知佛法大海之寬廣乎・宜當作如是胡說巴道・以自逞其無知識也。五・如雞食蟲・養雞則是殺蟲・保蟲必須殺雞・然則如何。答・佛大慈悲・各令一切悉遂其生。雞乃人之所養・若不設法令生・彼將斷絕・非彼自生者可比。雞食蟲・以飢故・使不飢・則可不食・非必定食蟲也。若如彼說・則殺雞即為救蟲。然人之吃一切物命・亦當殺之以為救一切物命・可乎不可。小智不知大理・妄以己之愚見・阻人戒殺放生之善。後來做了物類・決定不能遇放生救命之人。此時之苦・皆今日之邪智所培植也。六・佛以萬法皆空・何以有西方極樂世界。答・萬法皆空・乃凡夫惑業所感之境・何得以如來福慧所感之極樂世界相比。彼將謂西方亦同此世界・了無有異乎。以凡情測聖境・何異跛夫疑六通聖人一念便達一切世界・當即時累死也。又何異愚人謂一月普印千江・當不勝其勞也。佛言世智辯聰・不可入道。彼之所說・正佛所謂愚癡。而彼尚囂囂然自命為智・豈不大可哀哉。欲詳說之・太費筆墨・熟讀文鈔・無疑不釋。

復馬舜卿居士書

接手書・知居士樂道之心・極為真切・至於譽不慧處・未免失于俗派。(光)一介庸僧・但只知學愚夫愚婦之專念佛名・何可如是過讚。至于所募印之安士全書・實格致誠正修齊治平・與夫斷惑證真了生脫死之法・一一皆備・隨人之見淺深・各得其益。所自任者・已經送完・今將友人結緣所餘之一部・特為寄來・祈詳閱之・自有手舞足蹈之樂。

又印光法師文鈔·乃徐蔚如三四次排印者·已散完矣。若九月到上海·當于商務印書館請一部寄來。若過細看·則禪淨之界限·及所以然·並佛力自力之大小難易利害得失·固已明若觀火·可以永無疑慮矣。但文不足觀·但取其有益于初機入道即已·若以古德著述之模範繩之·則將棄置之不暇·何堪更為研究也。最初從此入·已經知其門路·再看古人所著·則固易為了然矣。他山之石·可以攻玉·無足廢人·當途指路·玉與行人·當不以粗厲殘廢見棄也。

十三日接到手書·並乩書二部·隨即送與俗人·本欲即復·以冗事多端·不暇及。至廿一日·又接手書·及其中乩語等·其意固亦欲人改惡從善·但肯改惡從善·則便為莫大利益。若謂明印師到普陀·大士賜示·則為誣譏普陀及與大士。光在普陀·已滿三十年·未曾聞有扶乩之事。明印既是高僧·當將佛教中因果報應事理·及修持淨土法則·發揮示人。何得冒大士之名·以造謠言·雖亦有勸人之益·而自己先陷於誑妄罪中。至救劫仙方·更為俗鄙不堪·此係燒琉璃者所作·絕不知觀音為何如人·玉帝為何如人。居士詳看安士書首冊·天必錫汝以福下注·及欲海回狂卷三之論天與佛菩薩之文·自不被此等胡說巴道所惑。居士信心雖切·奈絕未嘗著佛法滋味·故將靈鬼妄冒仙佛等乩語·一體尊重。前二部書·其勸世文·頗有切實有益世道人心者·然拉雜亂錄·固已不成片段。況其中說佛法者·多不如法·在家善人·宜取其戒勸之語·不必究其修行之語·則有大利而無少弊矣。至于感應篇·陰騭文·覺世經·則係示人克己復禮之寶鑑·比遊移浮泛之乩文·固不可一目視之。扶乩一道·實有真仙降臨·然百無二三次。若盡認做真仙·則是以平民妄稱帝王矣。所臨壇者·多屬靈鬼·倘果有學識之靈鬼·其語言頗有可觀·至說佛法·則非己所知·故多謬說。一班無知無識之人·遂謂真佛真菩薩·其語言之訛謬處·害人實深。居士宜潛心讀安士書·並印光文鈔·倘有入處·再去研究法華楞嚴·自可明如觀火矣。

接手書·不勝傷時之感·十餘年來·天災人禍·相繼降作·總由

不知三世因果·唯欲自利·不顧殺生害命·以及害人之所致也。欲挽劫運·非提倡三世因果生死輪迴·與戒殺護生吃素念佛不可。現今之世·常在患難中·唯有阿彌陀佛與觀世音菩薩可以倚靠·當常持聖號·冥冥中自有不可思議轉移。又祈與諸眷屬·及親友鄉黨·皆以是為倡導·則其利大矣。其倡導之法·當以安士書及文鈔為本·庶不至入于外道邪見法中。雷峰塔倒·內中之經·悉破壞不堪·好事者以重價購求·其意實非重經·乃重古也。使現所完全之經·一如寶貴此經·則功德利益·唯佛能知。彼以此係古人所藏·不思完全之經·非古人所傳乎。寶貴此經·固有功德·而唯以古為貴·不以經為貴·則成棄本逐末矣。金剛經註解甚多·在家人素未研窮教理者·實不易領會·唯呂祖所註之金剛經·先用註以釋義·後用講話以消文·易于明白耳。閣下有心救劫·當極力提倡因果報應·及戒殺護生·吃素念佛·諸惡莫作·眾善奉行·力敦倫常·各盡己分·則有實益矣。否則但有空言·決無實效。

接手書·不勝感愧·光何人斯·敢膺此讚。監獄說法·乃因上海各居士發起·而常時巡往各縣說法之人·皆光之皈依弟子·以故彼等亦將光名列于名譽會長之列·而祈其往就近之第二監獄中一為開導也。觀音大士頌·其書乃光請江西一大文學居士所著·去年已脫稿·因戰事起·未能付排·今秋至上海付排·明年當出書·此書于世道人心·大有關係。(光)欲印數十萬部·徧布中外·恐人微德薄·無此感格·上十萬部·當可做到·現已任及五萬餘矣。此書即普陀山志之卷首·以卷帙多·故別行也。山志新修已脫稿·尚待(光)校正過·方可刊行。(光)以事繁·恐在明年方可付手民耳。書出·當寄贈一二部。至謂各教之同異處·人多偏執·或執其異·則是不知道本之見。或執其同·則是不知各教之發揮修證淺深大相懸殊之見。閣下且勿論其同異·如不以佛法為非·祈息心研究而修持之·久則自知其道體道用之同而不可相等·異而不可岐分之所以耳。佛法淵深·大聰明人·盡平生心力·尚研究不得到詳悉處。然佛法隨機施教·若欲得其實益·即

從特別超異之淨土法門研究而修持之。則頗省心力。實為最要之道。閣下身居世網。又苦無知識請教。若不以（光）之文字拙樸見棄。請詳閱文鈔。依所說而修持之。其為利益不可思議。然（光）之文雖刺目。而多引經論成言。或宗經論意義。必須竭誠敬而閱之。方可得其利益。語云。下人不深。不得其真。泥塑木雕之佛。作真佛敬。小則消災增福。大則超凡入聖。其利益在自己之誠否。不在佛像之真假也。閣下果能以此意息心靜閱而力行之。則為西方極樂世界之法門良朋善友矣。願勉之。勿虛此望。則幸甚。

復裘佩卿居士書一

所言瞋心。乃宿世習性。今既知有損無益。宜一切事當前。皆以海闊天空之量容納之。則現在之寬宏習性。即可轉變宿生之褊窄習性。倘不加對治。則瞋習愈增。其害非淺。至于念佛。必須按自己之精神氣力。而為大聲。小聲。默念。及金剛念（即有聲、別人聽不見者、持咒家謂之金剛念、）之準則。何可過猛。以致受病。此過猛之心。亦是欲速之病。今既不能出聲念。豈心中亦不能默念。何可止限十念乎。況病臥在床。心中豈能一空如洗。了無有念。與其念他事。何若念佛名號之為愈乎。是宜將要緊事務。交代家人。長時作將死。將墮地獄想。心中不挂一事。于此清淨心中。憶想佛像。及默念佛名。并觀世音菩薩像及名號。果能如是。決定業障消除。善根增長。疾病痊癒。身心康健矣。蓋閣下之病。屬于宿業。因念佛過猛而為發現之緣。非此病完全係念佛過猛而有。使不念佛。又當因別種因緣而得。世之不念佛者多多。豈皆不得一病。長年康健乎。了此自可不誤會。謂念佛致病。有損無益也。（光）與閣下。未能一面。其為閣下謀者。實與自己之父母兄弟無二。以本佛慈悲。欲令有緣者。同得即生往生也。念佛法門。若未詳悉。宜日間略閱一二篇文鈔。以作前途引導。則可不虛此一番往來談敘也。

復裘佩卿居士書二

閣下既相信（光）當依（光）所說·方有實益。否則雖有信心·但作種未來之善根而已。吾人在生死輪迴中久經長劫·所造惡業·無量無邊。若仗自己修持之力·欲得滅盡煩惱惑業·以了生脫死·其難愈于登天。若能信佛所說之淨土法門·以真信切願·念阿彌陀佛名號·求生西方·無論業力大·業力小·皆可仗佛慈力·往生西方。譬如一顆沙子·入水即沈·縱有數千萬斤石·裝于大火輪船中·即可不沈而運于他處·以隨意使用也。石喻眾生之業力深重·大火輪喻彌陀之慈力廣大。若不念佛·仗自己修持之力·欲了生死·須到業盡情空地位方可。否則縱令煩惱惑業斷得只有一絲毫·亦不能了·喻如極小之沙子·亦必沈于水中·決不能自己出于水外。閣下但生信心·念佛求生西方·不可再起別種念頭。果能如是·壽未盡則速得痊癒·以專一志誠念佛功德·便能滅除宿世惡業·猶如杲日既出·霜雪即化。壽已盡則即能往生·以心無異念·即得與佛感應道交·故蒙佛慈接引往生也。閣下若信此話得及·則生也得大利益·死也得大利益。瞋心乃宿世之習性·今作我已死想·任彼刀割香塗·于我無干·所有不順心之境·作已死想·則便無可起瞋矣。此即如來所傳之三昧法水·普洗一切眾生之結業者·（光）特為閣下述之·非（光）自出心裁妄說也。若不念佛求生西方·縱生到至極尊貴之非非想天·天福一盡·仍復輪迴六道。若具志誠懇切念佛·縱將墮阿鼻地獄·尚能蒙佛接引·往生西方。萬不可卑劣自居·謂我業重·恐不能生·若作此想念·則決定不能生矣。何也·以心無真信切願·無由感佛故也。觀音菩薩·久已成佛·特以慈悲心切·現九法界身·種種方便·度脫眾生。（九法界·即菩薩·緣覺·聲聞·天人·阿修羅·畜生·餓鬼·地獄也·）于人法界·又復種種不一·或為帝王宰官·或為隱逸庶民·或為婦女·或為乞丐·了無一定。但以菩薩之像·微妙莊嚴·世人不能形容·以故多類女像·非菩薩原是女身也。欲供養者·當于北京路長康里佛經流通處·請石印之西方三聖像·用鏡龕裝好·彼處亦有·則阿彌陀佛·觀音·勢至·

俱全矣。臥室若不潔，可將佛像供于淨室，日請來熟視一二次，則心中便可作憶念矣。念佛雖貴至誠清潔，然病人做不到，但心存至誠默念，或出聲念，功德仍是一樣。以佛慈廣大，如父母于兒女病苦時，則不以平常之儀式見責，而且為其撫摩身體，洗濯汙穢。若兒女病好，猶然令父母同彼病時一樣伺候，則當被雷打。閣下何得謂臥床默念，恐有罪過乎。即無病人，睡時尚宜默念，況病人乎。

與方聖胤居士書

聞有貴恙，想日見痊癒矣。世間不明理之人，一有病，不是怨天尤人，便是求神禱鬼，徒增業障，有損無益。閣下素修淨業，而且令夫人料理家事，妻賢子孝，心中了無可憂慮者。宜將一切家事，并自己一個色身，悉皆通身放下。以一塵不染心中，持萬德洪名聖號，作將死想，除念佛求接引外，不令起一雜念。能如是者，壽已盡，則決定往生西方，超凡入聖。壽未盡，則決定業消病愈，慧朗福崇。若不如是作念，癡癡然唯求速愈，不唯不能速愈，反更添病。即成壽盡，定隨業漂沈，而永無出此苦娑婆之期矣。祈慧警是幸。

論

淨土決疑論

藥無貴賤·愈病者良。法無優劣契機則妙。在昔之時·人根殊勝·知識如林·隨修一法·則皆可證道。即今之世·人根陋劣·知識希少·若捨淨土·則莫由解脫。余自愧多生多劫·少種善根。福薄慧淺·障重業深。年當志學·不逢善友。未聞聖賢傳薪之道·爭服韓歐闢佛之毒。學問未成·業力先現。從茲病困數年·不能事事。諦思天地鬼神·如此昭著。古今聖賢·如此眾多。況佛法自無權力以脅人服從·必賴聖君賢相護持·方能流通天下耳。倘其法果如韓歐所言·悖叛聖道·為害中國。豈但古今聖君賢相·不能相容于世。而天地鬼神·將亦誅滅無遺也久矣。又何待韓歐等託空言而闢之也耶。中庸謂君子之道·夫婦之愚·可以與知與能。及其至也·雖聖人亦有所不知不能焉。韓歐雖賢·其去聖人遠甚。況聖人所不知不能者乎。佛法殆非凡情世智所能測度之法也。遂頓革先心·出家為僧。自量己力·非仗如來宏誓願力·決難即生定出生死。從茲唯佛是念。唯淨土是求。縱多年以來·濫廁講席·歷參禪匠·不過欲發明淨土第一義諦·以作上品往生資糧而已。所恨色力衰弱·行難勇猛。而信願堅固·非但世間禪講諸師·不能稍移其操。即諸佛現身·令修餘法·亦不肯捨此取彼·違背初心。奈宿業所障·終未能得一心不亂·以親證夫念佛三昧。慚愧何如。一日有一上座·久參禪宗·兼通教理·眼空四海·誓證一乘。效善財以徧參知識·至螺山以叩關余舍。時餘適以彌陀要解·文深理奧·不便童蒙。欲搜輯台教·逐條著鈔·俾初學之士·易于進步。非敢效古德之宏闡道妙·聊以作後進之入勝因緣。喜彼之來·即贈要解一本·且告以著鈔之意。上座因謂余曰。要解一書·吾昔曾一視之。見其詞曰·華嚴奧藏·法華秘髓·一切諸佛之心要·菩薩萬行之司南·皆不出於此矣。若此者不勝枚舉。直是抑遏宗教·過讚淨土。謗正法輪·疑悞眾生。不億蕩益大師·以千古希有之學識·不即直指人心·宏揚止觀。反著斯解·以為愚夫愚婦之護身符。俾舉世緇素·守一法以棄萬行·

取蹄涔以捨巨海。同入迷途。永背覺路。斷滅佛種。罪過彌天矣。欲報佛恩者。當即燬滅令盡。又何堪著鈔。以助其流通耶。憤心厲氣。若對讎仇。余俟其氣平。徐謂之曰。汝以蕩益此解。為罪過數者。但知其末流。而不知其本源。是逐塊之癡犬。非擇乳之鵝王也。須知其過。實不在于蕩益此解。在于釋迦。彌陀及十方諸佛。與淨土三經。及華嚴。法華。諸大乘經。文殊。普賢。馬鳴。龍樹。智者。善導。清涼。永明等。諸大菩薩祖師也。汝若能為大法王。正治其罪。庶汝之所言。舉世奉行矣。否則即是山野愚民。妄稱皇帝。自制法律。背叛王章。不旋踵而滅門誅族矣。汝作是說。謗佛謗法謗僧。當即生陷阿鼻地獄。永劫受苦。了無出期。恃宿世之微福。造窮劫之苦報。三世諸佛。名為可憐憫者。即汝是也。彼瞿然曰。師言罪在釋迦彌陀等者。何反常之若是也。請詳陳其故。若其理果勝。敢不依從。余曰。如來為一大事因緣故。出現於世。所謂大事因緣者。欲令眾生。開示悟入佛之知見。直下成佛而已。豈有他哉。無奈眾生。根有大小。迷有淺深。不能直下暢佛本懷。因茲隨機設教。對病發藥。為實施權。開權顯實。于一乘法。作種種說。或有善根成熟者。令其誕登覺岸。其有惡業深厚者。令其漸出塵勞。曲垂接引。循循善誘。雖天地父母。不能喻其少分矣。又以一切法門。皆仗自力。縱令宿根深厚。徹悟自心。倘見思二惑。稍有未盡。則生死輪迴。依舊莫出。況既受胎陰。觸境生著。由覺至覺者少。從迷入迷者多。上根猶然如是。中下又何待言。斷見惑如斷四十里流。況思惑乎。了生脫死。豈易言哉。以是不能普被三根。暢佛本懷。唯念佛求生淨土一法。專仗彌陀宏誓願力。無論善根之熟與未熟。惡業之若輕若重。但肯生信發願。持佛名號。臨命終時。定蒙彌陀垂慈接引。往生淨土。俾善根熟者。頓圓佛果。即惡業重者。亦預聖流。乃三世諸佛度生之要道。上聖下凡共修之妙法。由是諸大乘經。咸啟斯要。歷代祖師。莫不遵行。汝以禪教自負。而妄謂宏淨土者。為謗正法輪。斷滅佛種。足徵汝乃魔附其身。喪心病狂。認迷為覺。指正為邪之地獄種子耳。夫釋迦彌陀。于往劫中。

發大誓願·度脫眾生。一則示生穢土·以穢以苦折伏而發遣。一則安居淨土·以淨以樂攝受而鈎陶。汝只知愚夫愚婦·亦能念佛·遂至藐視淨土。何不觀華嚴入法界品·善財于證齊諸佛之後·普賢菩薩·乃教以發十大願王·回向往生西方極樂世界·以期圓滿佛果·且以此普勸華藏海眾乎。夫華藏海眾·無一凡夫二乘。乃四十一位法身大士·同破無明·同證法性·悉能乘本願輪·于無佛世界·現身作佛。又華藏海中·淨土無量。而必回向往生西方極樂世界者·可知往生極樂·乃出苦之玄門·成佛之捷徑也。以故自古迄今·所有禪教律叢林·無不朝暮持佛名號·求生西方也。汝歷參叢林·何日日修習·而反生毀謗之若是也。儒書所謂習矣不察·日用不知者·莫汝為甚也。夫華嚴為諸經之王·王于三藏。華嚴不信·即一闡提。縱不生陷阿鼻·報終定墮無間。吾欲離苦而求生淨土·汝欲得苦而毀謗華嚴。汝守汝志·吾行吾道。將軍不下馬·各自奔前程。道不同不相為謀·汝去·吾不語汝。彼曰·道貴宏通·疑須剖決·師何見拒之甚也。嘗聞毘盧遮那·徧一切處·其佛所住·名常寂光。則但證法身·當處即是寂光淨土又何必以生滅心·捨東取西·然後為得也。余曰·談何容易。寂光淨土·雖則當處即是。然非智斷究竟·圓證毘盧法身者·不能徹底親得受用。圓教住·行·向·地·等覺·四十一位·尚是分證。汝若圓證毗盧法身·則不妨說當處便是寂光。其或未然·則是說食數寶·不免飢寒而死也。彼曰·唯心淨土·自性彌陀·宗門常談·不應有錯。余曰·宗門所說·專指理性·非論事修。所以然者·欲人先識不涉因果修證凡聖生佛之理。然後依此理以起修因證果·超凡入聖·即眾生而成佛道之事。汝何事理僂侗·知見顛倒之若是也。又汝以捨東取西·為生滅者。不知執東廢西·乃斷滅也。未未證妙覺·誰離取捨。三祇煉行·百劫修因·上求下化·斷惑證真·何一非取捨之事乎。須知如來欲令一切眾生速證法身·及與寂光·所以特勸持佛名號·求生西方也。問·棗柏李長者華嚴合論·謂西方淨土·乃為一分取相凡夫·未信法空實理·以專憶念·其心分淨·得生淨土·是權非實。何以華藏海眾·同

願往生。棗柏現生證聖・神通智慧・不可思議。定是華嚴會上菩薩示現。所有言說・當無錯謬。答・棗柏雖菩薩示現。以經未全來・不能預斷・故作此說。按棗柏造論・在唐玄宗開元年間。論成之後・隨即入滅。歷五十餘年・至德宗貞元十一年・南天竺烏荼國王・方進普賢行願品四十卷之梵文。至十四年・始譯畢流通。其前之三十九卷・即八十華嚴之入法界品・而文義加詳。彼第八十・善財承普賢威神之力・所證與普賢等・與諸佛等。普賢乃為說偈・稱讚如來勝妙功德。以文來未盡・故未結而終。及行願品來・第四十卷・普賢乃以十大願王・勸進善財・及與華藏海眾・令其回向往生西方極樂世界。說畢・如來讚歎・大眾奉行・文方圓備。故古德以此一卷・續于八十卷後流通。欲後世學者・咸得受持全經云耳。古德謂念佛求生淨土一法・唯佛與佛・乃能究盡。登地菩薩・不能知其少分者・即此是也。則一切上根利器・淨土總攝無遺矣。大集經云・末法億億人修行・罕一得道・唯依念佛・得度生死。則一切人天六道具縛凡夫・淨土亦總攝無遺矣。汝信棗柏而不信行願品・大集經。是遵縣令一時權宜之告示・而違皇帝萬古不易之勅旨・何不知尊卑輕重之若是也。問・彼既海眾示現・何待經來方知。答・宏揚佛法・大非易事。須有證據・方能取信。華嚴一經・迴越羣典。無從引類・以自裁度。問・涅槃全經未至・生公何以預倡闡提皆有佛性。將謂棗柏・不及生公。答・闡提原是眾生・一切眾生皆有佛性・闡提何得獨無。有智識者・皆可預斷。往生圓滿佛果・諸經絕未宣說。誰敢自出心裁・豎此奇義。二者事理絕不相侔・不可引以為證。至于二公所證・則非吾輩博地凡夫可知・何敢戲論。須知菩薩宏法・或順或逆・種種方便・不可思議。得非棗柏示以不知・以敦後世之信向耶。問・禪宗諸師・多撥淨土・此又何說。答・禪宗諸師・唯傳佛心。所有言說・皆歸向上。汝參禪有年・尚不知此。則汝之所解・皆破壞禪宗之惡知見也。問・博地凡夫・豈敢自任。諸祖誠言・斷可依憑。六祖謂東方人造罪・念佛求生西方・西方人造罪・念佛求生何國。趙州云・佛之一字・吾不喜聞。又云・老僧念佛一聲・

漱口三日。禪宗諸師。多有此等言句。則又何說。答。六祖直指向上。令人識取自心。汝當作訓文釋義。辨論修持法門。所謂認驢鞍橋作阿爺下頷。幾許誤哉。汝須知西方之人。見思淨盡。進破塵沙。及與無明。祇有進修。絕無造罪之事。謂彼求生何國者。若在此間。未斷見思。仗佛慈力。帶業往生之人。則生凡聖同居淨土。一生彼土。則見思二惑徹底消滅。喻如洪鑪片雪。未至而化。德人覲面。鄙念全消。若是見思淨盡。則生方便有餘淨土。分破無明。則生實報無障礙淨土。無明淨盡。福慧圓滿。則生常寂光淨土。在此土現證者如是。在彼土進修者亦然。汝何過慮彼無生處。而自障障人。不肯求生。聞噓廢食。自喪性命。則天下癡人。莫汝若也。汝但知趙州佛之一字。吾不喜聞。何不領取下文僧問和尚還為人也無。州云佛佛乎。但欲依念佛一聲漱口三日。何不依僧問和尚受大王如是供養。以何報答。州云念佛乎。又何不依僧問十方諸佛。還有師也無。州云有。問。如何是諸佛師。州云阿彌陀佛。阿彌陀佛乎。汝謂禪宗諸師。多有此等言句。不知禪家酬機之言。名為機鋒。名為轉語。問在答處。答在問處。不知返照回光。叩己而參。一向但噏酒糟。逐土塊。有甚了期。吾出家三十餘年。漱口佛不喜聞之言。則眾口同宣。至于以佛佛為人。以念佛報恩。以阿彌陀佛為十方諸佛師。絕未聞一人說一句者。夫言出一口。既以彼為實為可依。則此亦是實是可依。何受損者即依。得益者即違。一依一違。自相矛盾。夫趙州所言。總歸本分。佛不喜聞。與念佛等。皆屬轉語。若能直下識得自心。方知趙州道越常情。語出格外。當孜孜念佛。唯日不足矣。倘不能親見趙州。則寧可以念佛為修持。不可依撥佛為把柄。依念佛。則即生便出輪迴。將來定成佛道。依撥佛。則謗佛謗法謗僧。現生則罪業山積。福慧冰消。命終則永墮阿鼻。長劫受苦。其利害得失。奚啻天淵。總之。今人率皆福薄慧淺。業重障深。于得益者。皆若罔聞。于受損者。全身頂戴。(得益受損、且約未悟錯會說、非古德所說之法、有益有損也。)諸師酬機之言。悉皆如是。不勞備釋。汝謂諸祖誠言。斷可依憑。何不依百丈云。修行以念

佛為穩當乎。又何不依百丈立祈禱病僧·化送亡僧之規·皆悉回向往生淨土乎。將謂百丈唯令死者往生·不令生者求生乎。又何不依西天第十四祖龍樹菩薩·如來預記往生·龍宮誦出華嚴·廣造諸論·偏讚西方。如毘婆沙論·稱為易行疾至之道乎。又何不依第十二祖馬鳴菩薩·于起信論末後·示最勝方便·令人念佛求生西方·常侍彌陀·永不退轉乎。又何不依二祖阿難·初祖迦葉·結集三藏·與淨土諸經乎。倘淨土不足為法·有害于世。彼何不知好歹·貽後世以罪藪乎。又諸大乘經·皆讚淨土。而小乘經則無一字言及。將謂諸大乘經·不足為法乎。又佛說彌陀經時·六方恆河沙數諸佛·悉皆出廣長舌·勸信此經。將謂六方諸佛·亦貽人以罪藪乎。如謂六祖趙州等·不可不信。則龍樹·馬鳴·阿難·迦葉·釋迦·彌陀·六方諸佛·諸大乘經·更為不可不信。若謂諸佛諸祖諸經·皆不足信·又何有于六祖趙州為哉。見近而不見遠·知小而不知大。如鄉民慕縣令之勢力·而不知皇帝之威德。小兒見銅錢而即拾·遇摩尼寶珠而不顧也。汝還知永明四料簡·所示禪淨有無·利害得失乎。夫永明乃彌陀化身·豈肯貽人罪藪·謗正法輪·疑誤眾生·斷滅佛種乎。彼曰·永明料簡·語涉支離·不足為法。何以言之·彼謂有禪有淨土·猶如戴角虎·現世為人師·來生作佛祖。若如所說·則今之禪者·類多皆看念佛的是誰·又有住念佛堂·長年念佛者。彼皆現世能為人師·來生即成佛祖乎。又云·無禪有淨土·萬修萬人去·若得見彌陀·何愁不開悟。今之愚夫愚婦·專念佛名者·處處皆有。未見幾人臨命終時·現諸瑞相·蒙佛接引·往生西方也。故知永明料簡·為不足法。余曰·汝何囫圇吞棗·不嘗滋味之若是也。夫永明料簡·乃大藏之綱宗·修持之龜鑑。先須認准如何是禪·如何是淨·如何是有·如何是無。然後逐文分割·則知字字皆如天造地設·無一字不恰當·無一字能更移。吾數十年來·見禪講諸師所說·皆與汝言·無少殊異。見地若是·宜其禪與淨土·日見衰殘也。問·何名禪淨·及與有無·請垂明誨。答·禪者·即吾人本具之真如佛性·宗門所謂父母未生以前本來面目。宗門語不說破·令人

參而自得。故其言如此。實即無能無所。即寂即照之離念靈知。純真心體也。(離念靈知者、了無念慮、而洞悉前境也、)淨土者。即信願持名。求生西方。非偏指唯心淨土。自性彌陀也。有禪者。即參究力極。念寂情亡。徹見父母未生前本來面目。明心見性也。有淨土者。即真實發菩提心。生信發願。持佛名號。求生西方也。禪與淨土。唯約教約理。有禪有淨土。乃約機約修。教理則恆然如是。佛不能增。凡不能減。機修須依教起行。行極證理。使其實有諸己也。二者文雖相似。實大不同。須細參詳。不可僥倖。倘參禪未悟。或悟而未徹。皆不得名為有禪。倘念佛偏執唯心而無信願。或有信願而不真切。悠悠泛泛。敷衍故事。或行雖精進。心戀塵境。或求來生生富貴家。享五欲樂。或求生天。受天福樂。或求來生。出家為僧。一聞千悟。得大總持。宏揚法道。普利眾生者。皆不得名為有淨土矣。問。出家為僧。宏法利生。又有何過。而亦簡除。答。若是已斷見思。已了生死。乘大願輪。示生濁世。上宏下化。度脫眾生者。則可。若或雖有智願。未斷見思。縱能不迷于受生之初。亦復難保于畢生多世。以雖能宏法。未證無生。情種尚在。遇境逢緣。難免迷惑。倘一隨境迷。則能速覺悟者。萬無一二。從迷入迷。不能自拔。永劫沈淪者。實繁有徒矣。如來為此義故。令人往生淨土。見佛聞法。證無生忍。然後乘佛慈力。及己願輪。迴入娑婆。度脫眾生。則有進無退。有得無失矣。未斷見思。住此宏法。他宗莫不如是。淨宗斷斷不許也。世多謂參禪便為有禪。念佛便為有淨土。非但不知禪淨。兼亦不知文義。辜負永明古佛一番大慈悲心。截斷後世行人一條出苦捷徑。自誤誤人。害豈有極。所謂錯認定盤星。毫釐有差。天地懸隔也。彼曰。禪淨有無。略知旨趣。四偈玄文。請詳訓釋。余曰。有禪有淨土。猶如戴角虎。現世為人師。來生作佛祖者。其人徹悟禪宗。明心見性。又復深入經藏。備知如來權實法門。而于諸法之中。又復唯以信願念佛一法。以為自利利他通途正行。觀經上品上生。讀誦大乘。解第一義者。即此是也。其人大智慧。有大辯才。邪魔外道。聞名喪膽。如虎之戴角。威猛

無儔。有來學者。隨機說法。應以禪淨雙修接者。則以禪淨雙修接之。應以專修淨土接者。則以專修淨土接之。無論上中下根。無一不被其澤。豈非人天導師乎。至臨命終時。蒙佛接引。往生上品。一彈指頃。華開見佛。證無生忍。最下即證圓教初住。亦有頓超諸位。至等覺者。圓教初住。即能現身百界作佛。何況此後。位位倍勝。直至第四十一等覺位乎。故曰。來生作佛祖也。無禪有淨土。萬修萬人去。若得見彌陀。何愁不開悟者。其人雖未明心見性。卻復決志求生西方。以佛于往劫。發大誓願。攝受眾生。如母憶子。眾生果能如子憶母。志誠念佛。則感應道交。即蒙攝受。力修定慧者。固得往生。即五逆十惡。臨終苦逼。發大慚愧。稱念佛名。或至十聲。或止一聲。直下命終。亦皆蒙佛化身。接引往生。非萬修萬人去乎。然此雖念佛無幾。以極其猛烈。故能獲此巨益。不得以泛泛悠悠者。校量其多少也。既生西方。見佛聞法。雖有遲速不同。然已高預聖流。永不退轉。隨其根性淺深。或漸或頓。證諸果位。既得證果。則開悟不待言矣。所謂若得見彌陀。何愁不開悟也。有禪無淨土。十人九蹉路。陰境若現前。瞥爾隨他去者。其人雖徹悟禪宗。明心見性。而見思煩惱。不易斷除。直須歷緣煅煉。令其淨盡無餘。則分段生死。方可出離。一毫未斷者。姑勿論。即斷至一毫未能淨盡。六道輪迴依舊難逃。生死海深。菩提路遠。尚未歸家。即便命終。大悟之人。十人之中。九人如是。故曰十人九蹉路。蹉者。蹉跎。即俗所謂擔閣也。陰境者。中陰身境。即臨命終時。現生及歷劫。善惡業力所現之境。此境一現。眨眼之間。隨其最猛烈之善惡業力。便去受生于善惡道中。一毫不能自作主宰。如人負債。強者先牽。心緒多端。重處偏墜。五祖戒再為東坡。草堂清復作魯公。此猶其上焉者。故曰陰境若現前。瞥爾隨他去也。陰。音義與蔭同。蓋覆也。謂由此業力。蓋覆真性。不能顯現也。瞥。音撇。眨眼也。有以蹉為錯。以陰境為五陰魔境者。總因不識禪及有字。故致有此胡說巴道也。豈有大徹大悟者。十有九人。錯走路頭。即隨五陰魔境而去。著魔發狂也。夫著魔發狂。乃不知教理。不明自心。

盲修瞎鍊之增上慢種耳。何不識好歹以加于大徹大悟之人乎。所關甚大。不可不辯。無禪無淨土。鐵牀併銅柱。萬劫與千生。沒箇人依怙者。有謂無禪無淨。即埋頭造業。不修善法者。大錯大錯。夫法門無量。唯禪與淨。最為當機。其人既未徹悟。又不求生。悠悠泛泛。修餘法門。既不能定慧均等。斷惑證真。又無從仗佛慈力。帶業往生。以畢生修持功德。感來生人天福報。現生既無正智。來生即隨福轉。耽著五欲。廣造惡業。既造惡業。難逃惡報。一氣不來。即墮地獄。以洞然之鐵牀銅柱。久經長劫。寢臥抱持。以償彼貪聲色。殺生命等。種種惡業。諸佛菩薩。雖垂慈愍。惡業障故。不能得益。昔人謂修行之人。若無正信求生西方。泛修諸善。名為第三世怨者。此之謂也。蓋以今生修行。來生享福。倚福作惡。即獲墮落。樂暫得于來生。苦永貽于長劫。縱令地獄業消。又復轉生鬼畜。欲復人身。難之難矣。所以佛以手拈土。問阿難曰。我手土多。大地土多。阿難對佛。大地土多。佛言。得人身者。如手中土。失人身者。如大地土。萬劫與千生。沒箇人依怙。猶局于偈語。而淺近言之也。夫一切法門。專仗自力。淨土法門。專仗佛力。一切法門。惑業淨盡。方了生死。淨土法門。帶業往生。即預聖流。永明大師。恐世不知。故特料簡。以示將來。可謂迷津寶筏。險道導師。惜舉世之人。顛預讀過。不加研窮。其眾生同分惡業之所感者歟。彼曰。我昔何罪。早昧真詮。宿有何福。得聞出要。願廁門牆。執侍巾瓶。余曰。余有何德。敢當此說。但余之所言。皆宗諸佛諸祖。汝但仰信佛祖。宏揚淨土。則無德不報。無罪不滅。昔天親菩薩。初謗大乘。後以宏大贖愆。汝能追彼芳蹤。我願捨身供養。上座乃禮佛發願云。我某甲從于今日。專修淨業。唯祈臨終。往生上品。見佛聞法。頓證無生。然後不違安養。徧入十方。逆順隱顯。種種方便。宏通此法。度脫眾生。盡未來際。無有閒歇。虛空有盡。我願無窮。願釋迦彌陀。常住三寶。愍我愚誠。同垂攝受。餘曰。淨土事者。是大因緣。淨土理者。是秘密藏。汝能信受奉行。即是以佛莊嚴而自莊嚴。上座唯唯而退。因錄其問答。以為不知此法

者勸。

淨土法門普被三根論

一切眾生·具有如來智慧德相。但由迷真逐妄·背覺合塵。全體轉為煩惱惡業。因茲久經長劫·輪迴生死。如來愍之·為說諸法。令其返妄歸真·背塵合覺。使彼煩惱惡業·全體復成智慧德相。從此盡未來際·安住寂光。猶如結水成冰·融冰成水體本不異·用實天殊。然眾生根有大小·迷有淺深。各隨機宜·令彼得益。所說法門·浩若恆沙。就中求其至圓至頓·最妙最玄·下手易而成功高·用力少而得效速·普被三根·統攝諸法·上聖與下凡共修·大機與小根同受者·無如淨土法門之殊勝超絕也。何以言之·一切法門·雖則頓漸不同·權實各異。皆須修習功深·乃得斷惑證真·出離生死·超凡入聖。是謂全仗自力·別無倚託。倘惑稍未盡·則仍舊輪迴矣。且皆理致甚深·不易修習。若非宿有靈根·即生實難證入。惟有淨土法門·不論富貴貧賤老幼男女智愚僧俗士農工商一切人等·皆能修習。由阿彌陀佛大悲願力·攝取娑婆苦惱眾生·是故較餘門得果為易也。凡我有情·聞是淨土法門者。當信娑婆極苦·西方極樂。當信多生已來·業障深重·匪憑佛力·驟難出離。當信求生決定剋期得生。當信念佛定蒙慈悲攝受。由是堅定一心·願離娑婆·如囚之欲出牢獄·絕無繫戀之心。願生西方·如客之思歸故鄉·豈有因循之念。從此隨分隨力·至心持念阿彌陀佛聖號。無論語默動靜·行住坐臥·迎賓待客·著衣吃飯·務令佛不離心·心不離佛。譬如切事繫心·凡百作為·不忘此事。或有公私眾務·了無少暇·須於早晚十念念佛·至心發願·亦能往生。以阿彌陀佛曾有願云·十方眾生·至心信樂·欲生我國·乃至十念·若不生者·不取正覺。是故十念念佛·亦得往生也。但既念佛求生西方。必須發慈悲心·行方便事。息貪瞋癡·戒殺盜淫·自利利人·方合佛意。否則心與佛背·感應道隔。但種來因·難獲現果矣。若志誠念佛·行合佛心·心口相應。如是念佛之人·至臨命終時·阿彌陀佛·與諸聖眾·必然親垂接引·往生西方。一生西方·則超凡入聖·了生脫死·

永離眾苦·但受諸樂矣。此則全仗佛力·不論功之深淺·惑之有無。但具真信切願·決定萬不漏一。至於已斷惑者求生·則頓超十地。已登地者求生·則速證佛乘。所以文殊·普賢·馬鳴·龍樹等菩薩·皆願往生也。具十惡者念佛·尚預末品。將墮獄者念佛·亦登蓮邦。因茲張善和·張鍾馗·雄俊·惟恭等惡人·同出輪迴也。其他戒善具修·定慧均等·居塵不染·處濁恆清·剋志西方·高登上品者。如羣星之拱北·眾水之朝東·何可得而勝數耶。是以千經萬論·處處指歸。往聖前賢·人人趣向。以其為如來普度眾生之要道·眾生即生出苦之妙法故也。

宗教不宜混濫論（因講經者每喜談宗而發）

如來說經·諸祖造論·宗教二門·原是一法。從無可分·亦無可合。隨機得益·隨益立名。上根一聞·頓了自心·圓修道品·即名為宗。（此約後世說、當初但只圓頓教耳、）中下聞之·進修道品·漸悟真理·即名為教。及至像季·法流此土·人根聰利·多得聞持。率以記誦講說為事。衲僧本分·向上一著·實悟親證者少·說食數寶者多。以故達摩大師特地而來·闡直指人心之法·令人親見本來面目。後世名之曰宗。既見本來面目·然後看經修行·方知一大藏教·皆是自己家裏話。六度萬行·皆是自己家裏事。是以宗之悟解為目·教之修持為足。非目則無由見道·非足則不能到家。是宗教之相需而不相悖·相合而不相離也。至于南嶽天台·其究竟指歸·大略皆同。故傳燈指月二錄·皆列二師于應化聖賢科中。而高僧傳不列于義解·而列于習禪。是古之具眼知識·以宗教為一貫矣。及至曹溪以後·禪道大行。不立文字之文字·廣播寰區。解路日開·悟門將塞。故南嶽青原諸祖·皆用機語接人。使佛祖現成語言·無從酬其所問。非真了當·莫測其說。以此勘驗·則金鑰立辨·玉石永分。無從假充·用閑法道。此機鋒轉語之所由來也。自後此法日盛·知識舉揚·唯恐落人窠臼·致成故套·疑誤學者·壞亂宗風。故其機用愈峻·轉變無方·令人無從摸。故有呵佛罵祖·斥經教·撥淨土者。（如此作用、南嶽思大師兩句

道盡、曰超羣出眾太虛玄、指物傳心人不會、認做實法、則罪同五逆矣、)以此語言・勸人情見・塞人解路。根熟者直下知歸・徹悟向上。機生者真參力究・必至大徹大悟而後已。良以知識眾多・人根尚利。教理明白・生死心切。縱未能直下了悟・必不肯生下劣心・認為實法故也。今人多是少讀儒書・不明世理。未窮教乘・不解佛法。纔才一發心・便入宗門。在知識祇為支持門庭・亦學古人舉揚・不論法道利害。在學者不下真實疑情・箇箇認為實法。或有于今人舉處・古人錄中・以己意卜度出一番道理・總不出按文釋義之外・便自謂徹悟向上・參學事畢。即處知識位・開導後學。守一門庭・恐人謂非通家。因茲禪講並宏・欲稱宗說兼通。談宗則古德指歸向上之語・竟作釋義訓文之言。講教則如來修因剋果之道・反成表法喻義之說。以教破宗・以宗破教。盲引盲眾・相牽入火。致使後輩不聞古人芳規・徒效其輕佛陵祖排因撥果而已。古人語言・絕未曉了。納僧本分・何曾夢見。今將宗教語言意致・略為分別。用冀唯得其益・不受其病也。何謂宗。何謂教。演說之・宗教皆教。契悟之・宗教皆宗。教固有宗・宗亦有教。教家之宗・即實相妙理三德秘藏・乃宗家之衲僧本分向上一著也。(此對宗說、故以體為宗、若就教論、即名為體、教中之宗、乃是入體之門、不堪與宗之向上一著對論、)教家之教・即經論所說文字語言・及法門行相。無不皆詮妙理・皆歸秘藏。亦猶宗家之機鋒轉語・種種作用也。但教則未悟亦令解了・宗則未悟不知所謂為異。宗家之教・即機鋒轉語・揚拳豎拂・或語或默・種種作用・皆悉就彼來機・指歸向上。是轉語等・乃標向上。真月之指。非轉語等・即是向上真月。倘能依指觀月・則真月直下親見。所見真月・方是宗家之宗。今人以機鋒轉語為宗・不求契悟・唯學會透。是認指為月・不復知有真月矣。惜哉。又教則三根普被・利鈍全收。猶如聖帝明詔・萬國欽崇。智愚賢否・皆令曉了・皆須遵行。有一不遵者・則處以極刑。佛教有一不遵者・則墮于惡道。宗則獨被上根・不攝中下。猶如將軍密令・營內方知・營外之人・任憑智同生知・亦莫能曉。以此之故・方能全

軍滅賊·天下太平。軍令一洩·三軍傾覆·祖印一洩·五宗喪亡。未悟以前·祇許參究話頭·不準翻閱禪書。誠恐錯會祖意·則以迷為悟·以假亂真·即名為洩·其害甚大。大悟之後·必須廣閱祖錄·決擇見地·則差別智開·藥忌明瞭。尚須歷緣鍛鍊·必使行解相應·方可出世為人·宏闡宗風。今人不教人力參·而為人講演。使其開解路·起卜度·以己見會祖意·依稀彷彿·想箇義理。全體是錯·便謂就是。直饒不錯·只是泥龍畫餅·豈能致雨充飢。所以宗須真參·方有實益也。未開眼者·聞其講說·喜出望外。其有具眼者·必痛徹骨髓矣。如此宏宗·徒有大損·毫無實益。何異以軍令往告敵兵·相邀共戰·其不自殄滅者鮮矣。由是假充悟道者·不勝其多。壞亂佛法者·實繁有徒矣。又教則以文顯義·依義修觀·觀成證理·令人由解了而入。故天台以三止三觀·傳佛心印也。宗則離文顯意·得意明心·明心起行·令人由參究而得。故禪宗以直指人心·傳佛心印也。又經教所說因果修證·凡聖生佛·事理行相·歷歷分明。若能修因·自然證果·超凡入聖·即眾生而成佛道矣。既得此事·則不涉因果修證凡聖生佛之理·豈待外求。宗門所說·總歸本分·不涉因果修證凡聖生佛。(此理即也、)若得此意·(此名字及觀行初心也、)定然依此不涉因果修證凡聖生佛之理·而起修因證果·超凡入聖·即眾生而成佛道之事矣。(此觀行至究竟也、)所以古德大悟後·有三次七次閱大藏經者。(汾州無業、三終大藏、育王知微、大慧杲門人、禁足于上塔院十餘年、七終大藏、育王山志、)有以坐看為不恭·跪讀行披立誦者。(棲賢湜三終大藏皆如此、)有畢生日持一部法華者。(永明壽、首山念、)有看經唯恐打差·(差音又去聲、異也、)貼帖子于方丈門首·曰看經時不許問話者。(仰山寂、)有持觀音聖號者。(明教嵩、日誦十萬觀音、世出世間經書、不讀而知、又華林覺常念觀音、遂感二虎常相依附、)有持準提神呪者。(金華俱胝和尚、)有日課百八佛事者。(永明壽、一部法華、亦在百八之數、)有對立像不敢坐·對坐像不敢臥者。(大通本、又凡食物以魚葷名者、則不食、)有一日不作·一日不食者。(百

丈海、)至于念佛求生西方·則多不勝數也。良以百丈乃馬祖傳道嫡子·其開示有云·修行以念佛為穩當。又所立清規·凡祈禱病僧·化送亡僧·皆歸淨土。故五宗諸師·多事密修也。多有久歷年所·躬行苦行。(如瀉山作典座、雪峯作飯頭之類、)無非欲圓滿六度·自利利他。類皆重法如寶·輕身似塵。絕不似今人之輕慢古今·褻黷經論也。是知宗為前鋒·教為後勁。其所辦是一事·其所說是一法。但以語言施設·門庭建立不同。門外漢不知其同而不可合。異而不可離之所以。妄用己見·強作主宰。不是互謗·便是混濫。互謗之過·愚或能知。混濫之愆·智猶難曉。蓋以歸元無二·方便多門。宗家方便·出于格外·所有語言·似乎掃蕩。未得意者·不體離言之旨·唯嚙出酒之糟。在宗則開一解路·不肯力參。在教則妄學圓融·破壞事相。唯大達之士·雙得其益。否則醍醐甘露·貯于毒器·遂成砒霜鴆毒矣。教雖總明萬法唯心·然須就事論事·事理因果·毫無混濫·原始要終·不出唯心。宗家的實商量·亦復如是。若舉揚向上·雖指盡世間法法頭頭為問。答時總歸本分·絕不就事論事。所謂問在答處·答在問處。縱有似乎就事說者·意則在彼而不在此。若認作就事者·即白雲萬里矣。的實商量者·禪書不錄。所錄者皆屬本分話。若欲知者·必須廣閱羣書。否則看萬善同歸集·及淨土十要中禪匠著述·亦可見其梗概矣。剋論佛法大體·不出真俗二諦。真諦則一法不立·所謂實際理地·不受一塵也。俗諦則無法不備·所謂佛事門中·不捨一法也。教則真俗并闡·而多就俗說。宗則即俗說真·而掃除俗相。須知真俗同體·並非二物。譬如大圓寶鏡·虛明洞徹·了無一物。然雖了無一物·又復胡來則胡現·漢來則漢現·森羅萬象俱來則俱現。雖復羣相俱現·仍然了無一物。雖復了無一物·不妨羣相俱現。宗則就彼羣相俱現處·專說了無一物。教則就彼了無一物處·詳談羣相俱現。是宗則于事修而明理性·不棄事修。教則于理性而論事修·還歸理性。正所謂稱性起修·全修在性·不變隨緣·隨緣不變·事理兩得·宗教不二矣。教雖中下猶能得益·非上上利根不能大通·以涉博故。宗雖中下難以措

心。而上根便能大徹。以守約故。教則世法佛法。事理性相。悉皆通達。又須大開圓解。（即宗門大徹大悟也、）方可作人天導師。宗則參破一個話頭。親見本來便能闡直指宗風。佛法大興之日。及佛法大通之人。宜依宗參究。喻如僧繇畫龍。一點睛則即時飛去。佛法衰弱之時。及夙根陋劣之士。宜依教修持。喻如拙工作器。廢繩墨則終無所成。教多顯談。宗多密說。宗之顯者。如達磨云。淨智妙圓。體自空寂。馬祖云。即心即佛。百丈云。靈光獨耀。迴脫根塵。體露真常。不拘文字。心性無染。本自圓成。但離妄念。即如如佛。此則與法華楞嚴諸大乘經。毫無異致。總之六祖前多顯。六祖後多密。愚人不知宗教語言同異之致。每見宗師垂問。教家不能加答。遂高推禪宗。藐視教典。佛經視作故紙。祖語重愈綸音。（綸音即聖旨、）今之欲報佛恩。利有情者。在宗則專闡宗風。尚須教印。在教則力修觀行。無濫宗言。良以心通妙諦。遇緣即宗。柏樹子。乾屎橛。鴉鳴鵲噪。水流花放。歎唾掉臂。譏笑怒罵。法法頭頭。咸皆是宗。豈如來金口所說圓頓妙法。反不足以為宗耶。何須借人家扛子。撐自己門庭。自家榱桷豫章。何故棄而不用。須知法無勝劣。唯一道而常然。根有生熟。雖一法而益別。然則教外別傳之說非歟。曰。言教外別傳者。令人于指外見月也。又宗家提持。超越常格之外。名為教外別傳。然此四字。埋沒多少豪傑。今為道破。對教說。則曰教外別傳。機鋒轉語等。亦是教。對宗說。則曰機鋒轉語外別傳。庶不至孤負佛祖。徒造口業矣。若真佛教不能傳佛心印。則已得別傳之迦葉。阿難。馬鳴。龍樹。當另宏別傳之法。何用結集三藏。註經造論為哉。宗須教印者。如木須從繩則正也。予嘗勸一狂僧念佛。彼言衲僧鼻孔。三世諸佛尚摸不著。用念佛作麼。予曰。若真摸著三世諸佛摸不著的鼻孔。尚須步步隨著三世諸佛腳後跟轉。倘不隨三世諸佛腳後跟轉。則摸著者非衲僧鼻孔。乃阿鼻地獄鐵牀銅柱上火孔也。達摩云。二百年後。明道者多。行道者少。說理者多。通理者少。智者示登五品。南嶽示證鐵輪。故知今人于宗教二門。開眼尚難。何況實證。其有慈悲願深。生死心切者。

宜隨遠公·智者·永明·蓮池·專致力于念佛求生淨土一門也。書至此·有傍不甘者呵曰·佛法廣大如法界·究竟如虛空·妙性圓明·離諸名相。安用汝許多落索·分疆立界為。予應之曰·妙性雖離名相·名相豈礙妙性。虛空法界雖無疆界·疆界豈礙虛空法界。吾欲捨東往西·必須定南辨北。庶幾方向不迷·措足有地。又恐已見錯謬·欲請正于達人。是跋夫之路程·非輪王之輿版·(輿版即地輿圖、)若夫通方開士·過量大人·世法全是佛法·業道無非佛道。祖意教理·佛經禪錄·本自融通·有何混濫。盡吾之智·不能測其境界。竭吾之力·不能窺其藩籬。吾之鄙論·姑就吾之鄙機言耳。子何以迦樓羅王之飛騰·用責于螻蛄蚊蚋·而令其齊驅也哉。

佛教以孝為本論

孝之為道·其大無外。經天緯地·範聖型賢。先王修之以成至德·如來乘之以證覺道。故儒之孝經云·夫孝·天之經也·地之義也·民之行也。佛之戒經云·孝順父母師僧三寶·孝順至道之法·孝名為戒·亦名制止。是世出世間·莫不以孝為本也。奈何世俗凡情·只知行孝之顯迹·不知盡孝之極致。每見出家釋子·輒隨己臆見·肆其謗讟·謂為不孝父母·與蕩子逆徒無異不知世法重孝·出世間法亦無不重孝。蓋世之所謂孝者·有迹可循者也。釋氏之所謂孝者·略于迹而專致力于本也。有迹可循者·顯而易見。專致力於本者·晦而難明。何以言之·儒者服勞奉養以安其親·孝也。立身行道·揚名於後世以顯其親·大孝也。推極而論·舉凡五常百行·無非孝道發揮。故禮之祭義云·斷一樹·殺一獸·不以其時·非孝也。故曰孝悌之道·通於神明·光於四海也。論孝至此·可謂至矣盡矣·無以復加矣。然其為孝·皆顯乎耳目之間·人所易見。惟我釋子·以成道利生為最上報恩之事。且不僅報答多生之父母·併當報答無量劫來四生六道中一切父母。不僅於父母生前而當孝敬·且當度脫父母之靈識·使其永出苦輪·常住正覺。故曰釋氏之孝·晦而難明者也。雖然·儒之孝以奉養父母為先者也。若釋氏辭親出家·豈竟不顧父母之養乎。夫佛制·出家必稟父母。

若有兄弟子姪可託。乃得稟請於親。親允方可出家。否則不許剃落。其有出家之後。兄弟或故。親無倚託。亦得減其衣鉢之資。以奉二親。所以長蘆有養母之芳蹤。(宋長蘆宗蹟禪師、襄陽人、少孤、母陳氏鞠養於舅家、及長、博通世典、二十九歲出家、深明宗要、後住長蘆寺、迎母於方丈東室、勸令念佛求生淨土、歷七年、其母念佛而逝、事見淨土聖賢錄、)道丕有葬父之異跡。(道丕、唐宗室、長安人、生始周歲、父歿王事、七歲出家、年十九、世亂穀貴、負母入華山、自辟穀、乞食奉母、次年往霍山戰場、收聚白骨、虔誦經咒、祈得父骨、數日父骨從骨聚中躍出、直詣丕前、乃掩餘骨、負其父骨而歸葬焉、事見宋高僧傳、)故經云。供養父母功德。與供養一生補處菩薩功德等。親在。則善巧勸諭。令其持齋念佛求生西方。親歿。則以己讀誦修持功德。常時至誠為親迴向。令其永出五濁。長辭六趣。忍證無生。地登不退。盡來際以度脫眾生。令自他以共成覺道。如是乃為不與世共之大孝也。推極而論。舉凡六度萬行。無非孝道擴充。故梵網戒經。一一皆言應生慈悲心。孝順心。又云。若佛子以慈悲心。行放生業。一切男子是我父。一切女人是我母。我生生無不從之受生。故六道眾生。皆是我父母。而殺而食者。即是殺我父母。因茲凡所修持。皆悉普為法界眾生而迴向之。則其慮盡未來際。其孝徧諸有情。若以世孝互相校量。則在迹不無欠缺。約本大有餘裕矣。惜乎不見此理者。不謂之為妄誕。便謂之為渺茫。豈知豎窮三際。橫徧十方。佛眼圓見。若視諸掌也。

如來隨機利生淺近論

人同此心。心同此理。生佛不二。凡聖一如。由迷悟之攸分。致升沈以迥別。大覺世尊。愍而哀之。示成正覺。普度眾生。以醍醐之一味。隨機宜而殊說。大根則為說頓法。令其速成佛道。小器。則授以漸教。使彼徐出塵勞。隨順世間。循循善誘。示戒善。闢人天之坦路。明因果。陳趨避之良謨。言戒善者。五戒不殺。即仁。不盜。即義。不邪淫。即禮。不妄語。即信。不飲酒。則心常清而志凝。神不

昏而理現·即智。五戒全持·不墮三途·恆生人道。此與儒之五常大同。第儒唯令盡義·佛則兼明果報耳。十善者·不殺·不盜·不邪淫·名身三業。不妄言·不綺語·不兩舌·不惡口·名口四業。不貪·不瞋·不癡·名意三業。此與五戒大同。而五戒多分約身·十善多分約心。十善具足·定生天界。至於遇父言慈·遇子言孝·對兄說友·對弟說恭·種種倫理之教·則皆欲使人各盡其分·無或欠缺·隨順世相·修出世法。若夫廣明因果報應·不爽毫釐。墮獄生天·唯人自召。乃如來至極悲心·欲令眾生永離眾苦·但受諸樂耳。故不惜現廣長舌相·為諸眾生盡情宣演。經云·菩薩畏因·眾生畏果。若欲不受苦果·必須先斷惡因。若能常修善因·決定恆享樂果。此即書之作善降祥·作不善降殃。易之積善必有餘慶·積不善必有餘殃之意。但儒唯約現世與子孫言·佛則兼過去現在未來三世無盡而論。而凡情未測·視作渺茫·不肯信受。如盲背導師·自趣險道·欲不墮坑落塹·何可得耶。是故佛法廣被十法界機·若約人道而言·即無一人不堪受佛法·亦無一人不能受佛法。藉令各修戒善·則俗美人和·家齊國治。唐虞盛世之風·何難見於今日。因茲道啟西乾·法流東震。歷代王臣·咸皆崇奉。以其默化人心·隱贊治道·伏兇惡於未起·消禍亂於未萌故也。至於出家為僧·乃為專志佛乘·與住持法道而設。非謂佛法唯僧乃可修持也。此諸淺說·乃如來隨順世間·漸令出世之人天乘法。餘如聲聞·緣覺·菩薩等乘·咸皆以此為基。若夫有大根者·直趣妙覺·徹證吾心本具之佛性·極暢如來出世之本懷·其義深遠·姑置勿論。

持經利益隨心論

大覺世尊·所說一切大乘顯密尊經·悉皆理本唯心·道符實相·歷三世而不易·舉十界以咸遵。歸元復本·為諸佛之導師。拔苦與樂·作眾生之慈父。若能竭誠盡敬。禮誦受持·則自他俱蒙勝益·幽顯同沐恩光。猶如意珠·似無盡藏·取之不匱·用之無窮·隨心現量·悉滿所願。楞嚴所謂求妻得妻·求子得子·求三昧得三昧·求長壽得長壽·如是乃至求大涅槃得大涅槃。夫大涅槃者·究竟果德。若論如來

本心·契經全力·實屬乎此。但以眾生志願狹劣·與夫致誠未極·不能直契。故隨彼行心·滿彼所願。倘宿根深厚之士·則頓明自性·徹證唯心·破煩惱而直趣菩提·圓福慧而速成覺道。獲契經之全益·暢如來之本懷矣。譬如一雨普潤·卉木同榮。大根則拂雲以蔽日。小根則長寸而增分。道本唯一真如·益隨心而勝劣。然善根苟種·佛果終成。縱不能即獲巨益·亦必以因茲度脫。聞塗毒鼓·遠近皆喪。食少金剛·決定不消。先以欲鉤牽·後令入佛智者·其斯之謂歟。

竭誠方獲實益論

諺云·下人不深·不得其真。此言雖小·可以喻大。夫世間大而經術文章·小如一才一藝。若欲妙義入神·傳薪得髓·藝超儕伍·名傳古今。而不專心致志·竭誠盡敬·其可得乎。故管子曰·思之思之·又重思之·思之不得·鬼神其將通之。非鬼神之與通·乃精誠之極也。漢魏昭·見郭林宗。以為經師易遇·人師難逢。因受業·供給洒掃。林宗嘗有疾·命昭作粥。粥成進之·林宗大呵曰·為長者作粥·不故意敬事·使不可食。昭更為粥復進·又呵之者三·昭容色不變。林宗曰·吾始見子之面·今而後知子之心矣。宋楊時·遊酢·師事伊川。一日請益時久·伊川忽瞑目假寐·二子侍立不敢去。良久·伊川忽覺曰·賢輩尚在此乎·歸休矣。乃退·門外雪深尺餘矣。張九成·十四歲遊郡庠·終日閉戶·無事不越其限。比舍生隙穴視之·見其斂膝危坐·對詩書若對神明·乃相驚服而師尊之。此四子者·所學乃世間明德新民·修齊治平之法。其尊師重道·尚如此之誠。故得學成德立·致生前沒後·令人景仰之不已。至于弈秋之誨弈也·唯專心致志者勝。痾痺之承蜩也·以用志不分而得。由是觀之·學無大小·皆當以誠敬為主。而況如來于往昔劫中·欲令眾生·同成覺道。以無緣種·莫由得度。因茲普現色身·垂形六道。種種方便·隨機利物。千門具啟·一道同歸。善根未種未熟未脫者·令其即種即熟即脫。應以何身得度者·即現何身而為說法。雲布慈門·波騰行海。六度齊修·四攝普益。其布施也·內外俱捨。所謂國城妻子·頭目髓腦·身肉手足·歡喜施

與。故法華云·觀三千大千世界·乃至無有如芥子許·不是菩薩捨身命處。夫如來為眾生故·經歷三大阿僧祇劫·廣行六度·普結緣種。待其機熟時至·然後示成正覺。宏開法會·普應羣機。上根則顯示實相·令其誕登道岸。中下則曲垂接引·令其漸次薰陶。顯密權實·偏圓頓漸。隨機而施·相宜而用。乘雖有三·道本無二。為實施權·權是實家之權。開權顯實·實是權家之實。俯順羣機·循循善誘。必令機理雙契·方得解行俱圓。學者雖則專主大乘·亦不可輕蔑棄捨小乘。以小乘原為進入大乘而設。乃如來之度生妙用·實下根之出苦宏猷。故四十二章經云·學佛道者·佛所言說·皆應信順。譬如食蜜·中邊皆甜·吾經亦爾。大海雖有淺深·水味原無二致。凡屬佛經·固應一體尊重。如輪王命令·事雖種種不同·其為王勅則一也。而圓人受法·無法不圓。治世語言·資生業等·皆順正法。況如來金口所說之生滅無生四諦十二因緣等法乎哉。及如來一期事畢·示現滅度。迦葉阿難等諸大弟子·結集法藏·徧界流通。一千年後·教傳此土。兩土高僧·東西往還·譯布佛經·不惜軀命。讀法顯·曇無竭·玄奘等傳·其道路險阻·非常艱辛。不覺哽噎涕泣·莫之能已。經云·人身難得·佛法難聞。若非宿有因緣·佛經名字·尚不能聞。況得受持讀誦·修因證果者乎。然如來所說·實依眾生即心本具之理。于心性外·了無一法可得。但以眾生在迷·不能了知。于真如實相之中·幻生妄想執著。由茲起貪瞋癡·造殺盜淫。迷智慧以成煩惱·即常住而為生滅。經塵點劫·莫之能反。幸遇如來所說大乘顯密諸經·方知衣珠固在·佛性仍存。即彼客作賤人·原是長者真子。人天六道·不是自己住處。實報寂光·乃為本有家鄉。回思從無始來·未聞佛說。雖則具此心性·無端枉受輪迴。真堪痛哭流涕·聲震大千。心片片裂·腸寸寸斷矣。此恩此德·過彼天地父母·奚啻百千萬倍。縱粉身碎骨·曷能報答。唯有依教修行·自行化他。方可少舒春草仰暉·夏葵向日之微忱而已。然今之縉素·翻閱佛經·毫無誠敬。種種褻慢·難以枚舉。而習行既久·彼此相安。其褻慢之迹·不忍備言。視如來之法言·同破壞之故

紙。且勿謂不知旨趣者，了無所益。即深知實義者，亦只是口頭三昧，面門輝光。如飢說食，如貧數寶。雖有研究之功，絕無實證之益。況褻慢之罪，奚啻彌天。而受苦之期，豈止窮劫。雖是善因，反招惡果。縱為將來得度之因，難免多劫備受其苦。用是心懷慘傷，敢陳芻蕘。企依佛教以奉行，庶唯得益而無損。金剛經云，若是經典所在之處，即為有佛。若尊重弟子。又云，在在處處，若有此經，一切世間天人阿修羅所應供養。當知此處，即為是塔。皆應恭敬作禮圍繞，以諸華香而散其處。何以令其如此。以一切諸佛，及諸佛阿耨多羅三藐三菩提法，皆從此經出故。而諸大乘經處處教人恭敬經典，不一而足。良以諸大乘經，乃諸佛之母，菩薩之師。三世如來之法身舍利，九界眾生之出苦慈航。雖高證佛果，尚須敬法。類報本追遠，不忘大恩。故涅槃經云，法是佛母，佛從法生。三世如來，皆供養法。況博地凡夫，通身業力，如重囚之久羈牢獄，莫由得出。何幸承宿世之善根，得睹佛經。如囚遇赦書，慶倖無極。固將依之以長揖三界，永出生死牢獄。親證三身，直達涅槃家鄉。無邊利益，從聞經得。豈可任狂妄之知見，不存敬畏。同俗儒之讀誦，輒行褻黷。既讀佛經，何不依佛經所說恭敬尊重。既褻佛法，豈能得佛法所有真實利益。倘能暫息狂見，清夜自思。當必心神驚悸，涕淚滂沱。悲昔日之無知，誓畢生以竭誠。從茲心意肅恭，身口清淨。永絕粗鄙之惡態，恆依經論之聖謨。果能如是，庶可於佛法大海中，隨分隨力，各獲實益。如修羅香象，及與蚊蟲，飲于大海，咸得充飽。又如一雨普潤，卉木同榮。如是，則自己受持之功，方不枉用。而如來說經，諸祖宏法之心，亦可以稍得舒暢而慰悅矣。今將古德恭敬經典之事迹利益，略錄數條。企欲真修實踐者，有所取法焉。

齊僧德圓，不知氏族，天水人。常以華嚴為業。讀誦受持，妙統宗極。遂修一淨園，樹諸穀楮。并種以香草，雜以鮮花。每一入園，必加洗濯，身著淨衣。溉以香水，楮生三載，香氣氤馥。別造淨屋，香泥壁地。結壇淨器。浴具新衣。匠人齋戒，易服出入，必盥漱熏香。

剝楮取皮・浸以沈水。護淨造紙・畢歲方成。別築淨基・更造新室。乃至柱梁椽瓦・并濯以香湯・每事嚴潔。堂中別施方柏牙座・周布香花。上懸寶蓋・垂諸玲珮・雜以旒蘇。白檀紫沈・以為經案・并充筆管。書生日受齋戒・香湯三浴。華冠淨服・狀類天人將入經室・必夾路焚香・唄先引之。圓亦形服嚴淨・執鑪恭導。散花供養・方乃書寫。圓胡跪運想・注目傾心。纔寫數行・每字皆放光明・照於一院・舉眾同見・莫不悲感・久之方歇。復有神人執戟・現形警衛。圓與書生同見・餘人則不睹焉。又有青衣梵童・無何而至。手執天華・忽申供養。前後靈感・雜沓相仍。迄經二載・書寫方畢。盛以香函・置諸寶帳。安彼淨堂・每伸頂謁。後因轉讀・函發異光。至於嚴潔・敬絕今古。此經遞授・于今五代。有清淨轉讀者・時亦靈應昭然。其經今在西太原寺賢首法師處・守護供養。（註）此與下二條・皆係晉譯六十卷華嚴經也。穀・音穀・從木・不從禾・楮之別種。德圓種楮・造紙寫經。入此楮園・尚須洗濯・著淨衣服。其平日禮佛誦經・誠敬淨潔・蓋可知矣。今人登大雄殿・尚無彼入楮園之虔潔・良可慨歎。浴具新衣者・浴・即浴室・新字宜作觸・謂浴室中具有登廁之衣。匠人齋戒・易服出入者・所用匠人・皆須持五戒・日受八關齋法。凡欲登廁・先至浴室・脫去常服・著登廁衣。及出・先洗淨・次洗浴・方著常服。旒蘇・即鬚子。乃聚眾絲線・於頭上綰一結子・下則散分者。唄・唱讚也。五代・即齊梁陳隋唐・此傳係唐人所作・故曰於今五代。德圓之誠・超越古今。故其靈感・雜還相仍。今人雖無此財力・於力所能為者・可不竭誠盡敬以期三寶垂慈・冥顯加被乎。倘惟事形跡・了無誠敬。則無邊法力・莫由感通。謂為佛法不靈・其可乎哉。此依華嚴懸談及會玄記二書錄出。

唐定州中山僧修德者・不知氏族。苦節成性・守道山林。以華嚴起信・安心結業。于永徽四年・發心抄寫。故別為淨院・植楮樹・兼種香花・灌以香水。凡歷三年・潔淨造紙。復別築淨臺・於上起屋。召善書人為州王恭・別院齋戒・洗浴淨衣・焚香布花・懸諸幡蓋・禮

經懺悔·方陞座焉。下筆含香·舉筆吐氣·每日恆然。德日入靜室運想。每寫一卷·施縑十疋·一部總六百縑。恭乃罄竭志誠·并皆不受。才寫經畢·俄即遷化。德以經成·設齋慶之。大眾集已·德於佛前。燒香散花·發宏誓願。方開經藏·放大光明·周七十餘里·照定州城。城中士女·普皆同見·中山齋眾·投身宛轉·悲哽懺悔。（註）此與上事迹大同·可見古人於三寶分上·多皆竭誠盡敬。絕不似今人之怠忽褻慢·有名無實也。舉筆吐氣者·或欲咳嗽。或欲呵欠·即停筆少頃·面向旁邊·令氣出之·不敢以口氣熏經故也。才寫經畢·俄即遷化者·以專心寫經·不求名利·志誠之極·致令業盡情空·了生脫死。高登上品寶蓮·親證不退轉地矣。觀此·可見佛法不孤負人·而今之縑素·多多皆是孤負佛法耳。奈何奈何。此一條出會玄記。

唐僧法誠·姓樊氏·雍州萬年縣人。幼年出家·以誦華嚴為業。因遇慧超禪師·隱居藍谷高山。遂屏囂煩·披誠請益。後於寺南嶺·造華嚴堂·澡潔中外。莊嚴既畢·乃圖畫七處九會之像。又竭其精志·書寫受持。宏文學士張靜者·時號筆工·罕有加勝。乃請至山舍·令受齋戒·潔淨自修。口含香汁·身被新服。然靜長途寫經·紙直五十。誠料其見·才寫兩紙·酬直五百。靜利其貨·竭力寫之。終部已來·誠恆每日燒香供養·在其案前。點畫之間·心緣目睹·略無遺漏。故其剋心鑽注·時感異鳥·形色希世。飛入堂中·徘徊鼓舞。下至經案·復上香鑪。攝靜住觀·自然馴狎·久之翔逝。明年經了·將事興慶·鳥又飛來·如前馴擾·鳴喉哀亮。貞觀初年·造畫千佛·鳥又飛來·登止匠背。後營齋供·慶諸經像。日次中時·怪其不至。誠顧山岑曰·鳥既不至·吾誠無感也。將不嫌諸穢行·致有此徵。言已·欸然飛來·旋還鳴轉。入香水中·奮迅而浴·中後便逝。前後如此者·非復可述。靜素善翰墨·鄉曲所推。山路巖崖·勒諸經偈·皆其筆也。手寫法華·正當露地。因事他行·未營收舉。屬洪雨滂注·溝澗波飛。走往看之·合案並乾·餘便流潦。嘗卻偃橫松·遂落懸溜。未至下澗·不覺已登高岸。不損一毛。（註）法誠張靜·各竭誠敬。故其感應·俱難思

議。出華嚴懸談・及會玄記・并續高僧傳。

唐僧曇韻・定州人。行年七十・隋末喪亂・隱於離石北千山。常誦法華經・欲寫其經・無人同志。如此積年。忽有書生・無何而至。云所欲潔淨・並能行之。即於清旦・食訖入浴。著淨衣・受八戒。入淨室・口含檀香・燒香懸旛・寂然抄寫・至暮方出。明又如先・曾不告倦。及經寫了・如法奉襯。相送出門・斯須不見。乃至裝潢・一如正法。韻受持讀之・七重裏結。一重一度香水洗手・初無暫廢。後遭胡賊・乃箱盛其經・置高巖上。經年賊靜・方尋不見。周悼窮覓・乃於巖下獲之。箱巾糜爛・撥朽見經・如舊鮮好。（註）寫經心誠・感聖來應。聖雖來應・示同凡夫。故一依其法・清旦食訖入浴・著淨衣等也。八戒・即八關齋法・以過中不食為體・以不殺等八戒助成。關閉貪瞋癡等煩惱惑業・不令生起。乃令在家人受出家戒。從今朝清晨受・至明日明相出為限。寫經令其日日常持・故須日日常受。至暮方出・則午亦不食矣。裏音果・包也。一重一度香水洗手者・即讀一回經・先用香水洗一度手。箱巾爛而經鮮好者・一以聖人之法力加持・一以韻師之誠心感格・一以妙經之功德難思故也。韻師後住隰州。道宣律師・貞觀十一年至彼見之。時年已七十矣。此下數條・皆出三寶感通錄。

唐貞觀五年・有隆州巴西縣・令狐元軌者・敬信佛法。欲寫法華・金剛般若・涅槃等・無由自檢。憑彼土抗禪師檢校。抗乃為在寺如法潔淨・寫了下帙・還岐州莊所・經留在莊。并老子五千言・同在一處。忽為外火延燒・堂是草覆・一時灰蕩。軌於時任馮翊令・家人相命撥灰・取金銅經軸。既撥外灰・其內諸經・宛然如故。潢色不改。唯箱帙成灰。又覓老子・便從火化。乃收取諸經・鄉村嗟異。其金剛般若一卷・題字焦黑。訪問所由・乃初題經時・有州官能書。其人行急・不獲潔淨・直爾立題・由是被焚。其人現在・瑞經亦存。京師西明寺主神察・目驗說之。（註）老子五千言・即道德經。一切佛事・俱以戒行誠敬為本。若戒行精嚴・誠敬篤至。則三寶諸天・皆為擁護。

否則無邊法力·莫之能感。觀此諸經毫無所損·唯金剛經題·字迹焦黑·以其人既無戒力·又無誠心故也。受持佛經者·可不以持戒竭誠為急務哉。

唐河東有練行尼·常誦法華。訪工書者寫之·價酬數倍。而潔淨翹勤·有甚餘者。一起一浴·然香熏衣。箇中出息·通於壁外。七卷之功·八年乃就。龍門寺僧法端·集眾講說。借此尼經·以為楷定。尼固不與·端責之。事不獲已·乃自送付端。端開讀之·唯見黃紙·了無文字·餘卷亦爾。端愧悔送尼。尼悲泣受已·香水洗函。頂戴繞佛·七日不休。開視·文字如故。即貞觀二年·端自說之云。(本擬廣錄恭敬三寶之利益、及褻慢三寶之罪愆、令研究佛學者取法有地、獲罪無由、以目力不給、遂止)

挽回劫運護國救民正本清源論

道德仁義·乃吾人本具之性德。因果報應·實天地化育之大權。人生天地之間·藐爾七尺之軀。其與廣大高厚莫測之天地·並立為三·稱為三才者。以其能仰體天地之德·皆可以為堯舜·皆可以作佛·以參贊其化育故也。故聖人于易乾坤二卦之象·一以自強不息法天·一以厚德載物法地教人。夫自強不息·則閑邪存誠·克己復禮·非到明明德·止至善·人欲淨盡·天理流行·以復其本具之性德不可也。厚德載物·則仁民愛物·推己及人·當必本忠恕·行慈悲·胞與為懷·物我同觀·非盡其參贊之天職弗止也。然此非專指居位行政者言·即匹夫匹婦·亦皆能行。以堯舜之道·孝弟而已。聖賢之學·修身而已。能修身者·必能孝弟·必能格除物欲·擴充良知·以獨善其身矣。而其效必能刑于寡妻·至于兄弟·以御于家邦。況得位行政·豈有不能兼善天下之理乎。天下不治·匹夫有責。使人人各秉誠心·各盡孝弟·各行慈善·矜孤恤寡·救難憐貧·戒殺放生·吃素念佛。則人以善感·天以福應。自然雨順風調·民康物阜。決不至常降水旱瘟疫·風吹地震等災。而時和年豐·人樂其業。加以慈和仁讓·相習成風。縱有一

二愚頑·亦當化為良善。如矜梁上之君子·一方永絕竊賊。賙匿室之偷兒·此後遂成善士。古人仁慈為政·真誠愛民·尚能感化異類。如虎不入境·魚徙他方等瑞徵。載諸史冊·不一而足。果能各以慈善相感·斷不至常有土匪刀兵·蹂躪劫掠等禍。然人之氣稟·萬有不齊。天機深者·自能恪遵道義·以盡為人之分。其有宿習濃厚·障蔽性德。以至心之所念·口之所言·身之所行·每與道義相悖。然由聞其福善禍淫之理·及見其善惡報應之事·未有不戰兢惕厲·以自修省·冀其獲福而免禍者。是知天地以福善禍淫·為攝持人民悉遵道德仁義之大權。聖人本天地之心·以行教化。以故惠吉逆凶·五福六極·作善降之百祥·作不善降之百殃·積善之家必有餘慶·積不善之家必有餘殃之說·屢見于經。其所以感發人之善心·懲創人之逸志者·至深切矣。然則因果報應之吉凶禍福·乃道德仁義依違真偽之實驗也。既知其實驗·則欲為善而益加奮勉·必底于成。欲為不善而遂生恐懼·有所不敢矣。如是則提倡因果報應·乃仰承天地聖人之心·以成全世人道德仁義之性德也。若以因果報應為渺茫無稽·不但違背天地聖人之心·自己神識·永墮惡趣。且使上智者不能奮志時敏·聿修厥德。下愚者無所忌憚·敢于作惡。以致天地聖人化育之權·抑而不彰。吾人即心本具之理·隱而弗現。其為禍也·可勝言哉。但以世間聖人·語言簡略。又且只說現生·及與子孫。至于生之以前·死之以後。與從無始以來·隨罪福因緣·輪迴六道·皆未發明。以故識見淺者·雖日讀聖人因果報應之言·猶然不信因果報應。如來大教·顯示吾人心性之妙·與夫三世因果之微。舉凡格致誠正修齊治平之道·與夫斷惑證真了生脫死之法·無不備具。是故遇父言慈·遇子言孝。兄友弟恭·夫倡婦隨·主仁僕忠·各盡己分。則與世間聖人所說·了無有異。而復一一各示前因後果·則非世間聖人所能及·盡義盡分之語·只能教于上智·不能制其下愚。若知因果報應·則善惡禍福·明若觀火。其誰不欲趨吉而避凶·免禍而獲福乎。又不知因果·多有外彰善相·實則暗存噁心·以行惡事。意謂人既不知·有何妨礙。不知吾人之心·與天地鬼

神·及諸佛菩薩之心·息息相通。我心隨起一念·彼則無不了知。故曰人閒私語·天聞若雷。暗室虧心·神目如電。周安士曰·人人知因果·大治之道也。人人不知因果·大亂之道也。甚矣佛恩之浹于民生也。人特不深思·故弗知耳。上古之世·人情淳朴·勝過叔季之澆漓·奚啻數倍。文王之澤·及乎枯骨。不數百年·殺人殉葬之風·徧于天下。列國諸侯之死·殺所愛之臣妾·動至數十百人。不惟不生憐愍·而復反以為榮·各相效尤。以秦穆公之賢·尚殺百七十七人以殉葬。子車三子·乃國之良臣·亦復不為國與民計而免·況其他無道之暴君哉。國君如是·大夫與士·亦各隨其力而為之。雖孔孟老莊齊出·亦莫能止。及佛教東來·闡明因果報應·令人戒殺放生·斷葷吃素。即蟲蟻蚤虱·尚令護惜·勿行殺害·何況于人。以一切眾生·皆有佛性·皆知貪生怕死·皆是過去父母眷屬·皆是未來諸佛世尊。固宜愍念憐恤·何敢妄行殺害·以充口腹乎。慈風一扇·勝殘去殺。勿論諸侯大夫士·不敢殺人殉葬。即南面稱朕者·亦不敢行此惡法。即有一二暴虐者行之·亦斷不敢以多為榮也。使無佛法生死輪迴·因果報應之說。則後世之人·能盡其天年而死者·蓋亦鮮矣。此係至淺近之法·而其效尚能如是。況論心性極蹟之理·與斷惑證真之道乎哉。而如來隨順眾生·循循善誘。初以五戒十善之人天乘·接引劣機·以作超凡入聖了脫生死之前方便。若根機稍深·則為說四諦十二因緣·令其斷見思惑·證聲聞緣覺之二乘果。若是大乘根性·則令其發大菩提心·徧修六度萬行。上求佛道·下化眾生。興無緣慈·起同體悲。不住色聲香味觸法而行布施·以及六度萬行。度脫一切眾生·令入無餘涅槃。不見能度之我·與所度之人及眾生·併所證之無餘涅槃之壽者相。由其四相不著·三輪體空。故令塵沙無明·因之消滅。隨其功行·以次證夫十住十行十回向十地等覺之菩薩果。及全彰自性·徹悟唯心·福慧圓滿·智斷究竟之佛果耳。又以末世眾生·根機陋劣·匪仗如來洪誓願力·決難現生即出生死。由是以大慈悲·特開一仗佛慈力了生脫死之淨土法門。但具真信切願·持佛名號·求生西方極樂世界。其所行

一絲一毫之世善，併六度萬行種種功德，悉以回向往生。此則以己信願，感佛慈悲感應道交，必蒙攝受。待至臨終，蒙佛接引，往生西方。既往生已，則圓離眾苦，但受諸樂。親炙彌陀，參隨海眾。其證無生而成覺道，如操左券而取故物。校彼仗自力以了生死者，其難易固天淵懸殊也。又仗自力者，百千萬人，難得一二即生了脫。以其必須定慧具足，惑業淨盡，方可如願。倘惑業尚有絲毫未盡，則生死輪迴決難出離。仗佛力則信願真切，萬不漏一。三根普被，利鈍全收。上根則速證法身，下根則帶業往生。如來度生之懷，唯淨土法門，方能究竟舒暢耳。由有如上種種利益，故古今來聖君賢相，傑士偉人，莫不自行化他，護持流通。以其能陰翼郅治，顯淑民情。消禍亂于未萌，證本具之佛性也。近來世道人心，日趨日下。各懷我見，互相競爭。以致刀兵連綿，無時靜謐。而上有好者，下必有甚焉者。一班頑民，盡作土匪，肆行劫掠，毒害生民。人以惡感，天以災應。水旱疾疫，風吹地震，種種慘災，頻頻見告，國運危岌，民不聊生。欲行拯救，苦無其力。唯有懇求當權諸公，及一切同胞。悉本忠恕之心，以行慈悲之道。視一切人民，皆如同胞。互相扶持，勿行殘害。思前因與後果，必修德而行仁。利人者實為利己，此生他世，福報無窮。害他者甚于害自，現在未來，苦報無盡。與其逞勢于一時，以致神識受苦于永劫。何如修德于畢世，以期身心受樂于多生乎。然在凡夫地，未斷惑業，縱生人天，終非究竟安隱之處。倘能隨分隨力，持佛名號，求生西方，以期盡此報身，高登極樂，方為最上脫苦之道。而堂堂丈夫，忍令本具佛性，常被惑業所縛，以受生死苦荼乎。張季鸞君，特刊中華新報，每日專闢一欄，提倡佛學。舉凡如來應化，法道流通，信毀罪福，修持利益。與夫戒殺放生，吃素念佛之言論事迹，隨便登載。冀閱報諸君，同悟心佛眾生，三無差別之理。以行斷惡修善，復本心源之事。余謂此實護國救民正本清源之道。因將吾人天職，天地化育，聖賢心法，佛教綱要。與夫亂之所始，治之所由。撮略言之，以貢當世具眼高人。所愧文字拙樸，不能暢發蘊奧。然其意義，固非妄談杜

撰·有可取焉。又人生世間·所資以成德達才·建功立業·以及一才一藝養活身家者。皆由文字主持之力·而得成就。字為世間至寶·能使凡者聖·愚者智。貧賤者富貴·疾病者康寧。聖賢道脈·得之于千古。身家經營·遺之于子孫。莫不仗字之力。使世無字·則一切事理·皆不成立·而人與禽獸無異矣。既有如是功力·固宜珍重愛惜。竊見今人任意褻汙·是直以至寶等糞土耳。能不現生折福折壽·來生無知無識乎哉。又不但有形之字·不可褻汙遺棄。而無形之字·更不可褻汙遺棄。孝弟忠信禮義廉恥·若不措之躬行·則成亡八字矣。八字既亡·則生為衣冠禽獸·死墮三途惡道矣。可不哀哉。

疏

南潯極樂寺重修放生池疏

戒殺放生之事·淺而易見。戒殺放生之理·深而難明。若不明其理·縱能行其事·其心決不能至誠惻怛。其福田利益·亦隨其心量而致成微淺。倘遇不知者阻誹·遂可被彼所轉·而一腔善心·隨即消滅者有之。以故不避繁詞·用申其義。俾物類同沐慈恩·人倫各培福祉。以懇到之深仁·滅自他之殺報。同臻壽域·共樂天年。尚祈以此功德·回向西方。則永出輪迴·高超三界。為彌陀之弟子·作海眾之良朋矣。閱者幸注意焉。原夫水陸眾生一念心性·直下與三世諸佛·無二無別。但以宿惡業力·障蔽妙明·不能顯現·淪於異類。遂致知識陋劣·除求食避死之外·了無所知。譬如大寶銅鏡·經劫蒙塵。不唯毫無光明·即彼銅體·亦不顯現·直同廢物。忽遇智人·知是寶鏡具有照天照地無邊光明。遂日事磨礱·初則略露鏡體·次則漸發光明。及乎磨之至極·則照天照地之光·全體顯現。無智之人·方始貴重·視為至寶。須知此光·鏡本自具·非從磨得。雖復自具·倘無磨礱之緣·從劫至劫·亦無發光之日。一切人天六道眾生心性·悉皆如是。由無始來·惑業障蔽·不能顯發本具妙明。迷背真性·造生死業。大覺世尊·知諸眾生一念心性·與佛同儔。因茲種種方便·隨機說法。普令修習戒

定慧道·以期斷惑業而復本有·圓福慧以證法身。又令世人發慈悲心·戒殺放生。良以我與一切眾生·皆在輪迴之中。從無始來展轉相生·展轉相殺。彼固各各皆為我之父母兄弟姊妹兒女·我亦各各皆為彼之父母兄弟姊妹兒女。彼固頻頻由惡業力·或於人中·或於異類·受我殺戮。我亦頻頻由惡業力·或於人中·或於異類·受彼殺戮。久經長劫·相生相殺·了無底止。凡夫不知·如來洞見。不思則已·思之則不勝慚愧悲憫矣。我今幸承宿世福善·生於人道。固宜解怨釋結·戒殺放生。令彼一切有生命者·各得其所。又為念佛回向淨土·令得度脫。縱彼業重·未能即生·我當仗此慈善功德·決祈臨終往生西方。既往生已·即得超凡入聖·了生脫死·永出輪迴·漸證佛果矣。且愛物放生·古聖先賢·皆行此事。故書有鳥獸魚鱉咸若之文·而文王澤及枯骨·況有知覺之物哉。至於簡子放鳩·子產畜魚·隨侯濟蛇·楊寶救雀。此固聖賢一視同仁之心·尚不知其蠢動含靈·皆具佛性。展轉升沈·互為怨親·及將來決定成佛等義。迨至大教東來·三世因果·及生佛心性平等無二之理·大明於世。凡大聖大賢·無不以戒殺放生·為挽殺劫以培福果·息刀兵而樂天年之基址。古云·欲知世上刀兵劫·須聽屠門半夜聲。又云·欲得世間無兵劫·除非眾生不食肉。是知戒殺放生·乃拔本塞源之濟世良謨也。故隋智者大師·買臨海江滬溪梁六十餘所·互四百餘里為放生池。請敕立碑·禁止漁捕。有偷捕者·動輒得禍。直至唐貞觀中·猶然如是。唐肅宗乾元二年·詔天下諸州各立放生池·敕顏真卿撰碑文·並書丹。有云我皇舉天下以為池·罄域中而蒙福·承陀羅尼加持之力·竭煩惱海生死之津。揆之前古·曾何髣髴。宋真宗天禧元年·詔天下立放生池·而杭州西湖·亦宋之放生池也。明蓮池大師立放生池於上方長壽二處。其戒殺放生文·流通天下。迄今三百餘年以來·景仰高風·慈濟物類之縑素通人·何可勝數。或曰·鰥寡孤獨·貧窮患難·所在皆有。何不周濟·而乃汲汲於不相關涉之異類。其緩急輕重·不亦倒置乎哉。答曰·子未知如來教人戒殺放生之所以也。夫人物雖異·佛性原同。彼以惡業淪於異類·

我以善業幸得人身。若不加憫恤，恣情食噉。一旦我福或盡，彼罪或畢，難免從頭償還，充彼口腹。須知刀兵大劫，皆宿世之殺業所感。若無殺業，縱身遇賊寇，當起善心，不加誅戮。又況瘟疫水火諸災橫事，戒殺放生者絕少遭逢。是知護生，原屬護自。戒殺可免天殺，鬼神殺，盜賊殺，未來怨怨相報殺。鰥寡孤獨，貧窮患難，亦當隨分隨力以行周濟。豈戒殺放生之人，絕不作此項功德乎。然鰥寡等雖深可矜憫，尚未至於死地。物則不行救贖，立見登鼎俎以充口腹矣。又曰，物類無盡，能放幾何。答曰，須知放生一事，實為發起同人，普護物命之最勝善心。企其體貼放之之意，中心惻然，不忍食噉。既不食噉，則捕者便息。庶水陸空行一切物類，自在飛走遊泳於自所行境，則成不放之普放。非所謂以天下而為池乎。縱不能人各如是，而一人不忍食肉，則無量水陸生命，得免殺戮，況不止一人乎。又為現在未來一切同人，斷鰥寡孤獨貧窮患難之因。作長壽無病，富貴安樂父子團圓，夫妻偕老之緣。正所以預行周濟，令未來生生世世永不遭鰥寡等苦。長享受壽富等樂。非所謂罄域中而蒙福乎。何可漠然置之。子審思之。戒殺放生，畢竟是汲汲為人，抑止汲汲為物，而緩急輕重倒置乎。南潯極樂寺外，向有放生池。以礪未全砌，遂致坍塌。兼復多年未濬，淤泥充滿。每有善士就河放生。雖發善心，生難獲益。其旦蒙放而暮復遭捕者，當居多半。若近大江，則固宜放之江中，小河則斷非所宜。園林大師心有不忍，擬欲深濬其池，外築圍牆以為防護。俾放生有地，而盜捕無由。其意亦良厚矣。尚未開工，適普陀覺三大師至，一見即志道相契。旋以寺事付託，而已則放下萬緣，專修淨業焉。覺師繼承舊緒，即欲速成其事。但以工程浩大，獨力難成。擬募闔鎮善信共襄勝事。祈予作序。（下略）

金陵三汊河法雲寺放生池疏

金陵為文獻之邦，素稱佛國。其地之人，多有大乘根性。以大法東來，百七十餘年，只在北方。至吳孫權赤烏四年，康僧會尊者，行化至此。以感佛舍利降臨，孫權為之建塔修寺，以宏法化。至晉而佛

馱跋陀羅·譯華嚴經·亦在其地。宋齊梁陳以來·譯經宏法·大有其人。一則宿昔薰陶·善根所使。一則山水崇深·地靈所致也。迨至唐肅宗時·顏魯公真卿·適守是邦。詔天下諸州各立放生池·命魯公撰文。其曰·舉天下以為池·罄域中而蒙福。是豈獨為物計哉·蓋欲有所感也。今清涼山下烏龍潭·乃魯公自立之放生池。魯公精忠貫日月·文筆動風雲。而且篤信佛法·極意護生。其懿德弘慈·千百年後·莫不景仰。近來世道人心·陷溺已極。天災人禍·頻頻降作。憂世之士·以為此等業果·皆由殺起。倘能知物不可殺·則斷無殺人之理。由是各懷慈善·互相扶持。自可移風易俗·感召天和矣。于是馮夢老·王幼農·龐性存·魏梅蓀等諸居士·謀立放生池。以提倡息殺行慈之道·企敦民胞物與之風。以烏龍潭魯公故址·不能通江。另覓三汊河方家下圩·其地寬敞·有百數十畝。足可以建立道場·開池放生。幸其地主方君峻生·元屬樂善君子。只取半價·亦可謂稀有功德矣。議甫成·而予適至金陵。魏君以其事告予·且令作疏·以為之倡。予常痛近世殺劫之慘·欲挽無力。因彼之請·觸動予懷。予前撰南潯極樂寺放生池疏·已將吾人與物類之本具真心·及隨業升沈·並殺生護生之現未果報·撮略言之·茲不縷述。冀諸位檀越·同發善念·同捐淨資。俾此舉速得成功·庶物類各得其所。其功德利益·無量無邊。豈特現世萬禍冰消·千祥雲集。而未來世之銜恩報德者·正不知其幾千萬億也。須知放生原為戒殺·戒殺必從喫素始。倘人各戒殺·人各喫素。則家習慈善·人敦禮義。俗美風淳·時和年豐。何至有刀兵劫起·彼此相戕之事乎。此挽回天災人禍·正本清源之要務也。凡有欲家門清泰·身心康寧·天下太平·人民安樂者。請皆于戒殺放生喫素念佛中求之·則求無不得矣。

金陵三汊河法雲寺增設佛教慈幼院疏

乾為大父·坤為大母。民吾同胞·物吾與也。故孔子以老安少懷為志·如來以普度眾生為心。以一切眾生·皆具佛性。皆是吾人過去父母親屬·皆于未來得成佛道。其有由惡業力·墮于水陸空行異類之

中。其佛性固無少損。其貪生怕死。避苦求樂之心。與吾人初無少異。由是馮夢老邀同諸居士。發起法雲寺念佛放生道場。以為提倡。冀一切善人。咸體天地父母之心。共懷民胞物與之念。弭自他之殺業。培菩提之道本。豈獨注意于區區一道場而已哉。蓋欲感發于普天之下也。而惻隱之心。無所不至。凡一切鰥寡孤獨。顛連困苦。無所倚賴者。無不欲為救援。但以財力維艱。于法雲寺放生池旁隙地增設一慈幼院。取無父無母。無法存活之孤兒。養之教之。俾其成才而自立。免令凍餓而死。以填溝壑。飽鴉犬。致彼祖宗斷祭祀。兼使國家少人民。其心可謂真切懇執。知所先務矣。良以小兒一失父母。必至死亡。即或稍能行乞。不至即死。以無力就學。亦不過終身為庸。何能開智識以達本天姿。敦倫理以不悖人道乎哉。試思晉道安。唐一行。明妙峯。皆孤兒也。由得為僧。遂致道傳天下。德被兆民。宋呂文穆。讀書土窯。乞食活命。一僧憐而供給之。遂得高中魁選。致君澤民。故發願有云。願子孫世世食祿。護持佛法。不信三寶者。勿生吾家。蓋其所感深也。是知神龍之雛。每有沙磧之困。仁人能以斗升之水濟之。待其羽翼既成。風雲際會。便能普天之下。悉降甘霖。縱令天姿庸常。無此作略。而養其良知良能。俾各為良善。亦可以為天下太平之本。況孤兒既多。當必有出類拔萃。堪能成道立德。參贊化育。如道安一行妙峰文穆者。其教養成就之功德。何可稱量乎哉。所願仁人君子。一切善信。各推幼幼之心。勿吝涓涓之助。須知施為福本。天道好還。我既濟人之孤。則己之子孫。當必多皆出類拔萃。大有作為。決不至困苦顛連。無所籲告耳。宋範文正公。唯以濟世濟人為事。其子孫至今。多有達者。固知急人之急者。其自己與子孫。世世生生。皆不至有急而待人周濟也。倘能俯納芻蕘。不惜家珍。俾此舉大成。豈特孤兒之大幸哉。實天下國家之大幸也。

普勸施資助刻大藏疏

夫大藏者。乃般若之叢林。真如之府庫。一切世出世間諸法之淵海也。舉凡如來究竟親證之道。眾生即心本具之法。及十方世界之廣。

三世因果之微．．與夫日用倫常孝弟慈善之道。悉皆顯闡讚導．了無佚遺。以故宏法大士．莫不以流通大藏．為宏法利生之急務焉。刻大藏經．與單刻一二部經論有異。不得謂此功德大．彼功德小．此法當機．彼不當機。良以一大藏雖有經律論．及西竺此方種種著述．部類各別．卷數踰萬．總是一部大藏經故。既是一部．何可割裂疆域．妄分優劣。譬如萬川歸海．同一鹹味。百華成蜜．同一甜味。卉木雖有大小．春光原無偏僻。形相雖有殊異．明鏡豈有二照。如修九層之塔．施甆石於各級．功德同等。如鑄千尺之佛．鎔金銅於一鑪．那分高低。但可即末以得本．豈宜執源而廢流。菩薩度生．不見能度所度之相。菩薩行施．不著色聲香味觸法。故得一心無住．三輪體空．致其福德．直與十方虛空．同一廣大悠久。一大藏教．雖有大小權實．偏圓頓漸．顯密真俗．禪淨性相．種種不同。然其心光血脈．固皆融會貫通．一無滯礙。如帝網千珠．重重交映。如佛殿千燈．光光相涵。助刻壇越．但取錢不落空．勿論刊刻何種。庶經理之人．少費心力．而汪洋大藏．速得圓成矣。倘或以分別心．妄生揀擇．則人各效尤．必致或有一種．多人願刻．以成重複。或有一種．無人發心．常時闕漏。功德雖有．緩急失當。全藏流通．知在何時。況此時經理校對．悉皆有人。勝緣難再．忍令錯過耶。須知為實施權．權是實家之權。開權顯實．實是權家之實。如來說經．菩薩造論。若無西竺此方諸宗古德著述．輔弼翼贊。何能中外流通．至今不替。且世主治國．尚賴文武輔弼．方得萬民仰德而畏威．觀光而自化。況如來所證之三德秘藏．實相妙理。若捨古德隨順機宜種種發揮．則佛心所證．唯佛與法身大士能知。其餘劣機眾生．將何由而知．何由而證乎哉。是知一大藏萬餘卷經．同是一法．何可分別。所願施資助刻諸大檀越．同以無所住而生心．不住法而行布施。則一大藏之不思議功德．人人各獲全分。如一月當空．萬川普映。一氣值節．大地皆春矣。

吉林哈爾濱創建極樂寺疏

佛法流通．利益無量。天機深者得其深．即可明心見性．斷惑證

真。天機淺者得其淺，亦可改惡修善，希聖希賢。良以如來設教，雖則正為出世，而隨順機宜，循循善誘。故于經世之道，亦復發揮淨盡，毫善弗遺。遇父言慈，遇子言孝，兄友弟恭，夫倡婦隨。凡一切倫常日用之道，與儒教所說，了無異致。其所異者，一一各示三世因果，善惡報應。使人心存敬畏，不敢踰越。雖在暗室屋漏之中，常如面對佛天。即下而貪殘暴惡之倫，絕無信心。以久聞因果報應之事，其心已冥受制伏，亦不至十分酷烈。觀于列國殺人殉葬，以多為榮。佛教東來，遂滅此風，可以見矣。其入人深而利益溥，譬如杲日麗天，生盲悉獲安樂。陽春回地，焦芽亦荷生成。誠所謂如來不出世，萬古冥若夜遊。佛法若流通，人天悉有恃怙。教傳東震，年將二千。其間具聰明睿智之姿，立掀天揭地之業。學識通人天，節操陵風雲者。莫不崇奉護持，極力流通。不惜鉅資，建立塔寺。以其陰翼治道，顯淑民情，使民日遷善而不知所以為之者。故古今首出庶物之人，莫不以流通佛法，為天下太平，萬國咸寧之基址焉。吉林哈爾濱，僻處邊陲。在昔但為華俄漁場而已。自鐵路開通，遂成歐亞交通重要地點。萬商雲集，各行星羅。較京津滬漢，無多讓焉。但以寺宇絕無，高僧不來駐錫。經典未布，人民無緣培修。中東鐵路監察局長陳飛青君，宿植德本，篤信佛乘。欲使濱江同人，咸沐如來法化。特向中東路局，請地數畝，擬建十方叢林，命名極樂，以宏佛法而資信仰。其紳商首領，若某某等數十人，莫不皆本己立立人之心，行自利利他之事。為之協力贊襄，以速其成。其建築規模，悉仿內地大寺之制。以倓虛法師，博學多聞，深通經教，志切宏法而利人，因請為住持。祈其寺成之後，長年講經。俾蒞濱人士，咸知修身淑世之道，與夫了生脫死之法。兼復堂開蓮社，繼廬山之遺風。室闢閱經，窮修持之秘要。但以平地建築，與長時宏法。其事體甚大，其費用甚繁。以故懇祈當道長官，巨紳富商，及一切善信人等。各各發菩提心，行方便事。打開寶藏，培植福田。輸金輸粟，轉勸轉募。俾含空寶殿，指日成功。滿月金容，經劫常住。高僧蒞止，經典流通。蓮社開，而淨土之宗風丕振。經教

宣·而苦海之舟筏長存。從茲人慎三業·戶敦十善。勝殘去殺·同登仁壽之域。信願念佛·共生極樂之邦。將見出資善士·常蒙佛天護佑。當必災障冰消·吉慶雲集。身心安泰·家門靜謐。富壽康寧·現生獲箕疇之五福。尊爵上章·後裔納伊訓之百祥矣。

杭州彌陀寺啟建蓮社緣起疏

一切眾生·一念心性·與佛全同。而其居心行事·與佛全異者·其故何也。良以迷本具之性德·逐妄合塵。以性具無著之戒定慧·反作逐境染汙之貪瞋癡·遂造隨事爭執之殺盜淫。由是之故·輪迴六道·受諸極苦。久經長劫·莫之能出。大覺世尊愍之·興無緣慈·運同體悲。示生世間·成等正覺。說法四十九年·談經三百餘會。其間教隨機異·法以緣殊。大小偏圓·權實頓漸·各就機宜·令得利益。于中求其三根普被·利鈍全收。下手易而成功高·用力少而得效速。不斷惑業·得預海會。即此一生·定出輪迴者。無如信願念佛·求生西方之殊勝超絕也。以故華嚴法華等諸大乘經·文殊普賢等諸大菩薩·馬鳴龍樹等諸大祖師。悉皆極力讚揚·普勸往生。迨至大教東流·遠公大師·隱居廬山。創開蓮社·宏通此法。最初結社之時·高僧鉅儒之預會者·凡百二十三人。若終公之世·三十餘年之內·其入蓮社而念佛名。蒙接引而得往生者·則多難勝數也。自茲厥後。代有高人。宏揚蓮宗導利含識。宋初永明大師·住持淨慈。(淨慈初名永明)圓修萬善·偏讚淨土。恐學者不知自力佛力之所以然·作四料揀·以為指南。俾上中下根·若凡若聖·皆有遵循。若非彌陀化身·何克臻此。後有省常法師·當太宗真宗之際·住持昭慶。慕廬山之遺風·結淨行之蓮社。而王文正公旦·首先歸依·為之倡導。凡宰輔伯牧·學士大夫·稱弟子而入社者·有百二十餘人。其沙門則有數千。而士庶則不勝記焉。明季蓮池大師·參禪大悟之後·力修淨業·重興雲棲。以契理契機·莫過淨土。遂著彌陀經疏鈔·發其甚深旨趣。淨土宗風·為之丕振。而一生悲敬雙修·事理不二。以故戒殺放生·濟孤利冥之懿範·數百年來·中外景仰。清雍正間·省庵法師·住持梵天。宏闡淨土·

不遺餘力。其勸發菩提心文。堪與日月爭光。虛空等壽。由此諸祖心光所映。杭州人士多皆信向。又以山水佳勝。高人蔚生。而人以類聚。故法門知識。亦多蒞止。因茲法化之盛。校各處為優。地靈人傑。法以緣興。信非虛語。迨光緒初年。玉峰法師。創建彌陀寺。為淨土道場。鑿山鐫經。宏揚淨土。雖其道德不敢與永明諸祖相比。而其誓願宏深。語言痛切。不愧為淨土嚮導。法門知識。繼往開來。厥功實非淺鮮。自後國家多故。住持非人。遂致一敗塗地。近數年來。各界眼界大開。凡有志于學聖賢者。無不研究佛學。修持淨業。某某等諸居士。不忍令此道場。長時湮沒。公推智慧法師為住持。以期提倡蓮宗。普利一切。智師以己立立人。自利利他為心。仰效前修。特開蓮社。每月六齋日。舉行一次。有信心者。同來念佛。念畢少頃。恭請智師。或餘知識。或通法居士。升座講演淨土法門中切要理事。俾諸人克治習氣。增長信心。誠盛舉也。(光)與智師。志同道合。乃委其敘述緣起。以為一切大眾勸。宋時長蘆蹟禪師。景仰廬山蓮社。啟蓮華勝會。而普賢普慧二菩薩。夢中祈其書名。故知此會。是名最勝法施之會。凡入會者。各宜勉旃。又近世之人。多務虛名。不修實行。口雖念佛。心與佛違。譬如藥忌並服。何能愈病。必須念念克治自己習氣。心心憶念彌陀洪名。凡有與佛不合之念頭起。則自責曰。汝念佛求生西方之人。何可起此念乎。正念一起。邪念自消。決不許其稍住頃刻。必使心中淨無瑕穢。如淨琉璃。內含寶月。諸惡莫作。眾善奉行。信願持名。決定求生。方為真正修淨土人。若有一念求來生人天福報之心。即修持精純。亦名違背佛教。雖種善根。而了生脫死。當在驢年。可不哀哉。此段雖于緣起無涉。實為修持要義。故拉雜書之。

杭州南高峰榮國禪寺重修寶塔疏代住持振機作

大覺世尊。愍諸眾生。迷本妙心。輪迴生死。示生世間。成等正覺。隨眾生根。為說妙法。普令有情。悉獲利樂。及至一期事畢。示現滅度。以悲心無盡。特碎全身為八斛四斗舍利。分布天上人間。以為未來眾生滅罪植福。出離輪迴度脫生死。直至成佛之無上第一不可

思議因緣。由是凡有得佛舍利者，無不高建寶塔，藏于其中。普令自他幽顯，同消宿業，同種善根也。南高峰者，省會之名山，浙江之巨鎮。自下至頂，高一千六百餘丈。登巔遠望，長江若帶，西湖如杯。極湖山之勝概，豁達士之胸懷。與北高峰對峙，相去十餘里。層巒疊嶂，蜿蜒盤結。山勢既峻，能興雲雨，故其上多奇雲。山峰高出雲表，時露雙尖，望之如插，因目之為雙峰插雲，為西湖十景之一。五代石晉天福間，浙江時屬吳越。有梵僧自西竺來，登南高峰之巔，見其遠望無極。遂欣然曰，于斯可以立大覺世尊之表相，令四遠望者，同種善根。因出舍利一顆，託有德望僧道圓，稟吳越國主文穆王，為建寶塔。高七層，通計十丈。其規模制度，精妙絕倫。于下建寺一所，名為榮國。以如來舍利來儀，為國榮慶故也。歷漢周宋元明清，以迄于今，年滿一千。其間革故鼎新，已非一次。現今寶塔崩壞，止存一級。寺院傾頽殆盡，破屋數間，不蔽風雨。前住僧人，不堪其苦，遂即捨去。（機）近方接住，奉侍香火。竊念前人建塔，原為國民植福。今已崩壞將盡，忍令古迹泯滅，損西湖之勝景，荒眾生之福田乎。觸目傷心，不遑安處。擬欲即興工作，揭底重修。又以前人造法，難以經久。今不得不深慮而預防之。緬維古人建塔，原為藏如來之舍利，令其遠而望者，近而禮者，悉種善根，同得解脫。至其塔中設道，屈曲宛轉，從下漸升，以至厥頂。四面開窗，以瞻四方。無非欲令眾生，了知欲獲佛果，必須腳踏實地，斷惡修善，從凡至聖，漸次增進。既能身登上地，自可永斷凡情。由茲徹見真空，何難直證妙覺。然由中空，致不堅久。又無知之人，不知古人之用意處，每以登高望遠為事。則褻慢實深，獲罪非淺。今擬中不設道，通做實心。中豎鐵柱，以為剛骨。一免烈風地震之摧殘，一免遊戲登臨之罪咎。則唯得其益，不受其損。當為佛天所允許，善信所贊成也。但以工程浩大，非三萬餘圓，不克成辦。因恭繪塔圖，謹述愚誠。懇祈十方檀越，感佛恩德，發菩提心。打開寶藏，培植福田。俾巍巍寶塔，復峙雲中。穰穰眾生，重瞻法相。滅過去之罪業，種未來之善根。將見佛天雲護，災障冰消。身心安泰。

家門迪吉。前程隨心地以遠大。定獲富壽康寧之徵。餘慶偕厚德以無疆。永膺簪纓爵位之福矣。

佛頂山萬年水陸募緣疏此其懸敘下敘事不錄

竊以無緣之慈方能度無緣之輩。非常之事。必須待非常之人。溯水陸之緣起。由觀音之善權。現面然以警阿難。懇如來以宣秘呪。普使飢虛。悉獲飽滿。咸令鬼獄。盡生人天。迨至大教西來。梁武御極。虔修齋戒。感通幽冥。夢孤魂以求度。遂設法以薦拔。廣請禪教之高僧。徧閱顯密之奧典。運絲綸之睿藻。製水陸之儀文。仗三乘三密之真詮。承萬德萬靈之威力。銷鎔惑業。滅除罪愆。若輕霜之對于赫日。猶片雪之落于洪鑪。利益難名。功勳罔測。其有往劫根熟。即捨苦域而頓超樂邦。縱令宿世機生。亦升人天而永離鬼獄。以故當時求佛證明。滅燭而燭遂自然。後代依科作範。薦親而親蒙度脫也。

杭州石經山彌陀寺募修葺殿堂寮舍并濬放生池疏

天下名勝之宣傳宇宙者。必先有其地。而後得其人。則其名始著。是勝地名山。端賴有儀刑現未之具德高人。方可令人寤寐神馳。以生景仰。若廬山之以遠公著。雲棲之以蓮池重也。浙江山水冠天下。其地素稱佛國。高人哲士。相繼而出。殆所謂地靈則人傑耳。清同治閒。妙然法師。專修淨業。以彌陀一經。普被三根。實華嚴歸宗之要義。亦末法最勝之慈航。擬欲鐫諸山石。以垂永久。俾現未見者聞者。同種善根以生正信。修淨業以往西方。因見城北松木場。石巖高峻。石性堅緻。乃買其地址。倩工開鑿。請善書之沈善登居士書之。居士遂棲鄧尉山。先請四位發菩提心道友。晝夜念佛。以為加持。自己放下萬緣。齋沐敬書。凡書一字。必先禮佛三拜。持佛號一百八聲。結印持穢迹金剛呪七徧。跪而書之。寫經之外。息心念佛。不提餘事。以此佛力法力加持功德。冀現未一切若見若聞之人。悉發菩提大心。頓出娑婆穢苦。如此五十三日。千八百餘字。方始書畢。字大幾寸。鐵畫銀鈎。道勁圓潤。誠為稀有。然師遂為鐫刻。深及八分。日持佛號。

以為加持。尚未畢工。即已西逝。其友玉峰成方二法師。先固相與輔弼。至是遂力任其事。石經刻成。飾之以金。凡屬見者。莫不肅然起敬。生希有想。則全經功德。固已印于八識田中。作未來往生西方。究竟成佛之種子。是蓋以佛力。法力。及三師沈居士之心力。為增上緣。以顯發見者聞者性具功德。俾其終得受用耳。由是諸檀越悉皆歡喜。爭先布金。遂得佛殿僧寮。一一悉備。居然一專修淨業之大道場。所謂地由人著者。非乎。三門之外。開一池塘。以放水族諸物。繼雲棲天台之慈行。令將登鼎鑊以充口腹者。咸得遊泳其中。以盡天年。乃所以息刀兵而弭殺劫之最上良策也。自建立以來。迄今五十餘年。悉守成規。無忝前修。近數年來。住持才力薄弱。頗形艱難。既無田產以充常住之需用。又無道德以感檀信之供養。此之道場。幾將湮沒。諸居士憂之。去秋強智慧法師為住持。因特開蓮社。以紹玉峯之業。必期四眾同念彌陀。同求往生。復以轉化一切。悉皆同辭五濁。同登九品而後已。其殿堂寮舍。已經五十餘年。未曾修葺。兼以今夏風災。諸多坍塌破壞。若不即修。久則更難為力。而且放生池多年未濬。淤泥充滿。于放生一事。大有所礙。擬欲開拓濬掘。悉皆加倍。外豎圍欄。以為防護。庶放生得所。而盜捕無由。俾流水智者慈雲蓮池之慈惠。永久無替。豈徒曲全物命。實欲啟世仁慈。倘能人各不殺。則世道有不太平者乎。但以工程浩大。所費實繁。祈（光）作疏。徧懇諸大檀越。各發菩提之心。共植出世之業。捐寶海之涓滴。成梵宇之莊嚴。須知祇園始經營。天界之宮殿已現。佛念才發起。淨土之蓮華即生。流水所濟之魚。已作十千天子。智者所放之物。多為海東王臣。古既如是。今豈不然。以如是因。感如是果。倘能不惜五家所共之殊珍。成就三寶興隆之勝舉。將見現生永膺多福。臨終高登九品。庶可圓彰本具之佛性。速證無上之菩提矣。

募建普陀山輪船碼頭疏

觀音大士。誓願宏深。濟度無方。津梁罔測。絕攀緣而赴眾感。如一月普印于千江。住真際而應羣機。猶陽春徧育乎萬卉。悲運同體。

慈起無緣。尋聲救苦。處處現應化之身。隨類逐形。在在作迷途之導。恩周庶類。澤潤蒸民。冀含識親見性天。固已無刹不赴感。欲眾生投誠有地。特示應迹于普陀也。由是歷朝欽敬。舉世尊崇。佛殿經樓。傑出於雲霄之外。偉文瓌筆。輝煌乎瀛渤之中。按華嚴經入法界品。善財南參第二十八。于補怛洛迦。參觀世音菩薩。即此山也。在昔大教未來。道教未開。凡俗雖莫睹夫慈容。仙真固常瞻乎佛日。故秦之安期生。漢之梅子真。晉之葛稚川輩。悉皆寄寓此山。修真養道。及至朱梁開山。四眾始知歸嚮。報德心切。不憚梯山航海之勞。投誠情殷。必致瞻儀接足之敬。但以輪船無有碼頭。常須小船接送。稍有風浪。甚屬危險。年力壯盛者猶可。老弱婦女。更為可慮。是則碼頭不修。實為大士慈悲心中一大憾事。亦屬善信報答分中一大歉事。第以颶風一起。則怒浪衝激。數萬斤巨石。直同轉丸。若非下大資本。斷難永久不壞。以故近來發心者眾。而卒未實行者。以工大費鉅。恐不久長。則徒費金錢。枉勞心力耳。大護法蘭舫祝公。與其子伊才。素固熱心公益。兼復篤信三寶。愍此情形。發菩提心。雖知不易建立。而必欲實行其事。非秉如來自利利他。孔子己立立人之心。能有是勇毅乎哉。然此功德。非數十萬金。固弗能辦。非但己力不足。亦欲善與人同。因以緣起。委光敘述。光住山多年。深知其事之難。又幸祝公志在利人。為之提倡。必有與祝公同其心力財力者。羣起而和之。眾志成城。何難成辦。況普締夫四眾報恩誠心。仰契乎大士慈悲願力。將見海若風伯。亦當上遵聖意。下順凡情。常相擁護。俾永無虞。庶後之禮大士者。悉免虛驚。穩登彼岸也。經云。若令眾生生歡喜者。則令一切如來歡喜。故知或以一言。或以一圓。贊成此舉者。一切諸佛。悉皆歡喜。況其多多者乎。即彼最少功德而論。譬如一滴。投大海中。直下與大海同其深廣。同其悠久。多者又何待論。今秉志心。以淨財投于覺海。必至業海乾枯。福海洪深。以迄覺海圓澄而後已也。懇祈入寶山者。切勿空手。沐法澤者。務報佛恩。

天台上方廣寺募修三聖殿疏

天台·為東南第一名山·上方廣·乃天台開山之第一古寺也。溯自東晉曇猷尊者·以神通道力·降伏山神·而為開山·創建此寺。初名石橋寺·以在石橋之側·過石橋則有方廣寺·乃五百應真寄居之聖寺·非道鄰應真者·莫能一見。猷師曾入其寺·受齋而出·知其為應真之所示現無疑。後人慕應真之勝迹·遂名石橋為方廣云。方廣寺之最高處·為西方三聖殿·向為念佛堂·正殿三楹·供三聖像·以作禮念之所·兩邊二楹·以作念佛僧安住之舍。竊以法門無量·皆須斷盡煩惱·方可了生脫死。唯念佛一法·但具真信切願·皆可仗佛慈力·往生西方。以故古今出格高人·莫不注重此法·自行化他·以期一切同人·咸於現生超凡入聖也。方廣寺之三聖殿·歷年久遠·材木腐朽·早宜重新·奈住持以資斧無出·且待時機。今年三月初·來一客僧·住其中念佛·頗著勤懇。至四月初四夜·自化其身於三聖殿·及寺眾咸知·則火已大熾·無法挽救矣。然幸只燒此處·餘未延及。不知此僧特欲重新此殿而為此舉耶·抑山靈欲重新而使彼為此舉耶·抑佛菩薩五百應真欲大宏淨土法門·俾一切出資助修諸善信·同仗此善根·出此苦娑婆國土·生彼極樂世界·而令彼為此舉耶。今住持即欲重修·祈光作疏。乃述其開山建寺·及此殿早宜重修·而適逢此因緣·以祈一切檀越·念淨土法門具契理契機之妙·此僧有為法捐軀之誠·各捨淨資·贊襄勝舉·其為功德·唯佛能知矣。

普陀山伴山庵募修大殿疏代撰

圓通大士·示迹普陀·誓願無疆·慈悲莫測。絕攀緣而赴眾感·如一月普印于千江。住真際而應羣機·猶一雨徧潤乎萬卉。伴山庵者·法雨之分藍·大士之別院也。暮鼓晨鐘·接普濟之清韻·拈華豎拂·承法雨之家風·輔弼兩寺·宏闡一乘·因是之故·名曰伴山。第以創建以來·歷年久遠·革故鼎新·代有其人。迄今雨淋日炙·霧浸雲蒸·復將傾頽·急宜修葺。衲披剃本院·徧參諸方·一朝踏破草鞋·致令

腳跟點地。由是倦飛知還。忘緣樂道。得故鄉之風月。持別庵之門庭。觀茲形勢。觸目驚心。常恐金容掩色。不鏡三千之光。普門扃戶。難由廿五之路。欲徹底以掀翻。復本來之面目。奈工大費鉅。鉢罄囊空。爰述鄙誠。徧募檀越。懇祈發菩提心。行方便事。捨本有之家珍。培不朽之功德。量力隨緣。施金輸粟。庶含空寶殿。指日可成。滿月金容。經劫常住。使南參緇素。東請僧俗。登門歸命。覩相發心。了知相離相。親證實相之妙相。門門普門。直入無門之法門。展劫外之玄風。翼震中之郅治。其功德利益。豈語言文字所能形容者哉。

啟建普門無遮普度勝會大道場募緣疏代撰

觀音大士。乘大願輪。以普門法。度脫眾生言普門者。以法法頭頭。皆歸實相。根根塵塵。悉證圓通。無有一法。不通涅槃。故曰普門。又復上中下根。皆使就路還家。善惡中庸。無不等蒙攝受。無有一人。不垂慈濟。故曰普門。但以眾生在迷。妄于根塵等境。起惑造業。因業受苦。久經長劫。了無出期。故致天災人禍。更迭而興。水火刀兵。相繼而起。豈天之枉虐斯民。實民之往業所感。若不歸命大士。則苦果復生苦因。倘能懇恩蓮座。則善緣當獲善報。竊念吾潮。近年以來。屢遭瘟疫。又經兵災。復罹地震。水旱蟲蝗。不時見告。因茲數端。以致死亡貧困者。實繁有徒。縱有幸而獲免。未受損傷者。亦復憂怖戰兢。如吞棘蓬。如坐針氈。苦毒哀懷。無處籲訴。(某等)由是謹發虔心。歸命慈父。企滅已往之愆尤。預培將來之福祉。擬某年月日。于南海普陀山法雨禪寺。啟建普門無遮普度勝會大道場七晝夜。仗此良因。俾亡者蒙佛接引。神超極樂之天。存者沐法威力。身享康寧之福。宿業消而在在解脫。謀為順而事事亨通。轉煩惱之逼迫。成自在之逍遙。各各先亡祖禰。俱獲超升。人人後代兒孫。常納吉慶。但此道場。費用實繁。懇祈吾邑善信人等。同發善心。共襄勝事。則功德無量矣。

上海殘疾院勸捐疏

一切眾生·心性原同·而其身心受用·苦樂懸殊者·以宿世之修持不一·致今生之感報各別也。故經云·欲知前世因·今生受者是·欲知來世果·今生作者是。感應篇云·禍福無門·唯人自召·善惡之報·如影隨形。是以君子樂天知命·不怨不尤·聿修厥德·自求多福·以期消滅宿業·培植來報也。世之最可憐可憫者·莫過于貧無衣食之瞽目殘疾人。均是人也·人皆眼目明瞭·徹見一切·彼則雖處光天化日之下·無異暗室幽谷之中。人皆手足完全·隨意動作·彼則肢體殘缺·諸凡不便。如是之人·又加以無家室以庇身·無衣食以養體。彼等同為天地父母之所生·固為吾之同胞。吾人幸受天地父母之所覆載·而境遇稍亨。若不設法·令彼身有所託·心有所依·俾其宿業消滅·來報勝妙·便失天地父母平等生育之心·兼負天地父母錫吾福樂安適之念。況乎博施濟眾·老安少懷·視民如傷·恩先無告·古聖賢無不提倡而躬行之·以為天下後世法。豈可不仰體天地聖賢之心·以行一視同仁之道·而漠然置之乎。以故一亭王居士·特發大心·糾集同志·立一殘疾院·于上海南車站附近·俾彼無家可歸之殘疾人·安住其中·供其衣食·以盡天年。有手足不完具者·派人照護·其有目能視·手能作者·隨彼身分·作諸工業·以稍貼補其服用。又請通達佛法之人·數日一往其中·為彼演說改過遷善·閑邪存誠·信願念佛·求生西方之法。俾彼等了知前因後果·聿修厥德·一心念佛·以期往生。庶可永離娑婆生死輪迴之苦·常享淨土常樂我淨之樂·其為彼等慮者·可謂懇切周摯·至極無加矣。然人眾既多·所費實繁·端賴富有力者·發同體之悲心·捐無盡之寶藏·補天地化育之遺憾·培自己莊嚴之法身·則幸甚幸甚。

募修永嘉羅漢山景德禪寺疏

佛法深妙·非凡情所能測度。若非有大智慧·大辯才·大神通之聖人。而欲化導愚俗·共歸正法·捨拘墟之劣見·開性具之正知·各

捨家珍・創建梵剎。俾得宏宗演教・作長夜之明燈・辦道修心・為苦海之巨筏者・誠非易易也。永嘉羅漢山景德寺者・唐藤蘿尊者之所造也。按寺志・尊者不知何許人・于武宗會昌二年・乘木浮海而至瑞安巡簡司前・邑人異之・祈師登岸。由是一方之民・崇信景仰・有如活佛。于是隨機開導・令生正信。逆知武宗將有滅法之兆・故其建立梵剎・皆悉從緩。至中宗繼立・佛日重明・尊者乃普徧化導溫州屬邑・共建梵剎十有八所・可謂大宏法化・為眾福田矣。羅漢山景德寺・乃其一也。其山峯巒峻秀・景趣清幽・為永嘉之首鎮・洵修道之靈區。其寺自唐迄今・歷一千一百餘年・其間宏揚法化・鼎革梵剎者・固難悉數。現以久未修葺・佛殿僧寮・傾頹殆盡・尊者聖迹・將欲湮沒。邑人潘鑑宗、吳碧華、葉健雄等數十人憂之・共議興復。然以時局艱難・且縮小辦・擬建佛殿五楹・前殿三楹・兩廊寮舍十餘楹・俾凡禮誦棲息・各得其所。安住數位精修淨業之比邱居士・常住其中・專修念佛三昧・以期自他同出娑婆・同生淨土・為彌陀之弟子・作海會之良朋耳。但以工程浩大・獨力難成・懇祈十方檀越善信人等・發菩提心・行方便事・打開寶藏・培植福田・俾含空寶殿・指日成功・滿月金容・經劫常住・蓮社開而見聞蒙益・淨宗闡而僧俗明心。將見佛天雲護・吉慶駢臻・富壽康寧・現身獲箕疇之五福・尊徽高爵・裔世納伊訓之百祥矣。

廬山青蓮寺啟建蓮社緣起疏

佛法廣大如法界・究竟如虛空・而其全體大用・悉在眾生一念心中・但以迷而未悟・遂致於本無生死中・妄受生死輪迴之苦。故我釋迦世尊・特垂哀愍・示生世間・以施拯濟。於是棄捨國榮・出家修道・菩提樹下・成等正覺。欲使一切眾生・悉皆徹證自心・圓成佛道・於是隨機說法・應病與藥。俾彼善根成熟者・頓證無餘涅槃・善根未熟者・隨分各得利益。說法四十九年・談經三百餘會・雖則大小權實不同・偏圓頓漸有異。在佛本心・無非欲直授己所證之覺道・以機多不契・故不得不曲垂方便以攝受耳。致於出世本懷・未能頓暢。由是於

常途教理外，開一特別法門，所謂念佛求生淨土，使彼若聖若凡，若愚若智，同於現生，出離生死。俾已破無明者，圓證法身，具足煩惱者，亦登不退，其功勳利益，出於一代時教之上，誠可謂至圓至頓之教外別傳也。以故一切大乘經中，無不顯闡讚導，一切菩薩祖師，無不依教奉行，以其為三世諸佛普度眾生之大道，九界眾生圓證佛果之妙法也。及至大法東來，遠公大師，首於廬山東林，宏揚此法。一時縑素高人，咸皆雲集川赴。而廬山之名，淨土之法，人皆景仰而修持焉。自茲厥後，所有律教禪密，莫不以求生淨土為返本還元之末後一著，以故蓮風扇於中外，法利徧及古今。況茲時丁末法，人根陋劣，更宜專修此法，以期現生了脫。而廬山最勝之地，青蓮寺適當其基。高踞山巔，其形勢固天然一朵蓮華。故晉之黃谷大師，繼遠公之宏猷，建寺其中，以闡揚蓮宗也。自晉迄清，千五百餘年，由高人相繼住持，故蓮風常得丕振。至洪楊之亂，悉成劫灰，法道式微，無人恢復，致令千餘年選佛道場，竟成荒山，可不哀哉。爰有妙培大師，係微軍老人之高足弟子，恪遵師訓，篤修淨業。特往紅螺，參學多年，今春來遊廬山，至其寺基，見其形如蓮華，而復前臨三疊之瀑布，後倚五老之雄峰，左右則有獅子象鼻二峰，以為衛護，殆天造地設一淨土道場，不忍永令湮沒，遂發願恢復，以宏蓮宗。乃與上海諸大居士商榷，先募千餘元，用建念佛堂一座，僧寮數間，安真心辦道數人，六時行道，用繼遠公芳規。待後有大功德主，則隨力擴充，以財力維艱，行道是急，故不得不隨分隨力，以期修持得益，而不致有礙淨業也。其結社之法，一遵遠公成規，人不論僧俗，必須具真信願，決定求生西方。又須各持齋戒，清淨身口意業，朝暮課誦，三時念佛，除有病，及公事外，概不得避懶偷安。暇則隨意禮誦坐禪，但取其於道有益而已。唯不得習學詩文，泛覽俗典，以及閒談雜話，虛度光陰。昔遠公結社，即有一百二十三人，悉皆佛門棟樑，儒宗山斗。今則人根陋劣，遠不及昔，而即心本具之佛性，三根普被之法門，古今固無二致。則是心作佛，是心是佛之理，都攝六根，淨念相繼之事，豈不自我而修，自

我而證乎哉。用是謹立簡章。以勸同志。又祈諸大檀越。發菩提心。各相護持。輸金輸粟。轉勸轉募。俾含空寶殿。指日成功。滿月金容。經劫常住。蓮社興而宗風丕振。正法盛而災障潛消。將見佛天雲護。吉慶駢臻。現生備膺五福。臨終高登九品。如是則可謂真大丈夫。真佛弟子。上不辜於佛化。下不負於己靈。所願見者聞者。同修此道。以一傳十。以十傳百。乃至徧界。則世界太平。人民安樂矣。不勝馨香禱祝之至。

普陀山法雨寺募修天王殿及鼓樓疏

普陀名山。乃大士示迹之勝地。法雨禪寺。實國民祈福之道場。創建以來。歷年久遠。革故鼎新。代有其人。兩頒內帑。前清蒙二次敕修。徧募眾緣。亂後經一番締造。奈大海之中。鹹霧颶風。摧殘諸物。校之內地。愈為速朽。現今天王殿鼓樓。椽棟腐敗。柱根蠹朽。若不早為之圖。勢必立見傾覆。雖則名標天王。實奉彌勒法相。彌勒慈心。與觀音兩相符合。隨類逐形。尋聲救苦。慈隆即世。悲臻末劫。作現在之恃怙。為未來之世尊。此時覲面一笑。以結繫珠之緣。他年龍華三會。同授無生之記。彌勒于世。因緣甚深。若不修葺。將何以妥聖靈而致誠懇。消災戾以福黎元。但以工程浩大。獨力難成。因茲疏述愚誠。敬募十方檀護。懇祈發菩提心。行方便事。打開寶藏。培植福田。俾含空寶殿。指日成功。滿月金容。經劫常住。庶一切來者。登歡喜地。入樓閣門。現在深契佛心。將來同圓種智。將見佛天雲護。吉慶駢臻。闔潭永膺多福。裔世長發其祥矣。

嘉興真如寺開念佛堂專修淨業緣起疏

佛法深廣。猶如大海。雖法身大士。尚不能窮源徹底。況博地凡夫乎。然如來以大慈悲。欲令一切若聖若凡。同于現生。出離生死。特開一信願念佛求生淨土法門。如跛足懦夫。終日難行數里。若乘轉輪聖王輪寶。不須崇朝。即可徧達四大部洲。二者遲速。天淵懸殊。凡夫未斷惑業。固無了生死分。若以信願念佛。感佛慈悲攝受。即于

現生・往生淨土・超凡入聖・登不退地。校彼唯仗自力・修戒定慧・以期業盡情空・了生脫死者・殆非譬喻言說所能形容也。由是歷代縑素高人・無不以此自行化他・以其為入道之要門・成佛之捷徑故也。真如禪寺・創建以來・千數百年・宏宗演教・代有其人・兵燹以後・用度日絀。致令法輪幾乎停轉。邇者住持念慧・志圖恢復・但以資斧無出・暫擬安住清淨戒僧八人・長年二時課誦外・專持佛號三支香。暇則隨意禮誦・人各月給衣單銀三元・凡經懺佛事・概不應酬。若施主來寺念佛・及打佛七・則無拒。如是則庶可一意精修・速獲實益・亦可以上報四恩・普資三有・其為利益・固非尋常一切修持所可比擬也。但以寺產素薄・香積不充・懇祈有力檀護・發菩提心・成就勝事・或助道糧・或助燈油・俾此念佛道場・日益開擴・并令見者聞者・悉皆興起。將見佛天雲護・吉慶駢臻・生獲箕疇之五福・沒預珍池之九品矣。唯冀不惜家珍・庶可共沐佛恩。

南京三汊河法雲寺募鑄幽冥大鐘疏

娑婆世界・以音聲作佛事・叢林法器・唯大鐘為第一。以其發瞋振聾・啟人天之耳目・通幽徹顯・實惡趣之救援。增一阿含經云・若打鐘時・願一切惡道諸苦・並皆停止。若聞鐘聲・及佛經呪・得除五百億劫生死重罪。故付法藏傳中・罽膩吒王・以大殺害故・死墮千頭魚中・劍輪繞身而轉・隨斫隨生。羅漢為僧維那・依時打鐘・若聞鐘聲・劍輪在空・因遣信令長打・過七日已・受苦即息。又翻譯名義集云・南唐上元縣一民暴死・三日復甦・云死至陰間・見先主縲械甚嚴。曰吾為宋齊邱所誤・殺和州降者千餘人・怨訴囚此。凡聞鐘聲・得暫息苦。汝還・語嗣君・為吾造一鐘・長時擊之。彼若不信・以吾藏玉天王像於瓦棺寺佛左膝・人無知者・以此為驗。民具告・驗實・遂造一鐘於清涼寺・鐫其文曰・薦烈祖孝高皇帝・脫幽出厄。此擊幽冥鐘之所由來也。而況法雲寺・效法雲棲・念佛放生・教養孤兒・為江南第一慈善道場。以近來殺劫至慘・而南京和記洋行・殺一切牛羊飛走等物・不計其數。由是馮夢老・魏梅蓀等諸居士・糾集僧俗若干人・

提倡戒殺放生・吃素念佛・以期挽回劫運。遂買地四百四十畝於三汊河・開放生池九區・占百餘畝。又設慈幼院・教養孤兒・現已滿六十名。鄧璞君居士募四十八願・啟建大殿・每願千元・現已將圓・明年當即建造。殿成之後・量資安僧・專修淨業・兼以講演。崔益榮居士發心募鑄大鐘・任人隨心隨力布施・或千元百元十元一元俱可。但此鐘須晝夜常擊・宜用響銅・至少須三千斤。而響銅頗貴・每斤須一元多・則料及工資・當須四五千元。若所募有餘・則用鑄報鐘・大聲・呼板各一・此俱作佛事不可少者。須知法雲寺一起・和記洋行遂止殺業・但作制蛋之廠・其關係實非淺鮮。蓋由大家之誠心・感三寶冥熏加被・故致然也。所願諸大檀越善信人等・同發善心・成就此舉。所有功德・必能超薦先亡祖禰・咸生蓮邦・覆庇現在眷屬・各獲福慶。出資人名・當刻一大牌位・供於鐘下。鐘身徧刻經咒・但書總計施資若干人・及銀若干圓而已。譬如一滴・投於大海・即與大海・同其深廣。若人以淨信心・歡喜布施・即與如來大覺法海・相契相合。其為功德・莫能名焉。

法雨寺羅漢裝金募緣疏代撰

大覺法王・出現世間・隨機說法・度脫眾生。必有菩薩聲聞・輔弼法化・方能普使羣倫・悉蒙利益。譬如一人御極・百辟輔理・方能垂衣拱手・坐致太平。故有道超十地・德邁等覺者出世・必有三祇果滿・萬德因圓者・隱其實德・權示小果。如法華所說諸阿羅漢・悉皆內秘菩薩行・外現是聲聞・非到佛地・誰能測度。又佛勅諸阿羅漢・常住世間・受人天供・為世福田・如五百大阿羅漢等。而十八羅漢・乃其首領・故叢林佛殿・咸塑形儀・令瞻禮者・滅罪增福。法雨常住・乃觀音大士圓通道場・歷朝勅建・舉風尊崇。是故殿啟九龍盤拱之制・聖塑大士慈悲之容・而十八羅漢・分坐兩傍・如星拱辰・羽翼慈化。但以久歷歲月・金色剝落・非徒不副瞻仰・實為難妥聖靈。(衲)擬欲重裝金身・俾得永鏡三千・無奈屢搜囊資・何能稍完一二。用是具述愚誠・仰祈十方善信・儻隨緣以樂助金幣・自聖像以大放光明。將見

以如是因・感如是果・未來亦當證金色身・為世福田。至其現生災障消滅・福壽增崇・前程遠大・後裔綿延・乃其小焉者耳。

法雨寺建如意寮募緣疏代撰

生老病死・人各具有・如來說法・首先陳之。蓋欲令眾生悟出苦之要道・證本具之佛性。由茲永離幻苦・常享真樂也。然四苦之中・病死為最・在俗則備有眷屬・照應調護・出家則孑然一身・無所依倚。故從上古德・仰體佛慈・為之寮舍・擇人奉侍・飲食醫藥・悉令如意・較之在俗・無多讓焉・此如意寮之所由始也。普陀為天下第一名山・本寺又介乎山之三大叢林・故十方衲僧・往來不絕・久居不去者・恆數百人。惟如意寮狹隘褊窄・兼之常住產業微薄・既不足以適病者之身心・又無力以供病者之藥餌・寮名如意・其義奚存。(衲)接住之初・即以是為急務・擬欲另建精舍七楹・中間前供如來聖像・後供亡僧牌位・使病者禮誦有地・觀感易興。兩邊隔作十有二間・除香燈寮外・皆為養病之所。少則人各一寮・多則二人共之・彼此相隔・庶無傳染之患・身心適悅・易獲勿藥之徵。愈則任彼行藏・沒則相宜殯葬。使來者生有依止・死有歸宿。更置田百畝・則以後之棺龕藥餌・置辦有資・勒碑一通・俾將來之住持職司・廢替無敢。懇祈諸大護法・愷分鶴俸・喜捨蚨囊・俾此舉速得圓成・庶福報永無央既。將見佛天雲護・吉慶駢臻・五福萃于厥躬・餘慶覃及後裔矣。

附記

頁碼	行數	原文鈔上冊精裝本	校正後建議修改
全文	全文	回向	迴向
全文	全文	喫	吃
全文	全文	況	況
全文	全文	箇	個
全文	全文	并	並
全文	全文	迹	跡
全文	全文	挂	掛
全文	全文	病「瘡」	病「癒」
全文	全文	展轉	輾轉
全文	全文	籠侗	籠統
全文	全文	「孤」負	「辜」負
全文	全文	「宏」法	「弘」法
全文	全文	世「閒」	世「間」
十二	倒數第八行	「閒」斷夾雜	「間」斷夾雜
十四	倒數第七行	遊手好「閑」	遊手好「閒」
二三	第三行	皆屬假「妝」	皆屬假「裝」
二五	倒數第十二行	「隄」防	「提」防
二七	第一行	「隄」防	「提」防
三三	第三行	「隄」防	「提」防
四十	第五行	「衛」國	「衛」國

八二	第二行	護「衛」	護「衛」
二三四	第七行	警「衛」	警「衛」
二五八	倒數第十二行	「衛」護	「衛」護
六三	第三行	「傲」倖	「僥」倖
六五	第五行	阿「脩」羅	阿「修」羅
一九三	第十行	柔「軟」潔淨	柔「軟」潔淨
二〇三	第十行	并害其「婿」	并害其「婿」
二〇七	第五行	當被雷「殛」	當被雷「擊」
二二〇	倒數第九行	擔「閣」	擔「擱」
二二三	倒數第二行	摸「 」	摸「索」
二三九	第四行	淳「朴」	淳「樸」

[淨空法師專集網站\(簡\)](#)製作

若發現有任何錯別字，敬請來信告知，以便修正，功德無量！